

勸群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第161集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第21集

白倉下原・天引向原遺跡 I

—甘楽パーキングエリア地内遺跡の調査—

旧石器時代編

1 9 9 4

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
日 本 道 路 公 団

助群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第161集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第21集

白倉下原・天引向原遺跡 I

—甘楽パーキングエリア地内遺跡の調査—

旧石器時代編

1 9 9 4

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本道路公団



鶴川右岸上位防丘面の地形（中央に吉井ジャンクション、右側に甘露パーキング、東方から）



遺跡周辺の地形（手前は白倉下原遺跡、中央は天引向原遺跡、奥は天引狐崎遺跡、西方から）



基本層序



石器出土状況（粘土層上部にA Tが堆積している）



局部磨製石斧出土状況



白倉下原遺跡A区の石器



白倉下原遺跡A区の接合資料



白倉下原遺跡A区の接合資料 (GAn-4、GAn-7)



GAn-4、GAn-7 個別接合資料



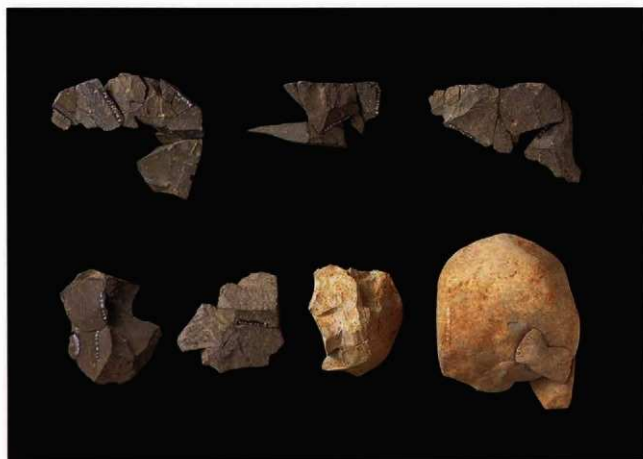
白倉下原遺跡B区の石器



白倉下原遺跡B区の接合資料



天引向原遺跡 A 区の石器



天引向原遺跡 A 区の接合資料

序

関越自動車道の藤岡ジャンクションより分岐して新潟県の上越市にぬける高速自動車道の上信越自動車道は平成5年3月に長野県佐久市までが開通しました。この上信越自動車道の建設に伴い、数多くの埋蔵文化財が発掘調査され、記録保存されました。

甘楽郡甘楽町白倉の字下原と同町天引の字向原に所在する旧石器時代から奈良・平安時代にかけての複合遺跡である白倉下原遺跡・天引向原遺跡もその一つであります。両遺跡は西毛地域で初めて明らかとなったAT下層の旧石器時代の遺跡であり、また甘楽の谷において同時代の遺物が本格的に出土した遺跡です。その調査成果は、群馬県の旧石器時代の研究を進める上で貴重な資料との評価を得ています。

この度、両遺跡の旧石器時代の遺構・遺物について、調査報告書を刊行しますが、発掘調査から報告書刊行に至るまで日本道路公団東京第2建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会、甘楽町教育委員会、地元関係者等には種々お世話になりました。報告書を上梓するに際し、これら関係者の皆様には衷心より感謝の意を表し、併せて本報告書が群馬県の旧石器時代を解明するための資料として十分活用されることを願い序とします。

平成6年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小寺弘之

例 言

- 1 本書は関越自動車道（上越線）建設工事に伴い事前調査された「白倉下原遺跡」（事業名称原西Ⅰ、原西Ⅱ遺跡）、「天引向原遺跡」（事業名称原西、原西Ⅰ遺跡）の発掘調査報告書である。

本書は白倉下原遺跡、天引向原遺跡の旧石器時代編である。

- 2 白倉下原遺跡は群馬県甘楽郡甘楽町大字白倉字下原地内、天引向原遺跡は同大字天引字向原地内に在りし、遺跡名は大字名と小字名を採用している。

- 3 本遺跡の発掘調査は、日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施されたものである。

- 4 実際の発掘調査及び整理事業は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団内に上越線地域埋蔵文化財調査を目的に設置された、関越自動車道上越線調査事務所（多野郡吉井町南陽台に所在）が担当した。

- 5 調査期間及び担当者

(1) 発掘調査

調査期間 平成元年4月1日～平成3年8月20日

調査担当者 右島和夫（平成元・2年度、専門員）

藤巻幸男（〃元年度、主任調査研究員）

飯田周一（〃2・3年度、主任調査研究員）

内木真琴（〃元年度、調査研究員、現群馬県立高崎北高等学校教諭）

小島達夫（〃元・2年度、調査研究員、現渋川市立渋川中学校教諭）

小林裕二（〃2・3年度、調査研究員）

木村 取（〃2年度、調査研究員）

亀山幸弘（〃3年度、調査研究員、現伊勢崎市立北小学校教諭）

関口博幸（〃元年度、調査研究員）

桜井美枝（〃3年度、調査研究員）

飯塚初子（〃元・2年度、調査研究員、現群馬県教育委員会事務局）

外山政子（〃元～3年度、嘱託員、現高崎市教育委員会事務局）

- (2) 整理調査 整理期間 平成4年4月1日～平成6年3月31日

整理担当者 関口博幸

- (3) 事務 常務理事 邊見長雄（平成元～4年度）、中村英一

事務局長 松本浩一（平成元～3年度）、近藤 功

管理部長 田口紀雄（平成元・2年度）、佐藤 勉

調査研究部長 神保佑史

庶務課 課長 斎藤俊一

専門員 国定 均、笠原秀樹、主任 須田朋子、柳岡良弘、主事 船津茂、高橋定義、非常勤嘱託員 松下 登、臨時職員 吉田恵子、並木綾子、今井もと子、角田みづほ、松井美智代、塩浦ひろみ、内山佳子

関越自動車道上越線調査事務所所長 高橋一夫（平成元・2年度）
阿部千明（平成3年度）
吉田 肇（平成4・5年度）

総括次長 片桐光一（平成元年度）、大沢友治（平成2・3年度）
次 長 徳江 紀（平成元・2年度）
課 長 鬼形方夫（平成元・2年度）、依田治雄
庶務課 係長代理 宮川初太郎（平成元・2年度）、主任 国定 均（昭和63・平成元年度）、笠原秀樹（平成2・3年度）、吉田有光、臨時職員 山崎郁夫、神戸市四郎、町田康子、本城美樹、田中智恵美、松井留男、後関令子、高田千恵、吉田登志子

6 報告書作成関係者

編 集 関口博幸

本文執筆 依田治雄（1-1）、飯田陽一・関口博幸・桜井美枝（1-2）、関口博幸（2-5章）

遺構写真 右島和夫、藤巻幸男、飯田陽一、内木真琴、小島達夫、小林裕二、木村 取、亀山幸弘、関口博幸、桜井美枝、飯塚初子、外山政子

遺物写真 佐藤元彦（当事業団技師）

遺物観察 関口博幸

保存処理 関 邦一（当事業団技師）

整理補助 中野秀子、霜田恵子、関 正江、田中穂子、小林恵美子、高柳哲子、金子加代、大澤亜矢子

委託関係 【遺構測量・遺物写真实測】(株)シン航空、(株)三陽【航空写真】(株)シン航空、(有)青高館、たつみ写真スタジオ 【遺構トレース】(株)測研

- 7 遺物分布図の作成に関しては、(株)システム提案の遺物情報システム「MERCH」を導入して迅速化を図った。
- 8 石器実測のうち、接合資料に関しては、(株)シン航空への委託による写真实測によって作業の迅速化を図った。
- 9 出土した遺物のうち、黒色安山岩製と黒曜石製の石器については、藁科哲男氏(京大大学原子炉実験所)に蛍光X線分析による原産地分析を御願ひした。分析結果については付録のなかに報告した。
- 10 出土した遺物・図面に関しては、群馬県埋蔵文化財調査センターに一括して保管してある。なお、石器一覧表についてはフロッピーディスクに保存してある。
- 11 発掘調査及び報告書作成にあたり、下記の諸機関・諸氏に御教示・御協力をいただいた。記して謝意を表する次第である。(敬称略、五十音順)

安斎正人、安藤政雄、井上慎也、角張淳一、小管将夫、佐藤宏之、沢田 敦、須藤隆司、大工原豊、堤陸、長崎潤一、藤波啓容、松藤和人、岩宿フォーラム実行委員会、甘楽町教育委員会、石器文化研究会

凡 例

- 1 図中の方位記号については、座標北を示す。(国家座標第IX系)
- 2 石器実測図の縮尺については、単独品= $4/5 \cdot 1/2 \cdot 1/3$ 、接合資料= $1/2 \cdot 1/3$ とした。
- 3 石器写真の縮尺については、 $1/2$ を基本に $1/3 \cdot 1/4 \cdot 1/5$ とした。
- 4 石材記号については次のように示した。

GAn—Glassy Andesite—黒色安山岩	An—Andesite—安山岩
Ob—Obsidian—黒曜石	Ch—Chert—チャート
Sl—Slate—粘板岩	HMs—Hard Mudstone—硬質泥岩
BSh—Black Shale—黒色頁岩	HSh—Hard Shale—硬質頁岩・珪質頁岩
Bs—Basalt—変玄武岩	CS—Cristalline Schist—結晶片岩
GS—Green Schist—緑色片岩	
- 5 石器実測図の番号の横に付してある小番号は出土したブロックを表す。
- 6 各石器分布図の縮尺は次の通りである。

ブロック別分布図= $1/40 \cdot 1/60$ 、それ以外についてはその都度スケールを付した。
- 7 石器分布図に関しては、必要に応じて遺物分布のドット図を作成したが、シンボルマークは各図面の中に凡例を付した。
- 8 ブロック別石器分布図に記した断面基準線は、いずれも海拔標高を表す。
- 9 ブロック別分布図中の石器実測図に付してある番号については、石器一覧表のNoと対応する。
- 10 母岩別石器分布全体図及び個別別石器分布全体図中のシンボルマークに関しては、それぞれ一回り大きいマークは石核であることを表す。
- 11 「二次加工のある剥片」については、挿入図及び石器一覧表のなかでレイアウトの関係上、「R剥片」とも表記している。

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
挿図目次	
表 目 次	
図版目次	
抄 録	

第 1 章 発掘調査に至る経緯及び経過

第 1 節 発掘調査に至る経緯	3
第 2 節 調査の方法と経過	4
1 グリッドの設定	4
2 旧石器時代の調査方法	4
3 調査経過	5

第 2 章 地理的・歴史的環境と周辺の遺跡

第 1 節 地理的環境	7
第 2 節 歴史的環境と周辺遺跡	8
1 歴史的環境	8
2 周辺遺跡	8
第 3 節 基本層序	13

第 3 章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査

第 1 節 白倉下原遺跡 A 区	17
1 概 要	17
2 石 器	22
3 接合資料と剝片生産工程	47
4 ブロック	72
5 器種別石器分布	85
6 母岩別資料の構成と分布・接合関係	89

第2節 白倉下原遺跡B区	108		
1 概要	108	5 器種別石器分布	146
2 石器	108	6 母岩別資料の構成と分布・接合関係	150
3 接合資料と剥片生産工程	129	7 その他の旧石器時代の石器	160
4 ブロック	136		
第3節 白倉下原遺跡C区	161		
1 概要	161	3 その他の旧石器時代の石器	161
2 石器	161		
第4章 天引向原遺跡の旧石器時代調査	167		
第1節 天引向原遺跡A区	167		
1 概要	167	4 ブロック	215
2 石器	172	5 器種別石器分布	240
3 接合資料と剥片生産工程	197	6 母岩別資料の構成と分布・接合関係	244
第2節 天引向原遺跡C区	259		
1 概要	259	3 ブロック	261
2 石器	259	4 その他の旧石器時代の石器	261
第5章 まとめと考察	265		
第1節 各遺跡で検出された環状ブロック群			
第2節 環状ブロック群の構造			
第3節 まとめ			
付 編 (原産地分析)	275		
ブロック別石器組成図	293		
母岩別石器組成図	309		
石器一覧表	323		
報告書抄録	337		
写真図版			

挿図目次

第1図 鯛川右岸段丘地形と旧石器時代遺跡の分布……………	9	第3図 石礫出土地点……………	12
第2図 遺跡の立地と周辺遺跡……………	11	第4図 基本順序……………	14

白倉下原遺跡

第5図 白倉下原遺跡全体図……………	18	第55図 A4ブロック器種別石器分布図……………	78
第6図 白倉下原遺跡A区全体図……………	19	第56図 A4ブロック母岩別石器分布図……………	79
第7図 A区石器分布全体図……………	20	第57図 A5ブロック器種別石器分布図……………	80
第8図 A区出土石器……………	27	第58図 A5ブロック母岩別石器分布図……………	81
第9図 A区出土石器……………	28	第59図 A6ブロック器種別石器分布図……………	82
第10図 A区出土石器……………	29	第60図 A6ブロック母岩別石器分布図……………	83
第11図 A区出土石器……………	30	第61図 器種別石器分布全体図……………	85
第12図 A区出土石器……………	31	第62図 母岩別石器分布全体図……………	86
第13図 A区出土石器……………	32	第63図 器種別石器分布全体図……………	87
第14図 A区出土石器……………	33	第64図 器種別石器分布全体図……………	88
第15図 A区出土石器……………	34	第65図 A区接合関係全体図……………	93
第16図 A区出土石器……………	35	第66図 母岩別石器分布全体図……………	94
第17図 A区出土石器……………	36	第67図 母岩別石器分布全体図……………	95
第18図 A区出土石器……………	37	第68図 GAn-2個体別石器分布全体図……………	96
第19図 A区出土石器……………	38	第69図 母岩別石器分布全体図……………	97
第20図 A区出土石器……………	39	第70図 母岩別石器分布全体図……………	98
第21図 A区出土石器……………	40	第71図 GAn-4個体別石器分布全体図……………	99
第22図 A区出土石器……………	41	第72図 母岩別石器分布全体図……………	100
第23図 A区出土石器……………	42	第73図 GAn-7個体別石器分布全体図……………	101
第24図 A区出土石器……………	43	第74図 母岩別石器分布全体図……………	102
第25図 A区出土石器……………	44	第75図 母岩別石器分布全体図……………	103
第26図 A区出土石器……………	45	第76図 母岩別石器分布全体図……………	104
第27図 A区出土石器……………	46	第77図 母岩別石器分布全体図……………	105
第28図 A区接合資料……………	52	第78図 母岩別石器分布全体図……………	106
第29図 A区接合資料……………	53	第79図 母岩別石器分布全体図……………	107
第30図 A区接合資料……………	54	第80図 白倉下原遺跡B区全体図……………	109
第31図 A区接合資料……………	55	第81図 B区石器分布全体図……………	110
第32図 A区接合資料……………	56	第82図 B区出土石器……………	118
第33図 A区接合資料……………	57	第83図 B区出土石器……………	119
第34図 A区接合資料……………	58	第84図 B区出土石器……………	120
第35図 A区接合資料……………	59	第85図 B区出土石器……………	121
第36図 A区接合資料……………	60	第86図 B区出土石器……………	122
第37図 A区接合資料……………	61	第87図 B区出土石器……………	123
第38図 A区接合資料……………	62	第88図 B区出土石器……………	124
第39図 A区接合資料……………	63	第89図 B区出土石器……………	125
第40図 A区接合資料……………	64	第90図 B区出土石器……………	126
第41図 A区接合資料……………	65	第91図 B区出土石器……………	127
第42図 A区接合資料……………	66	第92図 B区出土石器……………	128
第43図 A区接合資料……………	67	第93図 B区接合資料……………	131
第44図 A区接合資料……………	68	第94図 B区接合資料……………	132
第45図 A区接合資料……………	69	第95図 B区接合資料……………	133
第46図 A区接合資料……………	70	第96図 B区接合資料……………	134
第47図 A区接合資料……………	71	第97図 B区接合資料……………	135
第48図 A区ブロック設定図……………	73	第98図 B区ブロック設定図……………	137
第49図 A1ブロック器種別石器分布図……………	74	第99図 B1ブロック器種別石器分布図……………	138
第50図 A1ブロック母岩別石器分布図……………	75	第100図 B1ブロック母岩別石器分布図……………	139
第51図 A2ブロック器種別石器分布図……………	76	第101図 B2ブロック器種別石器分布図……………	140
第52図 A3ブロック器種別石器分布図……………	77	第102図 B2ブロック母岩別石器分布図……………	141
第53図 A2ブロック母岩別石器分布図……………	76	第103図 B3ブロック器種別石器分布図……………	142
第54図 A3ブロック母岩別石器分布図……………	77	第104図 B3ブロック母岩別石器分布図……………	143

第1105図	B 4ブロック器種別石層分布図	144
第1106図	B 4ブロック母岩別石層分布図	145
第1107図	器種別石層分布全体図	146
第1108図	器種別石層分布全体図	147
第1109図	器種別石層分布全体図	148
第1110図	器種別石層分布全体図	149
第1111図	B区接合関係全体図	153
第1112図	母岩別石層分布全体図	154
第1133図	母岩別石層分布全体図	155

第1114図	母岩別石層分布全体図	156
第1115図	母岩別石層分布全体図	157
第1116図	母岩別石層分布全体図	158
第1117図	母岩別石層分布全体図	159
第1118図	B区表土出土石層	160
第1119図	白倉下原遺跡C区全体図	162
第1200図	C区出土石層	163
第1211図	C区表土出土石層	163
第1222図	C区器種別石層分布図	164

天引向原遺跡

第123図	天引向原遺跡発掘調査図	168
第124図	天引向原遺跡全体図	169
第125図	A区石層分布全体図	170
第126図	A区出土石層	175
第127図	A区出土石層	176
第128図	A区出土石層	177
第129図	A区出土石層	178
第130図	A区出土石層	179
第131図	A区出土石層	180
第132図	A区出土石層	181
第133図	A区出土石層	182
第134図	A区出土石層	183
第135図	A区出土石層	184
第136図	A区出土石層	185
第137図	A区出土石層	186
第138図	A区出土石層	187
第139図	A区出土石層	188
第140図	A区出土石層	189
第141図	A区出土石層	190
第142図	A区出土石層	191
第143図	A区出土石層	192
第144図	A区出土石層	193
第145図	A区出土石層	194
第146図	A区出土石層	195
第147図	A区出土石層	196
第148図	A区接合資料	200
第149図	A区接合資料	201
第150図	A区接合資料	202
第151図	A区接合資料	203
第152図	A区接合資料	204
第153図	A区接合資料	205
第154図	A区接合資料	206
第155図	A区接合資料	207
第156図	A区接合資料	208
第157図	A区接合資料	209
第158図	A区接合資料	210
第159図	A区接合資料	211
第160図	A区接合資料	212
第161図	A区接合資料	213
第162図	A区接合資料	214
第163図	A区ブロック設定図	219
第164図	A 1ブロック器種別石層分布図	220
第165図	A 1ブロック母岩別石層分布図	221

第166図	A 3ブロック器種別石層分布図	222
第167図	A 3ブロック母岩別石層分布図	223
第168図	A 2ブロック器種別石層分布図	224
第169図	A 5ブロック器種別石層分布図	224
第170図	A 2ブロック母岩別石層分布図	225
第171図	A 5ブロック母岩別石層分布図	225
第172図	A 4ブロック器種別石層分布図	226
第173図	A 4ブロック母岩別石層分布図	227
第174図	A 6ブロック器種別石層分布図	228
第175図	A 6ブロック母岩別石層分布図	229
第176図	A 7ブロック器種別石層分布図	230
第177図	A 8ブロック器種別石層分布図	230
第178図	A 7ブロック母岩別石層分布図	231
第179図	A 8ブロック母岩別石層分布図	231
第180図	A 9ブロック器種別石層分布図	232
第181図	A 9ブロック母岩別石層分布図	233
第182図	A 10ブロック器種別石層分布図	234
第183図	A 10ブロック母岩別石層分布図	235
第184図	A 11ブロック器種別石層分布図	236
第185図	A 13ブロック器種別石層分布図	236
第186図	A 11ブロック母岩別石層分布図	237
第187図	A 13ブロック母岩別石層分布図	237
第188図	A 12ブロック器種別石層分布図	238
第189図	A 12ブロック母岩別石層分布図	239
第190図	器種別石層分布全体図	241
第191図	器種別石層分布全体図	242
第192図	器種別石層分布全体図	243
第193図	A区接合関係全体図	248
第194図	母岩別石層分布全体図	249
第195図	母岩別石層分布全体図	250
第196図	母岩別石層分布全体図	251
第197図	母岩別石層分布全体図	252
第198図	母岩別石層分布全体図	253
第199図	母岩別石層分布全体図	254
第200図	母岩別石層分布全体図	255
第201図	母岩別石層分布全体図	256
第202図	母岩別石層分布全体図	257
第203図	母岩別石層分布全体図	258
第204図	C区出土石層	290
第205図	C区出土石層	291
第206図	C 1ブロック器種別石層分布図	292
第207図	ブロック外器種別石層分布図	293
第208図	C区表土出土石層	294

ま と め

第209図	各遺跡の層状ブロック群と主な石器	266	第213図	天引孤崎遺跡第1ブロック群石材別母岩別重量数量比	269
第210図	白倉下原遺跡A区石材別母岩別重量数量比	268	第214図	各遺跡における石器の広域分布模式図	273
第211図	白倉下原遺跡B区石材別母岩別重量数量比	269			
第212図	天引向原遺跡A区石材別母岩別重量数量比	269			

付 録

第215図	サスカイトの原産地	288	第231図	天引向原遺跡A区ブロック別石器組成図(4)	307
第216図	黒曜石の原産地	289	第232図	天引向原遺跡A区ブロック別石器組成図(5)	308
第217図	和田村付近地城原石採取地点	290	第233図	白倉下原遺跡A区母岩別石器組成図(1)	309
第218図	原西田遺跡出土のサスカイト製遺物および利根川流域産安山岩のクラスター分析	291	第234図	白倉下原遺跡A区母岩別石器組成図(2)	310
第219図	白倉下原遺跡A区ブロック別石器組成図(1)	295	第235図	白倉下原遺跡A区母岩別石器組成図(3)	311
第220図	白倉下原遺跡A区ブロック別石器組成図(2)	296	第236図	白倉下原遺跡A区母岩別石器組成図(4)	312
第221図	白倉下原遺跡A区ブロック別石器組成図(3)	297	第237図	白倉下原遺跡A区母岩別石器組成図(5)	313
第222図	白倉下原遺跡A区ブロック別石器組成図(4)	298	第238図	白倉下原遺跡A区母岩別石器組成図(6)	314
第223図	白倉下原遺跡A区ブロック別石器組成図(5)	299	第239図	白倉下原遺跡B区母岩別石器組成図(1)	315
第224図	白倉下原遺跡A区ブロック別石器組成図(6)	300	第240図	白倉下原遺跡B区母岩別石器組成図(2)	316
第225図	白倉下原遺跡B区ブロック別石器組成図(1)	301	第241図	白倉下原遺跡B区母岩別石器組成図(3)	317
第226図	白倉下原遺跡B区ブロック別石器組成図(2)	302	第242図	天引向原遺跡A区母岩別石器組成図(1)	318
第227図	白倉下原遺跡B区ブロック別石器組成図(3)	303	第243図	天引向原遺跡A区母岩別石器組成図(2)	319
第228図	天引向原遺跡A区ブロック別石器組成図(1)	304	第244図	天引向原遺跡A区母岩別石器組成図(3)	320
第229図	天引向原遺跡A区ブロック別石器組成図(2)	305	第245図	天引向原遺跡A区母岩別石器組成図(4)	321
第230図	天引向原遺跡A区ブロック別石器組成図(3)	306	第246図	天引向原遺跡A区母岩別石器組成図(5)	322

表 目 次

第1表	扇川流域の旧石器時代の周辺遺跡	10
-----	-----------------	----

白倉下原遺跡

第2表	A区ブロック別群別石器組成表	21	第4表	B区ブロック別群別石器組成表	111
第3表	A区ブロック別母岩別石器組成表	21	第5表	B区ブロック別母岩別石器組成表	111

天引向原遺跡

第6表	A区ブロック別群別石器組成表	171	第8表	C区ブロック別群別石器組成表	259
第7表	A区ブロック別母岩別石器組成表	171	第9表	C区ブロック別母岩別石器組成表	259

ま と め

第10表	各遺跡の層状ブロック群	266
------	-------------	-----

付 録

第11表	各サスカイトの原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差	280	第12表	各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差	281
------	--------------------------------	-----	------	------------------------------	-----

第13表	各黒曜石の原産地における黒石群の元素比の 平均値と標準偏差値	282
第14表	原西田遺跡出土のサヌカイト製造物および 利根川流域産原石の分析結果	283
第15表	原西田遺跡出土のサヌカイト製造物および 利根川流域産原石の分析結果	284
第16表	原西田遺跡出土の黒曜石製石器の分析結果	284
第17表	原西田遺跡出土のサヌカイト製石器の 原材産地推定結果	285
第18表	原西田遺跡出土の黒曜石製石器の 原材産地推定結果	286
第19表	原西田遺跡出土の黒曜石製石器の 原材産地推定結果	287
第20表	白倉下原遺跡A区石器一覧表(1)	323
第21表	白倉下原遺跡A区石器一覧表(2)	324

第22表	白倉下原遺跡A区石器一覧表(3)	325
第23表	白倉下原遺跡A区石器一覧表(4)	326
第24表	白倉下原遺跡A区石器一覧表(5)	327
第25表	白倉下原遺跡A区石器一覧表(6)	328
第26表	白倉下原遺跡A区石器一覧表	328
第27表	白倉下原遺跡B区石器一覧表(1)	329
第28表	白倉下原遺跡B区石器一覧表(2)	330
第29表	白倉下原遺跡B区石器一覧表	330
第30表	白倉下原遺跡C区石器一覧表	330
第31表	天引向原遺跡A区石器一覧表(1)	331
第32表	天引向原遺跡A区石器一覧表(2)	332
第33表	天引向原遺跡A区石器一覧表(3)	333
第34表	天引向原遺跡A区石器一覧表(4)	334
第35表	天引向原遺跡A区石器一覧表	334
第36表	天引向原遺跡C区石器一覧表	335

写真目次

白倉下原遺跡

PL1	遺跡全景写真	PL21	A区接合資料
PL2	A区全景写真	PL22	A区接合資料
PL3	A区石器出土状況、調査風景	PL23	A区接合資料
PL4	A区石器出土状況	PL24	A区接合資料
PL5	A区石器出土状況	PL25	A区接合資料
PL6	A区石器	PL26	A区接合資料
PL7	A区石器	PL27	A区接合資料
PL8	A区石器	PL28	A区接合資料
PL9	A区石器	PL29	B区全景写真
PL10	A区石器	PL30	B区全景、土層堆積状況、石器出土状況
PL11	A区石器	PL31	B・C区石器出土状況、C区調査風景
PL12	A区石器	PL32	B区石器
PL13	A区石器	PL33	B区石器
PL14	A区石器	PL34	B区石器
PL15	A区石器	PL35	B区石器
PL16	A区接合資料	PL36	B区石器
PL17	A区接合資料	PL37	B区接合資料
PL18	A区接合資料	PL38	B区接合資料
PL19	A区接合資料	PL39	B区接合資料
PL20	A区接合資料	PL40	B・C区石器、C区表土石器

天引向原遺跡

PL41	遺跡全景写真、A区全景写真	PL53	A区石器
PL42	遺跡、A区調査風景、A区石器出土状況	PL54	A区接合資料
PL43	A区石器出土状況	PL55	A区接合資料
PL44	C区調査風景、C区石器出土状況	PL56	A区接合資料
PL45	A区石器	PL57	A区接合資料
PL46	A区石器	PL58	A区接合資料
PL47	A区石器	PL59	A区接合資料
PL48	A区石器	PL60	A区接合資料
PL49	A区石器	PL61	A区接合資料
PL50	A区石器	PL62	A区接合資料
PL51	A区石器	PL63	C区石器
PL52	A区石器	PL64	C区表土石器

抄 録

1 遺跡の概略

本遺跡は、群馬県甘楽郡甘楽町大字白倉・天引に所在する。本遺跡の発掘調査は平成元年4月1日から開始され、平成3年8月20日をもって終了した。遺跡地は県西部地域を東流する鍋川によって形成された河岸段丘面に立地する。この地域は「甘楽の谷」と一般にいわれ、群馬県下でも有数の遺跡地帯として名高い。本遺跡に隣接する地域にも各時代にわたる遺跡が多数存在し、その内容は徐々に明らかになってきている。

本遺跡は、旧石器、縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中近世の遺構・遺物が検出された複合遺跡である。本書では、このうち旧石器時代の遺構・遺物に関して所収し、旧石器時代編として報告した。

2 遺構・遺物数量

白倉下原遺跡

	調査区	数 量	備 考
石 器	A区	403	ナイフ形石器、台形様石器、局部磨製石斧、石刃、石核、剥片、敲石
	B区	120	ナイフ形石器、台形様石器、局部磨製石斧、石刃、石核、剥片、敲石
	C区	3	台形様石器、剥片
ブロック	A区	6	計6ヶ所のブロックで構成される径18mほどの環状ブロック群。
	B区	4	計4ヶ所のブロックで構成される径18mほどの環状ブロック群。

天引向原遺跡

	調査区	数 量	備 考
石 器	A区	268	ナイフ形石器、台形様石器、楔形石器、石核、剥片、敲石、台石
	C区	10	台形様石器、剥片
ブロック	A区	13	計13ヶ所のブロックで構成される長径44mほどの環状ブロック群。
	C区	1	6点の石器で構成される小規模なブロック1ヶ所を検出。

3 ま と め

白倉下原遺跡・天引向原遺跡は、これまで旧石器時代遺跡の分布が空白であった鍋川地域で検出された。今回調査された旧石器時代の遺構・遺物は、広域火山灰である始良 Tn 火山灰 (AT) の下層から検出された。これは、石器群の時間的位置関係を求めるとき、全国レベルでの対比が可能となる点で重要である。

本報告書では、検出された石器群を分析した結果、次のような重要なデータを抽出し提供することができた。一つには、石器群に多数の接合資料が確認され、石器製作技術を研究していく上で良好なデータを提供できたこと、二つには、石器群は環状ブロック群を形成して検出され、母岩別資料と接合資料の検討から特にAT降灰以前の遺跡構造研究を行う上で重要なデータを提供できたこと、である。

今後、「甘楽の谷」という地域史的研究だけでなく、全国的な旧石器時代研究をさらに進めていく上で、重要な資料およびデータを提示することができた遺跡として期待される。

白倉下原・天引向原遺跡 I

第1章 発掘調査に至る経緯と経過

第1節 発掘調査に至る経緯

関越自動車道上越線（上信越自動車道）は首都圏と上信越地方とを結ぶ高速自動車国道として、日本道路公団によって建設される。起点を東京都練馬として新潟県上越市まで総延長280km（内練馬～藤岡間は関越自動車道新路線と併用）である。平成5年3月27日開通した藤岡インター～佐久インター間は約69kmで、群馬県藤岡市（5.6km）、吉井町（6.3km）、甘楽町（4.3km）、富岡市（11.6km）、妙義町（2.5km）、松井田町（19.5km）、下仁田町（5.3km）、長野県佐久市（11.9km）の各市町を通過する。

群馬県藤岡市～長野県佐久市間の基本計画は昭和47年に策定され、同54年建設大臣により日本道路公団が施行命令を受けている。同56年群馬県藤岡市・吉井町・甘楽町・富岡市・下仁田町（東部）・松井田町（東部）、同57年松井田町（西部）・下仁田町（西部）・長野県佐久市までの路線が発表された。

関越自動車道上越線全体にかかる埋蔵文化財の取り扱い及び調査経過は次のとおりである。

昭和49年度 藤岡市～下仁田町間に存在する埋蔵文化財について、群馬県教育委員会は県企画部幹線交通課に対し文化財保護法の遵守、国・県・市町村の指定文化財をさけること、文化財に関係する事項は県教委文化財保護課と協議すること等の考え方を示した。

昭和55年度 県教委文化財保護課は路線通過地周辺の埋蔵文化財包蔵地の調査を行い、その結果は同年3月藤岡～松井田間、同年11月松井田～下仁田間について、「関越自動車道上越線関連公共事業調査報告書」として群馬県（企画部交通対策課）より報告された。

昭和59年度 建設工事の具体化に伴い、路線内の埋蔵文化財についてより具体的な調査の依頼が道路公団より県教育委員会にあり、県教委文化財保護課は包蔵地の詳細分布調査を行った。

昭和60年度 県教育委員会は分布調査の結果、包蔵地を濃い分布地・薄い分布地・試掘調査を必要とする地域に区分し、発掘調査必要面積を約100万㎡と想定し、55遺跡を認定した（後の試掘により52遺跡に変更）。

そして、埋蔵文化財発掘調査にかかる基本方針を次のように策定した。

- ・発掘調査終了年度を昭和65年度末（平成2年度末）とする。
- ・群馬県埋蔵文化財調査事業団を中核機関とし、対応できない部分に調査会方式を導入、関係市町村には進捗状況を考慮しながら協力を求める。
- ・事業団の出張所（上越線調査事務所）を開設し、整理作業も併せ行う。
- ・機関別対応面積は次のとおりとする。

埋文事業団 約76万㎡ 富岡市以東を受け持つ。面積は変動の可能性あり。

調査会 約22万㎡ 妙義町・下仁田町・松井田町。面積は変動の可能性あり。

なお、調査実施方法は次のとおりである。

日本道路公団東京第二建設局は群馬県教育委員会に調査の依頼を行い、年度毎に委託契約を締結する。県教育委員会はそれを受け、群馬県埋蔵文化財調査事業団及び、各遺跡調査会等に再委託のかたちで委託契約を締結し、調査を実施する。

昭和61年度 4月、埋文事業団上越線調査事務所を吉井町南陽台3-15-8に設置し、4班15人体制で充足し

て調査を開始する。以後、6班22人体制(昭62)、9班36人体制(昭63)、12班45人体制(平元)、12班45人体制(平2)。平成2年度までに一部を残し発掘調査は終了した。

整理事業は昭和63年度より併行して実施していたが、平成3年度からは本部においても整理事業が始まり、現在2か所11班体制で実施している。調査事務所は平成5年度で事業を終了し、以後本部のみで実施され、平成8年度全事業終了予定である。

第2節 調査の方法と経過

1 グリッドの設定

白倉下原遺跡・天引向原遺跡は甘楽パーキングエリアと西方の本線部分が発掘調査範囲である。建設工事に用いた測量杭のSTA-153~158がこれにほぼ該当する。この範囲内について、調査区北東端の国家座標 $X=26,950$ 、 $Y=-79,320$ を白倉下原遺跡の座標原点、 $X=26,950$ 、 $Y=-79,100$ を天引向原遺跡の座標原点として、5m四方のグリッドを設定した。グリッドは北東コーナーの杭を基準にして、南方向及び西方向に1、2、3、…と同方向とも算用数字で呼称した。なお、グリッドの設定、水準点の移動は(株)三陽に委託した。

2 旧石器時代の調査方法

本事業団では、ローム台地上に立地する遺跡の場合、発掘調査事業は旧石器時代の試掘調査をもってすべての事業を終了させる方法をとっている。文化層、すなわち生活跡が確認できれば、本調査の面積、期間、方法等を改めて関係機関と協議して旧石器時代遺跡の本調査を行うこととなっていた。本遺跡もこの方法に従って行うこととした。

白倉下原、天引向原遺跡を包括する原西地区は、調査対象地がパーキングエリア本体及び本線部分にあたるため、その面積は広大なものであった。よって、各遺跡の中をいくつかの調査区に分割して、各調査区毎に調査を行うこととした。旧石器時代の試掘調査も各調査区毎に行った。遺跡全体の縄文時代以降の調査終了をまって、遺跡全面に試掘調査を行うよりも、各調査区ごとに試掘を入れる方が合理的であったし、工事工程の関係も絡んでこの方法を取らざるをえなかった。このため、まだ残りの調査区に遺構が多数あっても、文化層の確認された調査区から、本来は別期間枠であるはずの旧石器時代本調査を含めた調査を遂行せざるをえなかった。よって、平成2年度をもって原西地区の発掘調査をすべて終了させるという計画に無理を来たすことは明白であった。

試掘調査は、文化層の数、位置、深度、範囲を確認するべく遺跡全体に試掘坑を入れることとした。つまり、どこに石器群が分布し、逆にどこには分布がないのかを明確にし、遺跡全容を解明することを目的とした。石器の出土した隣接部分のみを拡張調査しても、遺跡全容を解明することはできず、また文化層がないことを確認することも大きな調査成果であると考えたからである。

試掘方法は、基本的に 2×4 mの試掘坑を4mもしくは5m間隔で設定した。一般的にブロックは大体 5×5 mの大きさであることから、この間隔で調査すれば、まづブロックを見逃すことはないと考えたからである。深度はATより大体30cm程下層までで、これより下層は礫層に移行することから文化層はないものと判断した。発掘用具にはジョレン、スコップを用いた。また、地形的条件をみて、文化層の存在が濃厚な所と希薄な所を判断して、この間隔を広げるなど柔軟性を持たせた合理的調査も行ったが、白倉下原遺跡B区で

は谷から相当奥に入った台地でも文化層が存在することが判明したため、試掘精度を極端に落とす訳にはいかなかった。しかし、試掘調査を重ねていくにつれて、層位的には文化層はAT下層に限定されることが次第に明らかとなってきた。

こうした試掘調査の結果、文化層はAT下層の1枚だけであることがわかったが、面積的には相当な広がりを持つことが予想された。

本調査は、試掘調査によって確定した発掘深度と面積をもとに行った。文化層はAT下層だけであることが確定していたので、石器包含層の上のローム層まではバックフォーで除去して効率化を図った。その後は文化層の全容を解明するべく調査を進めていった。しかし、石器包含層は粘土層で、降雨が連続すると湧水し、反対に乾燥するとジョレンでは全く歯が立たないほど硬化してしまい、撥水を用いることとした。このため、石器を傷つけることなく慎重に精査せねばならず、調査は難航した。

3 調査経過

白倉下原・天引向原遺跡の発掘調査は、平成元年4月から平成3年8月までの2年半にわたって実施された。平成元・2年度は事業名原西Ⅰ、原西Ⅱ遺跡の2班体制、平成3年度は原西遺跡の1班体制で行われた。

(1) 白倉下原遺跡の調査経過

白倉下原遺跡の発掘調査は平成元年4月より、原西Ⅰ遺跡と原西Ⅱ遺跡の2班体制で開始された。遺跡は東西が380m程の長さに及ぶため、南北に走る道路を境界として便宜的に東よりA・B・C区の3調査区に区分し、A区を原西Ⅰ遺跡班が、B・C区を原西Ⅱ遺跡班が担当して行うこととなった。

原西Ⅰ遺跡の発掘調査は9月より急速、中高瀬観音山遺跡（事業名光厳寺裏遺跡）の調査支援体制に組み込まれたため、平成2年2月までの6カ月間調査を中断することとなった。その後、3月より調査を再開し、縄文時代以降の調査終了部分から順次試掘坑を設定して試掘調査を行った。その結果、A区のAT下層の粘土層から台形椀石器や局部磨製石斧、剃片類が多数出土したことから、本調査が必要となった。

その後、公団より調査区北側に工事用道路を建設したい旨打診があり、調査事務所ではこれを受けて道路部分を先行して調査することとなった。このため、道路部分以外にも石器群の分布が試掘によって判明していたが、工事工程との絡みから、現状に分布するブロック群をちょうど間断するかたちで調査を行わざるをえなかった。なお、調査は工事用道路部分を平成2年6月まで、それ以外を平成2年12月まで行われた。

また、B区の調査は縄文時代以降の調査終了後、試掘調査と本調査を併せて平成2年9月から10月31日まで行われた。C区では平成2年1月に行われた。

以上、白倉下原遺跡での旧石器時代調査面積は、A区では1,596㎡、B区では750㎡、C区では950㎡で、合計3,290㎡に達した。

(2) 天引向原遺跡の調査経過

天引向原遺跡の調査も白倉下原遺跡と同様、A～F区の6調査区に分割して行ったが、まず工事用道路部分を先行調査しなくてはならなかった。A区は台地先端部という立地からみて、文化層が存在することは濃厚であった。試掘調査の結果、やはりAT下層に石器群の分布が確認され、緊急に工事用道路部分のみを本調査することとなった。このため、石器分布域が工事用道路南側にも分布することは確実であったが、白倉下原遺跡A区と同じように、分断して行わねばならなかった。工事用道路部分については試掘調査から本調査までを平成2年6月に行った。

白倉下原遺跡と天引向原遺跡を含む原西地区の調査は先に述べたように、旧石器時代の本調査を取り組

んだこと、光厳寺裏遺跡の調査支援のため6ヶ月間調査が停止したことから、平成2年度内の終了は無理であった。このため、関係機関と協議し調査期間は平成3年8月まで延期されることとなった。しかし、工事工程の関係から、平成3年3月までにパーキングエリア北側部分を調査終了させて引き渡すことが条件であった。この決定を受けて、調査の主眼をこの北側部分に置き、平成2年度中に終了させるべく全力を尽くすこととなった。

まず、平成3年1月から再びA区の残りの部分の本調査と遺構調査終了箇所から順次試掘調査を併行して行った。しかし、パーキングエリア半分とは言っても相当な面積があり、試掘調査だけでも多くの労力と期間を必要とすることは明らかで、原西班だけでは到底調査終了できうるものでもなく、他の調査班の支援が必要であった。平成2年度は関越道上越線の調査最終年度であり、いずれの調査班も自班の調査で手一杯であったが、それでも余力のある班は原西班の支援体制に入ることとなった。実際、平成3年2・3月には調査担当者10名以上、作業員100名以上という時もあった。このような状況のもと、調査事務所総力を挙げた調査体制によって平成3年3月までにパーキングエリア北側部分の調査は無事終了した。

平成3年度は残りのC区と呼称したパーキングエリア南側部分の調査となったが、台地本体部分であることから縄文時代以降の遺構量は相当に多く、旧石器時代の試掘調査になかなか入れなかった。それでも、8月20日までに調査終了という最終ラインが確定していたので、順次試掘を行い文化層の有無を確認していかねばならなかった。しかし、梅雨とその後の盛夏が重なり調査の進行は思うように捗らなかった。

こうした打開策として、従来の調査によって文化層はAT下層に限定されると考えていたので、この文化層の広がりを確認することに主眼を置き、上層のローム層をバックフォーで除去して効率化を図るなどの方法が求められた。ところが、5月に吉井町多胡蛇馬遺跡の調査で、室田軽石層上層の暗褐色ローム層から文化層が検出され、本遺跡でもこの層準に石器群が存在する可能性が残されていることから、この方法は断念した。それでも、次のような方法で効率化を図った。まず、As-BP下面とAs-MP上面までの試掘坑を市松状に設定して精査し、途中で粘土上面までバックフォーで除去して、再びAT下層で精査する。これが、調査時点で考えられた最も効率的かつ最大限の成果をもたらす方法であった。もし、これ以上粗くすれば、文化層有無の確認という、試掘調査が持つ本来の目的すら達成できないと考えたからであった。

この結果、C区では(35-47)グリッド、(34-49)グリッド、(42-51)グリッドのAT下層から石器が検出された。本調査は、分布が散漫であることから改めて行う必要はないと判断し、個々の試掘坑周辺を拡張して行うこととした。前二者については、周辺部を拡張したが他に出土はなく単独出土であった。後者は拡張した結果、散漫ながら1ヶ所ブロックを検出した。このようにC区では石器の分布は希薄であったが、先端部から奥に入った台地にも石器が分布することを確認したことは大きな成果であった。

このような経過のもと、天引向原遺跡の旧石器時代調査面積は、試掘調査面積も含めて2,840㎡に達した。

以上のように、白倉下原遺跡、天引向原遺跡を包括する原西地区の発掘調査は様々な経過を経て終了したが、特に旧石器時代に関しては多くの知見を得ることができた重要な遺跡として評価できる。

第2章 地理的・歴史的環境と周辺遺跡

第1節 地理的環境

白倉下原遺跡、天引向原遺跡は、群馬県南西部に位置する富岡市街地東方の、甘楽郡甘楽町大字白倉・天引両地内にそれぞれ隣接して立地している。この二つの遺跡は鑛川によって形成された上位と下位の二つの河岸段丘面のうち、高位の段丘面である上位段丘面に立地している。

鑛川は群馬・長野県境の八風山麓に源を発し、途中下仁田町本宿付近で、同じく群馬・長野県境の荒船山麓に源を発する市野萱川と合流した後、富岡市、甘楽町、吉井町、藤岡市の群馬県南西部地域を東に流れ下り、その後高崎市阿久津町付近で利根川の一支流である烏川へと合流する。鑛川が東流するこの地域一帯は、従来より「甘楽の谷」、あるいは「かぶらの谷」と呼称される歴史的に由緒ある地域である。「甘楽の谷」を上流に遡っていくと、内山峠を超えて長野県佐久市へと抜けることができ、古くから中部地方と関東地方とを結ぶ交通の要衝的機能を持った地域である。

鑛川右岸（南岸）一帯には上位段丘面と下位段丘面の二段の河岸段丘が形成されているが、特に富岡市東部から藤岡市にかけての中下流域では、特に上位段丘面の発達が著しい。逆に、左岸（北岸）では上位・下位とも河岸段丘の発達はほとんど見られない。こうした経緯については、右岸地域の地盤の隆起によって、鑛川の流路が次第に南から北へと移動したこと起因していると言われる。つまり、鑛川は最初に南側から上位段丘面を形成させて、その後下位段丘を形成させながら、流路を北へと次第に移動させた結果であると捉えられている。この流路移動自体は自然的なタイムスケールのなかで現在でも進行中であり、今では下位段丘面を10m程浸食した河床を鑛川は流れている。

上位段丘面には、北西約40kmのところに聳える浅間山を給源とした、浅間室田軽石層（As-MP）をはじめとする複数の軽石層群と風化ローム層とが互層となっており、2m程の厚さで堆積している。さらに、ローム層の下層には風化した暗褐色粘土層が堆積し、この上部には鹿兒島湾を給源とする始良 Tn 火山灰（AT）が1～2cmの厚さで純層ないしブロック状に堆積していることから、遅くとも22,000年前頃には上位段丘面の形成が終了したことは確実で、さらに白倉下原遺跡や天引向原遺跡の旧石器時代の石器群がAT下層から出土していることを考え併せれば、この年代をさらに遡ることは間違いないであろう。

これに対して、下位段丘面にはほとんどの地域でローム層の堆積が見られないことから、上位段丘にローム層が堆積している頃には、この面の何れかを鑛川が流れていたことが推測される。

白倉下原・天引向原遺跡が立地するのは上位段丘面であり、南側地形は丘陵地帯が続いたのち、稲合山や牛伏山をはじめとする標高1,200～1,500m程の山地が東西に連なってひかえている。この山地に源を発する雄川、白倉川、天引川、大沢川、矢田川、土合川などの中小河川が段丘面を開析しながら北流し、鑛川に直交するように合流している。さらに、これらの中小河川に注ぐ支谷が樹枝状に発達して、上位段丘面を東西に分断し、いくつもの舌状に延びる台地を形成している。このような台地の先端部あるいは縁辺部に旧石器時代遺跡は立地している。

白倉下原と天引向原の両遺跡は、大きく見ると東側を天引川、西側を白倉川の中小河川によって大きく開析された上位段丘面に立地する。白倉下原遺跡は、東を天引向原遺跡との間を流れる小支谷、西を白倉川に

よって画される。天引|向原遺跡は東を三途川、西を小支谷によって画された台地上に立地する。三途川の東側の台地には天引|狐崎遺跡が立地する。

これらの遺跡は各河川に注ぐ支谷によって分断され、遺跡の北側1,000mのところには上位と下位の段丘面を画する比高差20m程の崖線が東西に走っている。

第2節 歴史的環境と周辺の遺跡

1 歴史的環境

「甘葉の谷」は、従来より群馬県でも有数の遺跡濃密地帯として著名である。なかでも、上位と下位の二つの河岸段丘面が形成されている鏡川右岸には、各時代にわたって数多くの遺跡が残されている。例えば、縄文時代では大規模な環状列石が検出された田藤中原遺跡、弥生時代では多数の後期の住居跡が重複して検出された中高瀬観音山遺跡などが挙げられる。古墳時代については、三角縁神獣鏡が出土した富岡市北山茶白山古墳や同北山茶白山西古墳などの前期古墳、藤岡市七興山古墳や白石稲荷山古墳、甘楽町笹森稲荷古墳などの大型前方後円墳、吉井町安坪古墳群や同神保古墳群、同多胡古墳群などの群集墳の存在は従来より著名である。また、奈良時代、和銅4年の「多胡郡」の建郡を記念して建立された、日本三古碑の一つである「多胡碑」も吉井町に存在する。このような遺跡濃密地帯をちょうど東西に貫くように関越自動車道の上越線は通過することとなり、当然の結果として各時代にわたって文化層の複合する遺跡が多数調査されることとなった。特に、これまで不明な部分を多く残していた旧石器時代の様相については、今回の発掘調査によって多数の遺跡が調査されるとともに、多くの知見を得ることができた。

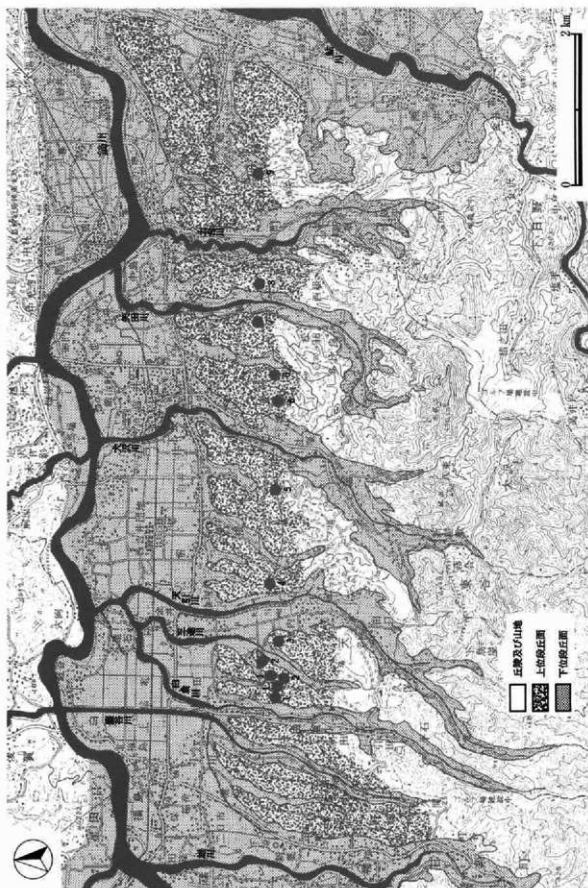
2 周辺遺跡

ここでは旧石器時代について述べる。群馬県を俯瞰すると、ちょうど県土を東西に分断するかのよう県中央部を利根川が途中、片品川、吾妻川、烏川、神流川などのいくつもの支流を集めながら南流している。この利根川を挟んだ西側には榛名山が、東側には赤城山が対峙するかのよう県中央部に聳えている。

利根川左岸（東岸）の赤城山南麓や西麓では、関越自動車道新高線や上武国道、あるいはその他の大規模開発に伴う膨大な発掘調査量も起因して、旧石器時代遺跡は多数調査されている。代表的なところでは、径50m程の大規模な環状ブロック群が姿を現し、集落研究に格好の資料を提供した赤堀町下触牛伏遺跡をはじめ、同町堀下八幡、笠懸町和田、県内で初めて北方系細石刃石器群の良好なセットが出土した前橋市頭無、北橋村房谷戸、同分郷八崎、赤城村勝保沢中ノ山、月夜野町後田などの研究上欠かすことのできない重要な遺跡が多数調査されている。

赤城山南麓地域のなかでも特に赤城山南麓地域は、故相沢忠洋によって精力的に踏査された地域で、考古学史上重要な位置を占める地域でもある。例えば、我国における旧石器時代遺跡をはじめて発見し、その文化の存在を立証した岩宿遺跡は東南麓の笠懸町に所在し、戦後の日本考古学史上に革命的な画期をもたらした遺跡としてあまりにも著名である。ほかにも新里村武井遺跡、藪塚町藪塚遺跡、伊勢崎市権現山遺跡、大間々町桐原遺跡、宮城村辨形遺跡など、旧石器時代研究初期に調査され、相沢の業績と共に研究史上に忘れることのできない重要な遺跡が多数ある。

一方、利根川右岸（西岸）に目を転じると、これまでの大規模開発の少なさもあって、発掘調査された遺跡は安中市古城遺跡、藤岡市北山遺跡、渋川市行幸山遺跡などが挙げられるのみで、遺跡数は極めて少な



第1表 鍋川流域における旧石器時代の周辺遺跡

No.	遺跡名	所在地	出土層位	遺跡の概要	参考文献
1	白倉下原	群馬郡甘楽町大字白倉	AT下層	本報告の遺跡。	10
2	天引向原	群馬郡甘楽町大字天引	AT下層	本報告の遺跡。	10
3	天引區崎	群馬郡甘楽町大字天引	AT下層	三途川を挟んで天引向原遺跡の東側台地に立地。7ヶ所のブロックが礫状ブロック群を構成。石器群は台形様石器、ナイフ形石器、スクレイパーを含む597点が出土。石材は黒色安山岩を主体とする。	9・10
4	長根安塚	多野郡吉井町大字長根	ローム層	天引川を挟んで天引區崎遺跡の東側の上位段丘上に立地。As-YP付近から黒曜石製の剥片、砕片が10数点出土。	1
5	神保富士塚	多野郡吉井町大字神保	ローム層	As-YP付近から黒曜石製の男女倉型彫器、槍先形尖頭器未製品が出土。	6
6	多胡蛇黒	多野郡吉井町大字多胡	ローム層 AT上層 AT下層	遺跡東端の矢田川を望む東台地で3枚の文化層を検出。As-MPの上層からは、ナイフ形石器、エンドスクレイパー、彫器を含む10数点の石器群、AT上層からは黒曜石製のナイフ形石器が1点、AT下層からは基部加工ナイフ形石器が1点それぞれ出土。遺跡西端の台地のAT下層でも2点石器が出土。	8
7	矢田	多野郡吉井町大字矢田	AT下層	ブロック1ヶ所と礫群1ヶ所を検出。黒曜石製、黒色安山岩製の台形様石器を含む10数点の石器群が出土。	7
8	多比良追鹿野	多野郡吉井町大字多比良	AT下層	礫状ブロック群を構成。台形様石器、ナイフ形石器を含む石材は黒曜石と黒色安山岩が多い。	3・10
9	黒城八幡	多野郡吉井町大字黒城	AT下層	黒曜石製のスクレイパーと剥片の2点が出土。	3
10	野上塚之入	富岡市野上	ローム層	As-MP上層よりスクレイパーが1点出土。	5
11	下高瀬寺山	富岡市下高瀬	ローム層	黒曜石製細石刃核が1点出土。	2
12	北山	藤岡市藤岡	ローム層 AT下層	AT下層から台形様石器を含む420点の石器が礫状ブロック群を構成して出土。	10・11・12
13	北山B	藤岡市藤岡	ローム層 AT下層	ローム層からは槍先形尖頭器が出土。AT下層からも多量の石器群が出土。	4

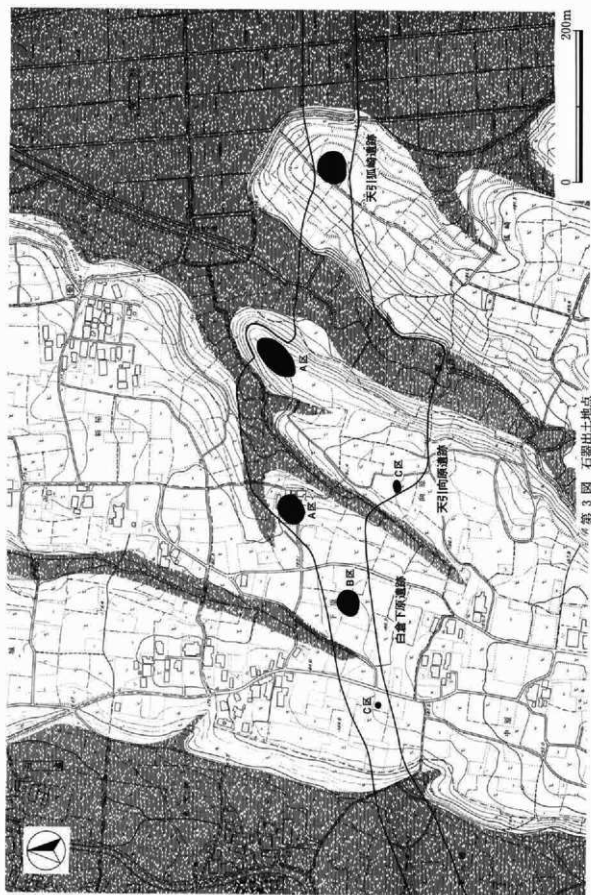
註) 10-13については第1図中には表記されていない。

参考文献

- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1989 『年報』8号 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990 『年報』9号 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991 『年報』10号 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992 『年報』11号 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 新井 仁 1991 『野上塚之入遺跡・塚之入城遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 小野和之 1993 『神保富士塚遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 富田一仁 1993 『矢田遺跡IV』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 中沢 哲 1993 『多胡蛇黒遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 関口博幸 1993 『天引區崎遺跡Ⅰ』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 関口博幸・板井美枝・津島秀章 1993 『礫状ブロック群が発見された群馬県内の遺跡』第1回岩宿フォーラムシンポジウム『礫状ブロック群』資料集 笠懸野岩宿文化資料館
- 志村 哲・大工原豊 1988 『藤岡北山遺跡』『群馬県史—資料編1—』群馬県
- 大工原豊 1990 『AT下位の石器群の遺跡構造と分析に関する一試論(1)』『旧石器考古』41 旧石器文化談話会



第2図 遺跡の立地と周辺遺跡



第3図 石器出土地点

いのが現状であった。特に、鍋川流域では、藤岡市竹沼遺跡をはじめこれまでいくつかの遺跡で槍先形尖頭器などの旧石器時代に帰属すると考えられる石器が表面採集されていたが、発掘調査自体は藤岡市北山遺跡で行われたのみで、従来より「甘楽の谷」は旧石器時代遺跡の分布が極めて希薄な地域という印象が大勢を占めていたといえる。

しかし、今回この関越自動車道上越線建設に伴う発掘調査で、ここに報告する白倉下原遺跡、天引向原遺跡の他、多数の遺跡が調査された。鍋川上流から、下仁田町下鎌田、富岡市野上塩之入、同下高瀬寺山、甘楽町天引狐崎遺跡、吉井町長根安坪、同神保富士塚、同多胡蛇黒、同矢田、同多比良追部野、同黒熊八幡、など多数の遺跡が調査され、旧石器時代においても「甘楽の谷」は遺跡が濃密に分布する地域であることが判明したのである。しかも、これらの遺跡立地のあり方から考えて、上位段丘面のいたるところにまだに多くの旧石器時代遺跡が残されていることは確実であろう。今後、上位段丘面を発掘調査すれば必ず何らかのかたちで遺跡、すなわち文化層が発見されるはずである。

これらの遺跡の石器群のほとんどがATよりも下層から出土していること、ATより上層から石器群が出土したのは長根安坪、神保富士塚、多胡蛇黒の3遺跡のみであることを考え併せると、特にAT下層で旧石器時代遺跡が発見される確率は極めて高いといえる。

第3節 基本層序

白倉下原・天引向原遺跡は鍋川右岸の上位段丘面に立地している。上位段丘面では基本的に表土層（耕作土）、ローム層、粘土層、礫層の堆積が認められる。表土層中には、1783年（天明3年）に噴出した浅間A軽石（As-A）、1108年（天仁元年）に噴出した浅間B軽石（As-B）を含んでいる。しかし、純層での堆積は確認できなかった。ローム層中には、同じく浅間山を給源とする浅間板鼻黄褐色軽石（As-YP）や浅間板鼻褐色軽石（As-BP）、浅間室田軽石（As-MP）などの軽石層と風化ローム層が互層となって堆積している。さらに、粘土層中には鹿児島島の始良カルデラを給源とし、22,000年前頃噴出したといわれる始良Tn火山灰（AT）が堆積している。石器群は粘土層（Ⅲ層）に包含され、AT直下から大体30cm程の垂直幅を持って出土しており、ATにバックされた状態であった。石器群を包含する粘土層は小礫を含み、この下層には礫層が堆積していることから、鍋川が上位段丘面から離水して間もない頃に白倉下原遺跡、天引向原遺跡の文化層が残されたものと考えられる。

第Ⅰ層 黒褐色土層（表土層） 耕作土である。攪拌された浅間A軽石を多く含んでいる。浅間A軽石は純層では認められないが、畠跡の畝間等では純層で堆積している。浅間B軽石は台地部では認められなかったが、谷部では堆積している部分もある。また、浅間C軽石の堆積はいずれの部分でも認められなかった。

第Ⅱ層 暗褐色土層 漸移層で、遺構確認面である。縄文包含層でもある。

第Ⅲ層 明黄褐色ローム層 堅く締まるローム層で、浅間板鼻黄褐色軽石（As-YP）を多く含む。場所によってはブロック状に堆積している。

第Ⅳ層 黄褐色ローム層 Ⅲ層に比較してやや軟質で、粘性を持つ。また、色調もオレンジ色を帯びるローム層である。浅間白糸軽石（As-SP）の可能性のある白色の軽石を含む。

第Ⅴ層 黄褐色ローム層 浅間板鼻褐色軽石（As-BP）をブロック状に含む。

第Ⅵ層 明黄褐色軽石層 明黄褐色を呈する浅間板鼻褐色軽石（As-BP）の純層で、堅く締まる。

第Ⅶ層 灰褐色軽石層 灰褐色を呈するAs-BPの純層で、堅く締まる。

Ⅵ・Ⅶ層とも場所によっては純層をなさずブロック状に堆積することもある。

第Ⅷ層 暗褐色ローム層 粘性のあるローム層で、下半部ではAs-MPを少量含んでいる。締まりは弱く、場所によって炭化物を含むこともある。

第Ⅸ層 明赤褐色軽石層 明赤褐色を呈する浅間室田軽石(As-MP)の純層である。粒子は平均10mm程で、層厚は大体30cm程である。赤城山西南麓では浅間板鼻褐色軽石層群(As-BPグループ)で一括されるが、銅川流域をはじめとする西毛地域では独立した軽石層として観察される。

第Ⅹ層 灰白色軽石層 Ⅸ層と同じAs-MPの純層であるが、粒子は細かい。水成作用によって色調が変化し、下半部では一部粘土化している。

第Ⅺ層 暗褐色粘土層 堅く締まる粘土層で、色調もⅩ層と同様であるが、礫の混入は少ない。

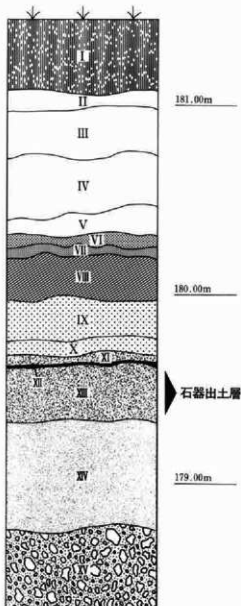
第Ⅻ層 乳白色火山灰層 始良Tn火山灰(AT)の純層である。非常にきめ細かいガラス質の粒子である。層厚は1～2cm程で、場所によってはブロック状に堆積する。

第Ⅼ層 暗褐色粘土層 堅く締まる粘土層で、石器包含層である。平均2cm程の小礫を多く含む。場所によって、層厚0.5cm程の非常に堅く凝結した鉄分沈殿層が幾層か堆積し、こうした層を挟んで石器が出土する。斜面部や降雨が連続すると本層で湧水する。

第Ⅽ層 青灰色粘土層 きめ細かい粒子で構成される。特に台地中央部では堆積が確認されたが、反対に台地縁辺部などでは本層の堆積がみられずに直接礫層に移行している。

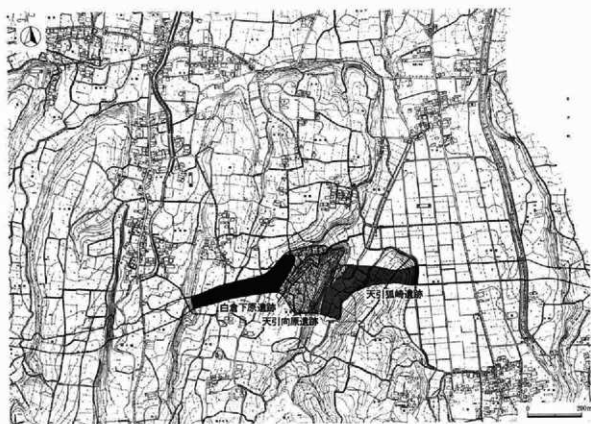
第Ⅾ層 礫層 礫は比較的小型のものを主体とし、30cmを越えるような大型のものはほとんどみられない。礫種は結晶片岩とチャートを主体とする。

Ⅾ層以下は礫と青灰色粘土層が互層となって厚く堆積している。



第4図 基本層序

白倉下原遺跡



第3章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査

白倉下原遺跡は甘葉郡甘葉町大字白倉下原に所在する。東を三途川に注ぐ小支谷、西を白倉川によって画された上位段丘面に立地する遺跡で、旧石器時代以降、縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中近世の各時代に亘る生活跡が残された複合遺跡である。遺跡調査部分はパーキングエリア西端部とそれに接続する西側本線部分より構成され、東西およそ350mの長さを持った範囲を調査した。このため、調査は便宜的にA・B・Cの3調査区に分割して効率的に行った。

旧石器時代の文化層が確認されたのはA・B・C区の3調査区で、いずれもAT下層の暗褐色粘土層から石器群が出土した。

A区では、三途川に注ぐ二本の小支谷に挟まれた舌状台地から、6ヶ所のブロックが環状ブロック群を構成して検出された。B区では、A区から100m程西側で、谷頭部よりも60～80m程奥に入った平坦な台地上から4ヶ所のブロックが環状ブロック群を構成して検出された。C区では、同じく谷頭部から40m程奥に入った台地上から、3点の石器群が出土した。

A区の東側台地には、天引向原遺跡が立地しており、A区とC区の2ヶ所でAT下層から石器群が出土している。このうち、A区では、13ヶ所のブロックが環状ブロック群を構成して検出された。C区では、小規模なブロックが1ヶ所検出された。

なお、各調査区とも文化層はAT下層に限定され、それよりも上層のローム層からは検出されなかった。また、下層については、礫層及び青灰色粘土層であることから、文化層の存在はないものと判断し調査を行っていない。

旧石器時代以外の遺跡の概要についてみると、縄文時代では、住居跡約30軒（このうち敷石住居跡7軒）、土坑約250基、埋壺約10基の遺構が検出されている。住居跡は加曾利E3～堀之内2式期を中心に、前期踏破b式期のものも少数ある。土坑は有尾・黒浜期をそれぞれ主体とする。埋壺は加曾利E3～堀之内2式期のものである。ほぼ各時期にわたった集落が認められるが、時期によって集落を占地する地点に変化があることが興味深い。また、遺物でもミニチュアの石棒や石皿など興味深い遺物が多数ある。

弥生時代では、中期の土坑群、後期の住居跡、方形周溝墓などがある。特に、住居跡には古墳時代移行期のものもあり、弥生後期から古墳前期にかけての集落展開の様子を追える格好の遺跡として重要である。また、C区に展開する住居跡ではそれぞれ磨製石鏃の製作を行っていた。その良好なセットはその製作技法や機能を解明するうえで重要な資料である。

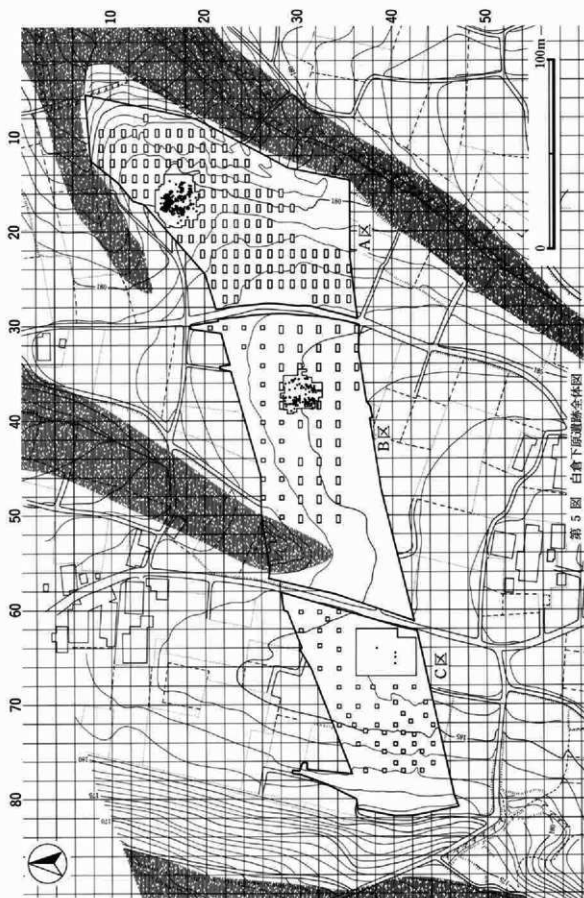
古墳時代後期以降では、住居跡数が著しく増加し、集落展開が活発化していく。また、平安時代では、それまで集落が営まれていなかった台地縁辺部や斜面部にも集落が展開するようになる。

白倉下原遺跡では、旧石器時代以降の鍾川流域という一地域内で展開された人間活動の様子が、一遺跡内に凝縮しているようであり、その展開と消長を歴史的に跡付けていくうえで重要な遺跡であるといえる。

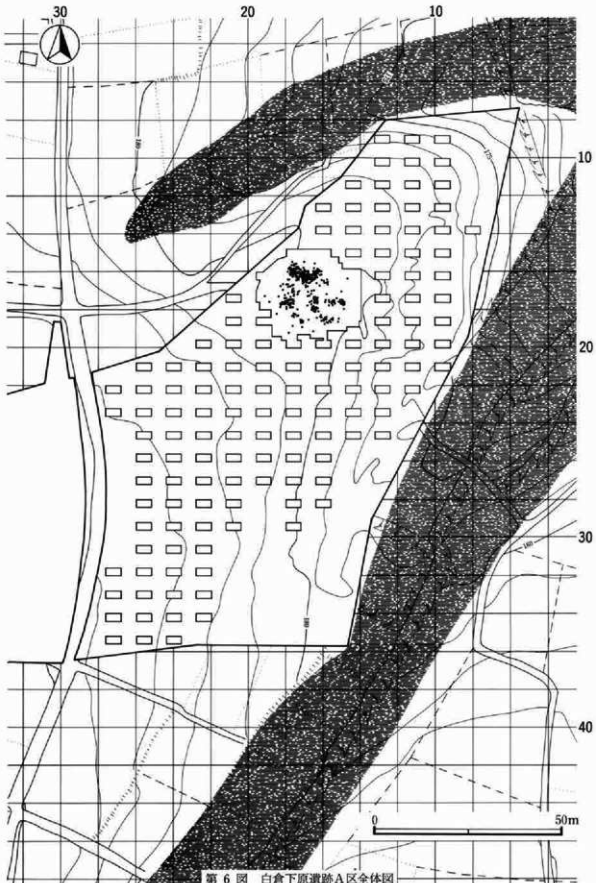
第1節 白倉下原遺跡A区

1 概要

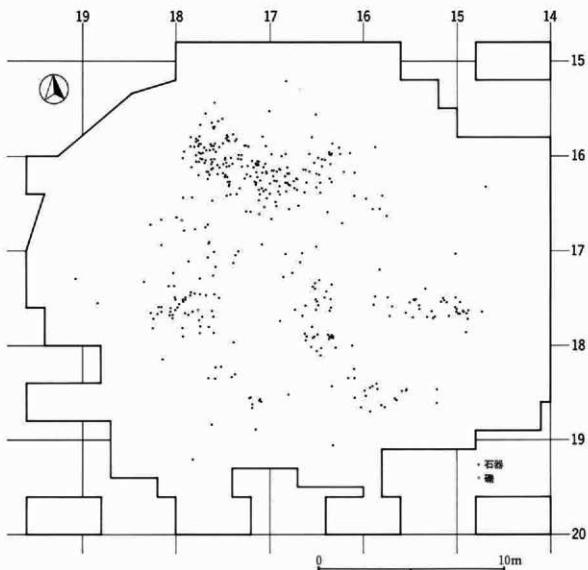
白倉下原遺跡A区は、遺跡東端に位置し、二本の小支谷に挟まれた北東方面に向かって張り出す舌状台地



第5図 白倉下原遺跡全体図



第6图 白倉下原遺跡A区全体图



第7図 A区石器分布全体図

に立地している。小支谷を挟んだ東側台地が天引|向原遺跡である。台地頂部からは、三途川に注ぐ小支谷によって形成された狭長な低地帯が見おろせ、さらに東前方には三途川と天引川とによって形成された広大な低地帯を見渡すことができる。

A区ではこのような立地環境からみて、旧石器時代の文化層が存在することが濃厚と判断され、台地全面に2×4mの試掘坑を設定し、すべてAT下層の皿層の暗褐色粘土層まで掘り下げて試掘調査を行うこととした。この結果、低地帯を望む傾斜変換部にあたる(15~19-14~19)グリッドにかけてのAT下層の暗褐色粘土層から石器群の分布が認められた。

なお、石器の分布はこの範囲内に収束しており、小支谷に沿った台地縁辺部や台地奥部の平坦部では石器は全く検出されなかった。また、文化層もAT下層のみに限定されており、これよりも上層では検出されなかった。

出土した石器は総数403点で、他に礫が4点出土した。ブロックは6ヶ所確認され、いわゆる弾状ブロック群として評価でき、AT下層の一時期に展開された旧石器時代の集落跡を確認することができた。

第2表 A区ブロック別器種別石器組成表

	ナイフ 形石器	台形 石	扇形 石	局 部 磨 製 石 片	ス テ レ イ バ ー	R 製 片	石 核	石 刃	剥 片	砕 片	敲 石	礫 器	台 石	計	小計	合計
A1ブロック	1	8				3	7	2	123	56	7			207	2	209
A2ブロック					1		1		22	14				38		38
A3ブロック		1					2	2	10	6			1	22		22
A4ブロック	1		1						6	7	1			16		16
A5ブロック		1	2				5	2	39	15	2	1	1	68	2	70
A6ブロック		2				3	2		27	9	1			44		44
A2ブロック周辺									1					1		1
A4ブロック周辺						1			1					2		2
A5ブロック周辺		1			1				2					4		4
ブロック外									1					1		1
合 計	2	13	3	2	2	7	17	6	232	107	11	1	2	403	4	407

第3表 A区ブロック別母岩別石器組成表

	GAn-1	GAn-2	GAn-3	GAn-4	GAn-5	GAn-6	GAn-7	GAn-8	GAn-9	GAn-10	GAn-11	An-1	Ch-1	Ch-2	Ch-3	Ch-4	Ch-5	Ch-6	Ch-7	計
A1ブロック	6	39	1	122	5	7	3	3	3					9					1	199
A2ブロック	15		5	12	1		3							2						38
A3ブロック				9		1				7									1	18
A4ブロック		2		6		1	1					1				3				14
A5ブロック				22	2	1	24							2						51
A6ブロック			1	34	1	4								2				1		43
A2ブロック周辺				1																1
A4ブロック周辺										1										1
A5ブロック周辺				1																1
ブロック外									1											1
合 計	21	41	7	207	9	14	31	3	3	1	8	1	9	4	2	3	1	1	1	367

	Ch-8	Ch-9	Ch-10	BSh-1	HMn-1	HMn-2	HMn-3	HMn-4	HMn-5	HMn-6	Be-1	Be-2	CS-1	CS-2	CS-3	小計	台石	礫	合計
A1ブロック			1											7		207		2	209
A2ブロック																38			38
A3ブロック						1				1	1					21	1		22
A4ブロック				1												16			16
A5ブロック	1				1	1					10	2		1		67	1	2	70
A6ブロック															1	44			44
A2ブロック周辺																1			1
A4ブロック周辺								1								2			2
A5ブロック周辺			1				1				1					-4			4
ブロック外																1			1
合 計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13	2	7	1	1	401	2	4	407

2 石器

A区からは403点の石器が出土した。その内訳はナイフ形石器2点、台形礫石器13点（接合後11点）、局部磨製石斧3点（接合後1点、刃部破片1点）、スクレイパー2点、二次加工のある剥片7点、石刃6点、石核17点、剥片232点、砕片107点、敲石11点（接合後4点）、礫器1点、台石2点である。次に各石器について観察していく。

ナイフ形石器（第8図1・2）

1 黒色頁岩製で、比較的薄手の石刃を素材とする。上半部は欠失してしまっている。微細な調整加工が左右両側縁の基部に数回施されているのみで、打面は除去されることなく残置されている。打面は一枚の平坦な剥離面で構成され、打面調整は施されていない。打面周縁部には微細な頭部調整が施されている。背面は主要剥離面と同一加撃方向の4枚の剥離面で構成され、器体両側縁に平行した稜線が走っていることから、素材となる石刃は明らかに石刃技法によって獲得されたことが理解される。A4ブロック出土。

2 黒色安山岩製で、横断面形が三角形の厚手の縦長剥片を素材とし、左半部には大きく自然面を残している。急斜な調整加工＝ブランティングが右側縁下半部に施されているのみである。先端部は尖鋭で、素材形状を巧みに利用し、調整加工はそれを補うかたちで施されていることが看取される。A1ブロック出土。

台形礫石器（第8図3～第9図13）

3 黒色安山岩製の横長剥片を素材とする。器体に併行する調整加工は器体に併行するかたちで左右両側縁に施されている。左側縁には素材打面を打面として平坦な調整加工が背面と主要剥離面に施されている。この調整加工はバルブを取り除くように施されているが、概して粗くステップブレイキングを起こしている。右側縁には縁辺部を潰すような調整加工が施されている。A1ブロック出土。

4 硬質泥岩製で、厚手の横長剥片を素材とする。左側縁は打面を取り除くように折断されているが、バルブは依然一部残っている。右側縁に粗い調整加工が施されている。A5ブロック周辺出土。

5 黒色安山岩製で、比較的厚手の寸詰まりの縦長剥片を素材とし、これを横位に利用している。調整加工はV字形に左右両側縁に施されているが、ブランティングによる急斜なもので、平坦な調整加工は全く施されていない。素材打面はこの調整加工によって除去されている。A5ブロック出土。

6 黒色安山岩製の寸詰まりの縦長剥片を素材とする。背面側右側縁にやや平坦で鋸歯状の粗い調整加工が施されている。打面部には微細な頭部調整が施されている。後者の調整加工が素材剥離後に施されたかどうかは判然としないが、台形礫石器に整形する際の調整加工の一部と考えられる。A3ブロック出土。

7 黒色安山岩製で、薄手の横長剥片を素材とする。器体は三つに欠損している。左側縁には縁辺部を潰すかたちでブランティングによる調整加工が背面側から施されている。右側縁にはバルブを取り除くように主要剥離面側から折断するような粗い調整加工が施されている。GAN-2個体Aに帰属し、接合関係を持っている。A1ブロック出土。

8 黒色安山岩製で、薄手で幅広い寸詰まりの縦長剥片を素材としていていると思われる。右半部（素材上半部）は折断されている。縁辺を潰すような微細な調整加工が左側縁下半部に施されている。また、右側縁には折断面を打面として微細な調整加工が背面に数回施されている。A1ブロック出土。

9 黒色安山岩製で、薄手の縦長剥片を素材とする。左右両側面は折断面で、右側縁にはこの折断面を打面として微細な調整加工が施されている。A1ブロック出土。

- 10 黒色安山岩製で、上半部を欠損した基部資料である。素材は寸詰りの縦長剥片を素材としていていると考えられる。左側縁にはやや平坦な調整加工が、主要剥離面には平坦な調整加工がそれぞれ施されている。右側面は二回に亘って折断されており、主要剥離面側の調整加工はこれを切っている。A 6ブロック出土。
- 11 黒色安山岩製の小型の横長剥片を素材とする。左側面は折断面かどうか判然としないが、背面及び主要剥離面に直交する二枚の剥離面が認められ、この剥離面と素材打面を打面として主要剥離面側と背面側に平坦な調整加工が施されている。しかし、これらの調整加工はステップフレイキングを起こしており、概して粗い。A 1ブロック出土。
- 12 チャート製の横長剥片を素材とする。微細な調整加工が右側縁に施されている。左側縁は二ヶ所折断されているが、これによって器体を整形していると思われる。A 6ブロック出土。
- 13 チャート製で、比較的薄手の縦長剥片を素材とする。左側縁は折断した後、鋸歯状の微細な調整加工が施されている。また、主要剥離面にはバルブを取り除くように平坦な調整加工が施されている。打面は残置され、一枚の平坦な剥離面である。A 1ブロック出土。

局部磨製石斧（第9図14～第10図16）

- 14 変玄武岩製で、局部磨製石斧の刃部破片である。15・16と同一母岩別資料であるが、接合関係はない。表裏両面には面取りされた刃部研磨痕が残り、さらにこの面を切る調整加工が施されている。A 5ブロック出土。
- 15 変玄武岩製で、16の刃部破片であり接合する。器体には刃部研磨痕は認められない。本刃部破片や刃部再生剥片を含めた一群の資料は16の接合図（第47図）の下端部に集中していることから、本遺跡内では15の刃部が主に機能していたと考えられる。A 5ブロック出土。
- 16 変玄武岩製で、15の刃部破片が接合する。プロローションは楕円形で、いわゆる「わらじ形」を呈する。上端刃部に研磨痕が若干残存していることから、局部磨製石斧と判断した。この研磨痕の残存状況から、本来の製作当初の器体は相当に大きく、再生を繰り返した結果最終的にこの大きさで廃棄されている。素材は、自然面が一部残っていることと、同一母岩別資料のなかに背面に大きく自然面を残す作出剥片を素材とした資料（18のスクレイパー）があることを考え併せると偏平な礫であった可能性が大きい。15の刃部欠損後に刃部再生を行っている。A 4ブロック出土。

スクレイパー（第10図17・18）

- 17 黒色安山岩製の横長剥片を素材とする。ヒンジフラクチャーを起こした素材端部にスクレイパーエッジが、背面と主要剥離面の両面に連続して作出されている。右側面は折断面である。A 2ブロック出土。
- 18 変玄武岩製の横長剥片を素材とし、上半部と下端部の一部を欠損している。スクレイパーエッジは左右両側縁の背面及び主要剥離面の両面に作出されている。局部磨製石斧と同一母岩別資料で、この石斧製作の際の作出剥片を素材としているものと考えられる。背面が自然面で覆われていることから、リダクションを繰り返した際のものを素材としているのではなく、石斧製作のなかでも初期工程において作出された剥片を利用していると考えられる。また、主要剥離面側の打面付近に施されている調整加工はスクレイパーエッジの調整加工の一部ではなく、石斧の刃部を作出した際の剥離面である。なお、器体には刃部研磨の痕跡は認められない。A 5ブロック周辺出土。

石 刃 (第11図19～第12図24)

19 硬質泥岩製の大型の石刃である。左右縁辺部には使用痕と判断される微細な剥離痕が認められ、特に左側縁部では主要剥離面側と背面側に連続している。しかし、この微細剥離痕は比較的大きめで連続することからスクレイパーエッジとして作出された可能性もある。背面は主要剥離面と同一加撃方向と180度加撃方向の異なる3枚の剥離面によって構成されていることから、180度両設打面石核から石刃技法によって生産されたものと考えられる。打面は一枚の剥離面で構成されるが、平坦ではなく湾曲している。打面調整、頭部調整とも全く施されていない。A5ブロック出土。

20 硬質泥岩製の薄手の石刃で、端部を欠損する。背面は主要剥離面と同一加撃方向の二枚の剥離面で構成され、中央部にその稜線が走る。風化が著しいため、細部までは掴めないが、頭部調整が施されている。打面は一枚の剥離面で構成され、打面調整は施されていない。A3ブロック出土。

21 チャート製の比較的幅広い石刃で、端部はヒンジフラクチャーを起こしている。背面は主要剥離面と同一加撃方向の二枚の剥離面と節理面で構成され、打面は一枚の平坦な剥離面で構成される。頭部には若干調整が見られる。左右縁辺部には使用痕と判断される微細な剥離痕が認められ、特に右側縁部の背面側では頭部から端部まで連続している。A3ブロック出土。

22 硬質泥岩製の比較的厚手の石刃で、右半部のみ資料である。加撃がコントロールされていないためか、発達したバルブを残し、しかも器体中央部で同時割れを起こしている。背面は主要剥離面と同一加撃方向の剥離面で構成される。打面は一枚の剥離面で構成され、打面調整は施されていない。また、頭部調整は若干微細な調整加工がみられるが、稜を取り除くほどではない。A5ブロック出土。

23 黒色安山岩製で、加撃がコントロールされていないため、石核底面まで抜けている。背面は主要剥離面と同一加撃方向、180度異なる加撃方向の三枚の剥離面によって構成され、その稜線が器体中央部に、側縁に平行して走っている。打面は二枚の剥離面で構成されるが、調整打面ではない。A1ブロック出土。

24 黒色安山岩製で、加撃がコントロールされていないため、石核底面まで抜けている。背面は主要剥離面と同一加撃方向、90度異なる加撃方向、180度異なる加撃方向の三枚の剥離面で構成され、その稜線は器体中央部に側縁と平行して走っている。打面は二枚の剥離面で構成されるが、調整打面ではない。A1ブロック出土。

なお、23・24の石刃とも背面構成等の属性を見る限り、石刃技法によって生産された可能性が大きいと判断される。母岩別資料的にはGAn-2に帰属させたが、1点厚手の縦長剥片があるのみで、この2点以外に石刃はない。石核を見ても石刃石核はないし、石刃が剥離された剥離面も残っていない。さらに、接合資料の剥片生産工程を見ても石刃技法が展開された痕跡は認められない。このことから、当初別母岩と考えたが、石材の諸属性を比較検討した限り、やはりGAn-2に属すると判断した。ここでは、母岩別資料のなかに、石刃技法が適用された別個体が共存し、しかもそれは遺跡外で展開され、石刃のみが本遺跡内に搬入されたと考えたい。

二次加工のある剥片 (第12図25～第13図31)

25 チャート製で、バルブが発達した比較的厚手の寸詰まりの縦長剥片を素材とする。剥片端部に急斜な二次加工が施されている。A6ブロック出土。

26 チャート製で、縦長剥片を素材とする。右側縁の背面側と主要剥離面側に微細な二次加工が施されている。A1ブロック出土。

- 27 チャート製の縦長剥片を素材とする。右側縁端部に微細な二次加工が連続して施されている。A1ブロック出土。
- 28 チャート製で、下半部を欠損した縦長剥片を素材とする。右側縁部の主要剥離面側に平坦な二次加工が折断面を切って施されている。A1ブロック出土。
- 29 黒色安山岩製で、寸詰まりの縦長剥片を素材とする。二次加工は左側縁部の背面側と右側縁部の主要剥離面側に施されている。前者の二次加工は急斜であるが、後者は平坦である。A6ブロック出土。
- 30 黒色安山岩製で、幅広い縦長剥片を素材とする。ステップフレイキングを起こした端部に二次加工が施されている。A4ブロック周辺出土。
- 31 黒色安山岩製で、厚手の縦長剥片を素材とする。二次加工は左側縁の主要剥離面と背面に施されている。二次加工は背面側では比較的急斜であるが、主要剥離面側では平坦である。A6ブロック出土。

石核 (第13図32～第17図45)

- 32 黒色安山岩製で、GAN-4 個体Eに帰属する。中央部付近で2点に破損する。A6ブロック出土。
- 33 黒色安山岩製で、GAN-11に帰属するが接合関係はない。折断した剥片を素材とし、折断面に打面を設定して小型の横長剥片を生産している。A3ブロック出土。
- 34 黒色安山岩製で、同様にGAN-11に帰属するが、接合関係はない。折断した横長剥片を素材とし、打面と作業面を180度入れ換えて剥片生産を行っている。A3ブロック出土。
- 35 チャート製で、Ch-2に帰属する。90度打面転移を頻繁に繰り返しながら、寸詰まりの縦長剥片あるいは横長剥片を生産している。他に3点の母岩別資料があり、2点が接合する。A2ブロック出土。
- 36 黒色安山岩製で、GAN-4 個体Aに帰属する。A1ブロック出土。
- 37 黒色安山岩製で、GAN-4 個体Cに帰属する。A1ブロック出土。
- 38 黒色安山岩製で、GAN-7 個体Aに帰属する。A5ブロック出土。
- 39 黒色安山岩製で、GAN-4 個体Bに帰属する。A1ブロック出土。
- 40 黒色安山岩製で、GAN-2 個体Aに帰属する。厚手の横長剥片を素材とした石核で、打面と作業面を180度入れ換えながら剥片生産を行っている。7の台形様石器が接合する。3点に折断されているが、すべてA1ブロック出土である。
- 41 黒色安山岩製で、GAN-2に帰属する。縦長剥片を素材とし、主要剥離面側で左側面を打面に設定して2枚の剥片生産を行っている。A1ブロック出土。
- 42 チャート製で、Ch-3に帰属する。偏平な礫を素材としている。A5ブロック出土。
- 43 黒色安山岩製で、GAN-7 個体Bに帰属する。A5ブロック出土。
- 44 黒色安山岩製で、GAN-7 個体Cに帰属する。A5ブロック出土。
- 45 黒色安山岩製で、GAN-4 個体Dに帰属する。A5ブロック出土。

剥片 (第18図46～第25図108)

46はチャート製の幅広い縦長剥片で、背面には大きく自然面が残っている。A1ブロック出土。48は黒色安山岩製の分厚い幅広い縦長剥片で、背面には丸みを持った自然面が大きく残る。A1ブロック出土。49は黒色安山岩製の幅広い縦長剥片で、器体中央部で横位に折断されている。A1ブロック出土。53は黒色安山岩製の横長剥片で、ブロック外から出土している。62は黒色安山岩製の幅広い縦長剥片で、縦位に同時割れを起こ

している。A 2ブロック出土。69は黒色安山岩製の横長剥片で、A 3ブロック出土。70はチャート製の小型の縦長剥片で、A 4ブロック出土。74は黒色安山岩製の縦長剥片で、左右両側縁とも折断されている。A 5ブロック出土。91はチャート製の縦長剥片で、下半部は折断されている。背面はすべて主要剥離面と同一加撃方向の剝離面で構成される。打点は小さく残っている程度である。A 5ブロック出土。92は黒色安山岩製で小型の幅寸詰まりの縦長剥片で、A 2ブロック出土。93~96は黒色安山岩製で、寸詰まりの縦長剥片である。93はA 3、94・96はA 1、95はA 5ブロック出土。99は黒色安山岩製の横長剥片でA 5ブロック出土。98、100、103は変玄武岩製の横長剥片で、Bs-1に帰属する局部磨製石斧の刃部再生剥片であるが、本体との接合関係は認められなかった。3点ともA 5ブロック出土。101は硬質泥岩製の寸詰まりの縦長剥片で、A 3ブロック出土。102はチャート製の小型の縦長剥片である。A 4ブロック出土。104はチャート製の幅広縦長剥片で、打面は一枚の平坦な剝離面で構成される。A 5ブロック周辺出土。105はチャート製の縦長剥片で、A 4ブロック出土。106はチャート製の縦長剥片で、Ch-1に帰属するが接合関係は認められなかった。A 1ブロック出土。107は硬質泥岩製の横長剥片で、上半部は折断されている。A 4ブロック周辺出土。108は黒色安山岩製の横長剥片で、端部は折断されている。A 1ブロック出土。

礫 器 (第25図109)

109 結晶片岩製で、節理によって分割された偏平な角礫を素材とし、その鋭利な縁辺部を活かすように右側部に刃部を作出している。A 5ブロック出土。

敲 石 (第26図110~113)

110 結晶片岩製で、バラバラに破損した状態で出土したが、接合後器体に敲打痕が認められることから敲石とした。やや偏平な棒状の礫を素材とし、下端部には平坦面がある。この平坦面と左右縁辺部、上端部に敲打痕が認められる。なお、破損が敲打によるものかは判然としない。すべてA 1ブロック出土。

111 結晶片岩製で、大型の偏平な楕円礫を素材とする。上半部は欠損している。敲打痕は周縁部を全周するかたちで認められ、また一部には剝離痕も認められる。A 6ブロック出土。

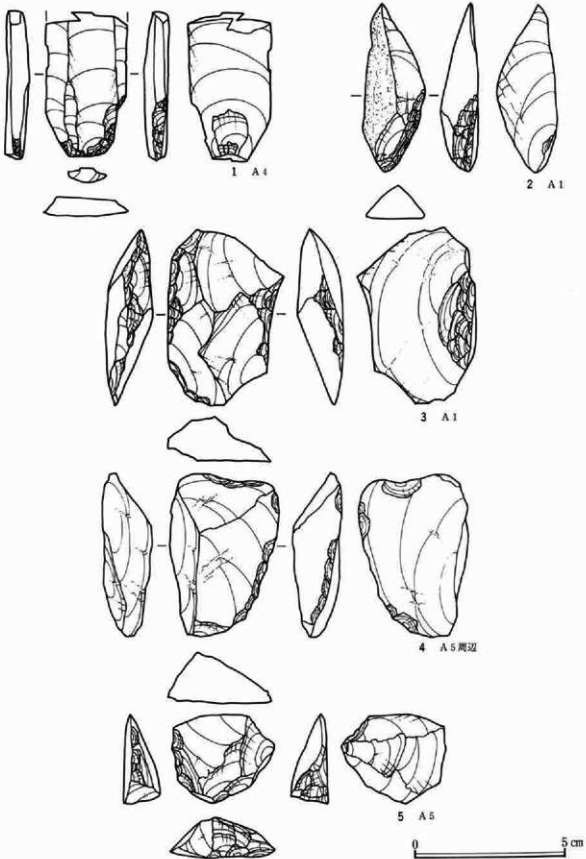
112 変玄武岩製で、偏平な棒状の礫を素材とする。表裏面に凹石状の敲打痕が顕著に認められる。A 5ブロック出土。

113 安山岩製で、拳大の球状の礫を素材とする。敲打痕は礫の半分ほどを覆うかたちで認められるが、全面に点在するかたちで敲打痕があるわけではない。A 4ブロック出土。

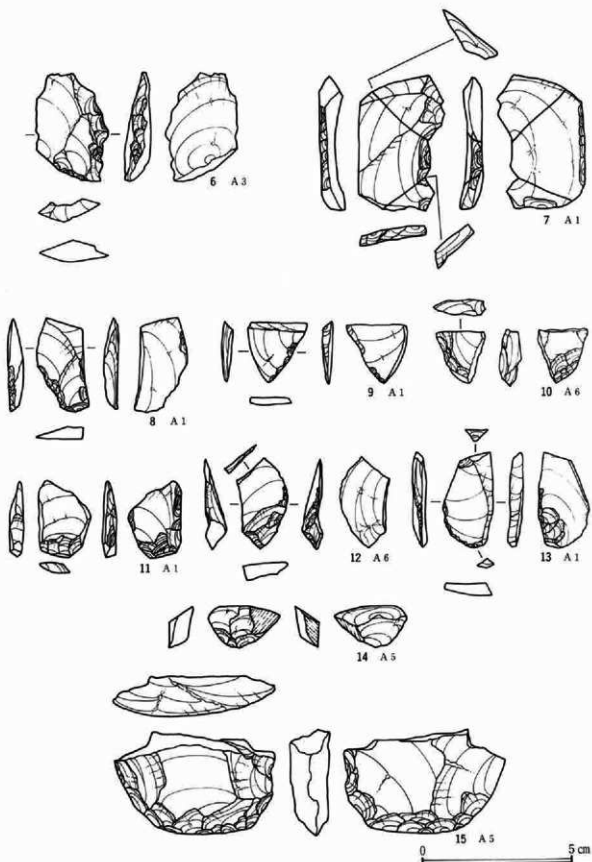
台 石 (第27図114・115)

114 結晶片岩製で、大型の偏平な重円礫を素材とする。A 3ブロック出土。

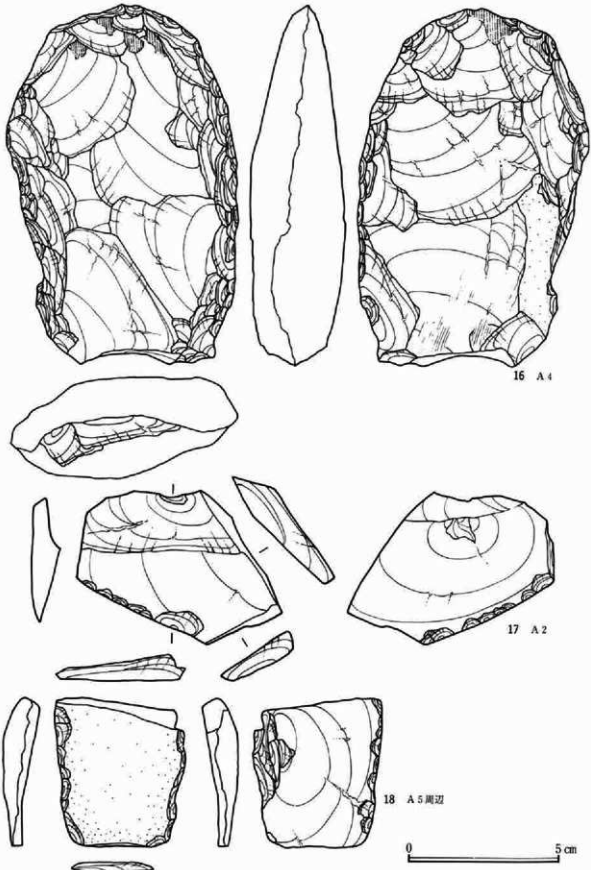
115 安山岩製で、大型の比較的厚みのある偏平な礫を素材とする。A 5ブロック出土。



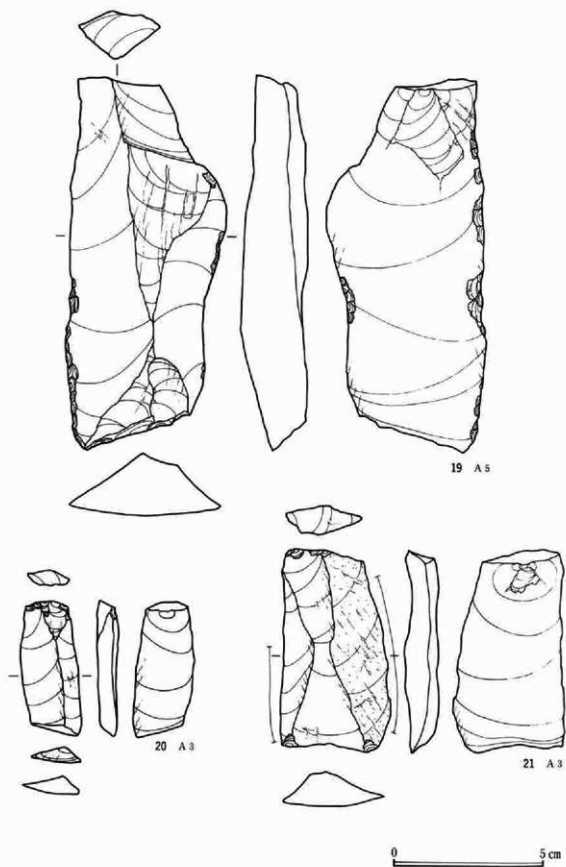
第8図 A区出土石器(ナイフ形石器、台形様石器)



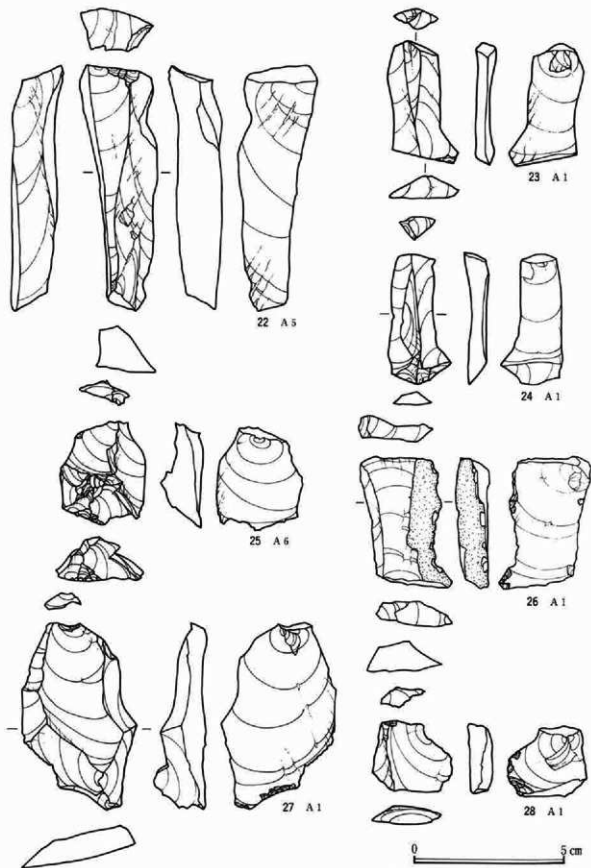
第9図 A区出土石器（台形礫石器、局部磨製石斧）



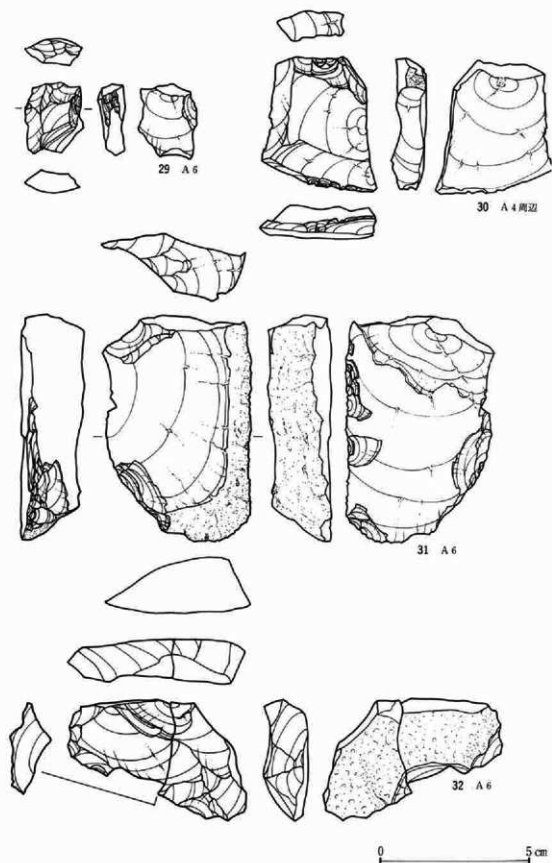
第10図 A区出土石器（局部磨製石斧、スクレイパー）



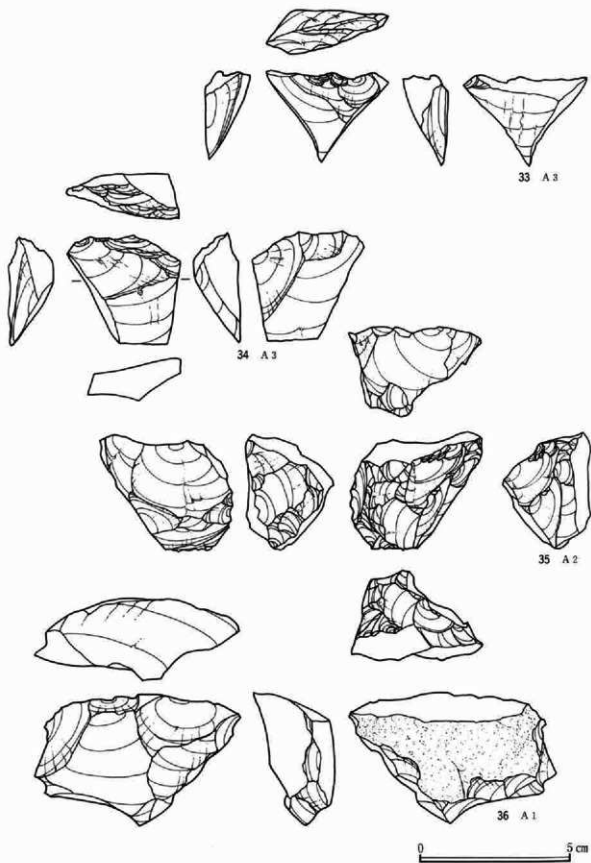
第11図 A区出土石器(石刃)



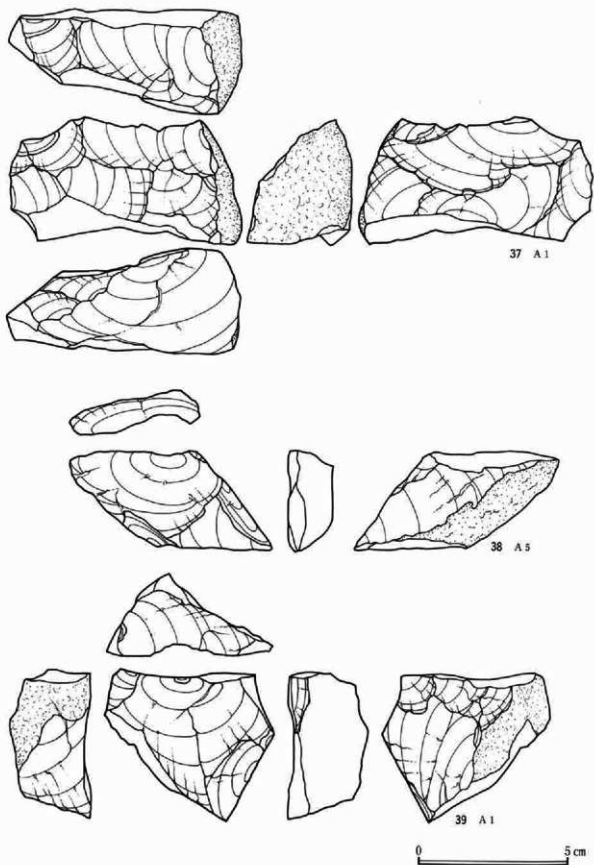
第12图 A区出土石器(石刃、R剥片)



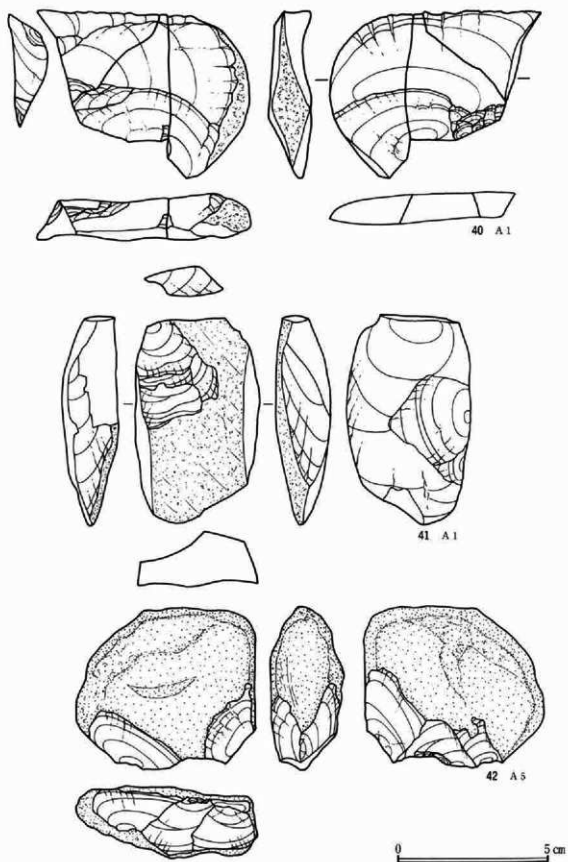
第13図 A区出土石器 (R剥片、石核)



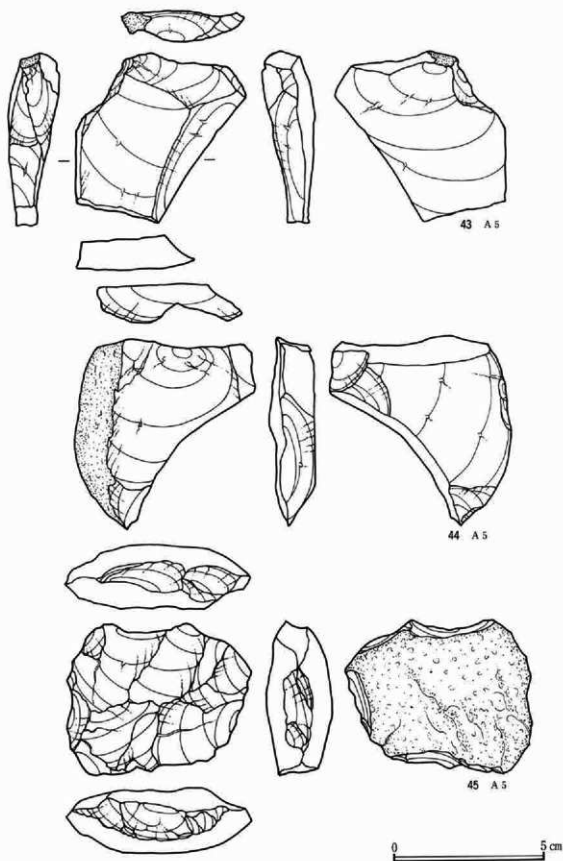
第14图 A区出土石器(石核)



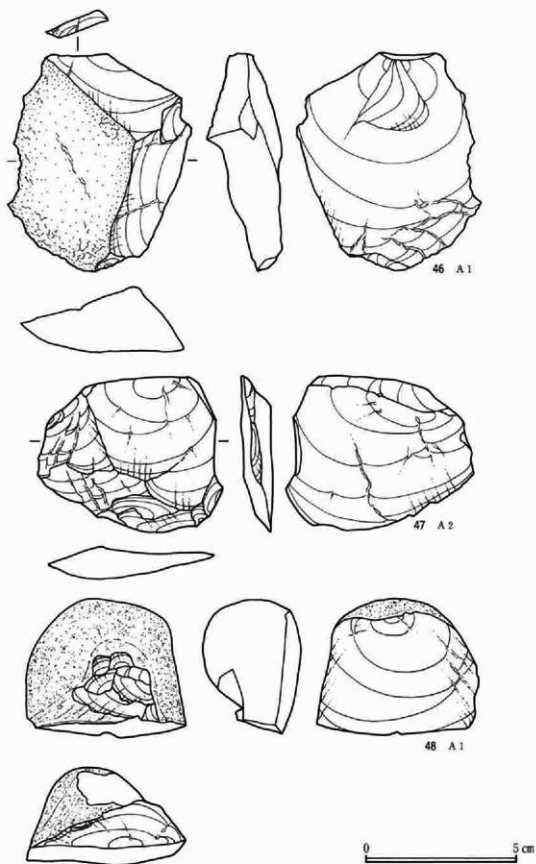
第15図 A区出土石核(石核)



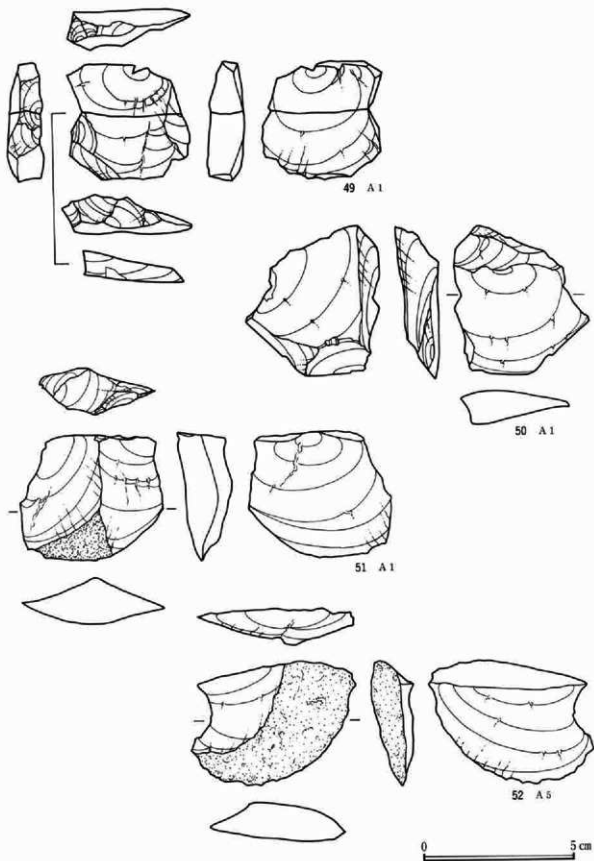
第16圖 A区出土石器(石核)



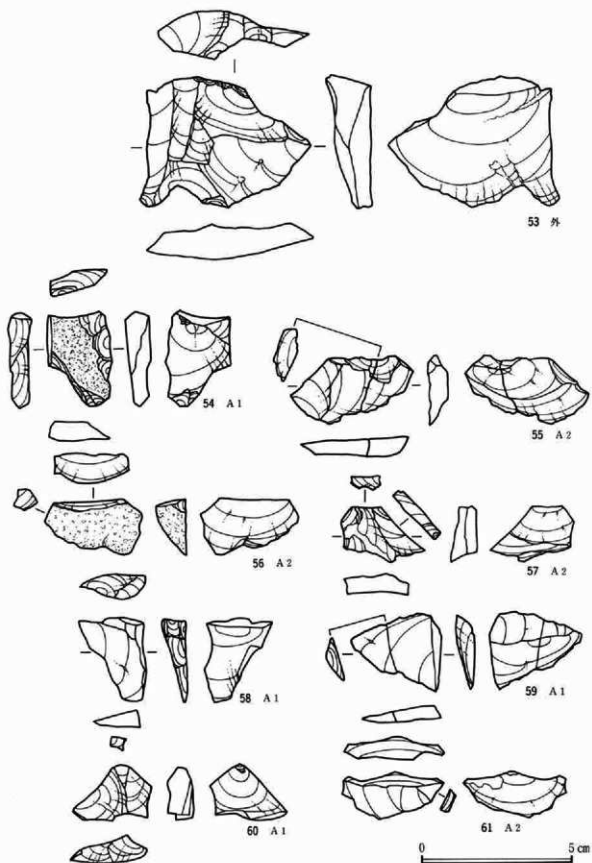
第17図 A区出土石器(石核)



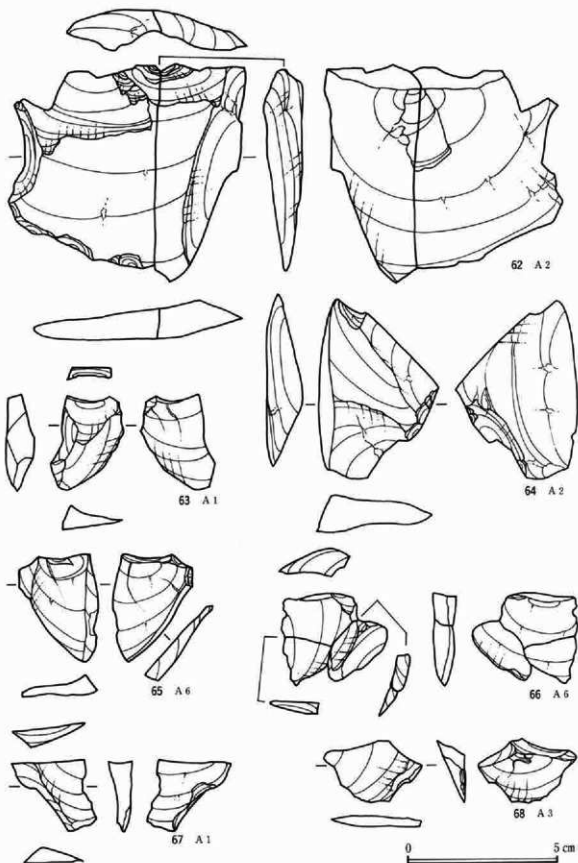
第18圖 A区出土石器(剥片)



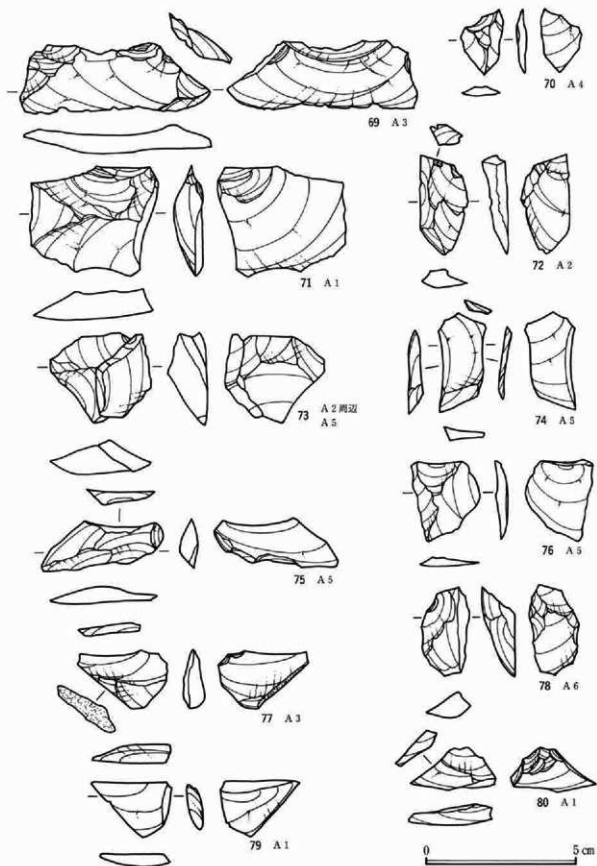
第19図 A区出土石器(剥片)



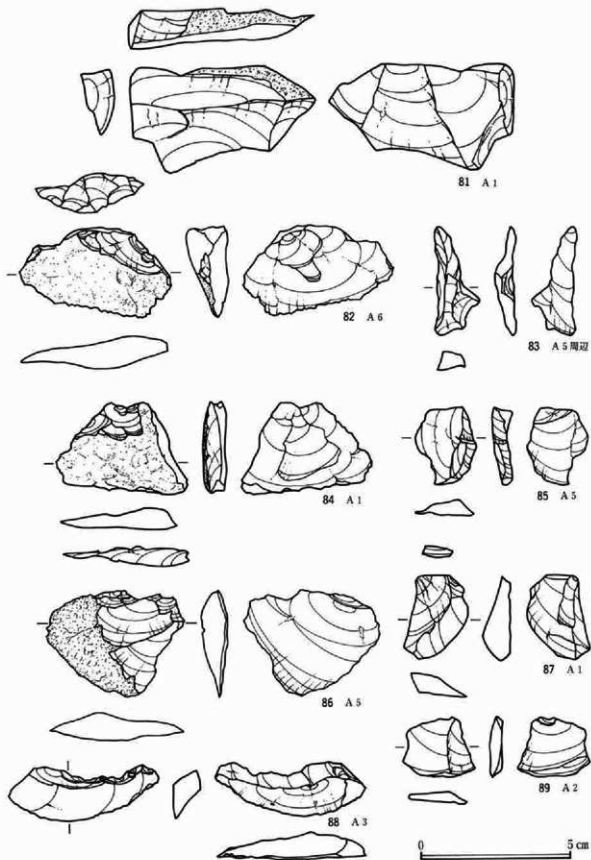
第20圖 A区出土石器(剝片)



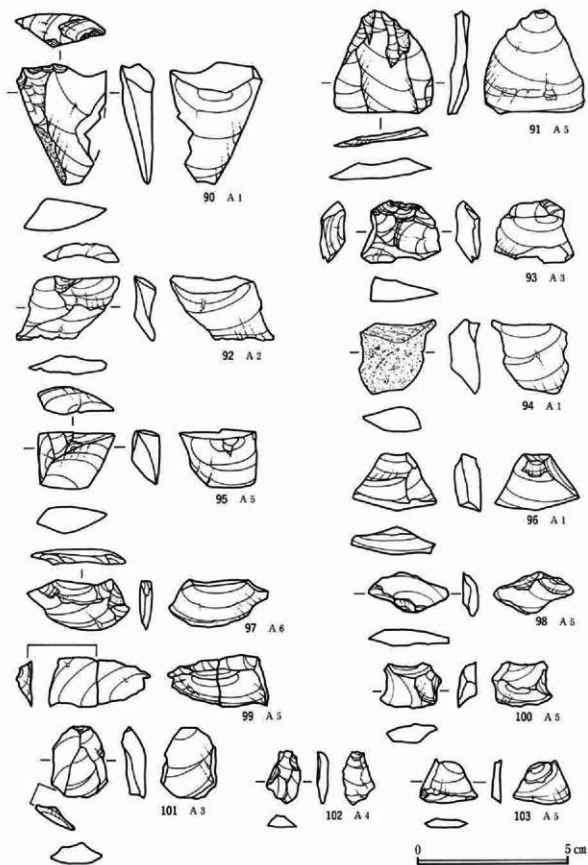
第21圖 A区出土石器(剝片)



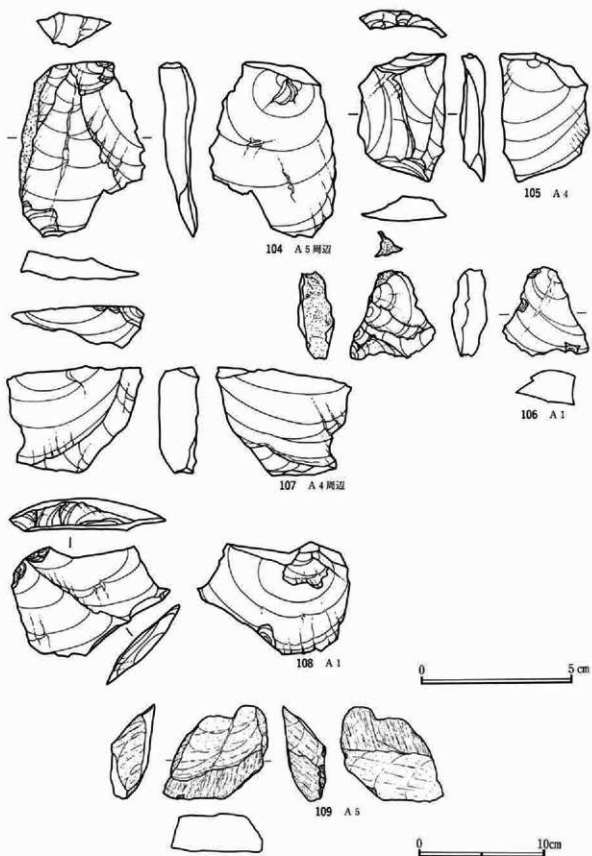
第22圖 A区出土石器(剝片)



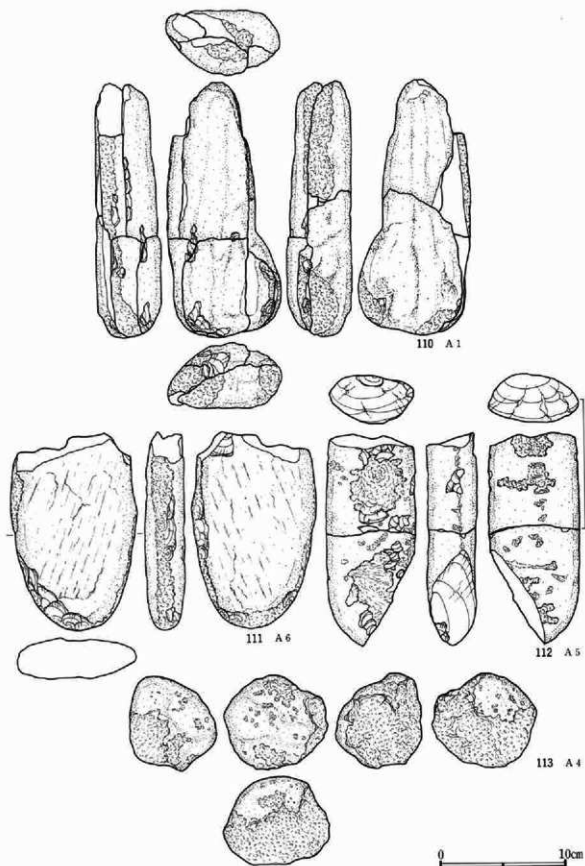
第23図 A区出土石器(剥片)



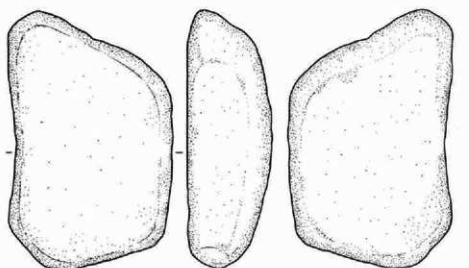
第24圖 A区出土石器(剝片、碎片)



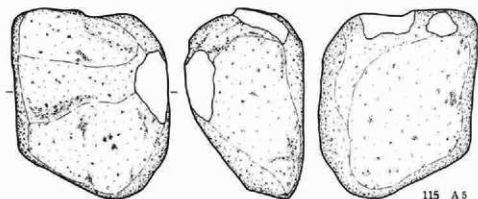
第25図 A区出土石器(剥片、礫器)



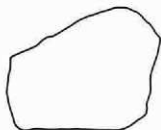
第26图 A区出土石器(燧石)



114 A 3



115 A 5



第27図 A区出土石器(台石)

3 接合資料と剥片生産工程

検出された403点の石器のうち178点の石器に接合関係が確認された。接合率は約44%である。母岩別資料毎に剥片生産工程について観察していく。なお、接合して完形になる剥片等の接合資料はここでは省略した。

GAn-1 (第28図・第29図1～5)

剥片14点(接合後11点)の接合資料から構成される。偏平な礫を石核素材とする。剥片生産は打面と作業面を順次180度入れ換えて、次第に奥へと進行してチョッピングツール状に行われる。礫表皮は打面と作業面を入れ換えて順次剥離されているが、これが石核調整かどうかは判別できない。なお、母岩別資料のなかには台形様石器など二次加工が施された定型石器はない。また、石核も出土しておらず遺跡外に搬出されていると考えられる。剥片生産は次のように行われる。

第28図1の自然面の剥離 → 打面と作業面を180度入れ換えて、第28図2の自然面の剥離 → 打面と作業面を180度入れ換えて第28図3の剥離(打点中央部で同時割れを起こしている) → 打点を移動して第28図4の剥離 → 打点を移動して第28図5の剥離 → ○ → 打面と作業面を180度入れ換えて第28図6の剥離 → 打点を移動して第29図1の剥離 → ○ → ○ → 打点を移動して第29図2の剥離 → 打点を第29図2の奥に移動して第29図3の剥離 → ○ → 打面と作業面を180度入れ換えて第29図4の剥離 → 打面と作業面を入れ換えて第29図5の剥離(横長剥片で、剥離後に左右両端部が折断されている) → 石核の遺跡外搬出。

GAn-1の接合資料はA1ブロックとA2ブロックに分布しているが、それは剥片生産の工程順に対応する。すなわち、第28図1・2はA1ブロックに分布し、それ以後に剥離された第28図3～第29図4はA2ブロックに分布し、そして最後に剥離された第29図5はA1ブロックに分布しているのである。このことは最初にA1ブロックで剥片生産が遂行され、その後A2ブロックへと石核が移動してまた剥片生産が行われ、そして再びA1ブロックへと石核が移動して、第29図5が剥離されたことを示唆している。つまり、特定のブロックで剥片生産が行われて、そこから剥片がA1・A2ブロックに移動したのではなく、石核自体がA1とA2ブロックを移動し、そこで剥離された剥片がそのままそのブロックに廃棄されたと考えられる。

GAn-2 (第29図6～第31図3)

GAn-2には横長剥片を素材とした個体Aの接合資料=GAn-2(1)とそれ以外=GAn-2(2)～(4)の計4例の接合資料がある。接合資料はすべてA1ブロックから出土している。

GAn-2(1) 個体A (第29図6～8、第30図1・2)

台形様石器3点(接合後1点)、石核3点(同1点)、剥片4点(同3点)の計10点の接合資料から構成される。他の接合資料との接合関係は確認できなかった。比較的厚手の盤状の横長剥片を石核素材としている。背面には大きなネガティブの剥離面が1枚残ることから、母岩を幾つかの個体に分割していると考えられる。剥片生産は打面と作業面を180度入れ換えてチョッピングツール状に行う工程で次のように行われる。

背面を作業面に設定して第29図6の剥離 → 打点を移動して第29図7の剥離 → 打点を移動して第29図8の剥離(台形様石器に加工) → 打面と作業面を180度入れ換えて第30図1の剥離(なお、これに先行して作業面縁辺部に細部調整加工が施されている) → 石核の廃棄(3点に折断されている)。

GAn-2(2) (第30図3・4)

剥片4点(接合後2点)の接合資料から構成される。3の横長剥片の剥離(器体中央部で縦位に同時割れ

第3章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査

を起こしている) → 端部がステップフレイキングを起こした厚手の縦長剥片の剥離(3点に折断されているが、中央部に接合する資料はない)。

GAn-2 (3) (第30図5・6)

縦長剥片と厚手で寸詰まりの縦長剥片の2点の接合資料から構成される。

GAn-2 (4) (第31図1~3)

石核1点、剥片3点(接合後2点)の接合資料から構成される。1の剥離 → 2の厚手の縦長剥片の剥離(石核素材で、主要剥離面側で1枚剥片が剥離されている) → 打面を90度転移して3の縦長剥片の剥離。

GAn-3 (第31図4・5)

2点の幅広縦長剥片の接合資料から構成される。背面構成から、接合資料を含めて4点以上の剥片が作業面を固定して連続して剥離されていることが看取される。先行して剥離された4はA6ブロックから、5はA1ブロックから出土している。

GAn-3の母岩別資料はスクレイパーを含む7点の大型剥片類から構成されており、これらは遺跡内で剥離されたと見るよりも、遺跡外で剥離された内の大型剥片類のみを選択的に搬入していると考えられる。

GAn-4 (第32図~第39図3)

GAn-4は計207点の資料で構成される。接合資料はGAn-4(1)とGAn-4(2)があり、ほかにここでは省略した接合資料が2例(第21図66・第22図73)があり、計4例の接合資料が確認された。

GAn-4 (1) (第32図~第38図)

62点の接合資料で構成される。個体A・B・C・D・Eに帰属する資料と個体には帰属しない資料から構成され、もとの母岩の1/2ほどを復元することができた。その接合状況から長さ約15cm、幅約9.5cm、厚さ約10cmほどの若干楕円形を呈する球状の礫を素材として用いていることが理解できる。剥片生産は大型剥片を作出し、それを個体A~Eの5個体に分割した後に各個体から行われている。個体の剥離順序は①(個体A+E) → ②(個体B+C) → ③(個体D)で(第33図)、①は素材となる大型縦長剥片が縦位に分割され、上半部が個体A、下半部が個体Eである。②は大型横長剥片が縦位に分割され、右半部が個体B、左半部が個体Cである。次に各個体毎に剥片生産について観察していく。

個体A (第34図)

石核1点、剥片9点(接合後7点)の計10点の接合資料から構成される。厚手の縦長剥片を素材とする。正面は素材主要剥離面、上面は分割面である。分割面には個体Eが接合する。剥片生産は次のように行われる。1 → 2 → 作業面を正面に設定して3の剥離 → 打面を裏面に移動して4の剥離 → 打点を移動して5の剥離(中央部で縦位に折断される) → 打面を上面に移動して6の剥離(中央部で縦位に同時割れ) → 打点を移動して7の剥離 → 石核の廃棄。

このように個体Aで生産される剥片は6のように縦長剥片もあるが、基本的には小型の横長剥片あるいは寸詰まりの縦長剥片などの不定形剥片を主体としている。

個体B (第35図1~第36図2)

石核1点、剥片13点(接合後12点)の計14点の接合資料から構成される。右側面と上面は個体分割面、右側面には個体C、上面には個体Eがそれぞれ接合する。剥片生産は次のように行われている。1の剥離 → 2の剥離 → 3の剥離 → 打面を上面、作業面を裏面に転移して4の端部尖頭形の縦長剥片の剥離(中

尖部で横位に折断) → 打点を移動して5の剥離(打撃がコントロールされていないため「し」の字状に剥離が及んでいる。6はその際の同時割れ剥片) → 打面を右側個体分割面に90度転移して7→8→9→10→11の連続剥離 → 石核をさらに分割するように第36図1の剥離 → 石核の廃棄。

このように個体Bで生産される剥片は4のように縦長剥片もあるが、基本的には小型の横長剥片あるいは寸詰まりの縦長剥片などの不定形剥片である。なお、1・2・3については個体Cに帰属するが、個体A+Eを剥離した際に同時割れを起こした剥片である可能性もある。

個体C (第36図3～11)

石核1点、剥片8点の計9点の接合資料で構成され、分割面には個体Bが接合する。主に小型の剥片を生産しており、それは次のような工程で行われる。3の剥離 → ○ → 打面を180度転移して4の剥離 → 打点を移動して5→6→7の連続剥離 → 打面を右側自然面に180度転移して8の剥離 → 打面を90度転移して9の剥離 → 打点を移動して10の剥離 → 石核の廃棄。

このように個体Cで生産される剥片は小型の寸詰まりの縦長剥片が主体的である。

個体D (第37図1～3)

石核1点、剥片2点の計3点の接合資料で構成される。剥片はA1ブロックから、石核はA5ブロックから出土している。剥片生産は次のように行われる。1の剥離 → ○ → 2の剥離 → 石核の廃棄。

個体E (第37図4～7)

石核2点(接合後1点)、剥片4点(接合後3点)の計6点の接合資料から構成される。6の下半部がA3ブロックから出土している他はすべてA6ブロックから出土している。上面は分割面で個体Bに接合する。また、正面にも分割面が残り、個体Aに接合する。主に小型の剥片を生産しており、それは次のように行われる。自然面を打面に設定して4の剥離 → 打点を移動して5の剥離 → ○ → 打面を上面に90度転移して6の剥離(横位に折断される) → 石核の廃棄。

このように個体Eでは、剥離された剥片は小型の寸詰まりの縦長剥片を主体とし、6のような比較的大型の縦長剥片もあるものの折断されて小型化している。

個体外 (第38図)

石核調整剥片と個体A～Eへの帰属が不明な剥片類である。1・4・6・9は石核調整剥片で、4については剥離後に4点に折断されている。

GAn-4 (2) (第39図1～3)

剥片4点(接合後3点)の接合資料から構成される。作業面を固定して連続的に剥片生産が行われている。1の寸詰まりの幅広縦長剥片 → 2の横長剥片(同時割れ) → 3の横長剥片。

GAn-6 (第39図4～6、第40図)

GAn-6には(1)と(2)の2例の接合資料があるが、それぞれの間で接合関係は確認できなかった。

GAn-6 (1) (第39図4～6)

剥片3点の接合資料から構成され、剥片生産は次のように行われる。4の横長剥片の剥離 → 打点を移動して5の厚手の縦長剥片の剥離 → 打点を180度移動して6の寸詰まりの縦長剥片の剥離。

GAn-6 (2) (第40図)

剥片4点の接合資料から構成され、剥片生産は次のように行われる。1の縦長剥片の剥離 → 2の幅広縦長剥片の剥離(上半部は折断されている) → 3のバルブの発達した幅広縦長剥片の剥離 → 打点を

移動して4の幅広縦長剥片の剥離。

GA_n-7 (第41図～第43図)

石核3点、剥片14点の接合資料から構成され、盤状剥片を個体A・B・Cに分割した後に、それぞれの個体から剥片生産を開始している。個体分割までは、次に示す段階を経ている。

①自然面を取り除いて石核調整を施す(第41図1→2→3) → ②各個体の素材となる大型の盤状剥片を作出する → ③盤状剥片の個体分割。

②については2枚剥離され、先行して剥離された大型縦長剥片は個体A・Bに、後続して剥離された大型縦長剥片は個体C・Dというように各2個体ずつ分割されている(第42図)。前者は中央部付近で横位に分割され上半部を個体A、下半部を個体Bとし、また後者について同じく横位に分割され上半部を個体C、下半部を個体Dとした(ただし個体Dについては、遺跡内には遺存していない)。GA_n-7はこのような段階を経た後に各分割個体から剥片生産が行われている。次に各個体での剥片生産について観察していく。

個体A (第42図1・2)

石核1点、剥片2点(接合後1点)の計3点の接合資料から構成される。剥片生産は次のように行われる。素材背面を打面、素材主要剥離面を作業面に設定して作業面調整を行った後に縁辺部を折断するように1の剥離(同時割れ) → ○(打面を分割面へ90度転移して横長剥片の剥離) → 石核の廃棄。

個体B (第43図1～6)

石核1点、剥片5点の計6点の接合資料から構成される。剥片生産は次のように行われる。○(分割面を打面、素材背面を作業面として幅広の縦長剥片の剥離) → ○(素材背面を打面、素材主要剥離面を作業面に転移して(打面は90度転移、作業面は180度転移)横長剥片の剥離) → 打点を移動して1の剥離 → 打点を移動して2の剥離 → ○ → 打面と作業面を180度入れ換えて3の剥離 → 再び打面と作業面を180度入れ換えて4の剥離 → 打点を移動して5の剥離 → 石核の廃棄。

個体C (第43図7～10)

石核1点、剥片3点の計4点の接合資料から構成される。剥片生産は次のように行われる。裏面を作業面、素材打面を打面に設定して7の剥離 → 打点を移動して8の剥離 → 10の折断 → 石核の廃棄。

GA_n-8 (第44図1・2)

剥片2点の接合資料である。両方とも背面が自然面で構成されることから、石核調整剥片と考えられる。

GA_n-11 (第44図3～6)

GA_n-11には(1)と(2)の2例の接合例があるが、それぞれの間で接合関係を確認することはできなかった。

GA_n-11 (1) (第44図3・4)

台形礫石器1点と剥片1点の計2点の接合資料である。3の幅広の縦長剥片を剥離した後、台形礫石器の素材となる寸詰まりの縦長剥片を剥離している。接合資料の背面構成を見ると打面と作業面を固定し、連続して剥片生産を行っていることが看取される。

GA_n-11 (2) (第44図5・6)

二次加工のある剥片1点と剥片2点(接合後1点)の計3点の接合資料である。背面構成から、作業面は

固定しつつも打面を頻繁に90度転移させて剥片生産を行っていることが看取される。(接合図右側面に打面を設定して○) → (打点を移動して○ → 90度打面を上面に転移して○) → 打点を移動して5の剥離 → 90度打面を転移して6の剥離 (横位に折断された後さらに縦位に折断されている)。

Ch-1 (第45図)

二次加工のある剥片1点、剥片5点の計6点の接合資料である。剥片生産は次のように打面と作業面を頻繁に転移しながら行っている。打面を正面、作業面を上面に設定して1の剥離 → 打点を移動して2の剥離 → 打面を90度転移して3の剥離 → 打面と作業面を90度転移して4の剥離 → 打点を移動して5の剥離 → 打点を移動して6の剥離。石核の出土はなく、遺跡外に搬出されたものと考えられるが、この時点で著しく小型化している。Ch-1では5や6に見られるように、縦長剥片生産の指向性が強いことが理解される。

Ch-2 (第46図1～3)

石核1点、剥片2点の計3点の接合資料である。剥片生産は次のように行われる。

1の寸詰まりの縦長剥片の剥離 → 2の寸詰まりの縦長剥片の剥離 → 石核の廃棄。Ch-2は2の剥離以後も打面と作業面を頻繁に転移させながら剥片生産を行っているが、これらは遺跡内から全く出土していない。母岩別資料はこの接合資料3点と非接合資料1点の計4点から構成されるのみであることを考えると、1、2も遺跡外で剥離された後に搬入されている可能性も考慮される。

Ch-3 (第46図4・5)

石核1点、剥片1点の計2点の接合資料である。比較的小型の扁平な礫を素材とし、次のように打面と作業面を180度入れ換えながらチョッピングツール状に剥片生産を行っている。

○ → (打面と作業面を180度入れ換えて) ○ → (打点を移動して) ○ → 打点を移動して4の横長剥片の剥離 → (打面と作業面を180度入れ換えて) ○ → 石核の廃棄。

石核からは4を含めて5点の剥片が剥離されていることが剥離痕から看取されるが、Ch-3の母岩別資料はこの2点のみで、他の剥片等は全く出土していない。

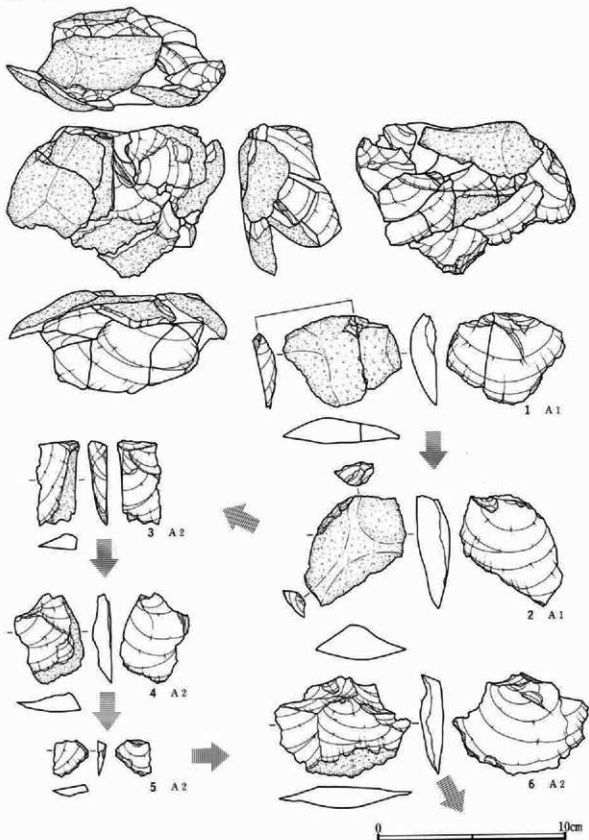
Bs-1 (第47図)

局部磨製石斧の接合資料で、局部磨製石斧2点(接合後1点)、刃部再生剥片5点の計7点の資料が接合する。接合資料は器体下半部に集中しており、下側の刃部が使用部として主に機能していたと考えられる。この局部磨製石斧は遺跡内への搬入から廃棄まで次のようなプロセスを辿っていることが理解される。

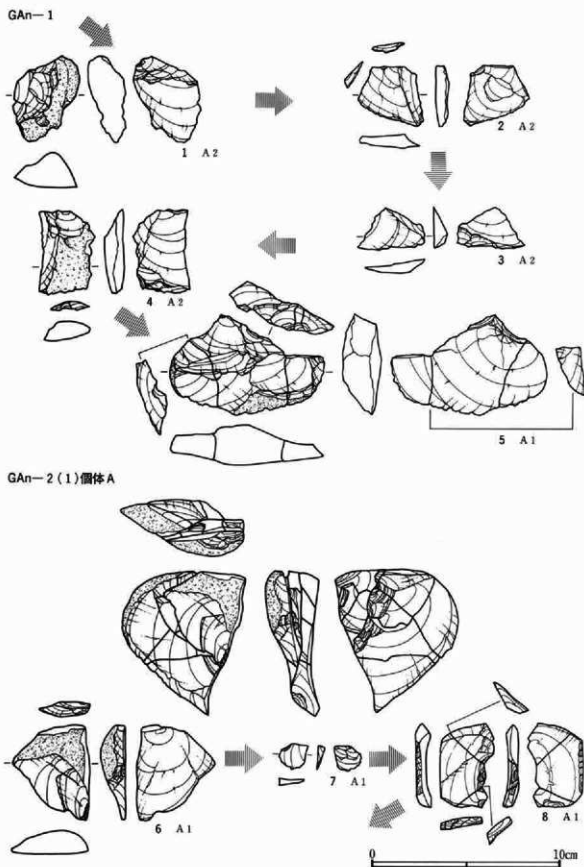
接合した状態での遺跡内搬入 → 使用 → 刃部欠損(第47図1) → 刃部再生(第47図2→3→4→5→6) → (使用) → 廃棄(第47図7)。

しかし、刃部再生作業は4や5の剥離時点で大きくステップフレイキングを起こすなど、製作者の意図する方向に至らなかったようで、6の剥離時点で刃部再生作業は放棄されている。刃部破片と再生剥片は共にA5ブロック南半部に分布しており、この地点で欠損後直ちに刃部再生が行われ、これが放棄された後に器体本体がA4ブロックへと持ち込まれたと考えられる。なお、この他接合はしないが研磨痕を残す刃部破片が1点、刃部再生剥片4点が出土している。

GAn-1

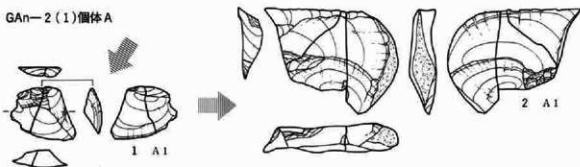


第28図 A区接合資料 (GAn-1)

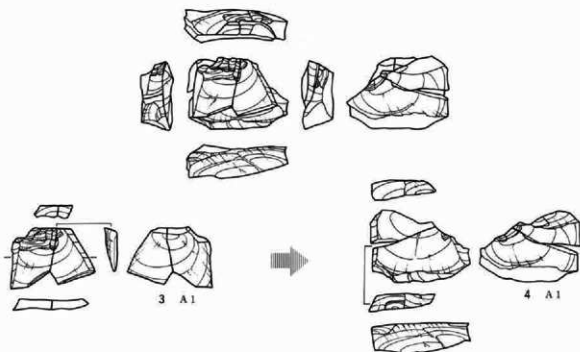


第29図 A区接合資料 (GAn-1・2)

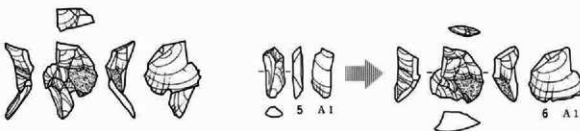
GAn-2 (1) 個体 A



GAn-2 (2)



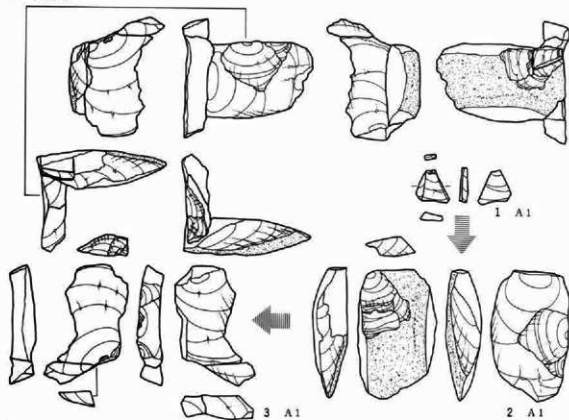
GAn-2 (3)



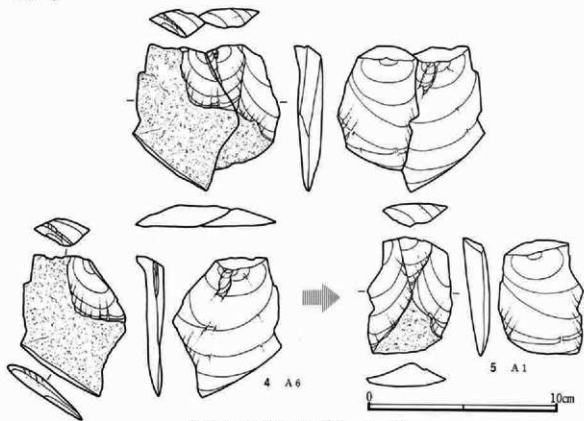
0 10cm

第30図 A区接合資料 (GAn-2)

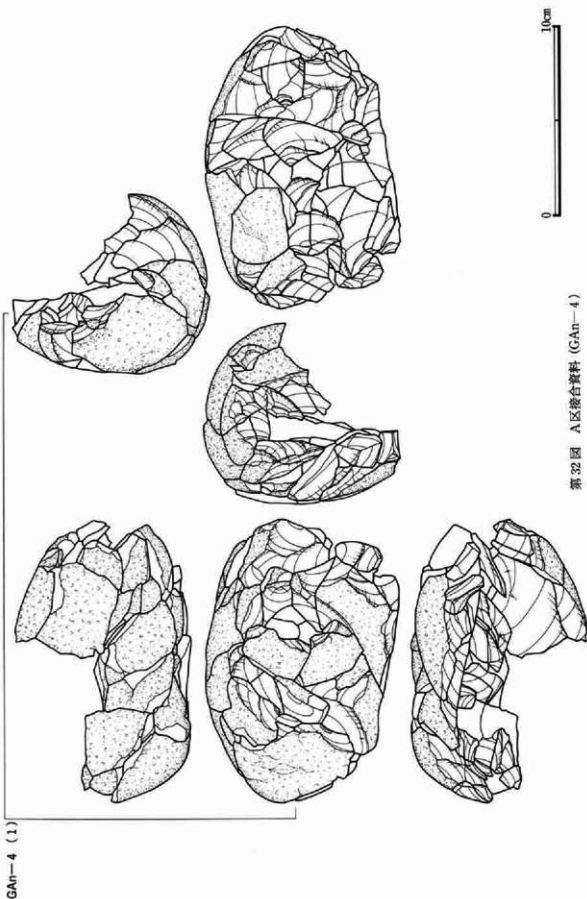
GAn-2(4)



GAn-3

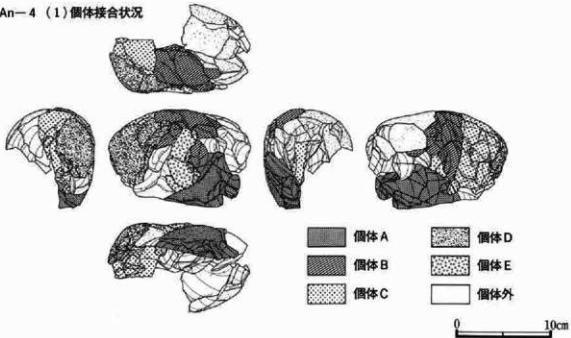


第31图 A区接合資料 (GAn-2・3)

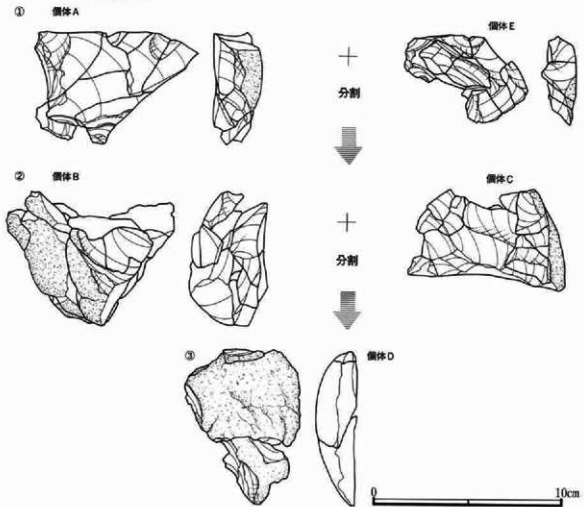


第32図 A区接合資料 (GAN-4)

GAn-4 (1) 個体接合状況

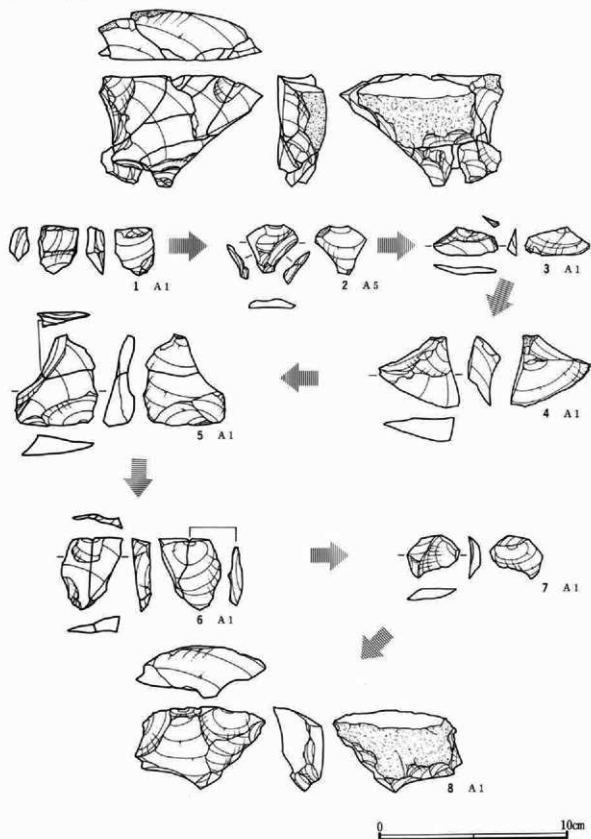


GAn-4 (1) 個体剝離順序



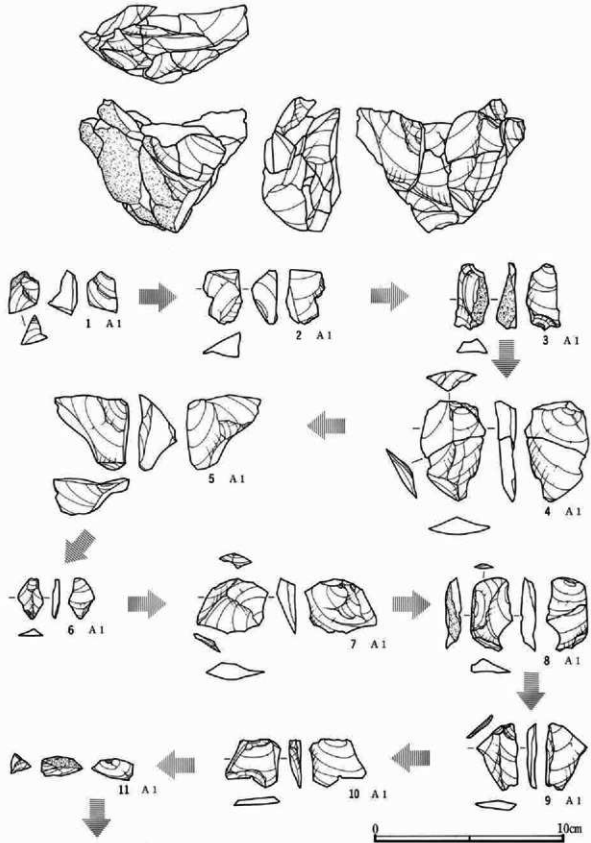
第33図 A区接合資料 (GAn-4)

GAn-4 (1) 個体A



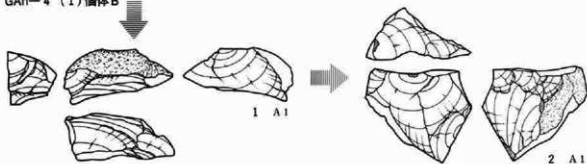
第34図 A区接合資料 (GAn-4)

GAn-4 (1) 個体B

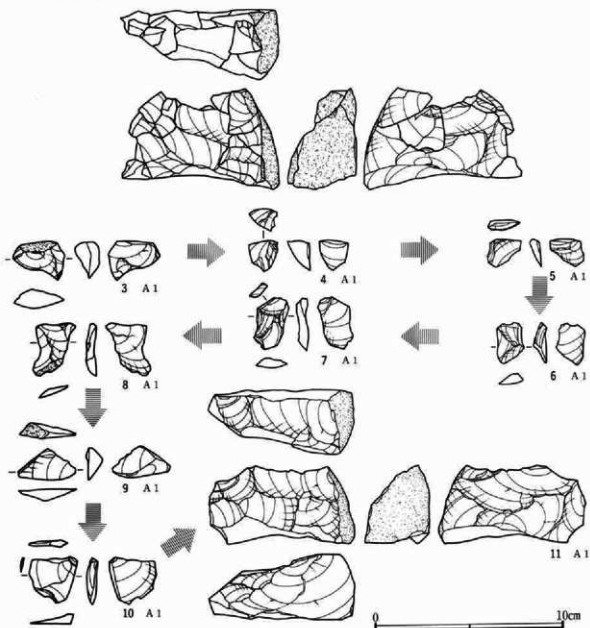


第35圖 A区接合資料 (GAn-4)

GAn-4 (1) 個体B

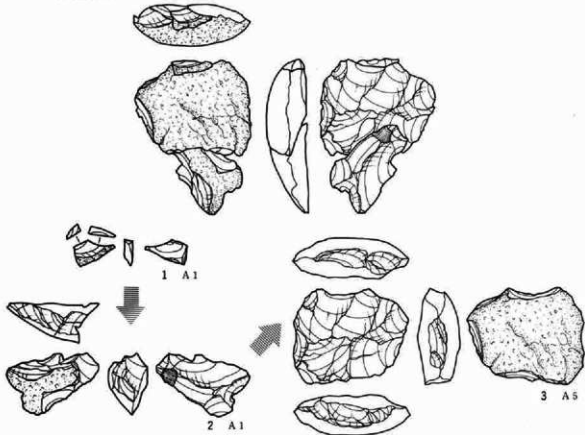


GAn-4 (1) 個体C

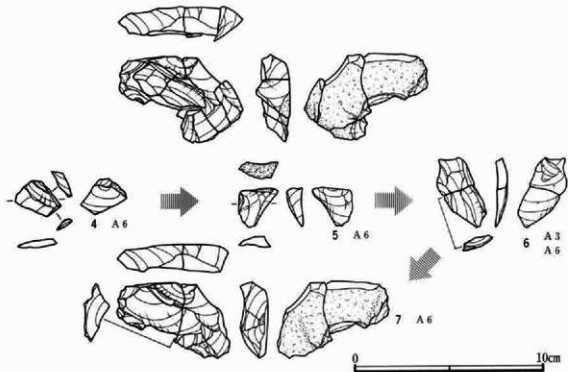


第36図 A区接合資料 (GAn-4)

GAn-4 (1) 個体D

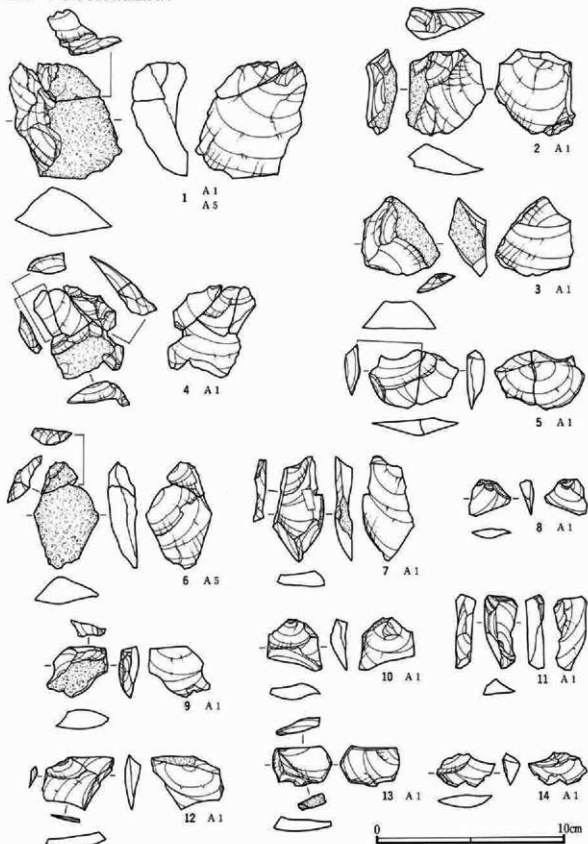


GAn-4 (1) 個体E



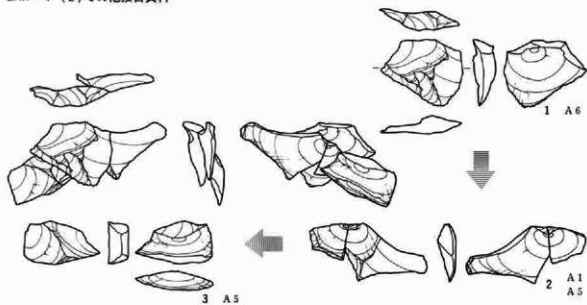
第37圖 A区接合資料 (GAn-4)

GAn-4 (1) 個体外接合資料

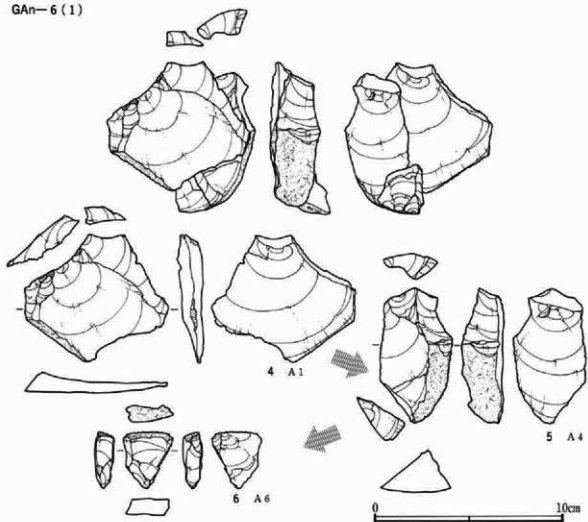


第38図 A区接合資料 (GAn-4)

GAn-4 (2) その他接合資料

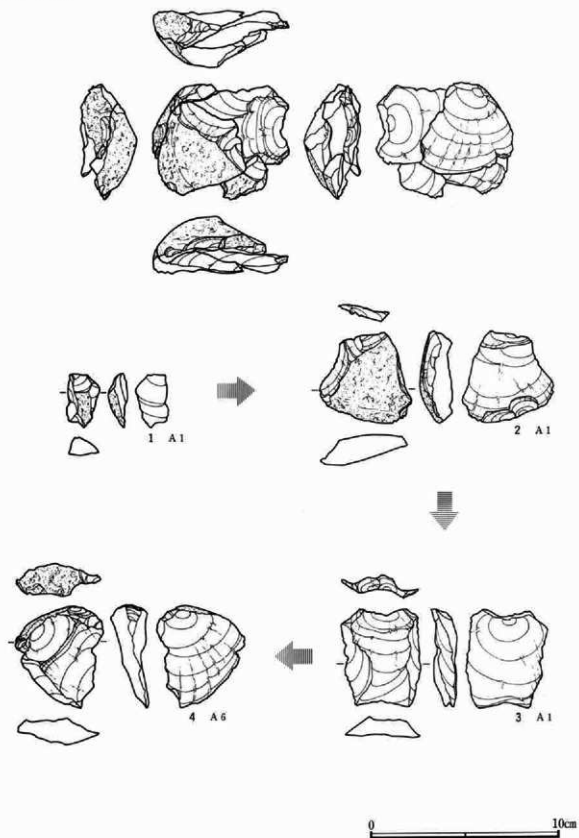


GAn-6 (1)



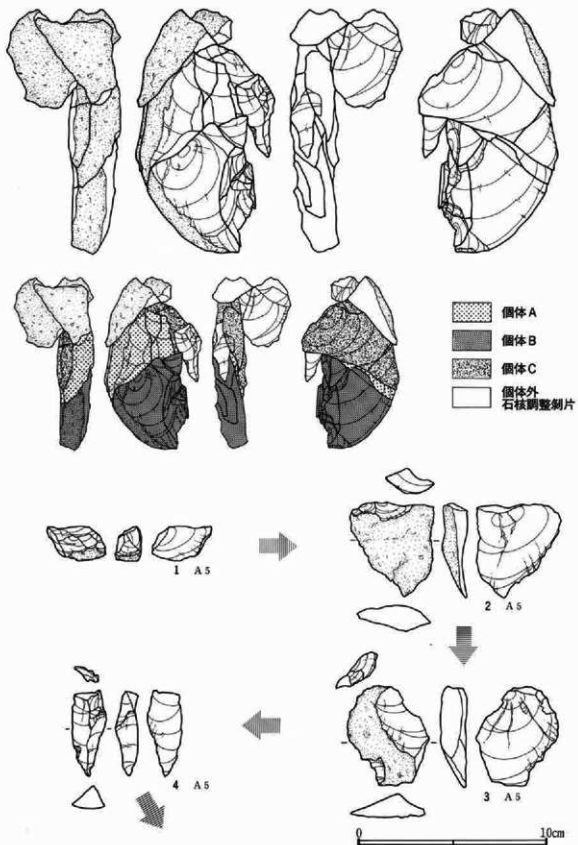
第39図 A区接合資料 (GAn-4・6)

GAn-6(2)

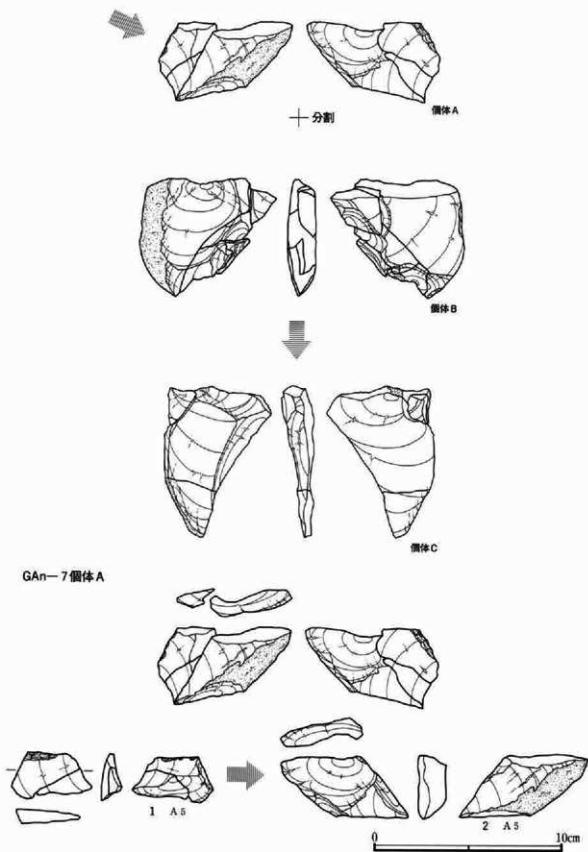


第40図 A区接合資料 (GAn-6)

GAn-7

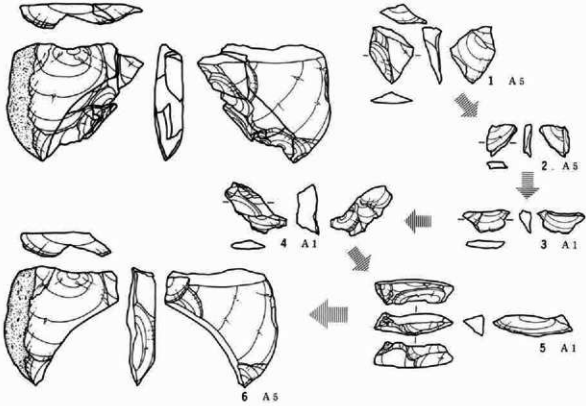


第41图 A区接合資料 (GAn-7)

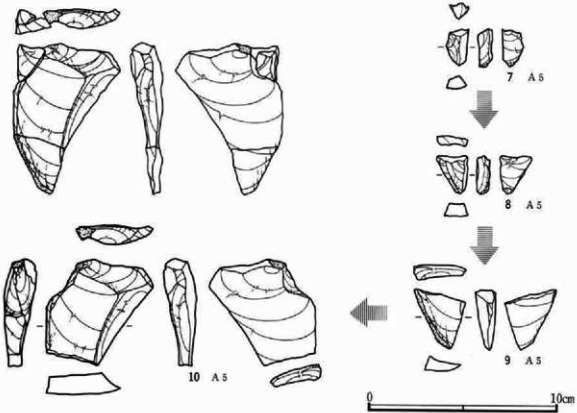


第42図 A区接合資料 (GAn-7)

GAn-7 個体B

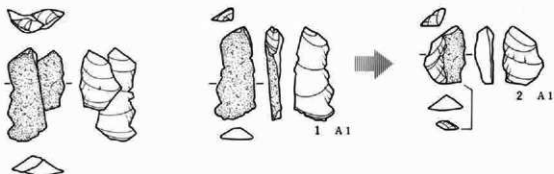


GAn-7 個体C

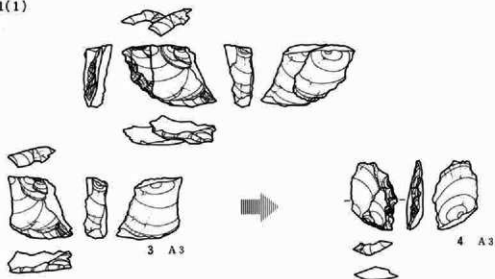


第43图 A区接合資料 (GAn-7)

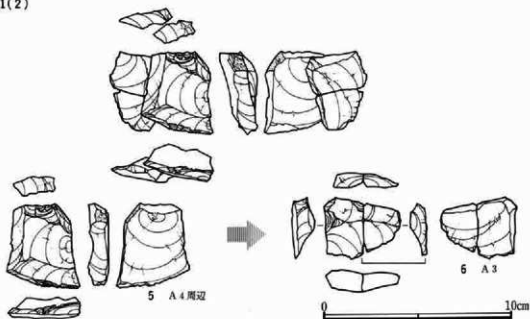
GAn-8



GAn-11(1)

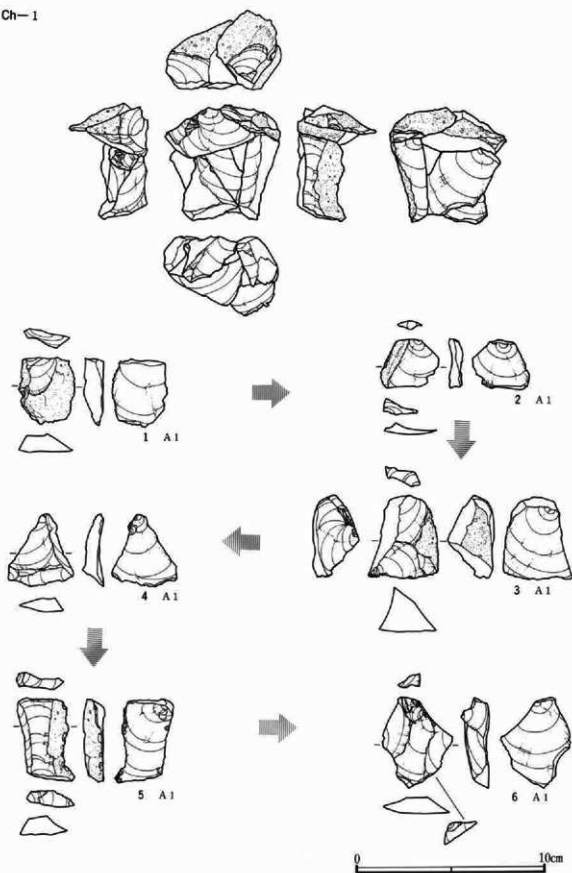


GAn-11(2)



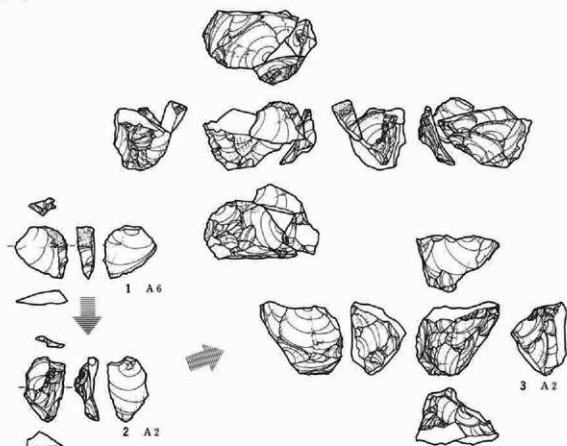
第44図 A区接合資料 (GAn-8・11)

Ch-1

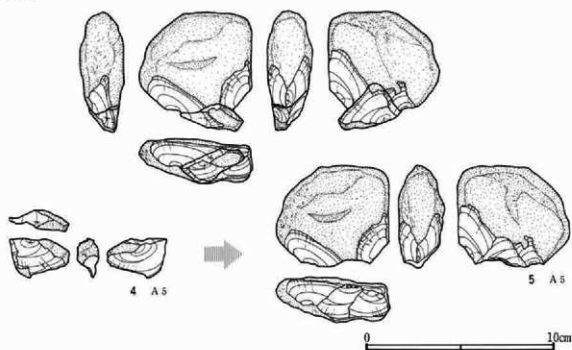


第45图 A区接合資料 (Ch-1)

Ch-2

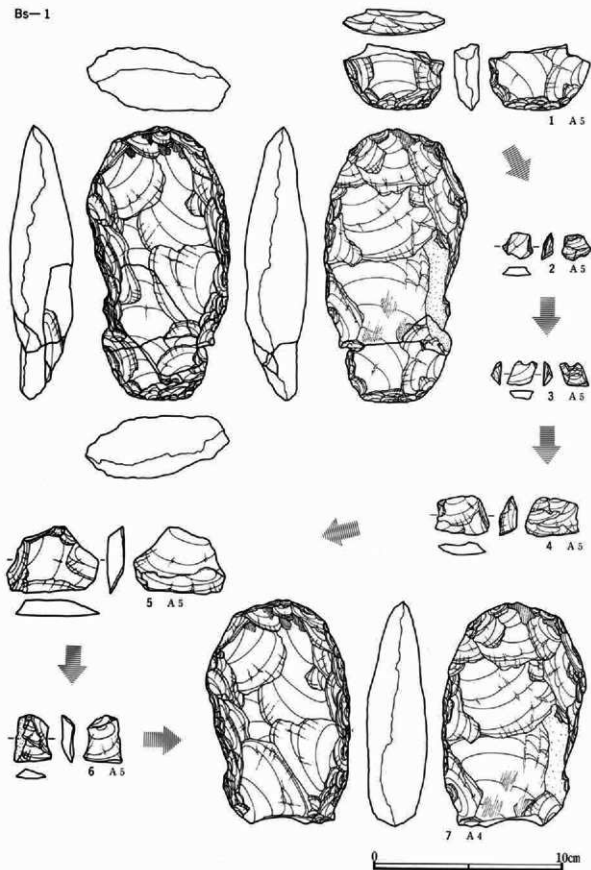


Ch-3



第46図 A区接合資料 (Ch-2・3)

Bs-1



第47图 A区接合資料(Bs-1)

4 ブロック

A区では403点の石器と4点の礫が出土した。これらの分布状況を見ると、大きくみると一つの遺物集中単位として認識できる。しかし、ここではより微視的な視点から6ヶ所のブロックとして認識し、A1ブロックからA6ブロックの6ヶ所を設定した(第48図)。それは、A6ブロックを中心に取り囲むようにA1からA5ブロックが規模や形状を違えながら不整形に展開する、いわゆる環状ブロック群である。次に各ブロックの詳細について観察していく。

A1ブロック (第49・50図)

調査区最北部の支谷を見おろす舌状台地最先端部の(15・16—15—17)グリッドに位置する。総数207点の石器と2点の礫で構成され、その内訳はナイフ形石器1点、台形鎌石器8点、二次加工のある剥片3点、石核7点、石刃1点、剥片124点、砕片56点、敲石7点である。母岩別にみると、GAN-1・2・3・4・5・6・7・8・9、Ch-1・5・10、CS-1の13種類の母岩別資料により構成される。石材的には黒色安山岩を主体としているが、そのなかでも中心となるのはGAN-4で、122点の石器が分布している。

A1ブロックはA区のなかでも最も規模が大きいブロックで、長径12.2m、短径7.9mを測り、東西に長く石器が分布している。南東にはA2ブロック、南西にはA5ブロック、南にはA6ブロックがそれぞれ隣接して位置している。ブロック西半部に集中する傾向がみられるが、特に密集するほどでもなく全体に亘って均質的に分布している。

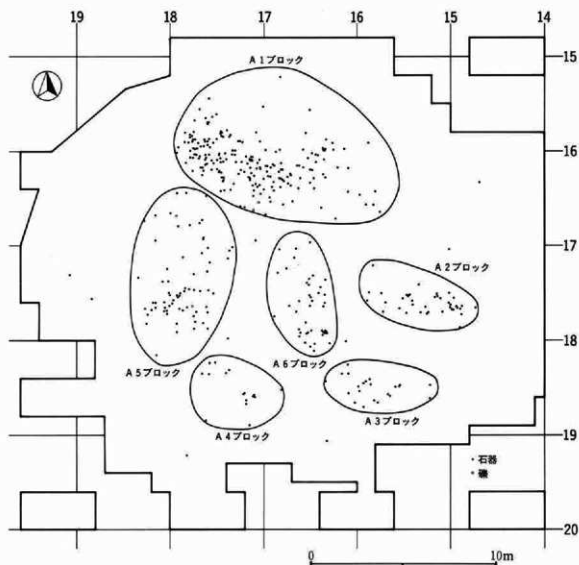
また、分布状況を微視的に観察すると、南側(A6ブロック方向)に向かって弧状に張り出す部分とこの内側(北側)に分布が希薄となる部分がある。さらに、母岩別に見た場合に接合関係がこの張り出した中心部に埋ち、東半部と西半部にほぼ二分されて取集される点は注意される。東半部ではGAN-1、Ch-1、CS-1(破損した敲石)を主体として構成される(なお若干ではあるがGAN-4も分布するが、接合は見られない)。接合関係を見ると、Ch-1とCS-1はブロック内で取集するが、GAN-1は南東側に隣接するA2ブロックと頻りに接合関係を持っており、この部分とA2ブロックとの密接な関係が窺える。

一方、西半部ではGAN-2・4を主体として構成される。特にGAN-4の分布が著しく、個体A・B・C・Dの4個体の資料が分布している。接合関係を見るとGAN-2はブロック内で取集し、GAN-4の各個体も基本的にはこの部分内で取集しているが、一部にA5、A6ブロックと接合関係を持っている。また、個体層属外の資料も頻りにA5、A6ブロックと接合関係を持っており、この部分とA5、A6ブロックとの密接な関係が窺える。つまり、A1ブロックの東半部と西半部の二つの領域とでは、各母岩別資料が偏在して分布し、しかも接合関係は互いに重複することなく、A2ブロックとA5・A6ブロックの2方向に明確に二分されて表現された(第50図)。

このように、一見視覚的にブロックとして一括される資料も、母岩別資料の分布や接合関係を通じて観察した結果、先に述べたような現象が理解できたことはブロックの形成過程を探る上で改めて注意しなければならない。

A2ブロック (第51・53図)

調査区東寄りの(17—14・15)グリッドに位置し、南側にはA3ブロック、西側にはA6ブロックが隣接している。長径6.6m、短径3.1mの東西に長い長楕円形を呈して分布している。総数38点の石器群で構成され、その内訳はスクレイパー1点、石核1点、剥片22点、砕片14点である。母岩別にはGAN-1・3・4・

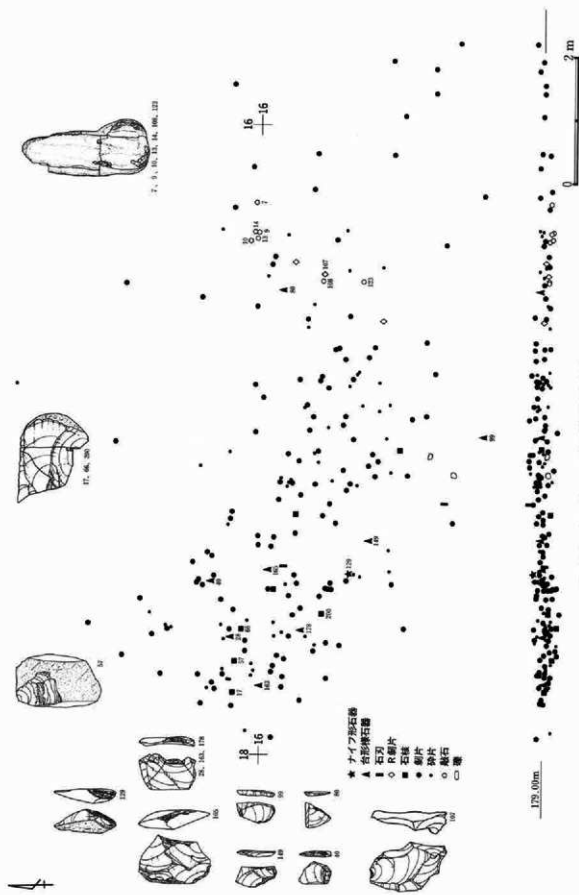


第48図 A区ブロック設定図

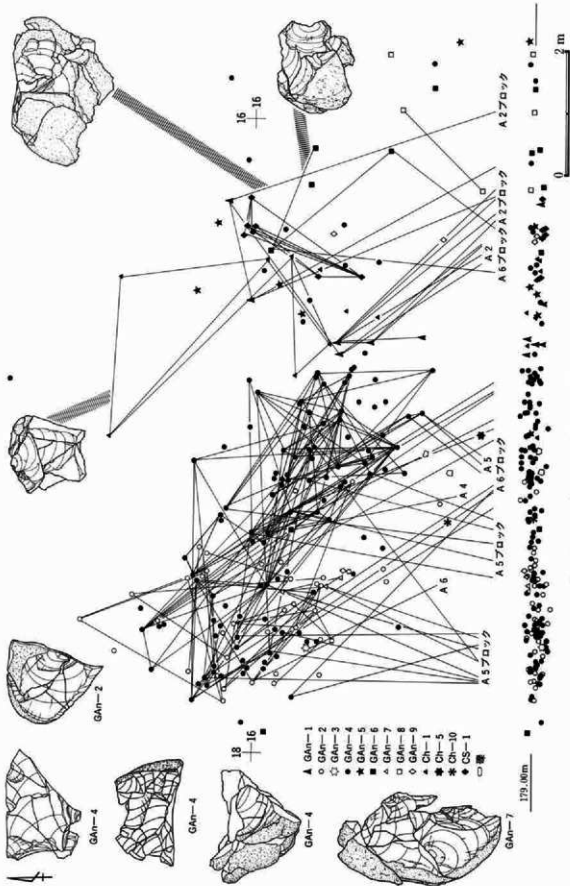
5・7、Ch-2の6種類の母岩別資料で構成される。GAN-1・4が分布の主体で、前者がA1ブロックと頻りに接合関係を持っている。Ch-2は西側に隣接するA6ブロックと接合関係を持っている。

A3ブロック (第52・54図)

調査区南東よりの(18-15・16)グリッドに位置し、北側にはA2ブロック、西側にはA4ブロック、北西側にはA6ブロックがそれぞれ隣接している。長径6.0m、短径2.8mの東西に長い長楕円形を呈して分布している。総数22点の石器群で構成され、その内訳は台形椀石器1点、石核2点、石刃2点、剥片10点、碎片6点、台石1点である。母岩別にみると、GAN-4・6・11、Ch-7、HMs-3・6、Bs-1の7種類の母岩別資料があり、GAN-4と11を主体として構成される。GAN-11はA4ブロック周辺出土の二次加工のある剥片とやや離れた位置で接合関係を持つが、ブロック内で取束するとみてよい。GAN-4はA6ブロック間で接合関係を持っている。



第49図 A1ブロック器種別石器分布図



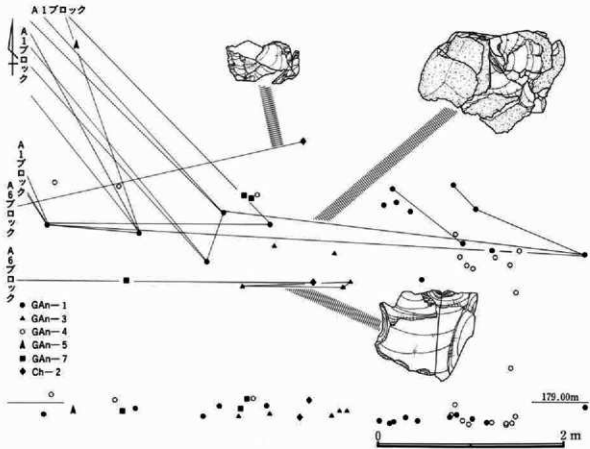
第50圖 A1ブロック母岩河石敷分布図



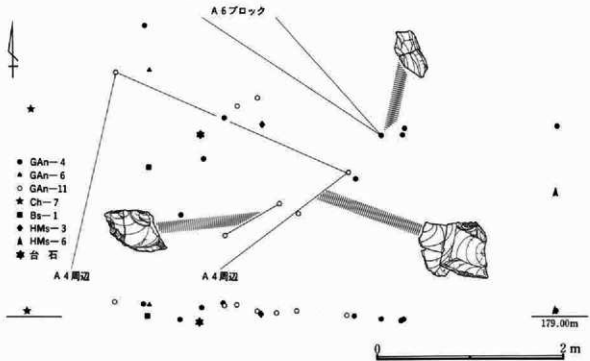
第51図 A2ブロック器種別石器分布図



第52図 A3ブロック器種別石器分布図

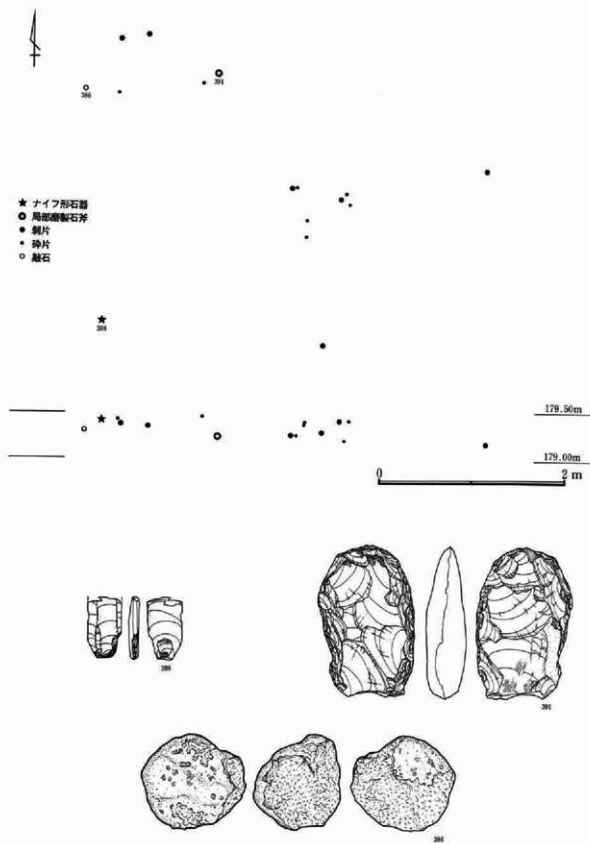


第53図 A2ブロック母岩別石器分布図



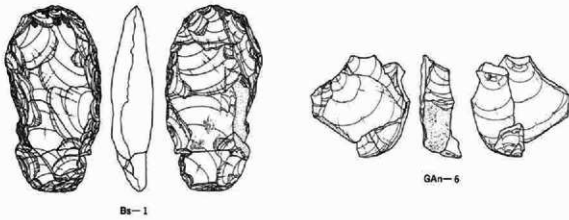
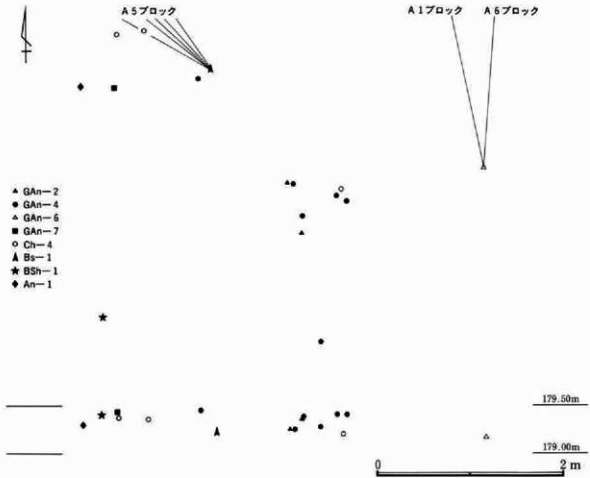
第54図 A3ブロック母岩別石器分布図

第3章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査



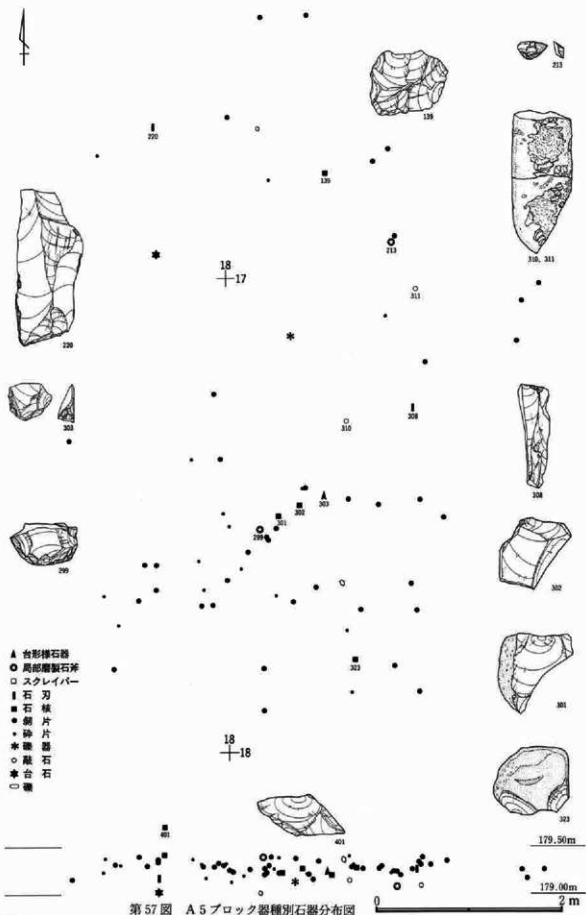
第55図 A4ブロック器種別石器分布図

第1節 白倉下原遺跡A区

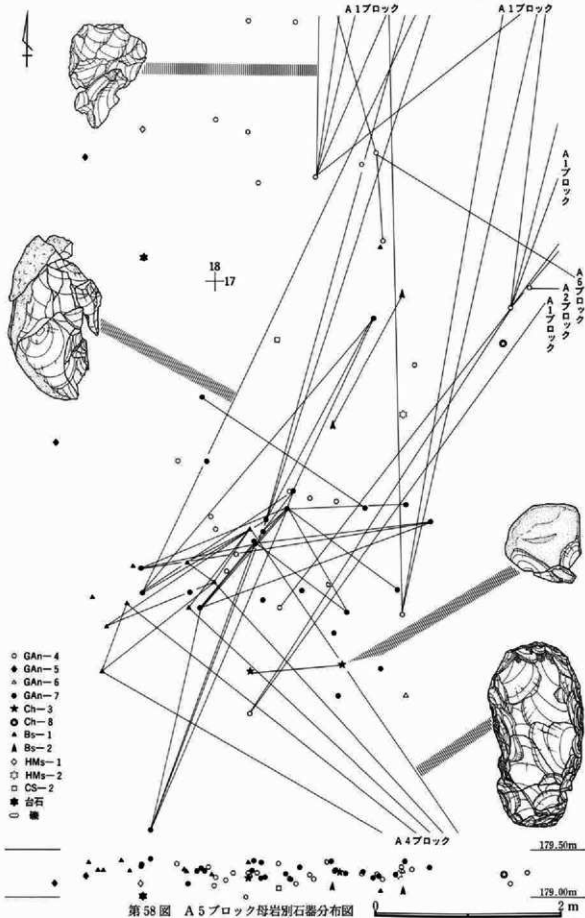


第56図 A4ブロック母岩別石器分布図

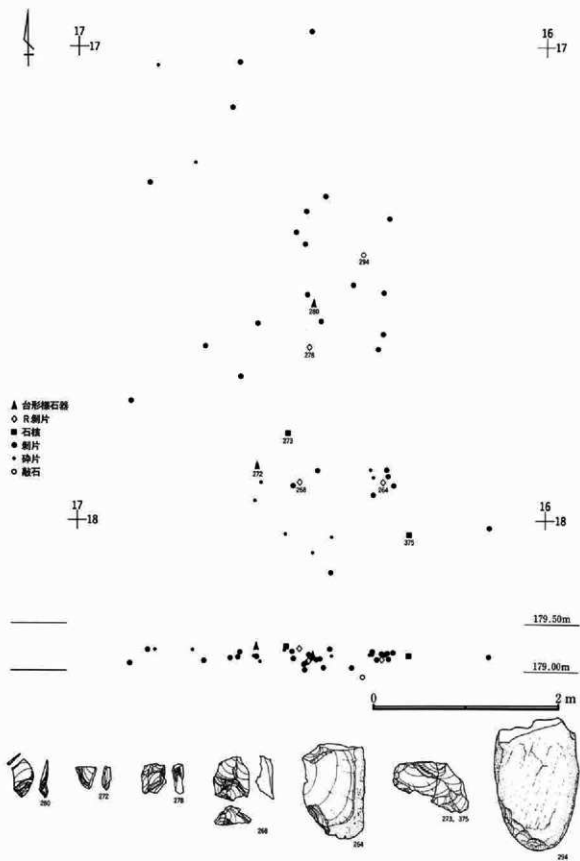
第3章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査



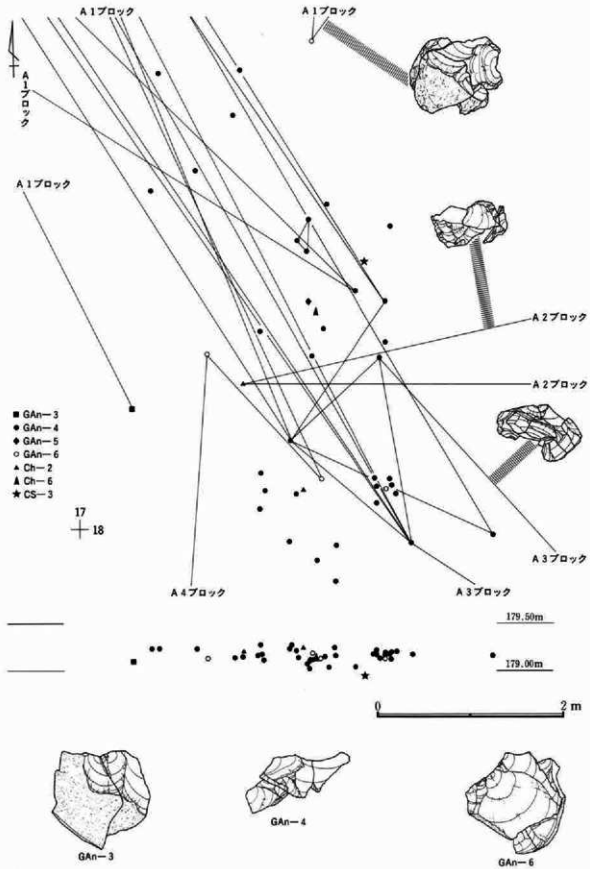
第1節 白倉下原遺跡A区



第3章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査



第59図 A6ブロック器種別石器分布図



第60図 A 6ブロック母岩別石割分布図

第3章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査

A 4ブロック (第55・56図)

調査区南寄りの(18-16・17)グリッドに位置し、東側にはA 3ブロック、北側にはA 5、A 6ブロックが隣接している。長径5.0m、短径3.8mの円形に分布している。分布状況をより徹底的にみれば、北西部と南東部の二つの集中単位に分離することも可能だが、ここでは一つのブロックとして認識した。総数16点の石器群から構成され、その内訳はナイフ形石器1点、局部磨製石斧1点、剥片6点、砕片7点、敲石1点である。母岩別資料別にみると、GAN-2・4・6・7、An-1、Ch-4、BSH-1、Bs-1の8種類の母岩別資料で構成される。Bs-1は局部磨製石斧の本体で、A 5ブロックに分布する刃部再生剥片と接合関係を持っている。また、GAN-6はA 1とA 6ブロックとの遠距離間で接合関係を持っているが、特に北側に対向して位置するA 1ブロックと接合している点は注意される。

A 5ブロック (第57・58図)

調査区西寄りの(16-18-17・18)グリッドに位置し、北東側にはA 1ブロック、東側にはA 6ブロック、南東側にはA 5ブロックが隣接している。長径9.5m、短径5.4mの南北長い楕円形を呈して分布している。総数68点の石器群と2点の礫から構成され、その内訳は台形椽石器1点、局部磨製石斧2点(破片資料)、石核5点、石刃2点、剥片39点、砕片15点、敲石2点、礫器1点、台石1点である。母岩別にみると、GAN-4・5・6・7、Ch-3・8、HMs-1・2、Bs-1・2、CS-2の11種類の母岩別資料で構成される。そのなかでも、GAN-4と7を中心にしており、これらはA 1ブロックと頻繁な接合関係を持っている。GAN-7には個体A・B・Cがあり、ブロック中心部からやや南寄りの部分に分布している(ただし、個体BについてはA 1ブロックに分布するものもある)。

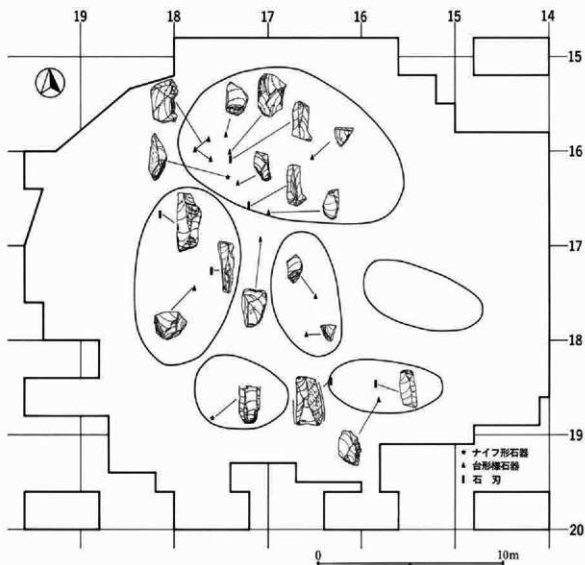
Bs-1は局部磨製石斧の刃部破片と刃部再生剥片で、10点の資料が出土しているが、その分布はブロック南半部に集中している。これらはA 4ブロックに分布する局部磨製石斧本体と接合関係を持っており、A 5ブロックで刃部再生が行われたものと考えられる。

A 6ブロック (第59・60図)

調査区中央の(16-18-16)グリッドに位置し、四方をA 1ブロックからA 5ブロックの5ヶ所のブロックが取り囲んでいる。長径6.7m、短径3.6mの南北に長い楕円形を呈して分布している。総数44点の石器群で構成され、その内訳は台形椽石器2点、二次加工のある剥片3点、石核2点、剥片27点、砕片9点、敲石1点である。母岩別にみると、GAN-3・4・5・6、Ch-2・6、CS-3の7種類の母岩別資料で構成される。GAN-4が34点で数量的に最も多く、A 1ブロックとA 3ブロックとの間で頻りに接合関係を持っており、その状況は、分布の主体を持つA 1ブロックとそこから派生するA 3ブロックとを繋ぐ通過点に位置しているかのようである。

ブロック外 (第48図)

ブロック外では、各ブロック周辺から出土しているものが7点ある。このほかブロック外のA 1ブロックの東側の(16-14)グリッドから剥片が1点出土した。他に石器の出土はなく、各ブロックにまとまりを持って石器は分布している。



第61図 器種別石器分布全体図（ナイフ形石器、台形椽石器、石刃）

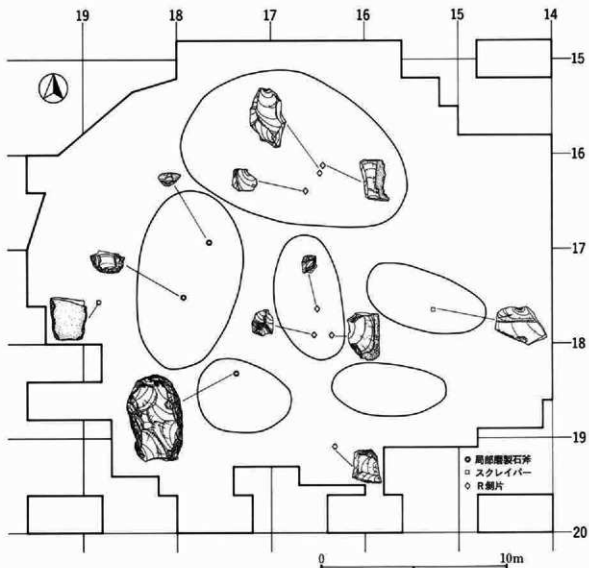
5 器種別石器分布

ナイフ形石器（第61図）

ナイフ形石器は黒色安山岩製（GAN-9）と黒色頁岩製（BSh-1）の2点が出土している。前者はA1ブロックに、後者はA4ブロックに分布している。特に、後者はブロックのなかでも他の石器とは離れて分布している。

台形椽石器（第61図）

破片資料も含めて計13点が出土している。その詳細についてみると、A1ブロックに8点、A3ブロックに1点、A5ブロックに1点、A6ブロックに2点、A5ブロック周辺に1点である。A2、A4ブロックでの分布はない。A1ブロックに多く分布しており、各ブロックの石器数量にほぼ比例して分布する傾向がある。A1ブロックでの分布をみると、西半部に偏在している傾向が看取できる。GAN-2個体Aから製作



第62図 器種別石器分布全体図（局部磨製石斧、スクレイパー、R剥片）

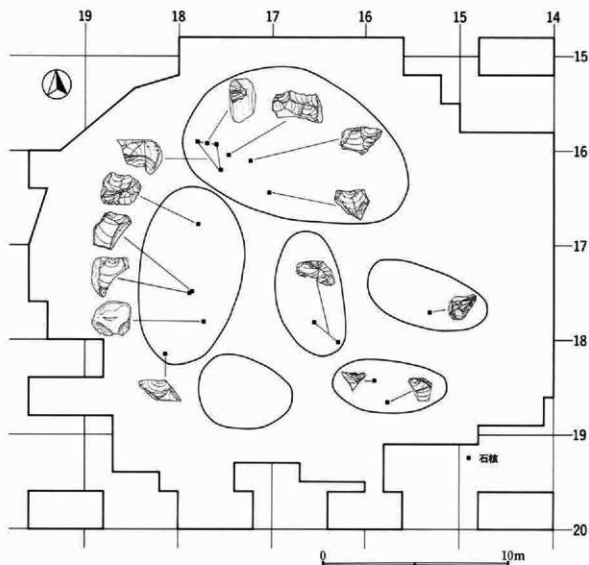
された台形様石器（第9図7）は他の個体Aに帰属する石核、剥片類とはほぼ同様の位置に分布している。

石 刃（第61図）

石刃は計6点が出土している。A1ブロックに2点、A3ブロックに2点、A5ブロックに2点が分布しており、特に偏在して分布することはない。これらの石刃は遺跡内で生産されたものではなく、遺跡外からの搬入品である。

局部磨製石斧（第62図）

刃部破片を含めて3点が出土している。器体本体はA4ブロック、刃部破片はA5ブロックに分布している。また、刃部破片の周辺には刃部再生剥片が分布しており、遺跡内搬入後A5ブロックで機能し、その後刃部欠損後に連続して刃部再生作業が行われたものと考えられる。器体本体は最終的にA4ブロックに移動



第63図 器種別石器分布全体図(石核)

して廃棄されている。

スクレイパー (第62図)

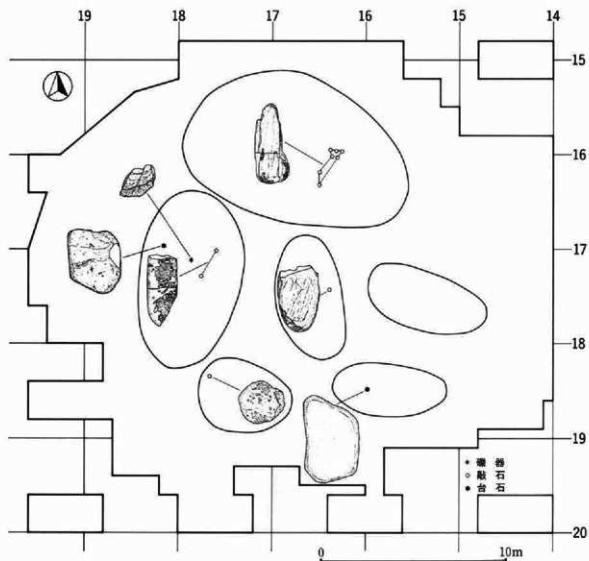
2点出土している。A2ブロック、A5ブロック周辺の(17-18)グリッドに分布している。

二次加工のある剥片(第62図)

7点が出土している。A1ブロックに3点、A6ブロックに3点、A4ブロック周辺に1点が分布している。A1ブロックでは、いずれもCh-1に帰属しブロック中央付近に分布している。

石核(第63図)

17点が出土している。その詳細については、A1ブロックで7点、A2ブロックで1点、A3ブロックで



第64図 器種別石器分布全体図（礫器、敲石、台石）

2点、A5ブロックで5点、A6ブロックで2点である。A1ブロックでは、ブロック西半部でA6ブロックに近い範囲に偏在している。これらはGAn-2個体AとGAn-4個体A・B・Cに帰属するものである。A5ブロックでは、GAn-7個体A・B・Cに帰属するものが分布している。

礫器（第64図）

1点出土している。A5ブロックに分布している。

敲石（第64図）

破損資料を含めて11点出土しているが、接合後は4点となる。その詳細については、A1ブロックに7点（接合後1点）、A4ブロックに1点、A5ブロックに2点（接合後1点）、A6ブロックに1点である。

台石（第64図）

2点出土している。A3ブロックに1点、A5ブロックに1点が分布している。

6 母岩別資料の構成と分布・接合関係

A区からは403点の石器が出土したが、それらは台石を除いて34種類の母岩別資料に分類された。その内訳は黒色安山岩が11、安山岩が1、チャートが10、黒色頁岩が1、硬質泥岩が6、変玄武岩が2、結晶片岩が3である。接合関係はA1ブロックを基軸として、A2ブロック方向、A6ブロック方向、A5ブロック方向の3方向に亘っている。次に各母岩別資料毎にその構成と分布、接合関係について観察していく。

GAAn-1 (第66図)

剥片20点、碎片1点の計21点の資料で構成される。A1ブロックとA2ブロックに分布し、両ブロック間で接合関係を持っている。前者については中央付近に集中して分布し、後者については全体に亘って東西に長く分布している。その距離は最短で7m、最长で13mである。

また、両ブロックに分布する石器については、剥片生産順序に対応している。つまり、初期に剥離された剥片はA1ブロック、後続して剥離された剥片はA2ブロック、そして最終的に剥離された剥片は再びA1ブロックというように分布している（つまり、石核がA1ブロックとA2ブロックとの間を往復移動しながら剥片生産が行われたことが理解される）。

GAAn-2 (第67・68図)

台形椀石器5点（接合後3点）、石刃2点、石核4点（接合後2点）、剥片23点、碎片7点の計41点の資料で構成される。A4ブロックに2点分布するほかは、すべてA1ブロック西半部に集中して分布しており、その範囲はGAAn-4 個体A～Dと重複しているが、GAAn-4 個体A～Dが東西方向に長く分布しているのに対して、GAAn-2は南北方向に長く分布している点が微妙に異なる。また、GAAn-2には厚手の剥片を素材とした個体Aがあるが、A1ブロック西半部の(15・16-17)グリッドのX軸=16付近の2×2m弱の範囲内に集中して分布し、GAAn-4 個体C・Dと重複している。接合関係もブロック内で収束する。

GAAn-3 (第67図)

スクレイパー1点、剥片6点の計7点の資料で構成される。A1ブロックに1点、A2ブロックに5点、A6ブロックに1点が分布する。接合資料は2例あり、A2ブロックに分布する石器はブロック内で収束し、A1ブロックとA6ブロックに分布する石器は両ブロック間での遠距離間で接合する。

GAAn-4 (第70・71図)

台形椀石器3点、二次加工のある剥片1点、石核6点、剥片112点、碎片85点の計207点の資料で構成され、本遺跡のなかで最も多い母岩別資料である。A1～A6ブロックの全ブロックに分布しているが、A1ブロックに122点、A2ブロックに12点、A3ブロックに9点、A4ブロック6点、A5ブロック22点、A6ブロック34点というように、A1ブロックでの分布が半数以上を占めている。接合関係はA1ブロック西半部とA5、A6ブロックとの間で集中しており、分布は全ブロックに亘るものの、接合関係は偏在している。

GAAn-4は個体A・B・C・D・Eの5個体に分割した後に剥片生産されているが、それぞれに帰属する資料は次のように分布している。個体AはA1ブロックに9点、A6ブロックに1点、個体BはA1ブロックにすべて、個体CはA1ブロックにすべて、個体DはA1ブロックに2点、A5ブロックに1点、個体EはA1ブロックに1点、A3ブロックに1点、A6ブロックに5点が分布している。

第3章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査

次に、個体毎に分布と接合状況についてみていく。

個体A (第71図)

石核1点、剥片9点の計10点の資料で構成される。A1ブロックに9点、A6ブロックに1点が分布するが、そのなかでも特にブロック西半部(16-17)グリッド北東部の2×1m弱の範囲に集中している。接合関係はこの範囲内とA6ブロック間で確認された。

個体B (第71図)

石核1点、剥片13点の計14点の資料で構成される。すべてA1ブロックに分布するが、そのなかでも特にブロック西半部の(16-17)グリッド東端部の4×2mの範囲内に集中している。接合関係はこの範囲内で取束している。分布範囲は全体的にみれば、個体Aと重複しているが、主体となる分布範囲は個体Aよりも東側に偏っている。

個体C (第71図)

石核1点、剥片8点の計9点の資料で構成される。すべてA1ブロックに分布するが、そのなかでも特にブロック西半部(15・16-17)グリッドのX軸=16付近の2×2m強の範囲内に集中している。分布範囲は全体的にみれば、個体A・Bに重複しているが、主体となる分布範囲は個体Aよりも西側にある。接合関係はこの範囲内で取束している。

個体D (第71図)

石核1点、剥片2点の計3点の資料で構成される。石核はA5ブロック北半部、剥片2点はA1ブロック西半部に分布する。後者の分布範囲は個体Cと重複している。

個体E (第71図)

石核2点、剥片4点の計6点の資料で構成される。A3ブロックに剥片が1点、A6ブロックに石核を含む5点が分布している。特に後者ではブロック南半部に集中している。個体A～Eとは分布範囲が全く異なる。A3ブロックに分布する剥片は折断された縦長剥片の下半部である。

このように、個体A～Dでは分布範囲はA1ブロック西半部に集中し、個体EではA1ブロックには全くなくてA3、A6ブロックに分布することが看取された。さらに、A1ブロックではより微視的に観察すると、何点か外れるものがあるが、それぞれ個体の分布範囲に違いがあることがわかった。すなわち、個体Aの分布範囲を中心に挟むように、東側には個体Bの分布範囲があり、西側には個体C・Dの分布範囲がある。

また、特に個体Bの分布範囲には石核調整剥片が分布している。しかし、第38図1・6のように大きく自然面を残す石核調整剥片については、この分布範囲から外れてA5ブロックに分布している。

GAn-5 (第69図)

台形様石器1点、剥片6点、砕片2点の計9点の資料で構成される。A1ブロックに5点、A2・A6ブロックに各1点、A5ブロックに2点が分布する。接合関係は確認できなかった。

GAn-6 (第69図)

二次加工のある剥片1点、剥片13点の計14点の資料で構成される。A1ブロックに7点、A3・A4・A5ブロックに各1点、A6ブロックに4点が分布する。接合資料は2例あり、1例はA1ブロックとA6ブロックとの間で、もう1例はA1ブロック、A4ブロック、A6ブロックとの間で接合関係を持っている。特に、A1ブロックに対向するA4ブロックとの遠距離間で接合する点は注意される。

GAn-7 (第72・73図)

石核3点、剥片21点、砕片7点の計31点の資料で構成される。A1ブロックに3点、A2ブロックに3点、A5ブロックに24点、A4ブロックに1点が分布しており、主体的分布はA5ブロックにある。接合関係はA1ブロックとA5ブロック間で認められたが、A2ブロック間では確認できなかった。

GAn-7は個体A・B・Cの3個体に分割した後に剥片生産されているが、それぞれに帰属する資料は次のように分布している。個体AはすべてA5ブロック、個体BはA1ブロックに3点とA5ブロックに3点、個体CはすべてA5ブロックに分布している。石核調整剥片はすべてA5ブロックに分布している。

個体A (第73図)

石核1点、剥片2点の計3点の資料で構成される。剥片2点はA5ブロック中央付近に分布するが、石核はA5ブロック南端部に分布している。

個体B (第73図)

石核1点、剥片5点の計6点の資料で構成される。石核はA5ブロックに、剥片の内3点はA1ブロックに、2点はA5ブロックにそれぞれ分布している。後者については、初期に剥離された剥片はA5ブロックに、後続して剥離された剥片はA1ブロックというように、剥片生産順序に対応して分布している。それぞれの分布位置の距離は最短で4m、最長で8mである。A5ブロックに分布するものについては個体A・Cの分布範囲と重複している。

個体C (第73図)

石核1点、剥片3点の計4点の資料で構成される。すべてA5ブロックの中央付近に集中して分布している。分布範囲は個体A・Bと重複している。

石核調整剥片 (第73図)

石核調整剥片は3点出土しているが、いずれもA5ブロック中央付近に分布している。分布範囲は個体A・B・Cと重複している。

GAn-8・9・10 (第74図)

GAn-8は剥片3点で構成され、3点ともA1ブロックの東端部に分布している。接合資料は1例ある。GAn-9はナイフ形石器1点、剥片2点の計3点の資料で構成される。接合資料はない。ナイフ形石器は遺跡外からの搬入品と考えられる。GAn-10は剥片1点の単独資料で、遺跡外からの搬入品である。ブロック群から外れた(16-14)グリッドに単独で分布している。

GAn-11 (第74図)

台形礫石器1点、二次加工のある剥片1点、石核2点、剥片4点の計8点の資料で構成される。すべてA3ブロックとその周辺の(19-16)グリッドに分布する。接合関係は2例あり、いずれもブロック内及びその周辺で収束している。

An-1 (第79図)

敲石1点のみの単独資料で、A4ブロックに分布している。

第3章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査

Ch-1 (第75図)

二次加工のある剥片3点、剥片6点の計9点の資料で構成される。すべてA1ブロックに分布しているが、特にブロック中央付近に集中している。接合関係もそのなかで取束している。分布範囲はGAN-1と重複している。

Ch-2 (第75図)

二次加工のある剥片1点、石核1点、剥片2点の計4点の資料で構成される。剥片類は本遺跡内で剥離されたものではなく、遺跡外から搬入されたものと考えられる。A2ブロックに2点、A6ブロックに2点が分布し、両ブロック間で接合関係を持っている。その距離は7m弱である。

Ch-3 (第76図)

石核1点、剥片1点の計2点の資料で構成される。2点ともA5ブロック南半部に分布し、接合関係を持っている。

Ch-4 (第76図)

剥片2点、砕片1点の計3点の資料で構成される。3点ともA4ブロックに分布する。接合関係はない。

Ch-5・6・7・8・9・10 (第76図)

Ch-5は台形様石器1点の単独資料で、A1ブロックに分布する。Ch-6は台形様石器1点の単独資料で、A6ブロックに分布する。Ch-7は石刃1点の単独資料で、A3ブロックに分布する。Ch-8は剥片1点の単独資料で、A5ブロックに分布する。Ch-9は剥片1点の単独資料で、ブロック周辺の(17-19)グリッドに単独で分布する。Ch-10は剥片1点の単独資料で、A1ブロックに分布する。

BSh-1 (第78図)

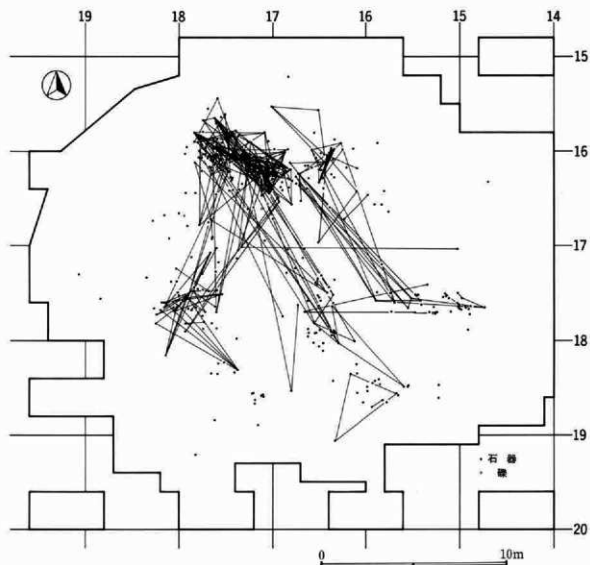
ナイフ形石器1点のみの単独資料で、遺跡外からの搬入品である。A4ブロックに分布している。

HMs-1・2・3・4・5・6 (第78図)

HMs-1・2は共に石刃1点の単独資料で、いずれもA5ブロックに分布する。HMs-3は石刃1点の単独資料で、A3ブロックに分布する。HMs-4は台形様石器1点の単独資料で、A5ブロック周辺部の(16-17)グリッドに分布している。HMs-5は剥片1点の単独資料で、A4ブロック周辺部の(19-17)グリッドに分布する。HMs-6は剥片1点の単独資料で、A3ブロックに分布している。

Bs-1 (第77図)

局部磨製石斧3点(内刃部破片2点)、スクレイパー1点、剥片5点、砕片4点の計13点の資料で構成される。器体本体はA4ブロックに、刃部破片と刃部再生剥片はA5ブロック南半部に集中して分布しており、両ブロック間で接合関係を持つ。局部磨製石斧は刃部欠損後、A5ブロックで刃部再生が行われ、最終的に器体本体はA4ブロックに移動して廃棄されたと考えられる。



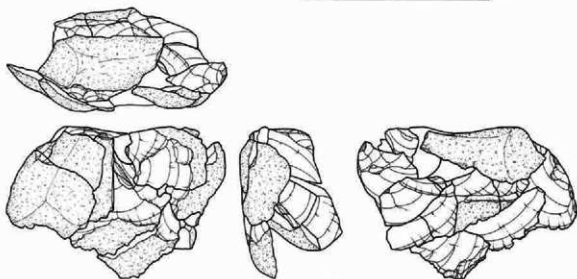
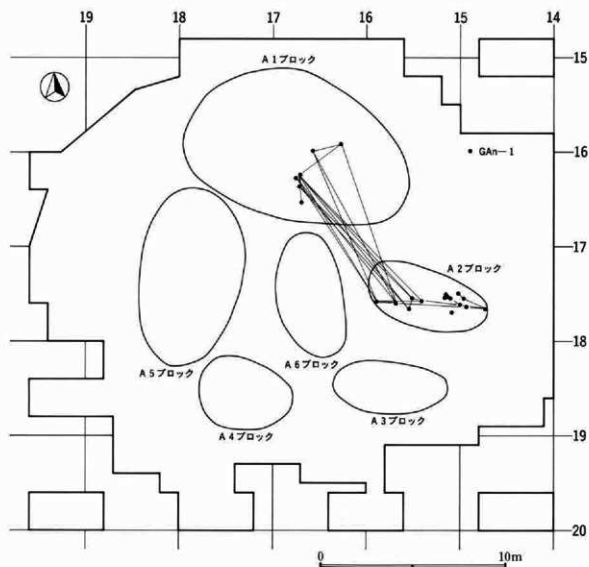
第65図 A区接合関係全体図

Bs-2 (第77図)

礫石2点(接合後1点)の資料で構成され、2点ともA5ブロックに1.5m程の距離を持って分布し、接合関係を持っている。

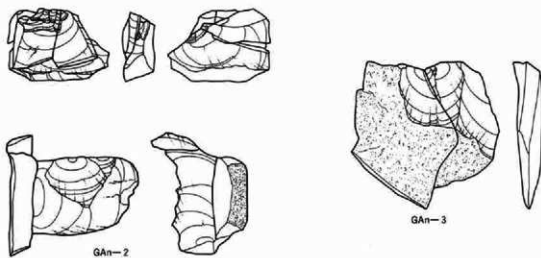
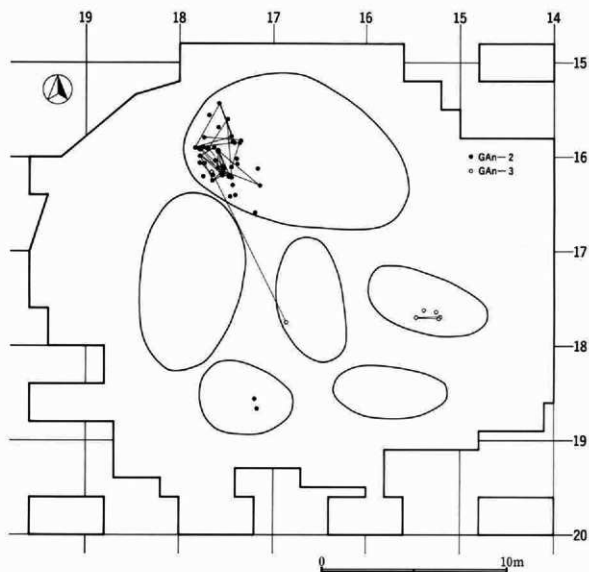
CS-1・2・3 (第79図)

CS-1は破損した礫石7点(接合後1点)の資料で構成され、すべてA1ブロック中央東寄りに集中して分布している。分布範囲はGAn-1、Ch-1と重複している。CS-2は礫器1点の単独資料で、A5ブロックに分布する。CS-3は礫石1点の単独資料で、A6ブロックに分布している。

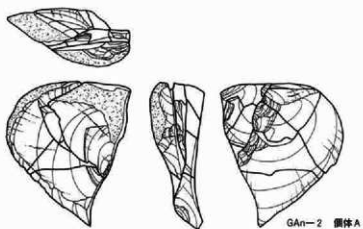
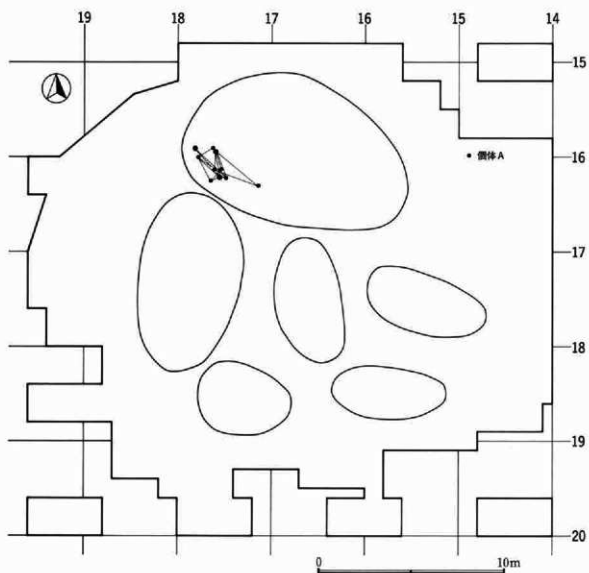


第66図 母岩別石器分布全体図 (GAn-1)

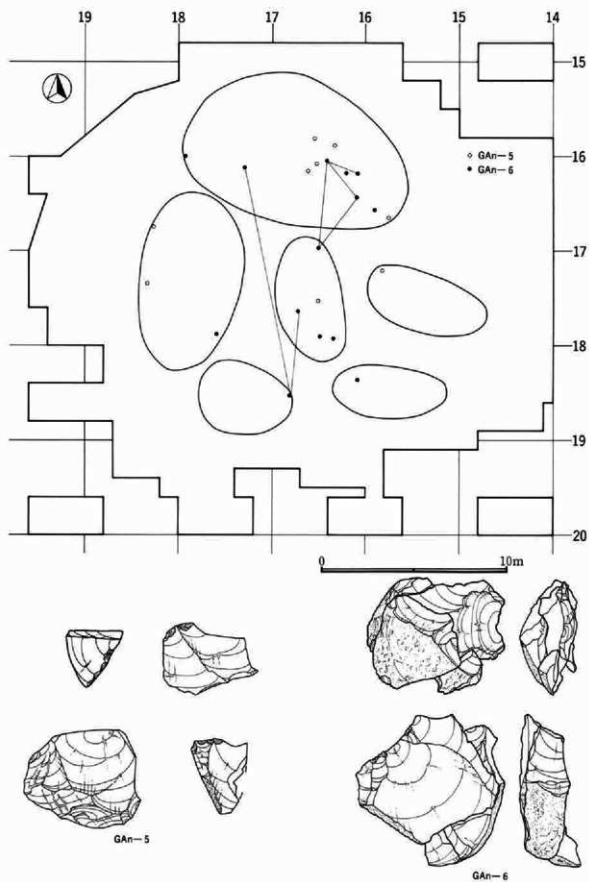
第1節 白倉下原遺跡A区



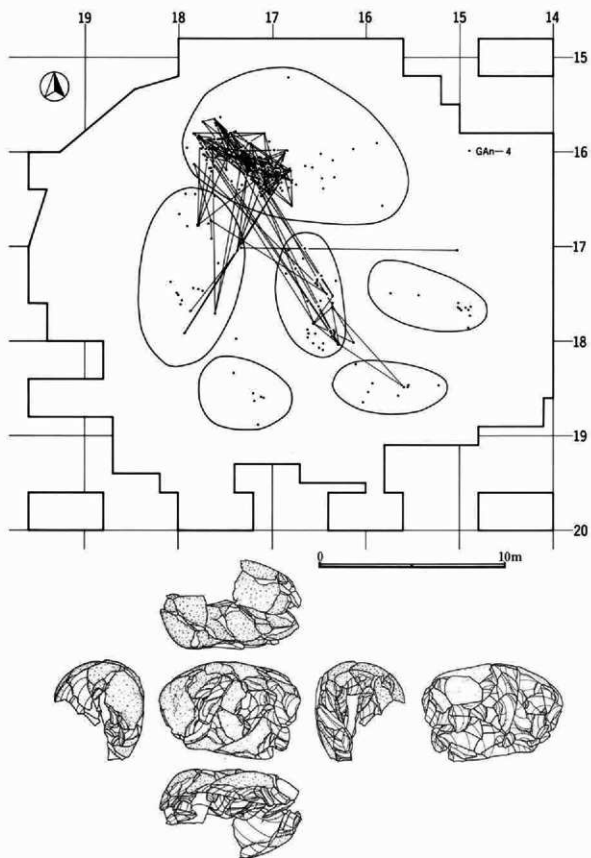
第67图 母岩別石器分布全体图 (GAn-2・3)



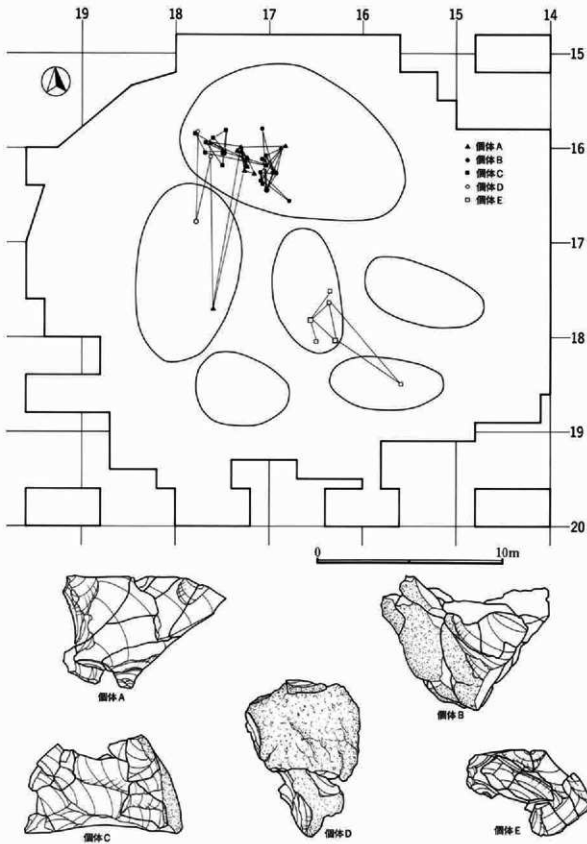
第68図 GAn-2 個体別石器分布全体図（個体A）



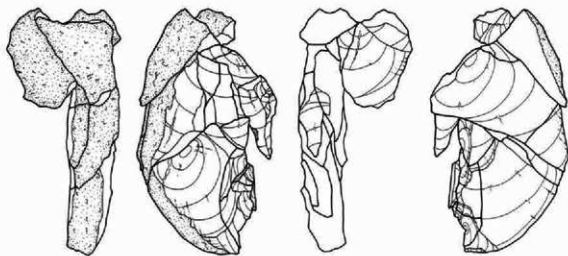
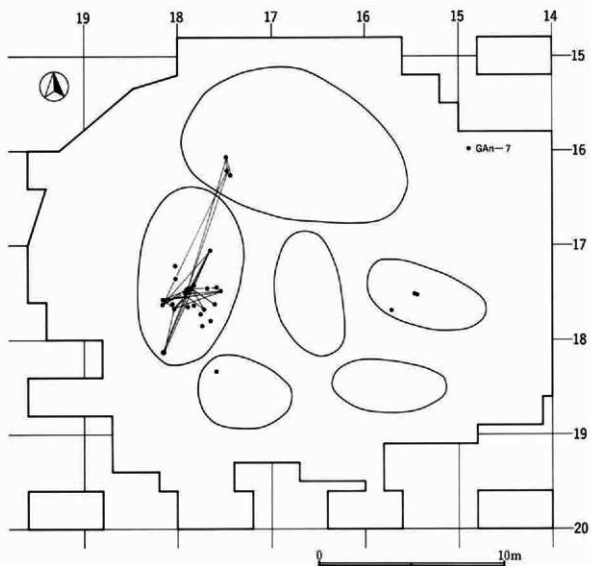
第69图 母岩別石器分布全体图 (GAn-5・6)



第70図 母岩別石器分布全体図 (GAn-4)

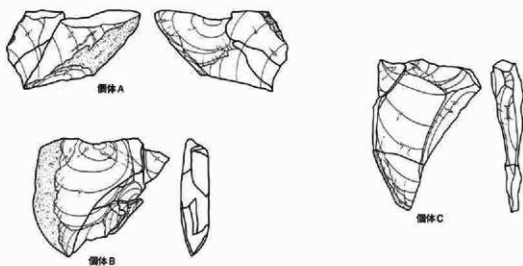
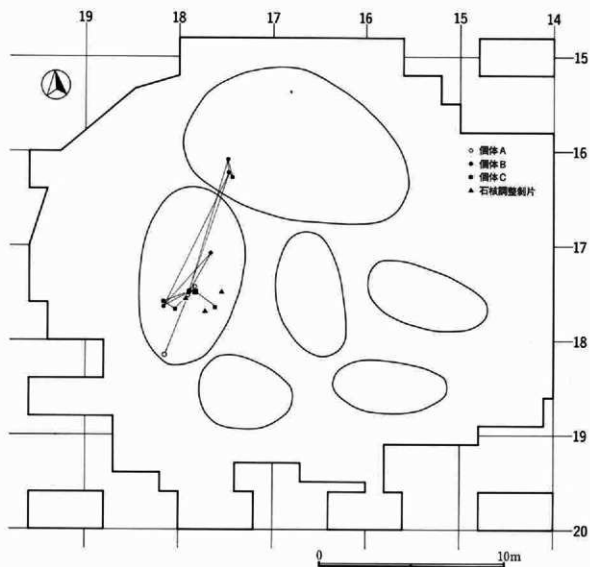


第71圖 GAn-4 個体別石器分布全体圖



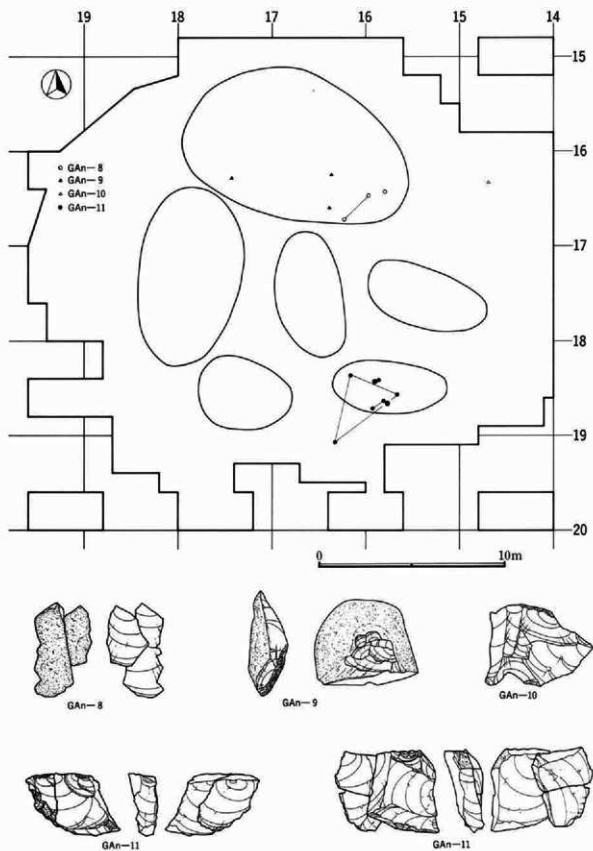
第72図 母岩別石器分布全体図 (GAn-7)

第1節 白倉下原遺跡A区



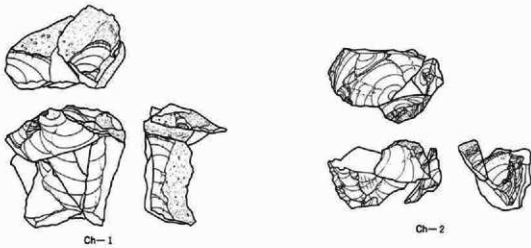
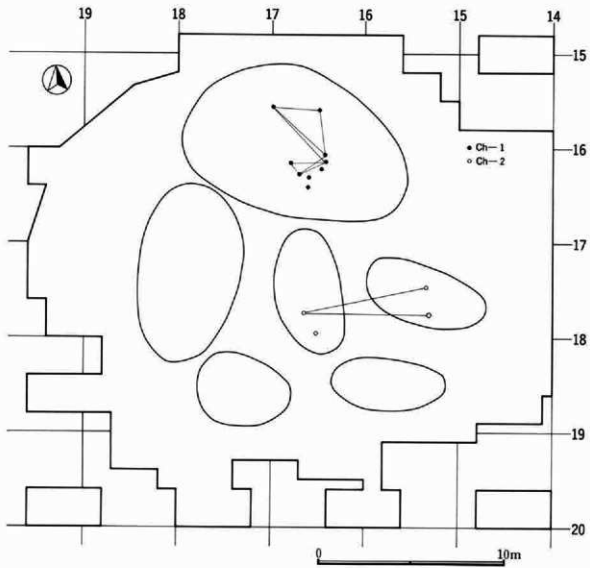
第73圖 GAn-7 個体別石器分布全体圖 (個体 A・B・C・石核調整剥片)

第3章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査

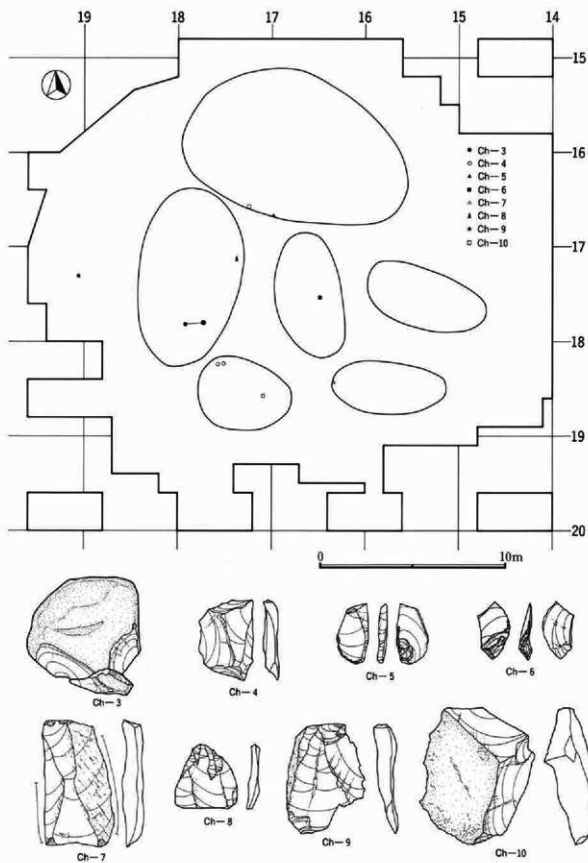


第74図 母岩別石礫分布全体図 (GAN-8・9・10・11)

第1節 白倉下原遺跡A区

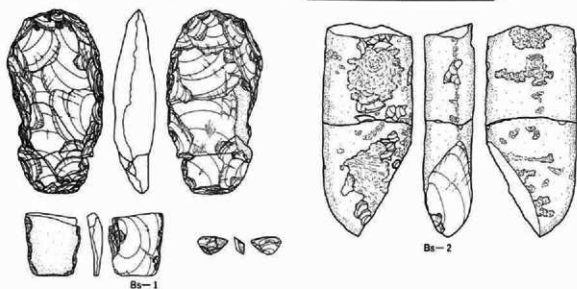
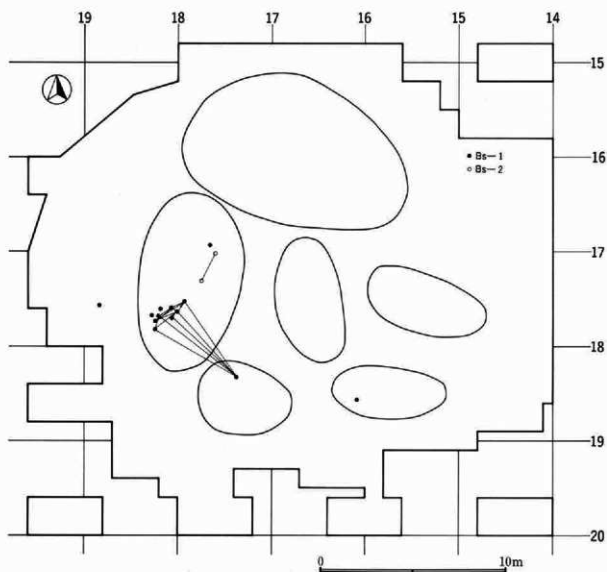


第75圖 母岩別石器分布全体圖 (Ch-1・2)

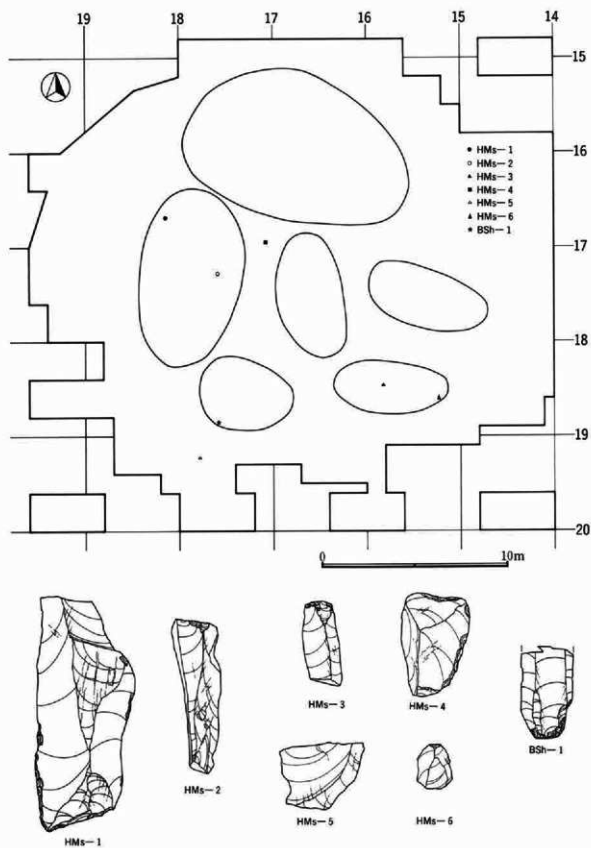


第76図 母岩別石器分布全体図 (Ch-3・4・5・6・7・8・9・10)

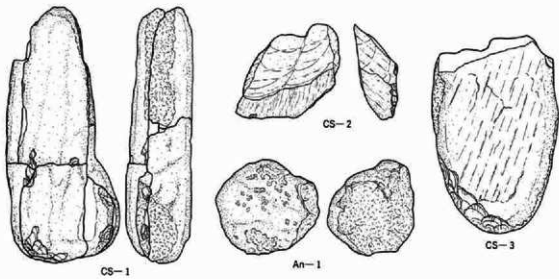
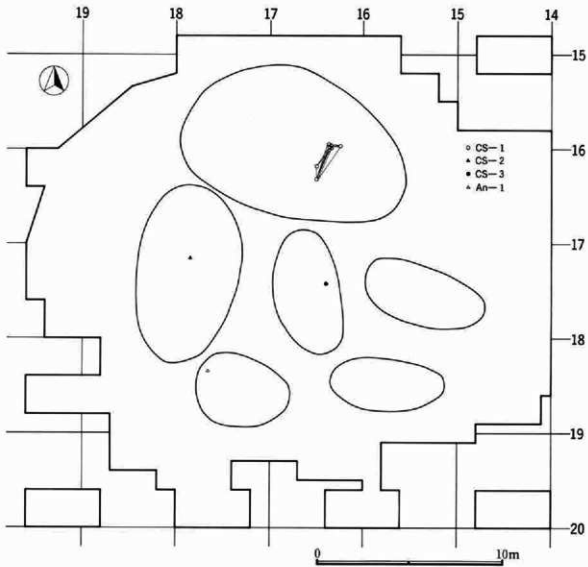
第1節 白倉下原遺跡A区



第77圖 母岩別石器分布全体圖 (Bs-1・2)



第78図 母岩別石器分布全体図 (HM-s-1・2・3・4・5・6、BSh-1)



第79圖 母岩別石器分布全体図 (CS-1・2・3、An-1)

第2節 白倉下原遺跡B区

1 概要

白倉下原遺跡B区はA区と同一台地上にあり、A区石器出土地点から約100m程西側に立地する。B区西端部には北側に向かって走る谷頭部があり、この谷頭部を挟んだ、東側台地の(28~31-35~39)グリッドにかけてのAT下層の暗褐色粘土層から石器群が出土した。なお、この分布域以外では、石器は全く出土していない。また、文化層もこのAT下層のみに限定され、これよりも上層からは検出されなかった。

石器群が出土した地点は、谷頭部から比較的離れた平坦な台地上であり、当初文化層の存在は希薄であろうと考えていた。しかし、今回B区において谷地部よりも比較的奥に入った平坦な台地にも石器群が残されていることが確認され、台地縁辺部のみに遺跡の立地が偏るという従来の傾向と異なることが判明した。このことは、旧石器時代の選地・居住パターンを考えていくうえで重要な発見であったといえる。

出土した石器は総数120点で、他に礫が2点出土した。石材についてみると、A区の石器群では黒色安山岩を主体的に利用していたのに対して、B区の石器群では黒曜石を主体的に利用しており石材構成は全く対照的である。石器群は散漫な分布状況を呈していたが、4ヶ所のブロックが設定された。これらのブロックは環状ブロック群の範疇で捉えられる。

2 石器

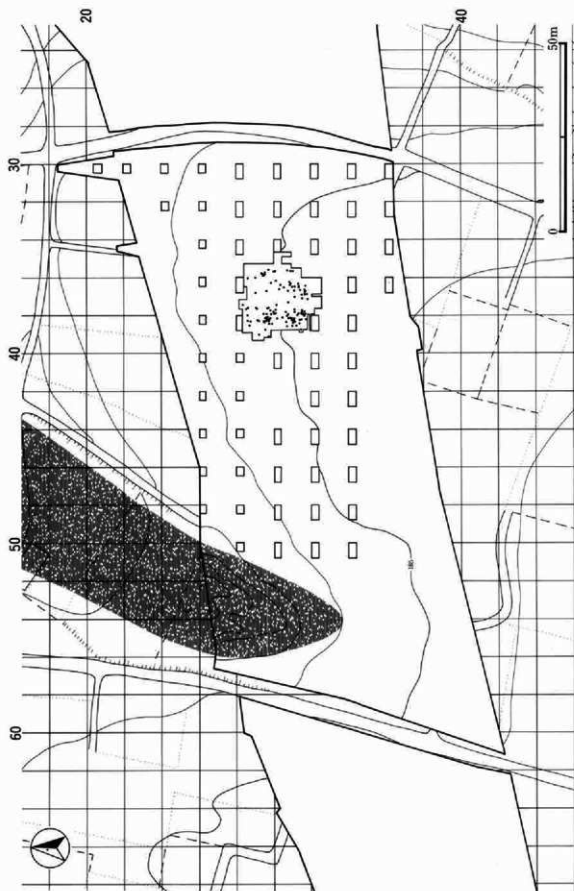
B区からは120点の石器と2点の礫が出土した。その内訳はナイフ形石器5点、台形様石器10点、局部磨製石斧1点、スクレイパー12点、ドリル2点、二次加工のある剥片6点、石核6点、石刃9点、剥片43点、砕片25点、敲石1点である。

ナイフ形石器 (第82図1~5)

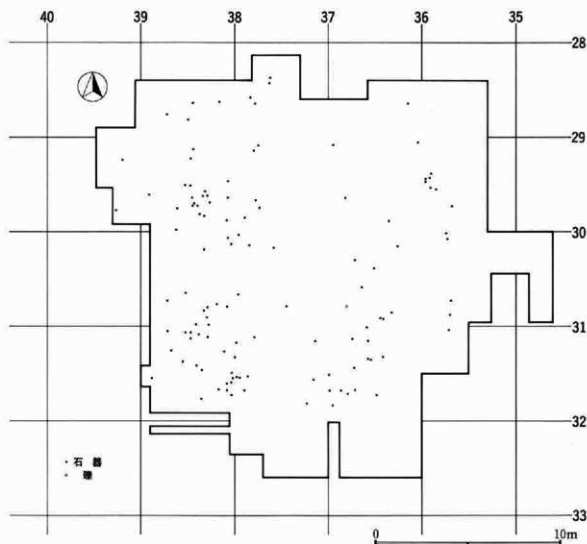
1 黒色安山岩製で、尖頭形の石刃を素材とする。素材石刃は左右対称形で尖鋭な先端部を持ち、この素材形状を巧く活かすように背面側の左右両側縁の基部にブランティングによる調整加工が施されている。しかし、これによって打面を除去するまでには至っていない。打面は一枚の平坦な剥離面構成され、また頭部調整は若干施されている。背面は主要剥離面と同一加撃方向の剥離面、180度加撃方向の異なる剥離面、90度加撃方向の異なる剥離面によって構成される。B4ブロック出土。

2 黒色安山岩製の石刃を素材とする。素材形状は左右対称ではなく、左側縁がやや張り出している。調整加工は背面側の左右両側縁の基部から下半部にかけて施されているが、打面は残置されている。この調整加工はブランティングであるが、縁辺部を潰すような微細なものである。背面は主要剥離面と同一加撃方向の剥離面と180度加撃方向の異なる剥離面によって構成され、その稜線が器体中央部に平行して走っていることから、素材は石刃技法によって獲得されたものと考えられる。打面は一枚の剥離面構成されているが、頭部調整はその部分が欠失しているため、施されていたかは不明である。B4ブロック出土。

3 黒色安山岩製で、先端部を一部欠損する。素材は石刃で、調整加工は背面側の左右両側縁基部に施されている。打面は残置し、一枚の平坦な剥離面構成され、また頭部調整は顕著に施されている。背面は主要剥離面と同一加撃方向の三枚の剥離面構成され、その稜線が器体両側縁に平行するように中央部に走っており、石刃技法によってこの素材が獲得されたことが示唆される。B4ブロック出土。



第80图 白倉下原遺跡B区全体图



第81図 B区石器分布全体図

- 4 黒色安山岩製で、下半部と先端部が欠損する。素材は比較的幅広い縦長削片で、右側縁は折断されている。調整加工は背面側の左右両側縁に施されているが、左側縁の調整加工はやや平坦で、インバース状に施されている。これに対して、右側縁の調整加工は折断面を切って急斜に施されている。B4ブロック出土。
- 5 黒色安山岩製で、上半部が欠損する。素材は縦長削片と思われる。左側縁は折断面で、右側縁に急斜な調整加工が施され、打面はこれによって除去されている。B4ブロック出土。

台形様石器（第82図6～第83図15）

6 黒曜石製で、石刃を素材とする。本遺跡出土の台形様石器のなかでは最も大型品である。調整加工は左右両側縁に施され、それはほぼ器体を全周している。特に基部を中心に調整加工が施されているが、素材打面を全て除去するまでには至っていない。残置された打面を見る限り、1枚の平坦な剝離面で構成されている。調整加工について見ると、右側縁の背面側では下半部を中心に施されている。主要剝離面側では先端部から打面部に亘った全体に施されているが、この調整加工は平坦なものである。一方、左側縁の調整加工に

第4表 B区ブロック別器種別石器組成表

	ナイフ 形石器	台形様 石器	局部磨 製石器	スクレ イパー	ドリル	R削片	石核	石刃	削片	砕片	敷石	計	標	合計
B1ブロック						1	1	3	6	3		14		14
B2ブロック			1	5			3		11	2	1	23	1	24
B3ブロック		4		2	2	4	1	1	15	7		36		36
B4ブロック	5	3		5		1	1	3	11	11		40		40
B1ブロック周辺			2									2		2
B2ブロック周辺								2		1		3		3
B3ブロック周辺			1							1		2		2
B4ブロック周辺													1	1
合計	5	10	1	12	2	6	6	9	43	25	1	120	2	122

第5表 B区ブロック別母岩別石器組成表

	Ob-1	Ob-2	Ob-3	Ob-4	Ob-5	Ob-6	Ob-7	Ob-8	GAn-1	GAn-2	GAn-3	GAn-4	計
B1ブロック	1				9	1							11
B2ブロック	1	3	1		6	3	1	1					16
B3ブロック				1	18	2		2					23
B4ブロック					24	2	2	1	1	1	1	1	33
B1ブロック周辺					1		1						2
B2ブロック周辺					2	1							3
B3ブロック周辺					2								2
B4ブロック周辺													
合計	2	3	1	1	62	9	4	4	1	1	1	1	90

	GAn-5	GAn-6	GAn-7	GAn-8	An-1	Sl-1	Ch-1	CS-1	HMs-1	HMs-2	小計	標	合計
B1ブロック			3								14		14
B2ブロック	1			1	1	1	1	2			23	1	24
B3ブロック				13							36		36
B4ブロック		1	3	1					1	1	40		40
B1ブロック周辺											2		2
B1ブロック周辺											3		3
B3ブロック周辺											2		2
B4ブロック周辺												1	1
合計	1	1	6	15	1	1	1	2	1	1	120	2	122

については、背面側では先端部から打面部にかけて全体に施されている。主要剥離面側では下半部に施されているが、主要剥離面側の調整加工が平坦であるのに対して、背面側の調整加工は急斜なブランティングによるもので、下半部では若干インパース状に施されている。素材は比較的大型の石刃で、背面は主要剥離面と同一加撃方向の3枚の剥離面で構成され、その稜線が器体中央部に平行して走っており、石刃技法によって生産された可能性を示唆している。B3ブロック出土。

7 黒曜石製で、横長剥片を素材とする。「精製石器」の範疇で捉えられる台形様石器で、器体はほぼ左右対称形に仕上げられている。平坦な調整加工が左右両側縁の背面と主要剥離面の両器面を覆い尽くすように施され、素材形状を大きく変形させている。主要剥離面側の比較的大きめの調整加工はバルブを除去しているものと思われるが、若干ステップブレイキングを起こしている。この調整加工以外は全て入念な平坦調整である。刃部は一次剥離で得られた伏込状の縁辺部を利用しているが、背面側には微細剥離痕と若干大きめの剥離痕が刃部全体に亘って連続している。折断面は確認できない。B1ブロック周辺出土。

8 黒曜石製で、バルブの発達した寸詰まりの縦長剥片を素材とする。調整加工が左右両側縁に施されている。右側縁の調整加工は、ヒンジフラクチャーを起こした素材剥片端部を潰すように、背面側を打面として主要剥離面方向にブランティングによって施されている。調整加工の施された右側縁部は直線状にはならず、やや鋸歯状になっている。一方、左側縁の調整加工は、素材打面と主要剥離面を打面として背面方向に、一部平坦な部分があるものの、全体的にブランティングによって施されている。このような調整加工によって、プロポーションは左右対称形のペン先形に仕上げられている。刃部には微細剥離痕が認められる。なお、背面は1枚のポジティブ面で構成され、剥片素材の石核から剥離されたことが看取される。リングの状況からみて、小型剥片を石核として素材は剥離されたことが理解される。B1ブロック周辺出土。

9 黒曜石製で、バルブの発達した寸詰まりの縦長剥片を素材とする。調整加工は左右両側縁に施されている。右側縁の調整加工は、背面側と主要剥離面側に施されているが、前者の調整加工はブランティングによって、後者の調整加工はバルブを除去するように平坦に施されている。左側縁の調整加工は、ほとんど主要剥離面側に施され、中央下半付近ではブランティングであるが、それ以外は平坦で微細な調整加工である。なお、右側縁の上部は折断されているが、右側縁及び左側縁の調整加工を全て切っており、この折断が器体整形の最終段階で行われたことが看取されるとともに、これによってプロポーションを左右対称形にしていることが理解できる。B4ブロック出土。

10 黒曜石製で、扇状に末広がりになる幅広の縦長剥片を素材とし、端部はヒンジフラクチャーを起こしている。調整加工は左右両側縁の縁辺部に施されているのみで、器面を広く覆うことはなく、素材を大きく変形するほどではない。左側縁では、主要剥離面側の基部には平坦な調整加工が、背面側中央部には微細なブランティングによる調整加工が施されている。一方、右側縁では左側縁基部の調整加工に対向するかたちで、上半部の主要剥離面側に平坦な調整加工が、背面側に微細な調整加工が施されている。背面は基本的に主要剥離面と同一加撃方向と180度異なる加撃方向の剥離面で構成される。90度直交する剥離面がないことから、素材剥片が剥離された石核には石刃技法が適用されていた可能性が大きい。B4ブロック出土。

11 黒曜石製で、比較的バルブに発達した寸詰まりの縦長剥片を素材とする。本石器も7と同様、「精製石器」の範疇で捉えられる。平坦な調整加工が左右両側縁の主要剥離面側と背面側の両器面の広範囲を覆っている。素材打面付近にも調整加工が施されているが、打面を全て除去するまでには至っていない。なお、折断面は認められず、器体整形の際に折断は用いていないようである。B3ブロック出土。

12 黒曜石製で、寸詰まりの縦長剥片を素材とする。左側縁では、素材打面は折断されて残置せず、この折

断面を切って平坦な調整加工が施されている。また、これに対向する左側縁は縁刃部を潰すように微細な調整加工が施されている。B4ブロック出土。

13 黒曜石製で、バルブの発達した小型の石刃を素材とする。背面は主要剥離面と同一加撃方向の2枚の剥離面によって構成され、その稜線が器体中央部に走っている。ピンポイントによる加撃があるいは加撃の際に打面が弾け飛んだかで、打面は残置せずに打点として残っている。調整加工は左右両側縁の下半部にそれぞれ平行するように施され、器体を左右対称の尖頭形状に仕上げている。右側縁では、背面側を打面とし主要剥離面方向へとブランティングによって施されている。一方左側縁では、欠損部分があるものの、主要剥離面側を打面として背面方向へと右側縁と同様ブランティングによって施されている。右側縁刃部には微細剥離痕が認められる。B3ブロック出土。

14 黒曜石製で、端部がヒンジフラクチャーを起こした小型の縦長剥片を素材とする。左右両側縁に調整加工が施されている。右側縁の調整加工は、主要剥離面側からブランティングによって施されている。また、左側縁の調整加工は主要剥離面側からの折断によるもので、これを補うように微細な調整加工が施されている。折断は2回に亘っている。B3ブロック出土。

15 黒曜石製で、素材については調整加工によって素材形状を大きく変形しているため判然としない部分があるものの、僅かに残存するポジティブ面から、バルブの発達した横長剥片と考えられる。調整加工は、一部微細なブランティングが見られるが、基本的には平坦なもので、左右両側縁から中心部に向かって施され、背面と主要剥離面の両器面を広く覆っている。B3ブロック周辺出土。

局部磨製石斧（第83図16）

16 粘板岩製で、プロポーションはいわゆる洋梨形を呈し、上半部が先細りになる。横幅は一定ではなく、端部付近に最大幅を持っている。厚さについても同様で一定ではなく、上端部付近に最大厚を持っている。刃部には研磨痕が表裏面に残っているが、打製の調整加工による刃部再生加工によってほとんど切られている。左右両側縁の上半部に施されている調整加工は、器厚を減ずるものではなく、側縁幅を減ずるもので急斜に施されている。器体最大厚を持つ周辺の表裏面の稜線は摩滅している。なお、本石器は砕片類を伴うことのない単独の母岩別資料で、遺跡内では刃部再生加工を行った痕跡は認められない。B2ブロック出土。

スクレイパー（第84・85図）

17 黒曜石製で、幅広縦長剥片を素材とする。背面右側に作業面調整が自然面を打面として施されているが、自然面側には全く施されていない。スクレイパーエッジは左側縁上半部の背面側と主要剥離面側の両面に、平坦な調整加工によってノッチ状を呈して作出される。右側縁には微細剥離痕が認められる。34の後付き石刃と接合する。B4ブロック出土。

18 黒曜石製で、バルブの発達した幅広の石刃を素材とし、端部は折断されている。スクレイパーエッジは平行する左右両側縁に作出され、右側縁では主要剥離面側に端部から打面側にかけて連続して作出される。一方、左側縁では背面側の下半部に作出されている。両者のスクレイパーエッジも鋸歯状で、平坦な調整加工によって作出されている。また、端部背面側には折断面を打面とした二次加工が認められる。背面は打点が離れているが、主要剥離面と同一加撃方向の2枚の剥離面と自然面とで構成され、その稜線が器体中央部に走っている。打面は調整打面であるが、概して粗い。B3ブロック出土。

19 黒曜石製で、バルブの発達した縦長剥片を素材とする。下半部は折断されている。スクレイパーエッジ

は右側縁部と折断面に作出される。右側縁のスクレイパーエッジは連続する急斜な調整加工によるもので、ブランティングとほとんど区別できない。また、折断面に作出されるスクレイパーエッジは平坦な調整加工によるもので、ノッチ状に作出される。左側縁部には全体に亘って微細剝離痕が背面側と主要剝離面側とに連続して認められる。B4ブロック出土。

20 黒曜石製で、端部に最大厚を持つ石刃を素材とし、この端部をエッジとして機能させてエンドスクレイパーとして用いていたものと考えられる。端部縁辺部の右半部には、使用痕と思われる微細剝離痕が連続して認められる。右側縁部の背面側と主要剝離面側にも微細剝離痕が連続して認められる。背面は主要剝離面と同一加撃方向の剝離面と自然面と構成され、その稜線が左側縁辺部に平行して器体中央部に走っている。端部は旧石核底面で、調整加工が見られることから打面であったと考えられ、この素材が180度両設打面石核から生産された可能性を示唆している。本石器は技術形態学的にはエンドスクレイパーとしての条件を満たしていないが、端部にみられる微細剝離痕を使用痕と積極的に評価して、機能形態学的観点からエンドスクレイパーとした。B3ブロック出土。

21 黒曜石製で、幅広い縦長剥片を素材とし、端部は折断されている。スクレイパーエッジは、ノッチ状に抉れる左側縁の主要剝離面側中央部のみに限定して、平坦な調整加工によって作出される。また、微細剝離痕が左側縁では全体に亘って、右側縁では上半部は欠失して不明であるが下半部に、それぞれ認められる。特に、後者では背面側に顕著である。B2ブロック出土。

22 黒曜石製で、比較的薄手で幅広い縦長剥片を素材とし、下半部は折断されている。スクレイパーエッジは左側縁の背面側上半部に、比較的微細な調整加工によって作出される。背面と主要剝離面の縁辺部全体に亘って微細剝離痕が連続して認められる。背面は自然面と主要剝離面と同一加撃方向の3枚の剝離面と構成され、縁辺部に平行して稜線が走っており、石刃技法によって作出された可能性がある。B4ブロック出土。

23 黒曜石製で、縦長剥片を素材とする。スクレイパーエッジは右側縁の背面側中央部に作出される。右側縁にはスクレイパーエッジの他、全体に亘って微細剝離痕が認められる。背面は自然面と主要剝離面と同一加撃方向と180度異なる加撃方向の2枚の剝離面によって構成される。端部は旧石核底面で、調整されている。45の石核と接合する。B2ブロック出土。

24 黒曜石製で、石刃を素材とする。上半部は折断されている。スクレイパーエッジは左右両側縁に平行して作出される。右側縁では背面側から連続するブランティングに近い急斜な調整加工によって、また左側縁でも同様に背面側から連続するブランティングに近い調整加工によって、若干鋸歯状に作出されている。背面は主要剝離面と同一加撃方向の3枚の剝離面と構成されている。B2ブロック出土。

25 黒曜石製で、横長剥片を素材としているものと思われるが、上半部と左側縁部が折断されているため、判然としない。スクレイパーエッジは、端部に主要剝離面側からの加撃によって、ノッチ状に作出されているが、ブランティングに近い急斜な調整加工によるものである。B4ブロック出土。

26 黒曜石製で、比較的厚手の横長剥片を素材とする。スクレイパーエッジは素材剥片の端部縁辺部の背面側に、若干鋸歯状を呈して作出されている。縁辺中央部の1.5cmほどに限定され、端部縁辺部全体に連続することはない。左側縁の主要剝離面側にもスクレイパーエッジと考えられる加工が見られる。両スクレイパーエッジとも平坦な調整加工である。縁辺部全体には使用痕と考えられる微細剝離痕が連続して認められるが、特に背面側に顕著である。B4ブロック出土。

27 黒曜石製で、横長剥片を素材とする。スクレイパーエッジは左側縁の主要剝離面側上半部にノッチ状に作出される。石核を転用しており、66の剥片が右側縁部に接合する。66の剝離によって形成された右側縁部

から端部にかけての縁辺部背面側と主要剥離面側には微細剥離痕が連続して認められるが、特に背面側に顕著である。B2ブロック出土。

28 結晶片岩製で、86の敲石に接合する。素材は敲石を敲打した際に剥出された縦長剥片を利用している。スクレイパーエッジは敲石の右側縁中央部に作出されたノッチ状の部分を用い、さらにその部分を補うように若干の調整加工を加えている。B2ブロック出土。

石 刃 (第86図)

29 黒曜石製で、端部はステップフレイキングを起こしている。左右両側縁は平行するが、厚手である。背面には、1枚細身の石刃を剥離した痕跡があり、また大きく自然面で覆われるが、この面を2枚に面する稜線が器体右側に側縁と平行して走る。主要剥離面は節理面で、56が接合する。自然面を見ると、その稜線には潰れや摩滅がないことから、角礫を母岩としてしていると考えられる。B1ブロック出土。

30 黒曜石製で、左右両側縁はほぼ平行する。打面は調整打面であるが、ステップフレイキングを起こしており鋭い。端部は自然面で、旧石核底面である。背面は自然面と主要剥離面と同一加撃方向の2枚の剥離面で構成され、その稜線は両側縁に平行して走っており、石刃技法によって生産されたことを示唆する。左側縁部には連続して微細剥離痕が認められる。B3ブロック出土。

31 黒曜石製で、左右両側縁は平行する。端部はヒンジフラクチャーを起こし、背面まで及んでいる。背面は主要剥離面と同一加撃方向の3枚の剥離面で構成され、その稜線が両側縁に平行して走っており、石刃技法によって生産されたことを示唆する。打面は調整打面で、左右縁辺部には微細剥離痕が認められる。B2ブロック周辺出土。

32 黒曜石製で、左右両側縁は平行するが、バルブが発達している。下半部は欠損している。背面は主要剥離面と同一加撃方向の剥離面で構成される。また、右側面は一見同時割れによる剥離面に捉えられるが、本石器の剥離に先行した剥離面である。打面は自然面で、左右縁辺部には微細剥離痕が認められる。B4ブロック出土。

33 黒曜石製で、左右両側縁は平行する。端部はヒンジフラクチャーを起こしている。背面は自然面、主要剥離面と同一加撃方向の剥離面、180度加撃方向の異なる剥離面で構成される(この面についてはヒンジフラクチャーによる剥離面の可能性もある)。打面は調整打面で、左右両側縁部には微細剥離痕が認められる。B1ブロック出土。

34 黒曜石製で、稜付き石刃である。背面は自然面と主要剥離面と同一加撃方向の3枚の剥離面で構成され、自然面と剥離面を面する稜線が器体中央部に縁辺部と平行して走る。17のスクレイパーと接合し、作業面調整は17に連続するもので、自然面を打面として稜右側のみに施されている。17を剥離した後、新たに作業面調整は行っていない。右側縁には微細剥離痕が認められる。B4ブロック出土。

35 黒曜石製で、若干バルブが発達する。背面は自然面で構成されるが、器体中央部には自然面を面する稜線が側縁に平行して走っている。左右縁辺部には微細剥離痕が認められる。B2ブロック周辺出土。

36 黒色安山岩製で、端部が尖頭形になる。背面は主要剥離面と同一加撃方向と90度加撃方向の異なる剥離面によって構成され、器体中央部にその稜線が走る。打面は自然面である。縁辺部には微細剥離痕が認められるが、風化が進行しているため判然としない。B4ブロック出土。

二次加工のある剥片 (第87図37~42)

37 黒曜石製で、厚手で端部はヒンジフラクチャーを起こしているが、石刃とも言い得る縦長剥片を素材とする。二次加工は左側縁中央部の主要剥離面側に平坦な調整加工によって施されている。打面は自然面、縁辺部には頭部調整が施されている。左右縁辺部には微細剥離痕が認められる。B1ブロック出土。

38 黒曜石製で、背面が自然面で構成される横長剥片を素材とする。端部はヒンジフラクチャーを起こし、背面まで剥離が及んでいる。二次加工はこれを切って、急斜な調整加工によって施されている。また、主要剥離面を切る極状剥離痕が2条看取されるが、意図的かあるいは偶発的なものかは判然としない。B3ブロック出土。

39 黒曜石製で、左側縁には急斜な調整加工による鋸歯状のスクレイパーエッジが作出されていることから、スクレイパーを転用しているものと考えられる。二次加工は主要剥離面側に施されているが、比較的大きめの剥離痕であることから、小型剥片を生産した石核の可能性もある。下半部はスクレイパーエッジと二次加工を切って折断されている。打面は1枚の剥離面で構成され、縁辺部には頭部調整が施されている。素材は石刃で、背面は主要剥離面と同一加撃方向の4枚の剥離面で構成されており、素材は石刃技法によって作出されたことを示唆する。B3ブロック出土。

40 黒曜石製で、縦長剥片を素材とする。二次加工は右側縁上端部の主要剥離面側に施されている。ノッチ状のスクレイパーとも考えられる。縁辺部には微細剥離痕が認められる。B3ブロック出土。

41 黒曜石製で、縦長剥片を素材とする。二次加工は右側縁端部の背面側と左側縁上半部の背面側の2ヶ所に施されている。縁辺部には微細剥離痕が認められる。B3ブロック出土。

42 黒曜石製で、縦長剥片を素材とする。左右両側縁は折断されている。二次加工は素材打面を除去するように、上端部の主要剥離面側に施されている。折断面の縁辺部には微細剥離痕が認められる。B4ブロック出土。

ドリル (第87図43・44)

43 黒曜石製で、小型で不整形な横長剥片を素材とする。一次剥離で得られた左側縁の尖鋭部にさらに調整加工を施してドリルに仕上げている。B3ブロック出土。

44 黒曜石製で、小型の寸詰まりの縦長剥片を素材としている。一次剥離で得られた素材打面の縁辺部にノッチ状の調整加工を施してドリルに仕上げている。しかし、この調整加工が素材剥離の前後いずれかで行われたかは判然としない。B3ブロック出土。

石核 (第87図45~第88図49)

45 黒曜石製で、23のスクレイパーが接合する。接合状況の自然面のあり方から見て、偏平な角礫を素材としていることが看取される。23を生産後に1枚縦長剥片を生産し、その後打面再生を行い縦長剥片を生産している。加撃方向は全て同じで、打面と作業面を入れ替えることはない。最終の剥片生産によってできた右側縁部には微細剥離痕が認められる。これは石核としての機能を終了した後も、最終的にスクレイパーとして機能させていることを示唆する。B2ブロック出土。

46 黒曜石製で、小型の石核である。表面では、寸詰まりの縦長剥片を生産している。B1ブロック出土。

47 黒曜石製で、厚手でバルブの発達した横長剥片を素材としている。剥片生産は、背面を打面として右側面側で行われているが、生産された剥片は小型の横長剥片である。B2ブロック出土。

48 黒曜石製で、いわゆる箕子状の石核である。44のドリル、67の剥片が接合する。打面と作業面を頻りに転移させながら剥片生産を行っているが、剥離面の属性から生産された剥片は寸詰まりの縦長剥片か横長剥片であることが看取される。石核には右側面や左側面の縁辺部に調整加工が施されており、石核としての機能を終了した後も、エッジを作出してスクレイパーへと転化させていると考えられる。B3ブロック出土。

49 黒曜石製で、いわゆる箕子状の石核である。打面と作業面を頻りに転移させながら剥片生産を行っている。剥離面の属性を見る限り、寸詰まりの縦長剥片であることが看取される。B4ブロック出土。

石核素材 (第88図50)

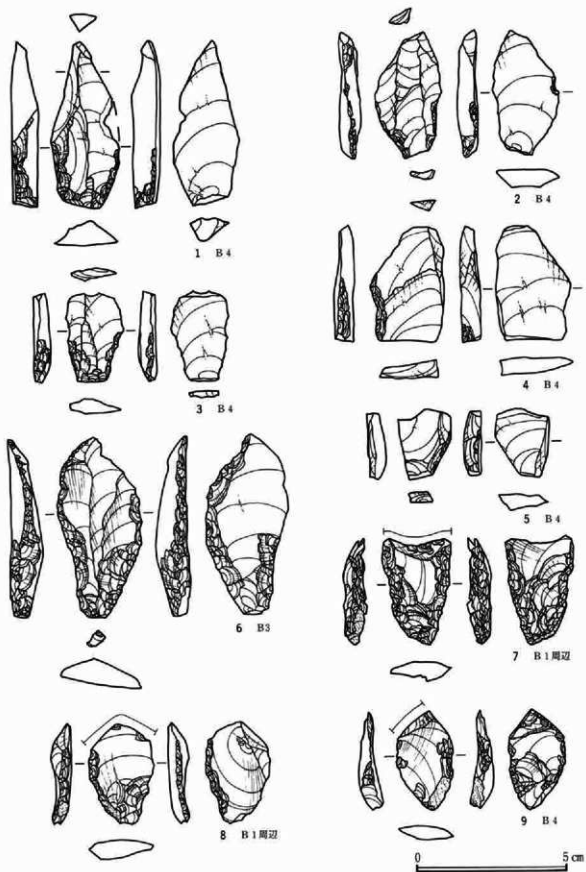
50 黒曜石製で、比較的小型の角礫を素材としている。右側面はポジティブ面で、個体分割面である。石核調整が自然面と個体分割面に施されているのみで、剥片生産は全く行っていない。上面には、割れ円錐が5ヶ所認められる。B2ブロック出土。

剥片 (第89図51～第92図85)

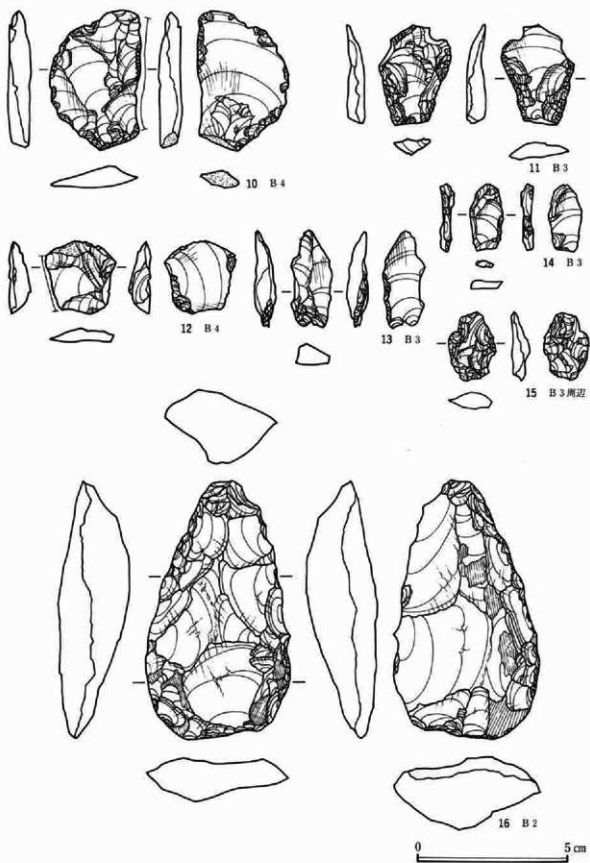
51は幅広い黒曜石製の縦長剥片で、剥離の際に破損した3点の接合資料から構成される。いずれもB2ブロック出土。52も黒曜石製の幅広い縦長剥片で、左右両側縁には微細剥離痕が認められる。B1ブロック出土。53～55は黒曜石製の縦長剥片で、53・54の背面には大きく自然面が残る。53・54はB2ブロック、55はB3ブロック出土。56は黒曜石製の縦長剥片で、下半部は欠損する。左右両側縁には微細剥離痕が認められ、特に左側縁の背面側で顕著である。B3ブロック出土。57は黒曜石製で、バルブが発達した寸詰まりの縦長剥片で、縁辺部に微細剥離痕が認められるが、特に左側縁の主要剥離面側に著しい。B4ブロック出土。58・60は黒曜石製の横長剥片で、共にB3ブロック出土。59・61・62・63は黒曜石製の縦長剥片で、61の左右両側縁、62の左側縁には微細剥離痕が認められる。59・61・62はB4ブロック、63はB2ブロック出土。64～69は黒曜石製の縦長剥片、横長剥片類で、64・69はB4ブロック、65はB1ブロック、66はB2ブロック、67・68はB3ブロック出土。70は黒色安山岩製の幅広い縦長剥片、B4ブロック出土。71も黒色安山岩製の縦長剥片で、背面構成を見ると同一打面から縦長剥片が連続して剥離されていることが看取される。B4ブロック出土。72は黒色安山岩製の縦長剥片で、原位置は不明。73は黒色安山岩製の厚手の横長剥片で、背面構成を見ると縦長剥片を2枚剥離している。B1ブロック出土。74は黒色安山岩製の横長剥片で、76と接合する。B3ブロック出土。75は厚手の寸詰まり縦長剥片で、B2ブロック出土。76～79は黒色安山岩製の縦長剥片である。77はB2ブロック、他はB3ブロック出土。80は黒色安山岩製の横長剥片で、右側縁と端部に折断面が見られる。B3ブロック出土。81は黒色安山岩製の縦長剥片で、B1ブロック出土。82は硬質泥岩製の縦長剥片で、B4ブロック出土。83はチャート製の寸詰まりの縦長剥片で、B2ブロック出土。84は安山岩製の縦長剥片であるが、風化が著しいため剥離面については不明な部分が多い。B2ブロック出土。85は硬質泥岩製の縦長剥片で、左右両側縁は折断されている。B4ブロック出土。

敲石 (第92図86)

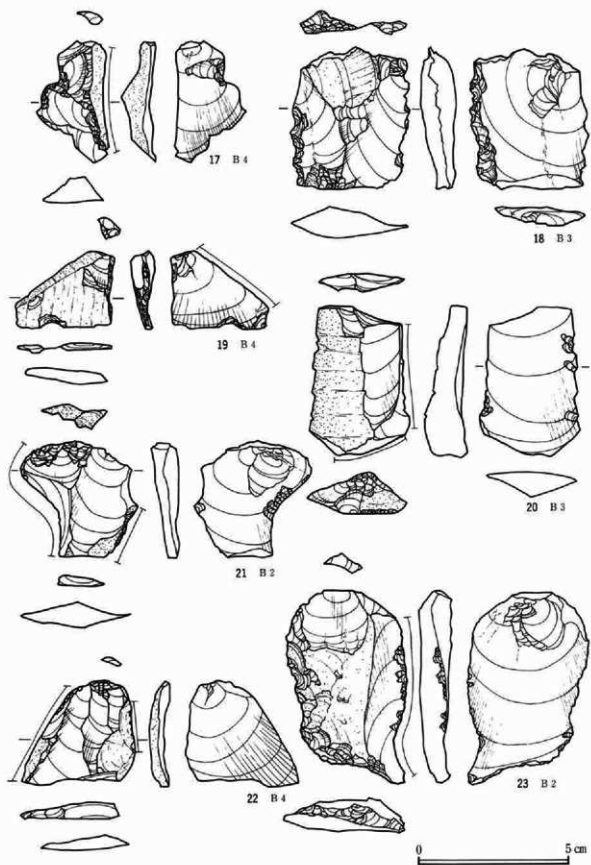
86 結晶片岩製で、扁平な亜角礫を素材とする。28のスクレイパーが接合する。敲打痕は上端部と下端部の両端部に認められる。上端部では敲打痕は顕著で、スクレイパーはこの際剥出された剥片を素材としている。一方、下端部ではそれほど顕著ではない。また、左右両側縁の中央部には調整加工によって抉りを入れて、器体を整形している。B2ブロック出土。



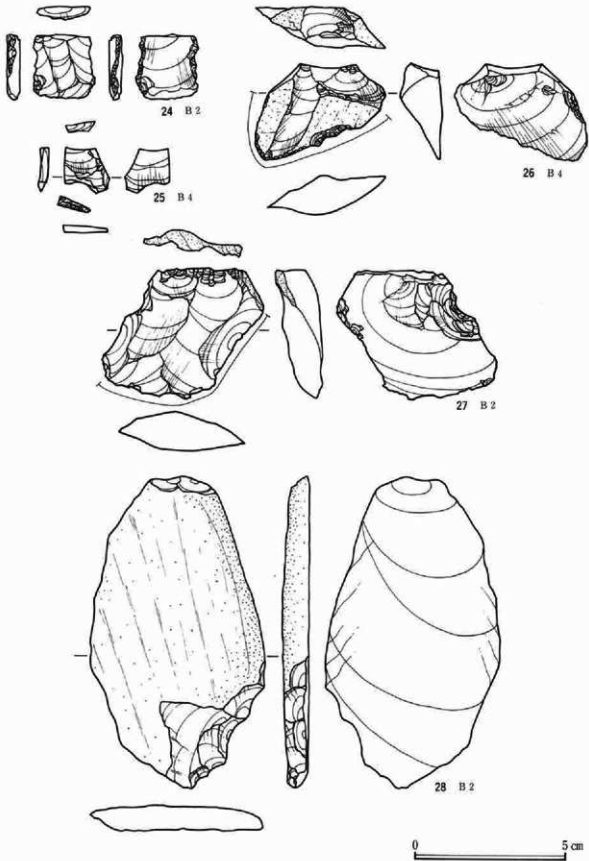
第82図 B区出土石器(ナイフ形石器、台形様石器)



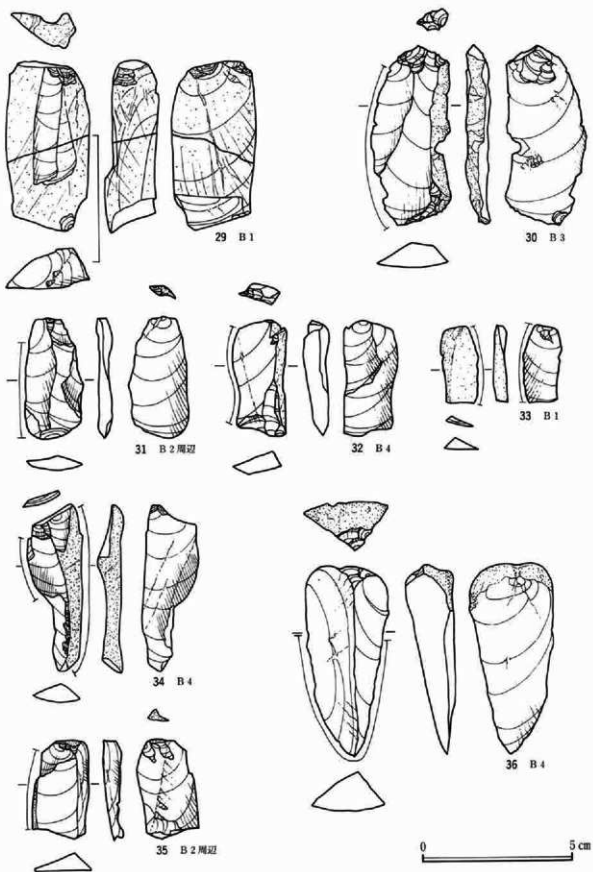
第83图 B区出土石器(台形核石器、局部磨製石斧)



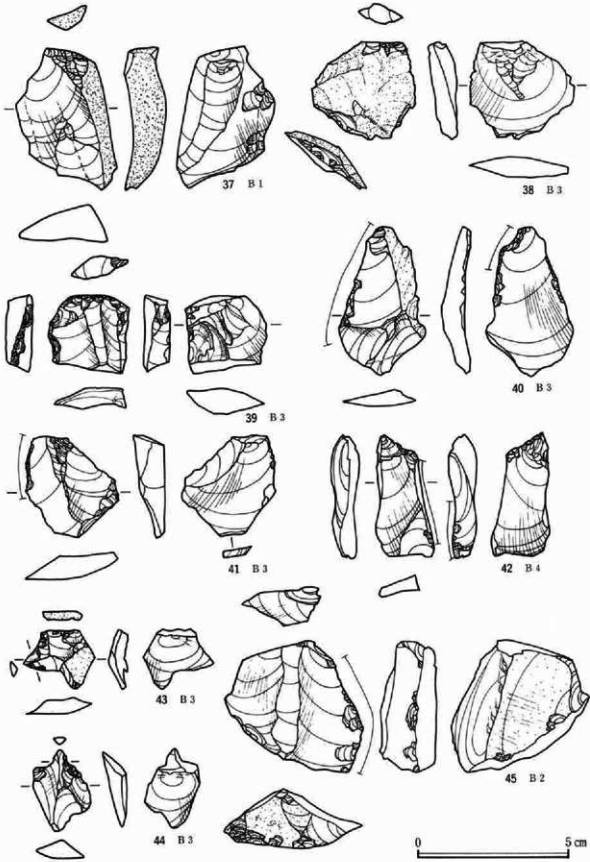
第84図 B区出土石器(スクレイバー)



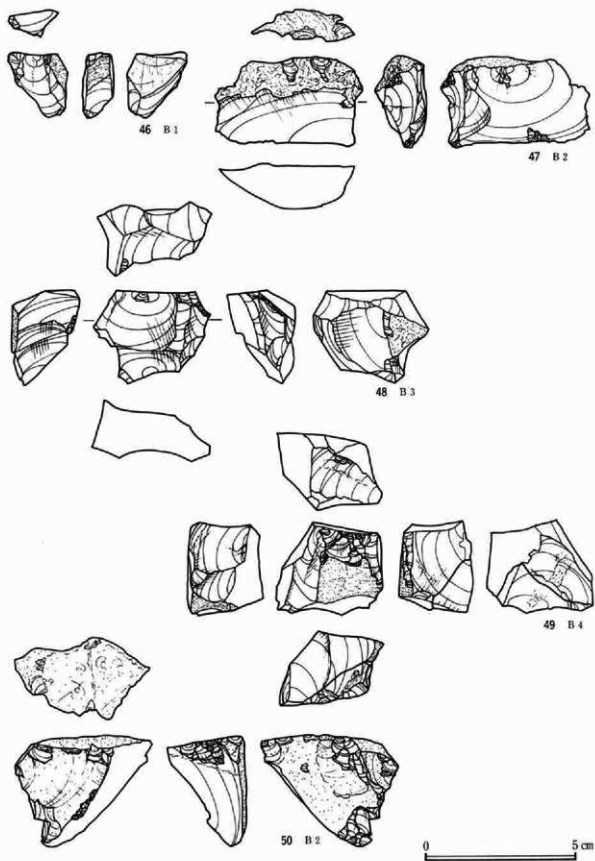
第85図 B区出土石器 (スクレイパー)



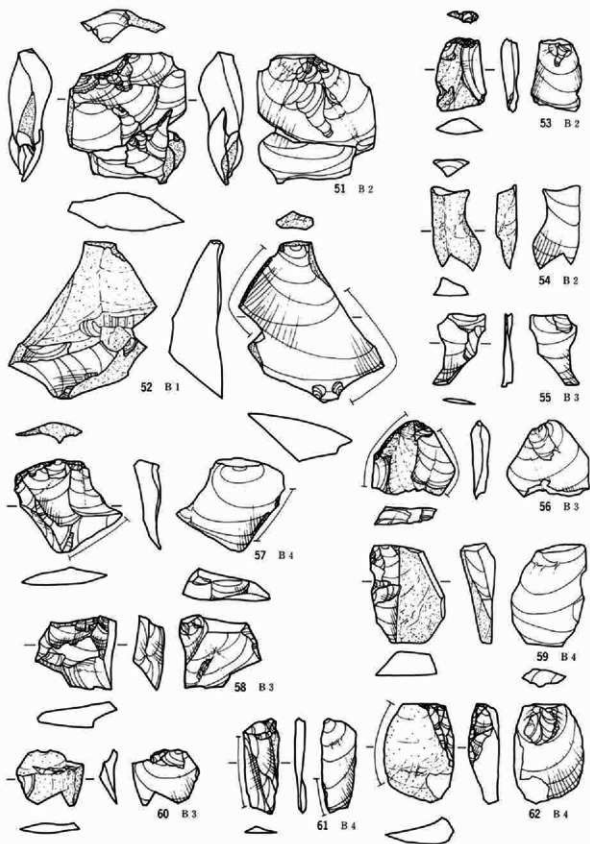
第86圖 B区出土石器(石刃)



第87図 B区出土石器(R剥片、ドリル、石核)



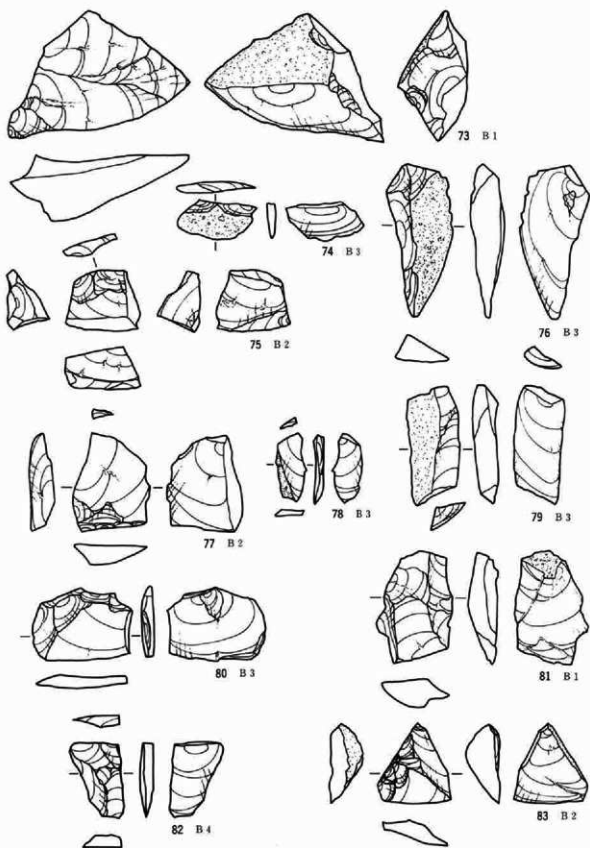
第88図 B区出土石器(石核、石核素材)



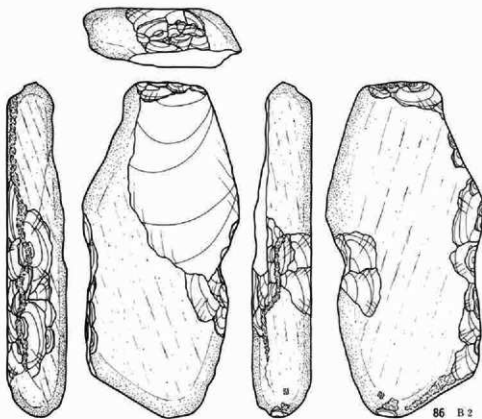
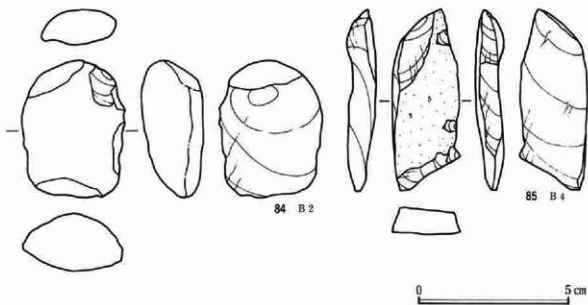
第89圖 B区出土石器(剝片)



第90図 B区出土石器(剝片)



第91圖 B区出土石器(剝片、碎片)



第92図 B区出土石器(剥片、敲石)

3 接合資料と剥片生産工程

B区から120点の石器が出土したが、このうち36点の石器に接合関係が認められた。接合率は約30%である。ここでは、各母岩別資料の接合資料毎に剥片生産工程を観察していく。なお、同時割れ等の接合資料についてはここでは省略した。

Ob-1 (第93図1・2)

石核1点とスクレイパー1点の接合資料である。1のスクレイパーの背面と2の石核の裏面及び底面には自然面が残ることから、偏平な角礫を素材としていることが理解される。接合資料から、次のように剥片生産を行っていることが看取される。1の剥離 → ○ → 打面再生 → ○ → 石核の廃棄。このように作業面を固定して打面再生を行って縦長剥片を剥離していることが看取される。石核は剥片生産終了後にスクレイパーに転化している。

Ob-5 (第93図3～第95図4)

Ob-5には(1)～(5)までの5例の接合資料が確認されたが、各接合資料間で接合関係を確認することはできなかった。次に各接合資料について観察していく。

Ob-5 (1) (第93図3～5)

石刃2点(接合後1点)、剥片4点(接合後2点)の計6点の接合資料で構成される。剥片生産は次のように行われる。3の石刃の剥離(中央部で横位に折断) → 打点を移動して4の剥離 → 打点を移動して5の剥離(剥離の際に3点に破損)。(1)では打面と作業面を固定して石刃、幅広縦長剥片を連続して生産していることが理解される。打面調整は施されていない。

Ob-5 (2) (第94図1～4)

スクレイパー1点、石刃1点、剥片2点の計4点の接合資料で構成される。剥片生産は次のように行われる。1の寸詰まりの縦長剥片の剥離 → 2の幅広縦長剥片の剥離(スクレイパー素材) → 3の石刃の剥離 → 4の縦長剥片の剥離。このように、(2)でも(1)と同様に打面と作業面を固定して石刃及び縦長剥片を連続して生産していることが理解される。また、これらの剥片生産に先行して、自然面を打面に設定して後形成のための作業面調整が施されている。打面調整は施されていない。

Ob-5 (3) (第94図5～7)

ドリル1点、石核1点、剥片2点(接合後1点)の計4点の接合資料である。剥片生産は次のように行われる。5の寸詰まりの縦長剥片の剥離(ドリル素材) → 90度打面転移して6の剥離(上半部は折断) → 石核の廃棄。(3)では接合資料と石核の背面構成から頻りに打面転移を繰り返しながら剥片生産を行っていることが理解される。

Ob-5 (4) (第95図1・2)

石刃1点と縦長剥片1点の接合資料である。剥片生産は次のように行われる。1の石刃の剥離 → 打点を移動して2の縦長剥片の剥離。背面も同一加撃方向の剥離痕で構成されており、(4)では打面と作業面を固定して、石刃及び縦長剥片を連続して生産していることが理解される。打面調整は施されていない。

Ob-5 (5) (第95図3・4)

剥片2点の接合資料である。3を剥離した後、打点を移動して4を剥離している。

このようにOb-5には、打面と作業面を固定して石刃あるいは縦長剥片を連続的に生産していることを

第3章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査

示す接合資料と、90度打面転移を頻繁に行いながら剥片生産を行っていることを示す接合資料の二者がある。これについては次のような二つの考え方ができる。①=母岩別資料分類を誤認し、別個の母岩別資料を同一のものとして帰属させている。②=実際に同一母岩別資料のなかで異なる剥片生産技術が共存する。①については確かに黒曜石の場合分類の難しさはあるが、石材属性を肉眼的に比較する限りでは明確な相違は見い出せなかった。やはり、同一母岩別資料として認識する方が妥当であり、ここでは②のように考えることとした。すなわち、縦長剥片(石刃)生産技術と90度打面転移を繰り返しながら不定形剥片を生産する技術が、剥片生産工程のなかでしかも時間差を持って使い分けられていると考えられる。すなわち、母岩の大きさがある程度保障される初期段階では、縦長剥片(石刃)生産技術が適用され、その後母岩(石核)が小さくなるにしたがって90度打面転移しながら剥片生産を行っているものと考えられる。実際、縦長剥片、石刃の接合資料である(1)・(2)・(4)ではいずれかに自然面が残っており、この考えを裏付ける。こうした技術共存現象は黒曜石という貴重石材を効率的に消費する方法であったと考えられる。また、これはOb-5だけではなく、他の黒曜石母岩にも適用されていた可能性があり、特に第86図30の自然面を残す石刃の存在は示唆的である。

Ob-6 (第95図5・6)

スクレイパー1点と剥片1点の接合資料である。5は6の主要剥離面側を打面に設定して剥離されている。6の剥離によって形成された縁辺部には微細剥離痕が残っている。5はスクレイパーエッジが作出されているが、この作出が5の剥離以前かどうかは判然としない。

GAn-8 (1) (第96図)

GAn-8には(1)~(3)の3例の接合資料があるが、各接合資料間で接合関係を確認することはできなかった。次に各接合資料での剥片生産について観察していく。

GAn-8 (1) (第96図1~3)

剥片3点の接合資料で、剥片生産は次のように行われる。1の寸詰まりの縦長剥片の剥離 → 打点を移動して2の寸詰まりの縦長剥片の剥離 → 3の縦長剥片。背面にも同一加撃方向の剥離面が残っており、(1)では打面と作業面を固定して、連続して縦長剥片を生産していることが理解される。

GAn-8 (2) (第96図4・5)

剥片3点の接合資料で、剥片生産は次のように行われる。4の幅広縦長剥片の剥離 → 打点を移動して幅広縦長剥片の剥離(右上部同時割れ)。(2)も(1)と同様に打面と作業面を固定して縦長剥片を連続して生産していることが理解される。

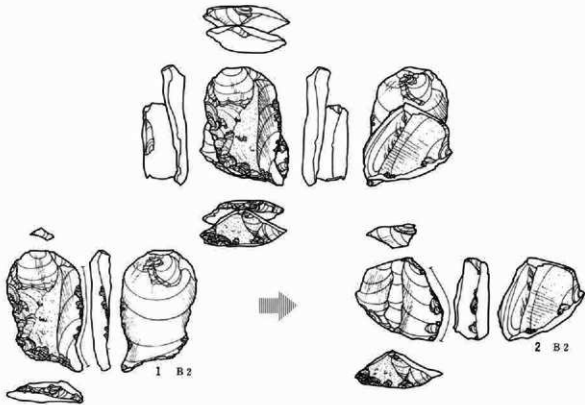
GAn-8 (3) (第96図6・7)

剥片2点の接合資料で、剥片生産は次のように行われる。6の小型の横長剥片の剥離 → 打点を移動して7の剥離。(3)も打面と作業面を固定して連続して剥離していることが理解される。

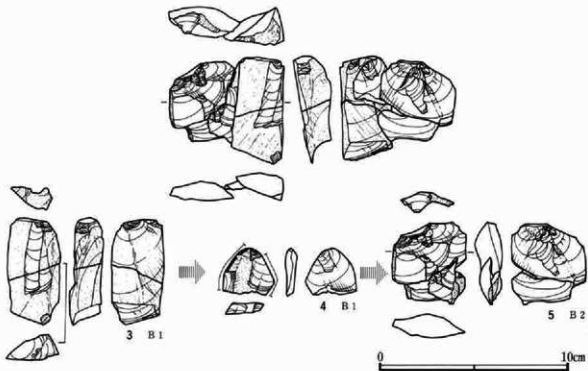
CS-1 (第97図)

スクレイパー1点と敲石1点の接合資料である。スクレイパーの素材となる縦長剥片は敲打の際に弾け飛んだものと考えられる。

Ob-2

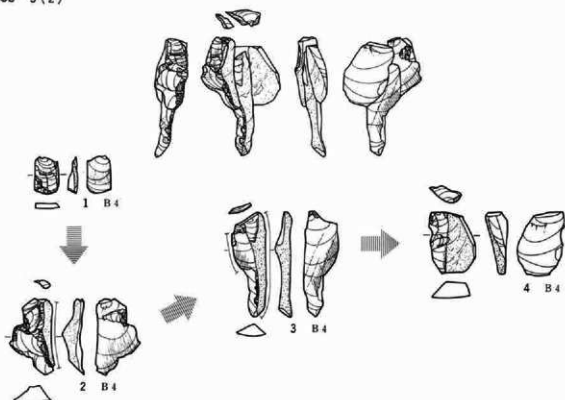


Ob-5(1)

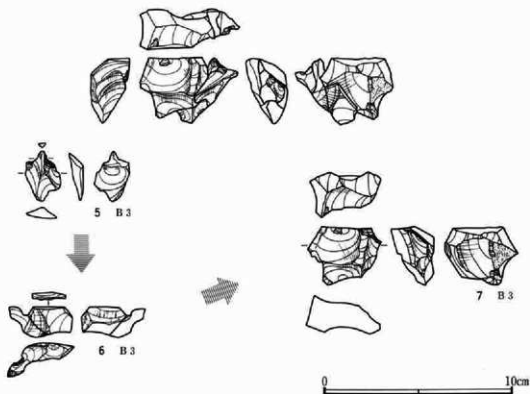


第93圖 B区接合資料 (Ob-2・5)

Ob-5 (2)

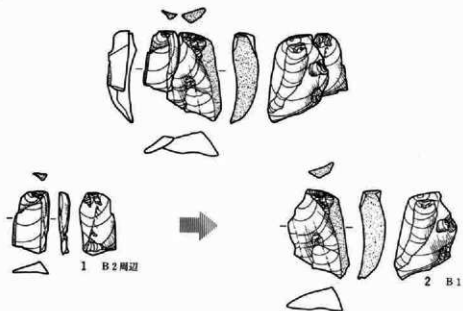


Ob-5 (3)



第94図 B区接合資料 (Ob-5)

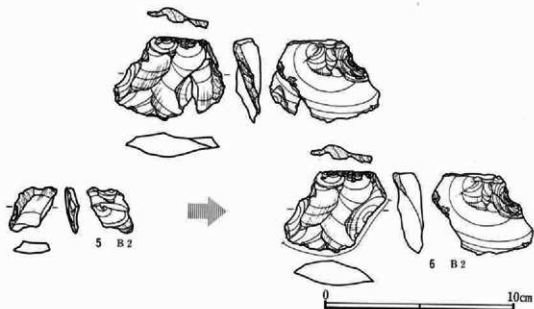
Ob-5 (4)



Ob-5 (5)

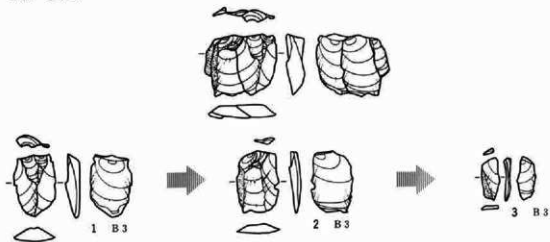


Ob-6

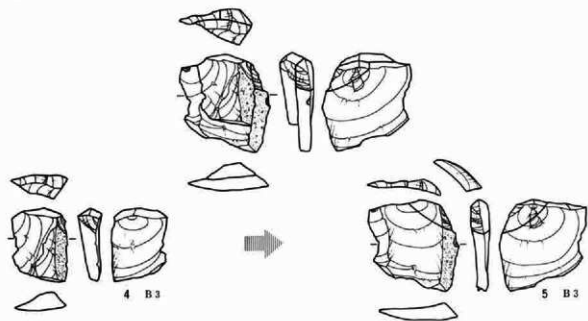


第95图 B区接合資料 (Ob-5・6)

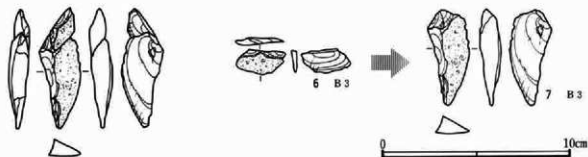
GAn-8 (1)



GAn-8 (2)

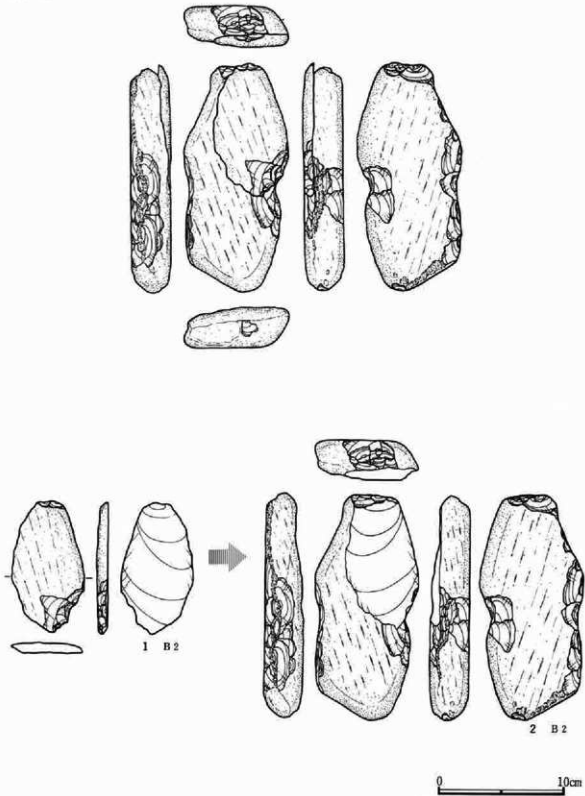


GAn-8 (3)



第96図 B区接合資料 (GAn-8)

CS-1



第97圖 B区接合資料 (CS-1)

4 ブロック

B区からは総数120点の石器群と2点の礫が出土した。石器群の分布状況は全体的に散漫ではあったが、B1・B2・B3・B4ブロックの4ヶ所のブロックを設定した(第98図)。これらのブロックは南北に平行して並んで中央部に空間部を持っている。かたちは明確な正円形を呈してはいないが、礫状ブロック群の範囲のなかで捉えられる。

B1ブロック(第99・100図)

調査区北東寄りの(28~30-35・36グリッド)に位置する。長径8.5m、短径4.4mの南北に長い楕円形を呈し、特に密集する部分はなく、散漫に分布している。総数14点の石器群から構成され、その内訳は二次加工のある剥片1点、石核1点、石刃3点、剥片6点、砕片3点である。B1ブロックでは他のブロックには分布している台形椀石器などのような定形石器はない(ただし、周辺に1点分布している)。母岩別にみると、Ob-1・5・6、GAn-7の4種類の母岩別資料で構成される。このうちOb-5が9点と最も多く、B2ブロックの北半部に分布している資料と接合関係を持っている。

B2ブロック(第101・102図)

調査区東南寄りの(30・31-36・37)グリッドに位置している。長径9.2m、短径5.0mの南北に長い楕円形を呈している。総数23点の石器群と1点の礫によって構成され、その内訳は局部磨製石斧1点、スクレイパー5点、石核3点、剥片11点、砕片2点、敲石1点である。局部磨製石斧や敲石などの大型の石器が分布している点に注意される。母岩別に見ると、Ob-1・2・3・5・6・7・8、GAn-5・8、An-1、Sl-1、Ch-1、CS-1の13種類の母岩別資料で構成される。数量的にはOb-5が6点で最も多く、これらはブロック北半部に偏在して分布している。B1ブロックと接合関係を持っている。他の母岩別資料はほとんど単独資料で、それらはブロック南半部に偏在して分布しており、Ob-5とは分布範囲が異なっている。

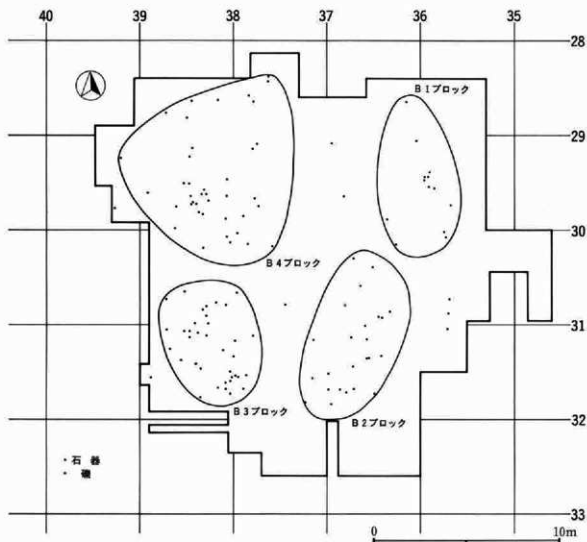
このように、B2ブロックでは台形椀石器のような比較的小型の石器の分布はなく、それとは対照的な局部磨製石斧や敲石などの大型で重量のある石器が分布している特徴がある。

B3ブロック(第103・104図)

調査区南西寄りの(30・31-37・38)グリッドに位置している。長径6.8m、短径5.2mの円形を呈している。総数36点の石器群から構成され、その内訳は台形椀石器4点、スクレイパー2点、ドリル2点、二次加工のある剥片4点、石核1点、石刃1点、剥片15点、砕片7点である。母岩別に見ると、Ob-4・5・6・8、GAn-8の5種類の母岩別資料で構成される。数量的にはOb-5が18点で最も多く、ブロック北西部に偏在して分布している。次いでGAn-8が13点で多く、ブロック南東部に集中して分布している。他はほとんど単独の資料である。Ob-5とGAn-8は共に同一母岩別資料が複数ブロックに分布しているが、接合関係はブロック内で収束しており、ブロック間では認められない。Ob-5はブロック北半部に分布しているが、GAn-8はブロック南端部に偏在しており、分布範囲は互いに重複していない。

B4ブロック(第105・106図)

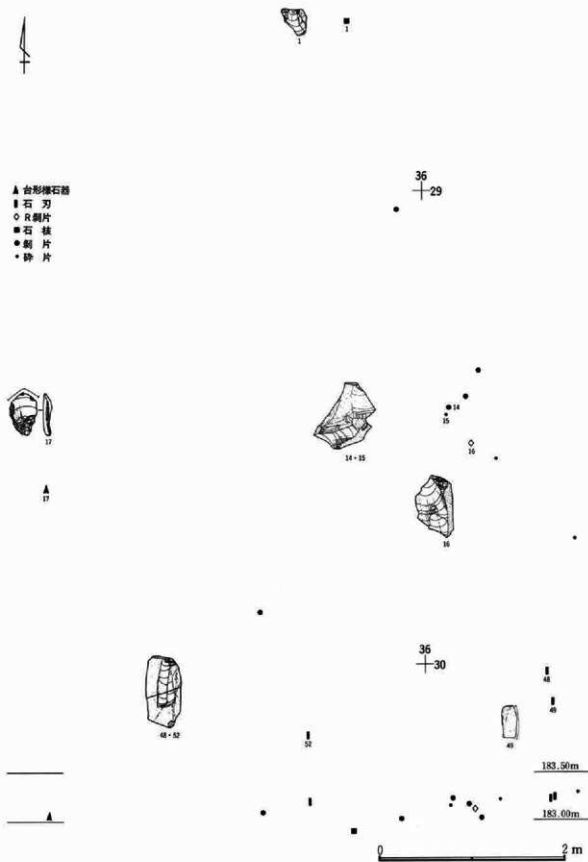
調査区北西よりの(28~30-37~39)グリッドに位置している。長径10.4m、短径9.5mの不整形円形を呈している。総数40点の石器群から構成される。その内訳はナイフ形石器5点、台形椀石器3点、スクレイパー



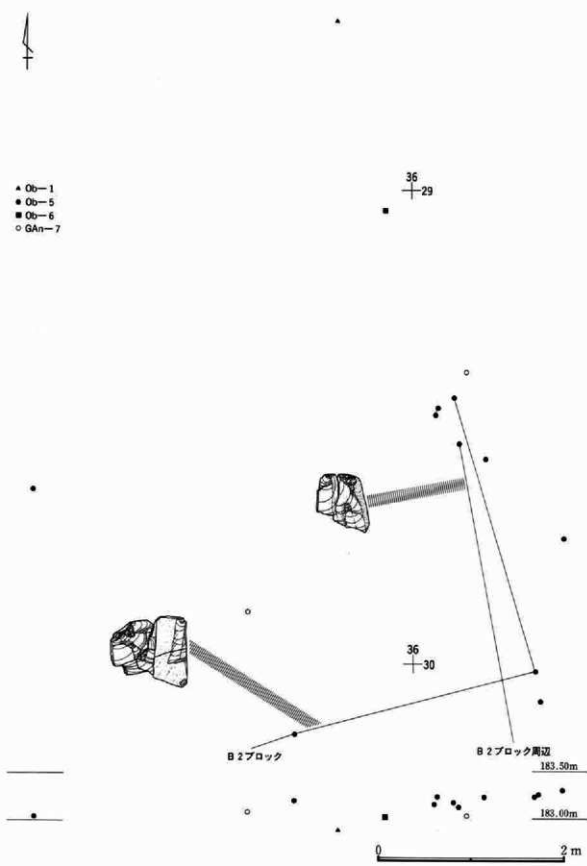
第98図 B区ブロック設定図

5点、二次加工のある剥片1点、石核1点、石刃3点、剥片11点、碎片11点である。母岩別に見ると、Ob-5・6・7・8、GAn-1・2・3・4・6・7・8、HM5-1・2の13種類の母岩別資料で構成される。数量的にはOb-5が24点で最も多く、他はほとんど単独の資料である。接合関係はブロック内で収束している。また、他のブロックには全く分布していないナイフ形石器が本ブロックのみに4点まとまって、しかも南東部に偏在して分布している。また、石刃も3点と他のブロックより多く分布していることは石刃素材のナイフ形石器の分布状況とあわせて注意される。

第3章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査

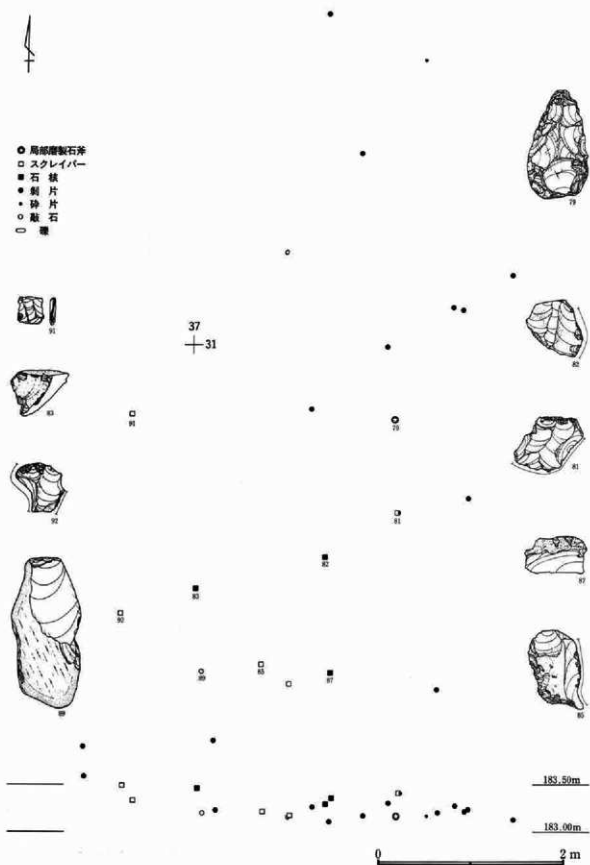


第99図 B1ブロック器種別石器分布図



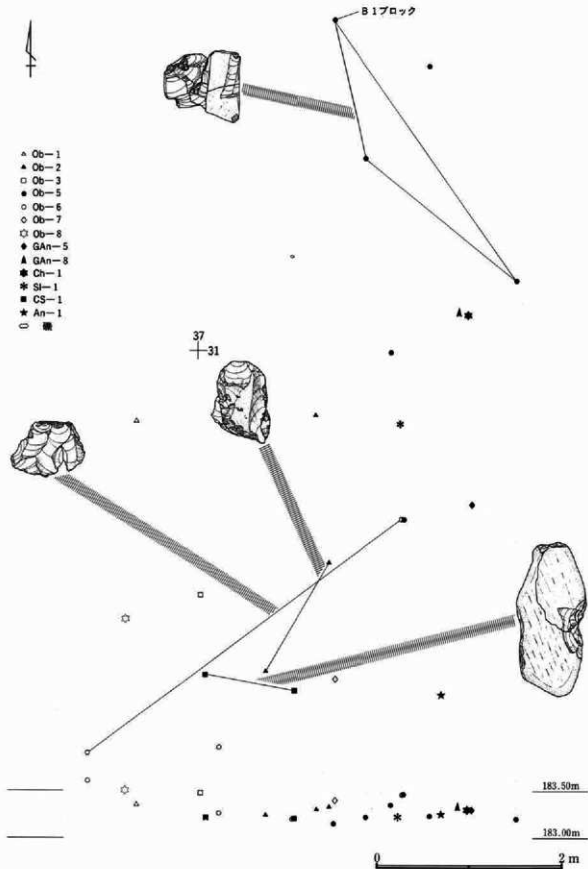
第100図 B1ブロック母岩別石器分布図

第3章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査

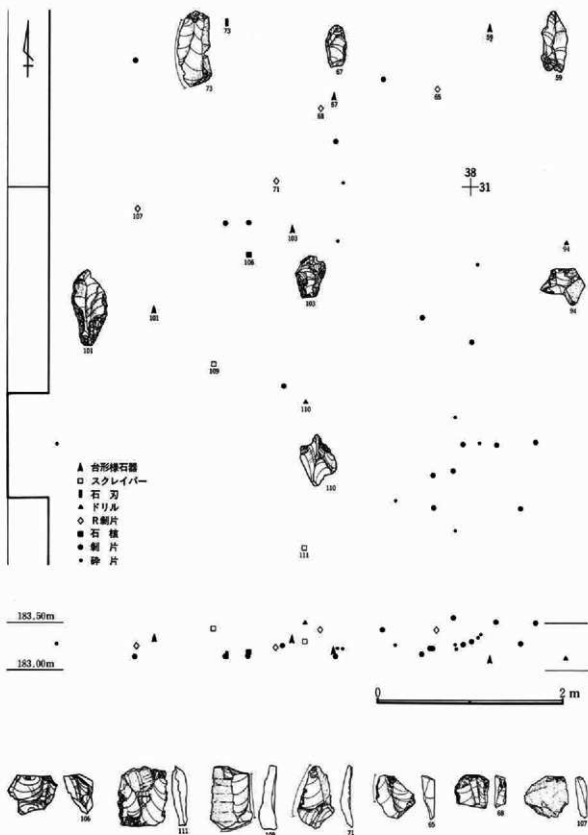


第101図 B2ブロック器種別石器分布図

第2節 白倉下原遺跡B区

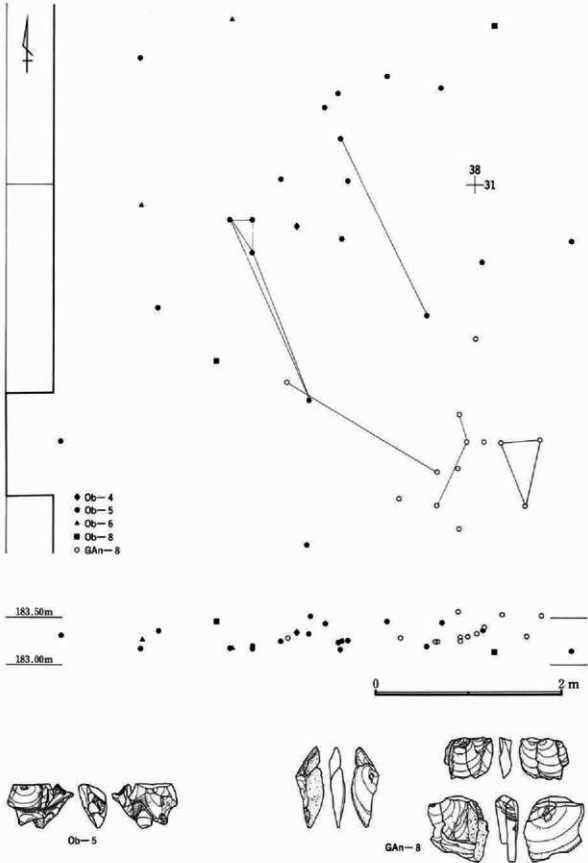


第102図 B2ブロック母岩別石器分布図



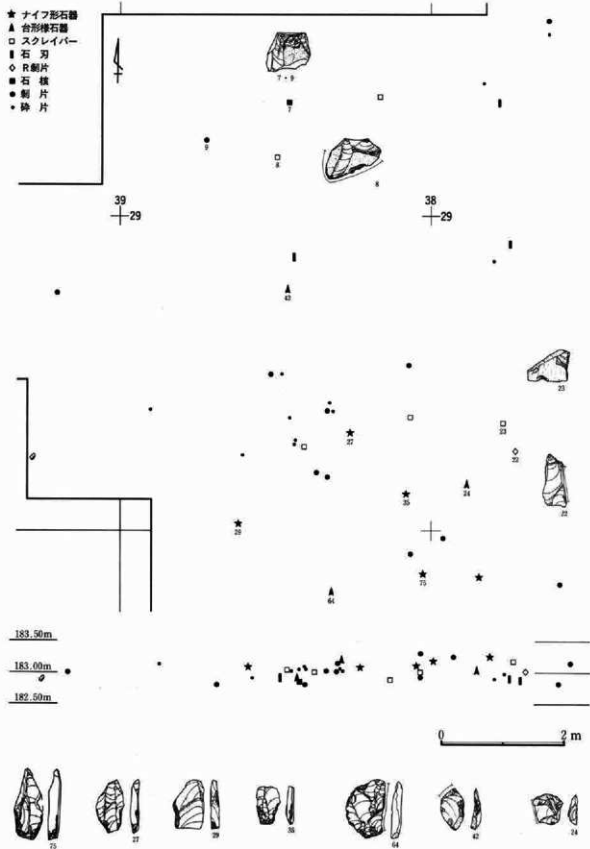
第103図 B3ブロック器種別石器分布図

第2節 白倉下原遺跡B区

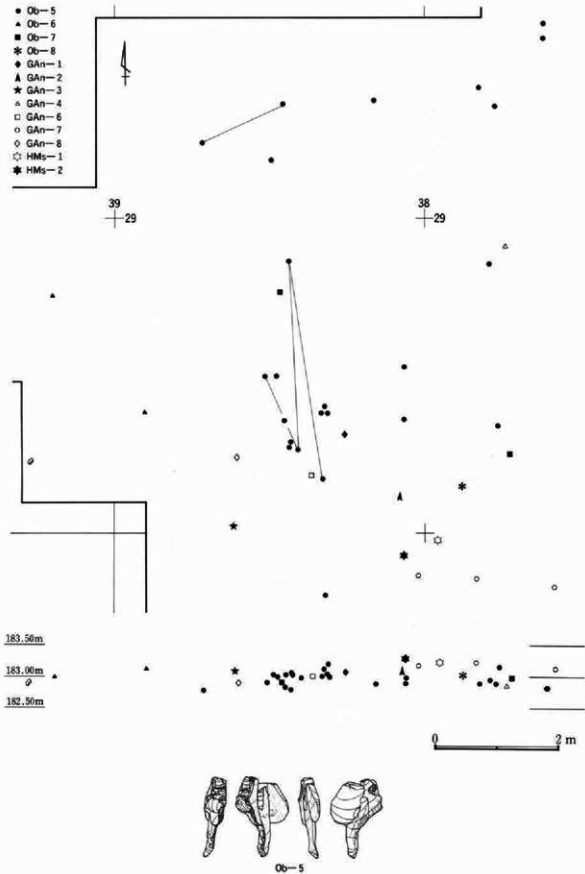


第104図 B3ブロック母岩石膏分布図

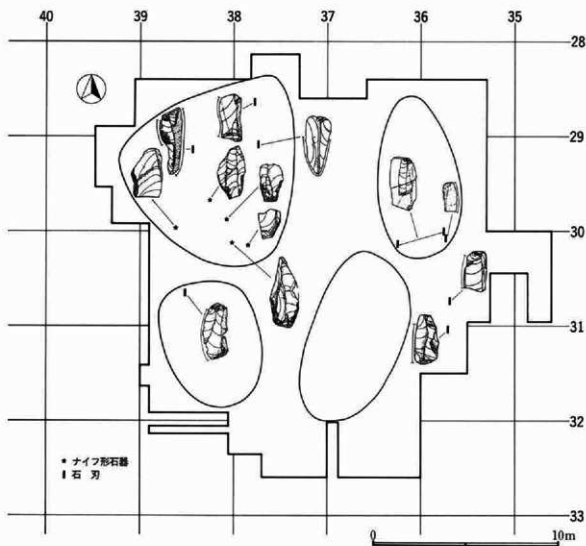
第3章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査



第105図 B4ブロック器種別石器分布図



第106図 B 4 ブロック母岩別石器分布図



第107図 器種別石器分布全体図（ナイフ形石器、石刃）

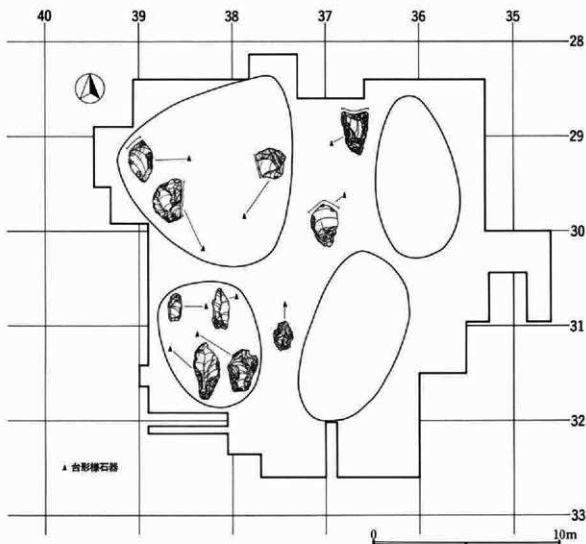
5 器種別石器分布

ナイフ形石器（第107図）

5点が出土している。5点ともB4ブロックに分布し、そのなかでも特にブロック南半部に集中している。いずれも黒色安山岩製で、遺跡外からの搬入品であること、しかも石刃もしくは縦長剝片を素材としていることは注意される。これらが分布する範囲には台形様石器が3点分布している。なお、白倉下原遺跡B区の石材組成の主体は黒曜石であるが、B区からは黒曜石製のナイフ形石器は出土しなかった。

石刃（第107図）

9点が出土している。詳細についてはB1ブロックに3点、B3ブロックに1点、B4ブロックに3点、B2ブロック周辺に2点である。石材はB4ブロックに分布する1点が黒色安山岩製である以外はすべて黒曜石製である。B4ブロックでは3点と他のブロックより若干多く分布しているが、このブロックに分布する石刃素材のナイフ形石器との分布状況も併せて注意する必要がある。



第108図 器種別石器分布全体図（台形棒石器）

台形棒石器（第108図）

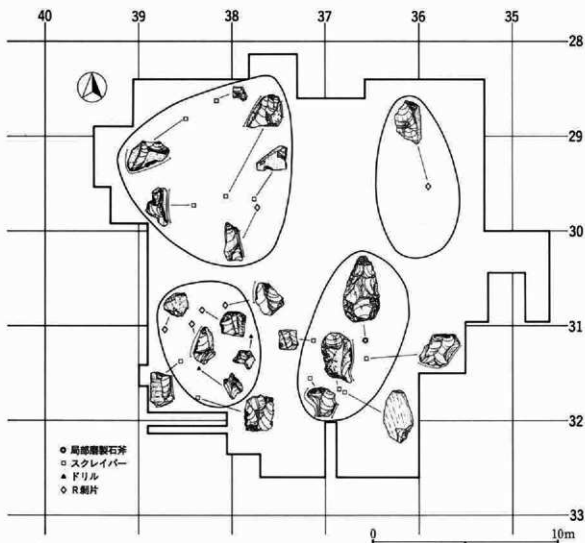
10点が出土している。その詳細についてはB3ブロック4点、B4ブロックに3点、B1ブロック周辺に2点、B3ブロック周辺に1点であり、B1ブロック、B2ブロックには分布していない。ナイフ形石器の分布のように特に一部に集中することはないが、全体的にみると環状ブロック群の西半部に偏在して分布していることが看取される。なお、台形棒石器はすべて石材に黒曜石を用いており、ナイフ形石器が黒色安山岩を用いていることと全く対照的である。

局部磨製石斧（第109図）

粘板岩製の1点が出土しており、B2ブロック中央部に分布している。大型石器の敲石と同一ブロックに分布している点は注意される。

スクレイパー（第109図）

12点が出土している。その詳細については、B2ブロックが5点、B3ブロックが2点、B4ブロックが



第109図 器種別石器分布全体図（局部磨製石斧、スクレイパー、ドリル、R剥片）

5点で、B 1ブロックには分布していない。

ドリル（第109図）

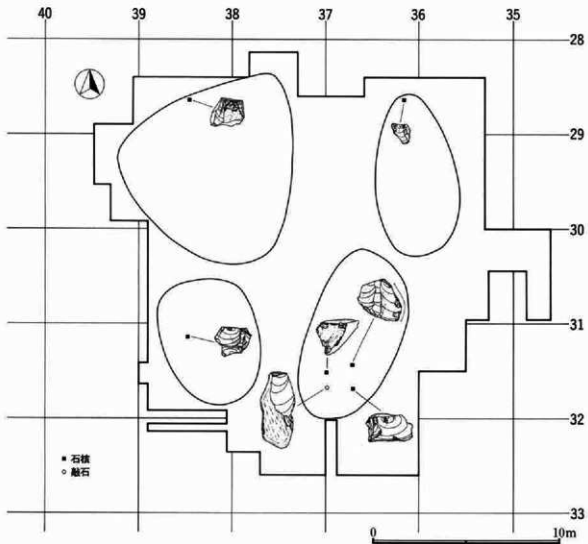
2点出土している。いずれも黒曜石製でB 3ブロックに分布している。1点については同一ブロック内から出土した石核と接合関係を持っている。

二次加工のある剥片（第109図）

6点出土しており、いずれも黒曜石製である。その詳細についてはB 1ブロックに1点、B 3ブロックに4点、B 4ブロックに1点で、B 2ブロックには分布していない。

石核（第110図）

6点が出土している。その詳細についてはB 1ブロックに1点、B 2ブロックに3点、B 3ブロックに1点、B 4ブロックに1点で、各ブロックに分布が認められる。B 1ブロックではブロック北端部に分布して



第110図 器種別石器分布全体図(石核、敲石)

いる。B 2ブロックではブロック南半部に集中し、Ob-2については同一ブロックに分布するスクレイパーと接合関係を持ち、Ob-3については剥片生産を行う前段階の石核素材の状態で廃棄されている。B 3ブロックでは、Ob-5が同一ブロックに分布しているドリルと接合関係を持っている。B 4ブロックではブロック北端部に分布している。

敲石(第110図)

結晶片岩製の1点が出土している。B 2ブロックに分布している。同一ブロック内に分布するスクレイパーと接合関係を持っている。

6 母岩別資料の構成と分布・接合関係

白倉下原遺跡B区からは120点の石器が出土したが、それらは22種類の母岩別資料に分類された。その内訳は黒曜石が8母岩、黒色安山岩が8母岩、安山岩が1母岩、粘板岩が1母岩、チャートが1母岩、硬質泥岩が2母岩、結晶片岩が1母岩である。

Ob-1 (第112図)

スクレイパー1点、石核1点の2点の資料で構成される。石核はB1ブロック、スクレイパーはB2ブロックに分布している。接合関係は確認できなかった。

Ob-2 (第112図)

スクレイパー1点、石核1点、剥片1点の計3点の資料から構成され、いずれもB2ブロックの南半部に分布している。スクレイパーと石核が接合関係をもつが、その距離は1.5m程である。

Ob-3 (第112図)

石核素材1点のみの単独資料で、剥片生産を展開することなく廃棄されている。B2ブロックの南半部に分布している。

Ob-4 (第112図)

台形様石器1点のみの単独資料で、遺跡外からの搬入品である。B3ブロックの中央部に分布している。

Ob-5 (第113図)

台形様石器5点、スクレイパー6点、ドリル2点、二次加工のある剥片4点、石核2点、石刃7点、剥片18点、砕片18点の計62点の資料によって構成される。最も資料数の多い母岩別資料である。B1ブロックからB4ブロックの全ブロックに分布している。分布状況を見ると、各ブロックとも特定の範囲に集中して分布することはなく、散漫に分布している。

Ob-5には(1)～(5)の5例の接合資料があり、次のように分布している。

- (1)はB1ブロック南半部とB2ブロック北半部に分布し、このブロック間で接合関係を持っている。3の石刃はB1ブロックに分布している。
 - (2)は石刃を含む縦長剥片を連続して剥離した接合資料で、B4ブロックに分布し、そのなかでもブロック中央部の(29-38)グリッドに集中しており、接合関係はこの範囲で収束する。B4ブロックには黒色安山岩製の石刃素材のナイフ形石器が分布している。分布範囲は(2)の接合資料の方が若干北西部にあり、互いに重複していない。
 - (3)はB3ブロックに分布し、ブロック西寄りの(31-38)グリッドに集中している。
 - (4)は石刃と縦長剥片の接合資料でB1ブロックの南半部とB2ブロック周辺に分布している。接合距離は6m程である。
 - (5)は剥片2点の接合資料で、共にB3ブロックの中央部に分布している。
- このように、Ob-5は全ブロックに分布していることが確認された。数量的にはB1ブロックに9点、B2ブロックに6点、B3ブロックに18点、B4ブロックに24点が分布しているが、特定のブロックに偏在す

るほどではない。接合関係はB1とB2ブロック間で認められる他は、ブロック内で収束している。

Ob-6 (第114図)

スクレイパー1点、二次加工のある剥片1点、石刃1点、剥片4点、碎片2点の計9点の資料で構成される。B1ブロックに1点、B2ブロックとその周辺に4点、B3ブロックに2点、B4ブロックに2点が分布している。スクレイパーと剥片の接合関係が1例あり、B2ブロック内で収束している。

Ob-7 (第114図)

台形椽石器2点、二次加工のある剥片1点、石核1点の計4点の資料で構成される。台形椽石器はB1ブロック周辺に1点、B4ブロックに1点が分布している。二次加工のある剥片はB4ブロック、石核はB2ブロックに分布している。接合関係は確認できなかった。台形椽石器は遺跡外から搬入品と考えられる。

Ob-8 (第114図)

台形椽石器2点、スクレイパー2点の計4点の資料で構成される。台形椽石器はB3ブロックに1点、B4ブロックに1点が分布している。スクレイパーはB2ブロックに1点、B3ブロックに1点が分布している。接合関係は確認できなかった。台形椽石器、スクレイパーはいずれも遺跡外からの搬入品と考えられる。

GAn-1 (第115図)

ナイフ形石器1点のみの単独資料で、遺跡外からの搬入品である。B4ブロックに分布している。

GAn-2 (第115図)

ナイフ形石器1点のみの単独資料で、遺跡外からの搬入品である。B4ブロックに分布している。

GAn-3 (第115図)

ナイフ形石器1点のみの単独資料で、遺跡外からの搬入品である。B4ブロックに分布している。

GAn-4 (第115図)

石刃1点のみの単独資料で、遺跡外からの搬入品である。B4ブロックに分布している。

GAn-5 (第115図)

剥片1点のみの単独資料で、遺跡外からの搬入品である。B2ブロックに分布している。

GAn-6 (第115図)

剥片1点のみの単独資料で、遺跡外からの搬入品である。B4ブロックに分布している。

GAn-7 (第116図)

ナイフ形石器2点、剥片4点の計6点の資料で構成される。B1ブロックに2点、B4ブロックに3点、ブロック外に1点が分布している。ナイフ形石器は共にB4ブロックに分布している。接合関係は確認でき

第3章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査

なかった。ナイフ形石器、剥片は共に遺跡外からの搬入品と考えられる。

GAn-8 (第116図)

剥片10点、砕片5点の計15点の資料で構成される。黒色安山岩の母岩別資料のなかでは最も資料数が多い。B2ブロックに1点、B3ブロックに13点、B4ブロックに1点が分布している。分布の主体はB3ブロックにあるが、そのなかでもブロック南端部の(31-37・38)グリッド内の2×2mの範囲内に集中して分布している。Ob-5の分布範囲とは重複していない。接合資料は3例あるが、いずれもB3ブロック内で収束している。

An-1 (第117図)

剥片1点のみの単独資料で、B2ブロックに分布している。

SI-1 (第117図)

局部磨製石斧1点のみの単独資料で、遺跡外での製作後に搬入して廃棄されている。B2ブロックに分布している。刃部研磨痕を切って打製の刃部再生が行われているが、単独資料であることからこの作業は遺跡外で行われたことが理解される。B2ブロックには敲石も分布しており、本石器を含めて大型で重量のある石器が分布している特徴がある。

HMs-1 (第117図)

剥片1点のみの単独資料で、遺跡外からの搬入品である。B4ブロックに分布している。

HMs-2 (第117図)

剥片1点のみの単独資料で、遺跡外からの搬入品である。B4ブロックに分布している。

Ch-1 (第117図)

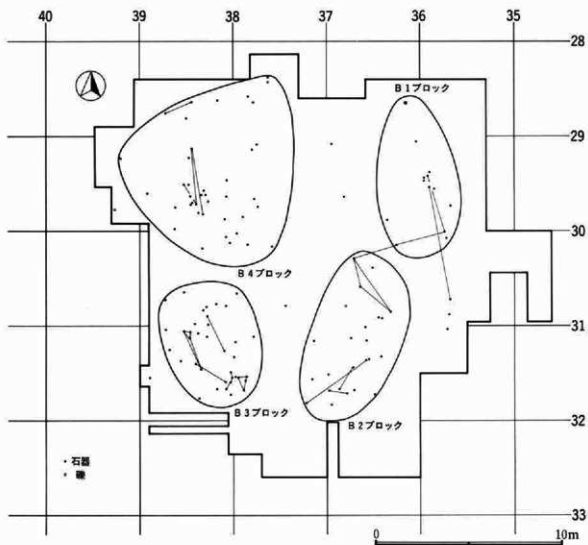
剥片1点のみの単独資料で、遺跡外からの搬入品である。B2ブロックに分布している。

CS-1 (第117図)

スクレイパー1点、敲石1点の計2点の資料で構成される。2点ともB2ブロックに分布し、接合関係を持っている。スクレイパーは敲石の敲打の際に弾け飛んだ剥片を素材としていると考えられるが、接合距離は1m程度である。

このように、B区では22種類の母岩別資料が確認されたが、半数以上の13の母岩別資料が単独の資料であった。これらの単独の母岩別資料は遺跡外から搬入されたものである。また、他の複数資料で構成される母岩別資料も、Ob-5やGAn-8を除けば、すべて10点未満の資料数しか持っていない。

例えば、Ob-1・2やGAn-7のように複数資料で構成される母岩別資料も、遺跡内で石器製作作業が展開された痕跡をもつものは少なく、遺跡外で剥片生産・器種製作を含めた石器製作作業を展開した後で搬入されたものと考えられる。つまり、遺跡内で石器製作作業が展開された母岩別資料はOb-5・6とGAn-8

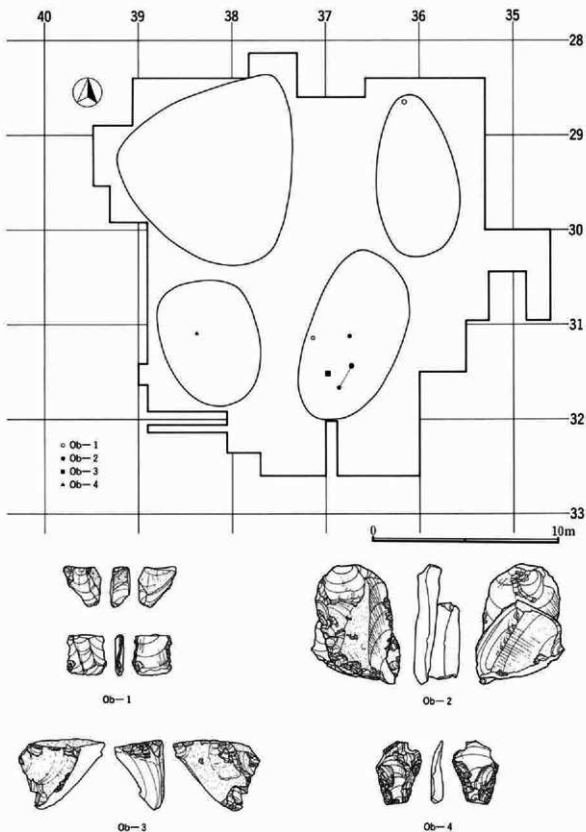


第111図 B区接合関係全体図

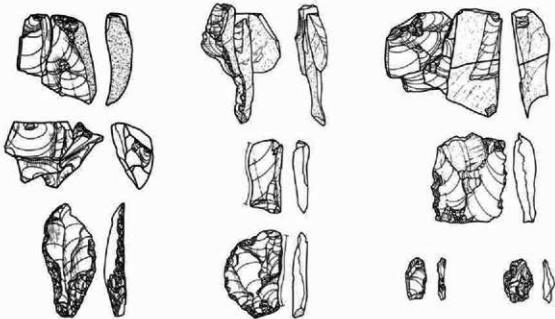
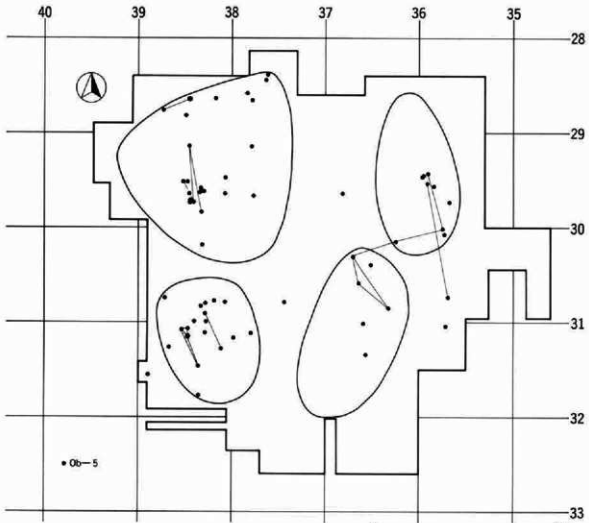
の3種類の母岩別資料に限定されるのである。このうち、Ob-6は1点剥片生産が行われているのみで、またGAn-8も比較的小規模な剥片生産作業である。白倉下原遺跡B区において、石器製作作業に充当された母岩はOb-5に偏っていることが理解される。しかも、Ob-5の分布状況を見ると、特定のブロックに偏在することなく、全ブロックに亘っていることが看取された。このことは石材の消費パターンを考えていくうえで、非常に示唆的である。

また、B区では黒曜石が8母岩別資料、黒色安山岩が8母岩別資料と母岩数的には同数である。数量的には前者が86点、後者が27点と黒曜石が主体を占めており、B区では黒曜石を中心に石器製作作業が行われたことを示している。しかし、これは視点を変えると、移動前遺跡では母岩数の比率は同様であるが、石器製作作業にはB区とは対照的に黒色安山岩が主体を占めていたことを想起させる。

第3章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査

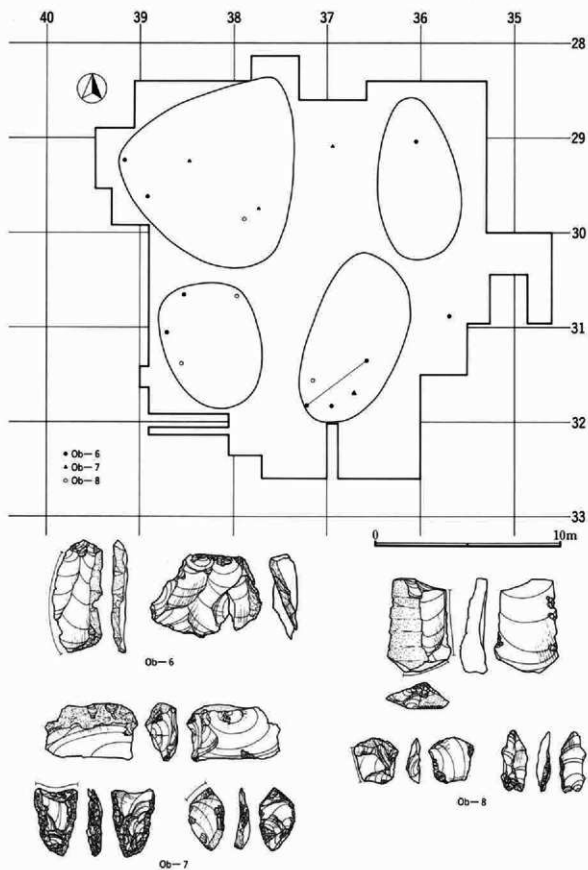


第112図 母岩別石器分布全体図 (Ob-1・2・3・4)

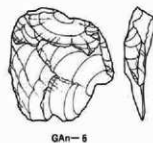
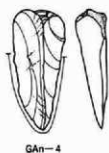
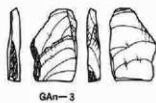
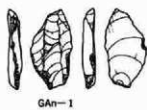
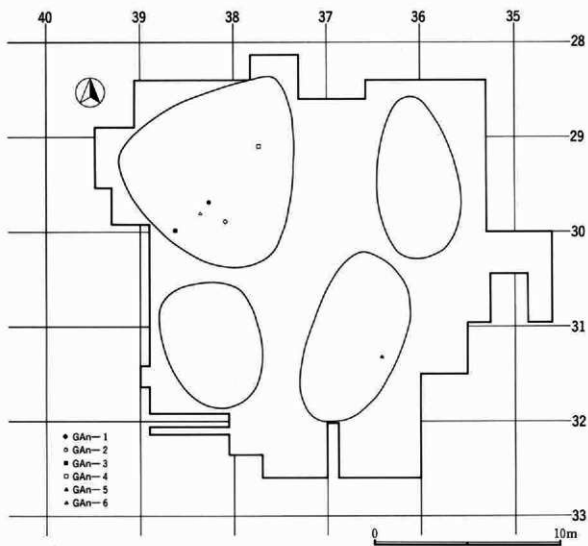


第113圖 母岩別石器分布全体圖 (Ob-5)

第3章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査

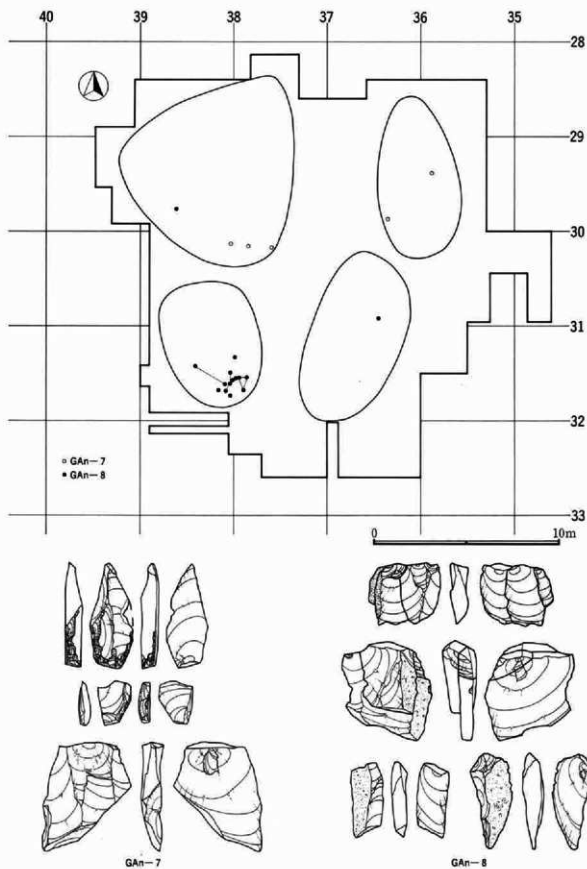


第114図 母岩別石器分布全体図 (Ob-6・7・8)

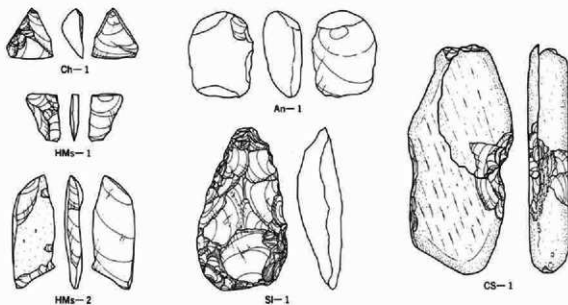
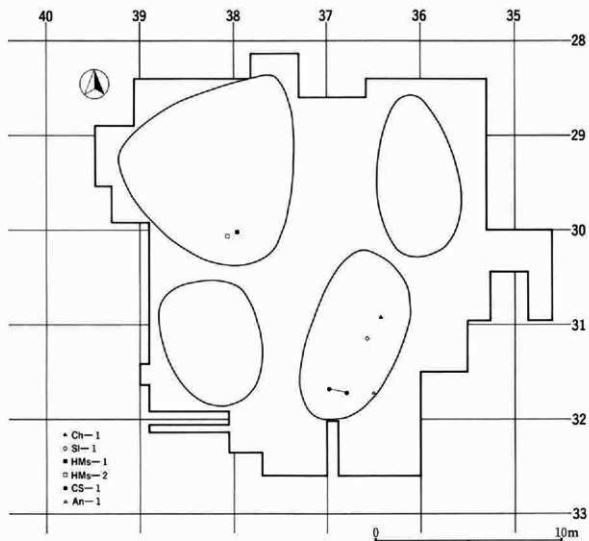


第115図 母岩別石器分布全体図 (GAn-1・2・3・4・5・6)

第3章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査



第116図 母岩別石器分布全体図 (GAn-7・8)



第117圖 母岩別石器分布全体圖 (Ch-1、SI-1、HMs-1・2、CS-1、An-1)

7 その他の旧石器時代の石器

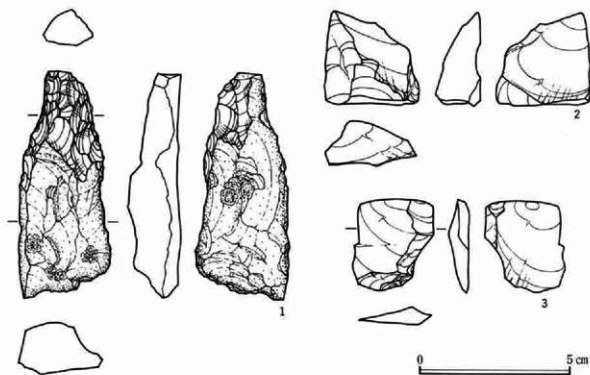
B区では、縄文時代以降の遺構覆土や表土から、次に述べる旧石器時代に帰属する可能性の大きい石器が出土している。

槍先形尖頭器 (第118図1)

黒曜石製で、槍先形尖頭器の未製品である。偏平で棒状の原石を素材とし、直接平坦な調整加工を施して器種製作を行っている。調整加工は素材上半部のみ限定され、途中完成に至らずに廃棄されている。先端部には自然面が面的に残っている。素材となる原石は角礫で、いわゆるズリである。縄文時代以降の遺構覆土からの出土で、周辺部のローム層中に当該石器が帰属する文化層があると考えて調査したが、関連する石器類は全く出土しなかった。

剥片 (第118図2・3)

2は黒色安山岩製の厚手の幅広縦長剥片である。3は黒色安山岩製の比較的薄手の幅広縦長剥片である。2点とも縄文時代以降の遺構覆土からの出土で、縄文時代に帰属する石器に比較して著しく風化の進行したものをここに取り上げてみた。



第118図 B区表土出土石器

第3節 白倉下原遺跡C区

1 概要

白倉下原遺跡C区は遺跡西端部に立地する。西側は白倉川によって開析された低地部が広がっており、C区はこれに向かって緩やかに傾斜する台地である。

C区からは3点の石器が出土した。出土地点はB区の出土地点よりも小支谷を挟んで西に130mの程の部分で、谷頭部から50m程西側の地点である。出土層位は暗褐色粘土層の上部で、AT付近である。

2 石器

C区からは3点の石器が出土した。いずれも黒曜石製であるが、母岩別資料はそれぞれ異なる。

台形棒石器（第120図1）

1 黒曜石製で、縦長剥片を素材とし調整加工は左側縁と背面に施されている。前者では、基部でブランディングで上半部で連続する微細な調整加工である。一方後者では、旧作業面である右側縁のナチュラルバックを打面として平坦な調整加工が施されている。刃部には微細刺離痕が認められる。

剥片（第120図2・3）

- 2 黒曜石製で、厚手に横長剥片である。端部には微細刺離痕が連続して認められるが、特に主要剥離面側の中央部では比較的大きめのものが連続する。
- 3 黒曜石製で、寸詰りの縦長剥片である。端部には微細刺離痕が認められる。

3 その他の旧石器時代の石器

C区では表土及び縄文時代以降の遺構覆土等から、次に示すような旧石器時代に帰属すると考えられる4点の石器が出土した。

ナイフ形石器（第121図4）

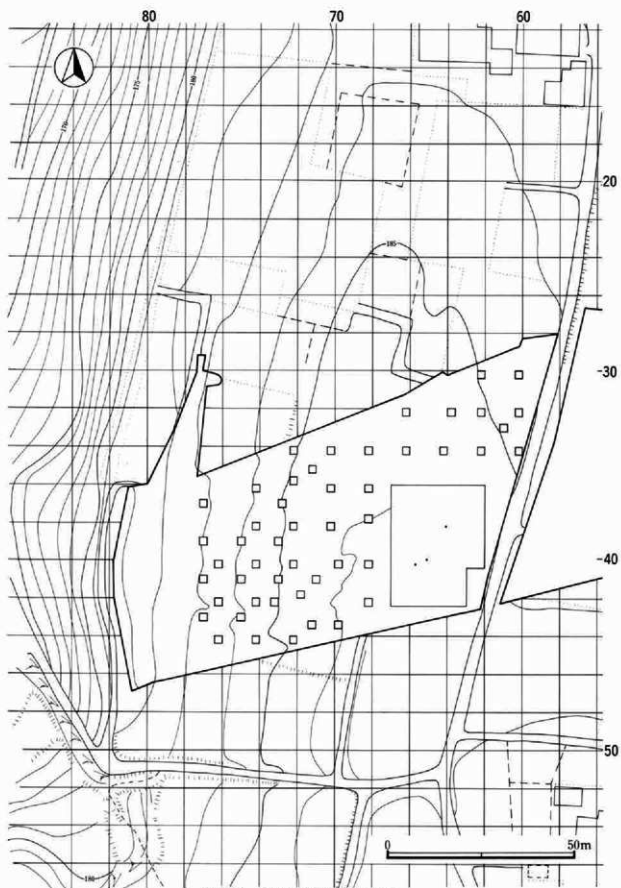
4 黒曜石製で、横長剥片を素材とする。ブランディングによる調整加工が端部を断ち切るように右側縁に施されている。

槍先形尖頭器（第121図5・6）

- 5 チャート製で、横長剥片を素材とし背面と主要剥離面の周辺部に平坦な調整加工が施されている。
- 6 チャート製で、比較の厚手である。調整加工は粗く、ステップブレイキングを起こしている。

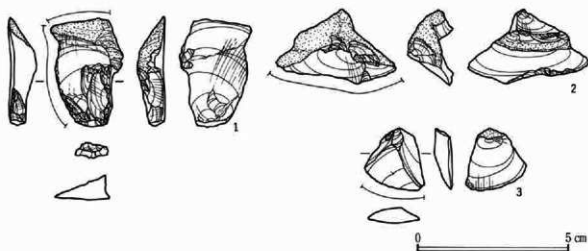
細石刃核（第121図7）

7 黒曜石製で、ブランクと考えられる。両面に平坦な調整加工を施している。打面はネガティブな平坦面である。

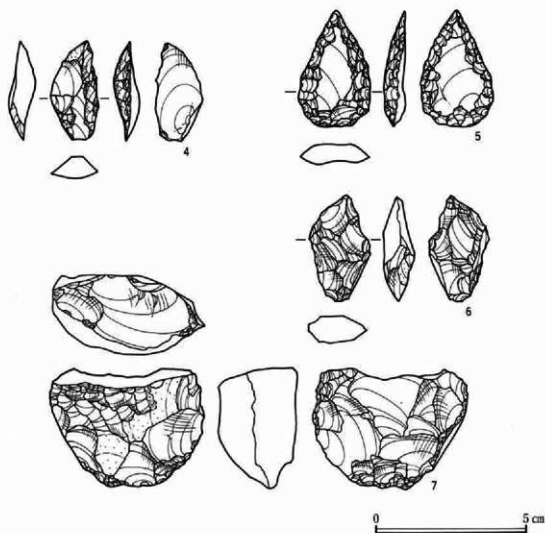


第119図 白倉下原遺跡C区全体図

第3節 白倉下原遺跡C区

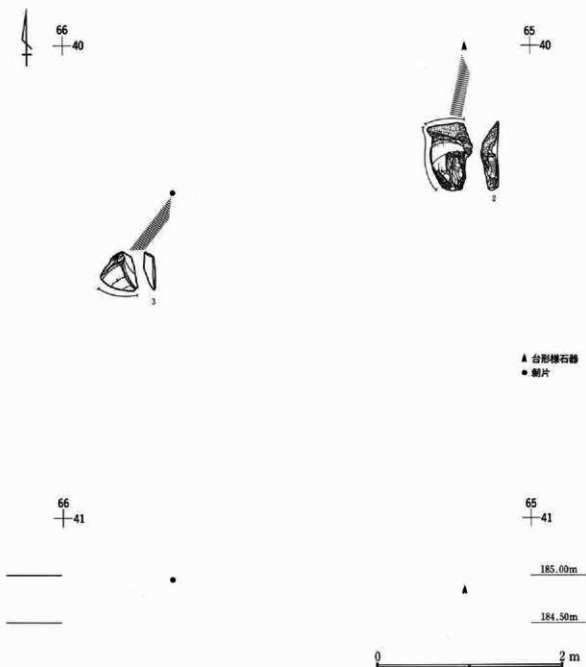


第120图 C区出土石器(台形様石器、剥片)



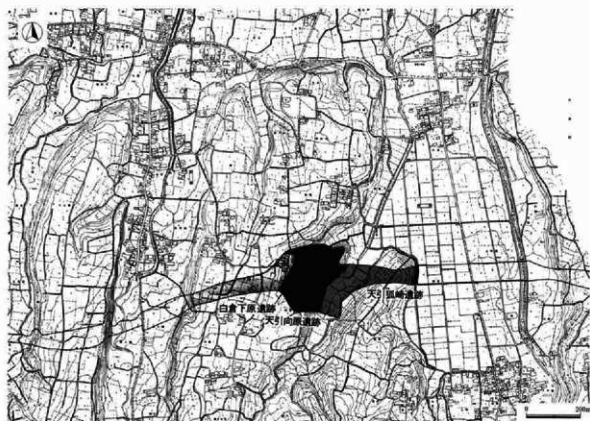
第121图 C区表土出土石器

第3章 白倉下原遺跡の旧石器時代調査



第122図 C区器種別石器分布図

天引向原遺跡



第4章 天引向原遺跡の旧石器時代調査

天引向原遺跡は甘楽郡甘楽町大字天引字向原に所在する。東を三途川、西をこれに注ぐ小支谷によって画された舌状台地部と小支谷によって形成された低地部とによって構成される遺跡で、旧石器時代以降、縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中近世の各時代に亘る生活跡が残された複合遺跡である。遺跡調査部分はパーキングエリア本体部分に相当する。また、遺跡地は台地部や低地部で構成されるため、A・B・C・D・E・Fの6調査区に分割して効率的に行った。このうち、A・C区が台地部で、B・D・E・F区が低地部に相当する。遺跡内にはB区と呼称した小支谷が入り込んで台地を東西に分断している。この小支谷を挟んで東側の台地がA区、西側の台地がC区である。

旧石器時代の文化層が検出されたのはA区とC区の2調査区で、いずれもAT下層の暗褐色粘土層から石器群が出土した。A区では、三途川とB区の小支谷の挟まれた舌状台地先端部から、268点の石器群が環状ブロック群を構成して検出された。C区では、台地奥部から10点の石器群がブロック1ヶ所とブロック外から検出された。旧石器時代の調査面積は試掘調査面積を含めて合計2840㎡に達した(第123・124図)。

文化層はA・C区ともAT下層に限定され、それよりも上層のローム層では確認されず、下層については礫層及び青灰色粘土層であることから、文化層の存在はないものと判断し、調査していない。また、C区のX軸=30以南、Y軸=40以東の部分については、古墳時代の粘土探掘坑が全面に亘って重複しながら掘り込まれており、文化層があったとしてもすでに擾乱されているものと判断されるため、調査は行っていない。

旧石器時代以外の遺跡の概要についてみると、縄文時代では、勝坂式終末期の住居址が10数軒と土坑が数基検出されている。弥生時代では、後期の住居址18軒が検出されている。古墳時代では、前期の住居址23軒が調査され、このうちの1軒からは小型仿製珠紋鏡が出土しており特筆される。同様な事例は3km東方に位置する神保下跡でも確認されている。他に粘土探掘坑があり、梯子や曲物などの木製品が出土している。平安時代では、寺院跡が検出され、瓦や墨書土器などがそこから出土している。中近世では、As-A 瓦石で覆われた畠跡を調査している。

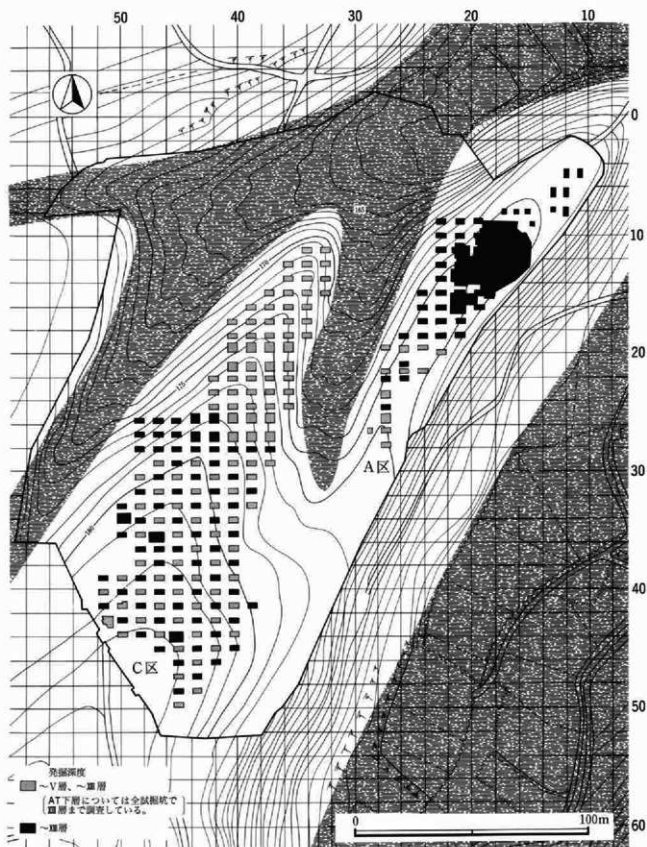
遺跡を概観すると、隣接する白倉下原遺跡とはほぼ同様であるが、天引向原遺跡と白倉下原遺跡とは、時代や時期によって集落を占地する地点が変化しており、その展開と変遷過程を考えていく上で興味深い。

第1節 天引向原遺跡A区

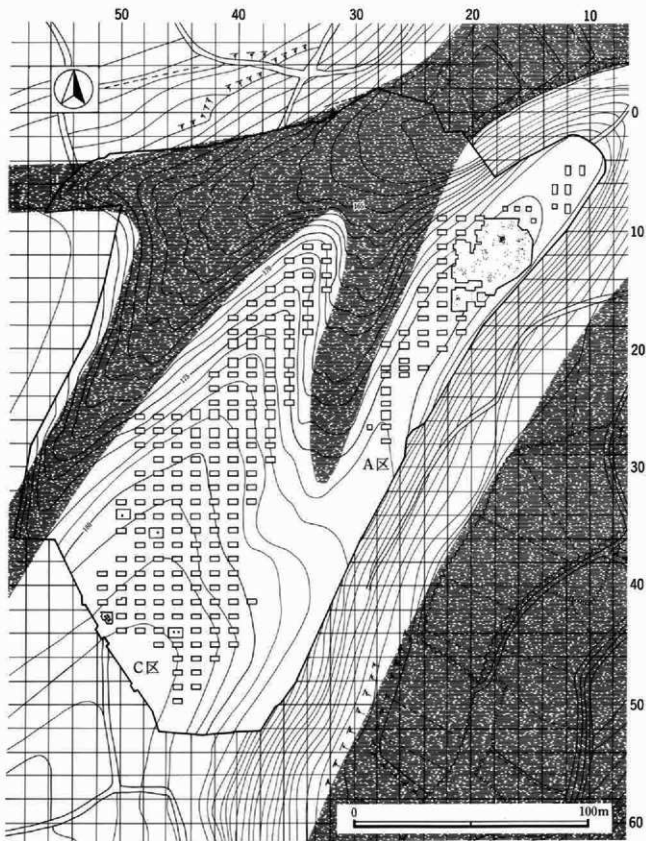
1 概要

天引向原遺跡A区は、遺跡東端に位置する。東を三途川、西をB区とした小支谷によって挟まれた狭長な舌状台地に立地している。三途川を挟んだ東側台地が天引狐崎遺跡で、AT下層から石器群が検出されている。台地頂部からは、北東方向に三途川と天引川によって形成された広大な低地部を見渡すことができる。

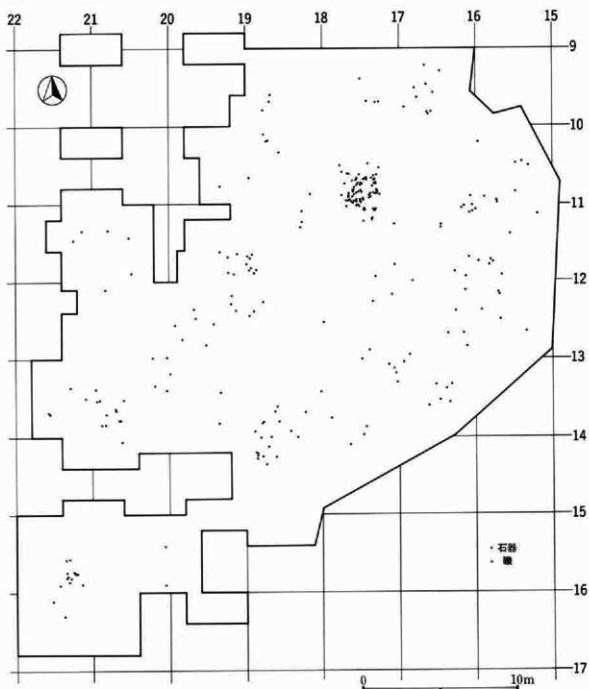
A区ではこのような立地環境からみて、旧石器時代の文化層が存在することが濃厚と判断され、台地全面に試掘坑を設定し、すべてAT下層のIII層まで掘り下げて試掘調査を行った。この結果、台地先端部の(9~16-15~21)グリッドにかけてのAT下層の暗褐色粘土層で石器群の分布が確認され、この部分を拡張して本調査を行った(第123図)。



第123図 天引向原遺跡発掘深度図



第124図 天引向原遺跡全体図



第125図 A区石器分布全体図

石器群の分布はこの範囲内に取束しており、より先端部に近い北側部分や小支谷谷頭部付近の南側部分では石器は全く検出されなかった（第124図）。また、文化層もAT下層に限定されており、これよりも上層のローム層では確認されなかった。

出土した石器群は総数268点で、他に礫が1点出土している。ブロックは13ヶ所確認され、これらは環状ブロック群として評価でき、AT下層の一時期に展開された旧石器時代の集落跡を確認することができた。

第6表 A区ブロック別器種別石器組成表

	ナイフ 形石器	台形 形石器	スクレ イバー	楔形石器	R削片	石 核	削片	砕片	敲石	台石	計	備	合計
A1ブロック						1	47	44	1	1	94		94
A2ブロック	1					2	9	2			14		14
A3ブロック							17	2		1	20		20
A4ブロック				1	1	3	10	3			18		18
A5ブロック			1			4	6	1			12	1	13
A6ブロック		1					18	4		1	24		24
A7ブロック						4	8	2	1		15		15
A8ブロック						1	14	1			16		16
A9ブロック	2	1				1	6	1			11		11
A10ブロック							5	1			6		6
A11ブロック			2			1	13	3			19		19
A12ブロック		1				1	5	1	1		9		9
A13ブロック			1			2		1		1	5		5
A5ブロック周辺							1				1		1
A6ブロック周辺							2				2		2
A7ブロック周辺							2				2		2
合計	3	3	4	1	1	20	163	66	3	4	268	1	269

第7表 A区ブロック別母岩別石器組成表

	G1a-1	G1a-2	G1a-3	G1a-4	G1a-5	G1a-6	G1a-7	G1a-8	G1a-9	G1a-10	Aa-1	Aa-2	Aa-3	Aa-4	Aa-5	Ob-1	Ob-2	Ob-3	Ch-1	Ch-2	Ch-3	Ch-4	計
A1ブロック								87	1		1					1	1						91
A2ブロック								1	6														8
A3ブロック				11						4	2												18
A4ブロック	1			2				2	7	1	1					1							15
A5ブロック		2				2		3	1										1	1			10
A6ブロック			3					5	10														18
A7ブロック		2			2															1			5
A8ブロック	8							5															13
A9ブロック				1		1		5								1							8
A10ブロック				1				2															3
A11ブロック								4	9														13
A12ブロック	1							6	1						1								9
A13ブロック								3															3
A5ブロック周辺								1															1
A6ブロック周辺								1															1
A7ブロック周辺								1															2
合計	10	7	4	14	2	1	2	6	130	25	4	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	218

	RS-1	RS-2	RS-3	RS-4	RS-5	RS-6	RS-7	RS-8	RS-9	RS-10	RS-11	RS-12	RS-13	RS-14	RS-15	RS-16	RS-17	RS-18	RS-19	RS-20	小計	台石	備	合計
A1ブロック																						93	1	94
A2ブロック		1	1					2	1													14		14
A3ブロック																						19	1	20
A4ブロック									1		2											18		18
A5ブロック									1		1											12		13
A6ブロック							2		1	2												23	1	24
A7ブロック				1					2	3												15		15
A8ブロック										1	1	3										16		16
A9ブロック	1					1		1														11		11
A10ブロック									3													6		6
A11ブロック						1				4												19		19
A12ブロック																						9		9
A13ブロック								1														4	1	5
A5ブロック周辺																						1		1
A6ブロック周辺																						2		2
A7ブロック周辺																						2		2
合計	1	1	1	1	1	1	1	5	3	10	6	6	3	1	1	1	1	1	1	1	1	264	4	268

2 石器

A区から268点の石器が出土した。その内訳はナイフ形石器3点、台形様石器3点、スクレイパー4点、楔形石器1点、二次加工のある剥片1点、石核20点、剥片163点、碎片66点、敲石3点、台石4点である。

ナイフ形石器（第126図1～3）

- 1 黒色頁岩製で、幅広い縦長剥片を素材とする。調整加工は左側縁の一侧縁のみに限定して弧状に施されているが、側縁を断ち切るようなブランティングではなく、比較的平坦である。右側縁は折断面と思われるが、判然としない。A9ブロック出土。
- 2 黒色安山岩製で、厚みのある縦長剥片を素材とする。調整加工は左側縁の一侧縁のみに限定して弧状に施されている。右側縁は折断面である。また、裏面はネガティブ面と思われ、分割面の可能性もある。A9ブロック出土。
- 3 珪質頁岩製で、厚みのある縦長剥片を素材とする。調整加工は右側縁と素材打面部に施されている。前者ではナチュラルバックを利用し、それを補完するように部分的に施され、後者ではブランティングによって素材打面を全て取り除いている。A2ブロック出土。

台形様石器（第127図4～6）

- 4 黒色安山岩製で、厚みのある縦長剥片を横位に折断して素材としており、折断剥片（156図6）が接合する。調整加工は厚みのあるブランティングで左側縁と端部に施されている。右側縁の折断面には調整加工は加えられていない。A9ブロック出土。
- 5 黒色安山岩製で、幅広い寸詰まりの縦長剥片を素材とする。調整加工は右側縁に施されている。左側縁は折断され、プロローションを扇形に仕上げている。A6ブロック出土。
- 6 黒色安山岩製で、幅広い縦長剥片を素材とする。調整加工は右側縁の主要剥離面側に平坦に施されている。A12ブロック出土。

スクレイパー（第127図7～第129図10）

- 7 黒色頁岩製で、幅広い縦長剥片を素材とする。素材端部に連続する微細な調整加工によってスクレイパーエッジが作出されている。A13ブロック出土。
- 8 黒色頁岩製で、大型で幅広い端部が尖頭形となる縦長剥片を素材とする。スクレイパーエッジは左側縁の主要剥離面側にノッチ状に作出されている。なお、器体には摩滅している部分が認められるが、これが使用によるものかあるいは風化なのかは判然としない。A11ブロック出土。
- 9 黒色頁岩製で、厚みのある縦長剥片を素材とする。素材端部はステップフレイキングを起こし、その背面側にスクレイパーエッジが作出されている。A11ブロック出土。
- 10 チャート製で、厚みのある縦長剥片を素材とする。スクレイパーエッジは右側縁の背面側に連続して作出されている。左側縁の一部には二次加工が施されている。A5ブロック出土。

二次加工のある剥片（第129図11）

- 11 黒色安山岩製で、縦長剥片を素材としているが、下半部は折断されている。二次加工は左右両側縁に施されている。A4ブロック出土。

横形石器 (第129図12)

12 黒色安山岩製で、厚みのある縦長剥片を素材としている。両極剝離痕は上下両端部と左右両側縁部に顯著に認められるが、特に前者で著しく、縁辺が潰れている部分もある。A4ブロック出土。

石核 (第129図13～第135図32)

13 黒色安山岩製で、GAN-9 個体Gとしたが、接合関係は確認されなかった。幅広の縦長剥片を素材として剥片生産が主要剝離面側の端部で行われているが、横長剥片を一枚剝離したのみで剥片生産を終了している。A13ブロック出土。

14 黒色安山岩製で、GAN-9 個体Fとしたが、接合関係は確認されなかった。厚手の縦長剥片を素材として左右両側縁で剥片生産が行われているが、そこから剝離された剥片は寸詰まりの縦長剥片である。A8ブロック出土。

15 黒色安山岩製で、GAN-10に帰属し接合関係を持っている。A11ブロック出土。

16 黒色安山岩製で、GAN-9 個体Hに帰属し接合関係を持っている。A12ブロック出土。

17 黒色安山岩製で、GAN-4に帰属するが、接合関係は確認されなかった。打面と作業面を180度入れ換えて剥片生産を行っている。A9ブロック出土。

18 黒色安山岩製で、GAN-9 個体Dとしたが、接合関係は確認されなかった。横長剥片を素材として、打面と作業面を180度入れ換えながら剥片生産を行っている。A13ブロック出土。

19 黒色安山岩製で、GAN-5に帰属し接合関係を持っている。A7ブロック出土。

20 黒色安山岩製で、GAN-2に帰属し接合関係を持っている。大型の横長剥片を素材とする。A5ブロック出土。

21 黒色安山岩製で、GAN-10に帰属し接合関係を持っている。横長剥片を素材とし、打面と作業面を180度入れ換えながら、剥片生産を行っている。A2ブロック出土。

22 黒色安山岩製で、GAN-9 個体Cに帰属し、縦長剥片が1点右側面に接合する。A5ブロック出土。

23 チャート製で、Ch-3に帰属する。単独母岩で接合関係はない。厚手の横長剥片を素材としている。A7ブロック出土。

24 チャート製で、Ch-1に帰属するが、単独母岩で接合関係はない。小振りの円礫を素材とし、打面を頻繁に転移しながら剥片生産を行っている。A1ブロック出土。

25 黒色安山岩製で、GAN-7に帰属する。単独母岩で接合関係はない。節理に沿って分割された盤状の剥片を素材とする。A5ブロック出土。

26 黒色頁岩製で、BSh-9に帰属し接合関係を持っている。A4ブロック出土。

27 黒色頁岩製で、BSh-8に帰属し接合関係を持っている。A7ブロック出土。

28 黒色頁岩製で、BSh-10に帰属し接合関係を持っている。拳大の円礫を素材とし、打面と作業面を繰り返しながら剥片生産を行っている。A7ブロック出土。

29 チャート製で、Ch-4に帰属するが接合関係は確認されなかった。亜角礫を素材とし、平坦な自然面を打面に設定してチョッパー状に剥片生産を行っている。A5ブロック出土。

30 安山岩製で、An-2に帰属し剥片が2枚接合する。拳大よりも一回り大きい球状の礫を素材とし、打面と作業面を180度入れ換えながらチョッピングツール状に剥片生産を行っている。A4ブロック出土。

31 安山岩製で、An-4に帰属する。単独母岩で接合関係ない。扁平な円礫を素材とし、平坦な自然面を打

面に設定して分割するように剥片生産を行っている。A4ブロック出土。

32 黒色安山岩製で、GAN-9個体Eに帰属するが接合関係はない。横長剥片を素材とし、主要剥離面側で剥片生産を行っている。A2ブロック出土。

剥片 (第135図33～第145図108)

33は硬質泥岩製の幅広い縦長剥片で、A11ブロック出土。34は黒色頁岩製の横長剥片でA6ブロック出土。44は硬質泥岩製の厚みのある縦長剥片で、A8ブロック出土。48・50は黒色頁岩製の縦長剥片で、A7・A4ブロック出土。53は黒色頁岩製の端部尖頭形の縦長剥片で、A6ブロック出土。56は黒曜石製の横長剥片で、端部に微細剥離痕が認められる。A9ブロック出土。57は珪質頁岩製の横長剥片で、左側縁は折断されている。A9ブロック出土。58は珪質頁岩製の縦長剥片で、A2ブロック出土。59は黒色安山岩製の幅広い横長剥片で、右半部は同時割れを起こしている。A1ブロック出土。61は黒色安山岩製の幅広い縦長剥片で、中央部で縦位に折断されている。A6ブロック出土。62は黒色安山岩製の縦長剥片で、GAN-9個体Aとした。6点の資料に折断されていて、すべてA1ブロックから出土している。63は黒色安山岩製の横長剥片である。66は黒色安山岩製の幅広い縦長剥片で、GAN-9個体Bとした。3点の資料に折断されていて、すべてA6ブロックから出土している。68・69・71は黒色安山岩製の寸詰まりの縦長剥片で、それぞれA10・A4・A4ブロック出土。70は黒色安山岩製の縦長剥片で、A2ブロック出土。76は黒色安山岩製の縦長剥片で、中央部で横位に折断している。A1ブロック出土。77は黒色安山岩製の横長剥片で、A5ブロック出土。78は黒色安山岩製の縦長剥片で、A5ブロック出土。80は黒色安山岩製の横長剥片で、左右両側縁は折断されている。A4ブロック出土。81は黒色安山岩製の縦長剥片で、A10ブロック出土。82は黒色安山岩製の横長剥片で、右半部は折断されている。A12ブロック出土。91は黒色安山岩製の縦長剥片でA10ブロック出土。93・94は黒色安山岩製の横長剥片で、A12・A3ブロック出土。98は黒色安山岩製の横長剥片で、右半部は折断されている。A8ブロック出土。99～107は黒色安山岩製の小型の縦長剥片類である。108は安山岩製の縦長剥片で、背面は自然面で構成される。A3ブロック出土。

敲石 (第145図109～111)

109 硬質泥岩製で、棒状の礫を素材とするが上半部は欠損している。左右両側縁の端部に敲打痕が顕著に認められる。A1ブロック出土。

110 安山岩製で、偏平な円礫を素材とする。上端を除いた周縁部に敲打痕が認められる。A12ブロック出土。

111 緑色片岩製で、偏平な楕円礫を素材とする。上下両端部に敲打痕が認められる。A7ブロック出土。

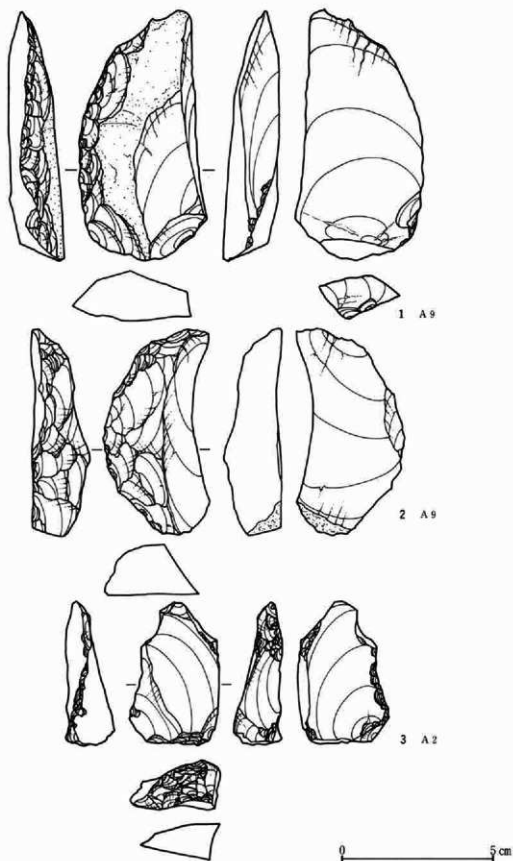
台石 (第146図112～第147図115)

112 安山岩製で、大型の偏平な礫を用いている。A1ブロック出土。

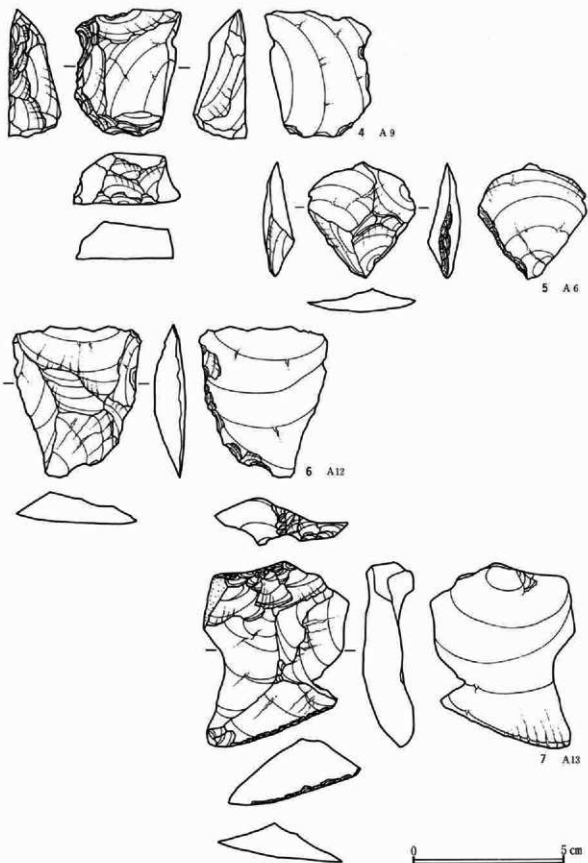
113 安山岩製で、大型の偏平な礫を用いている。表面に一部擦痕が認められる。A6ブロック出土。

114 安山岩製で、大型で偏平な長楕円礫を用いている。A3ブロック出土。

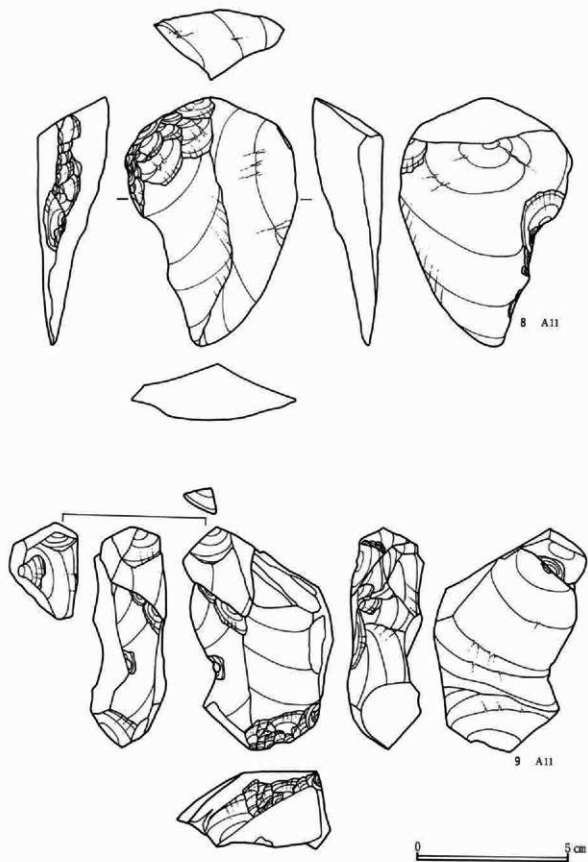
115 安山岩製で、大型で偏平な長楕円礫を用いている。A13ブロック出土。



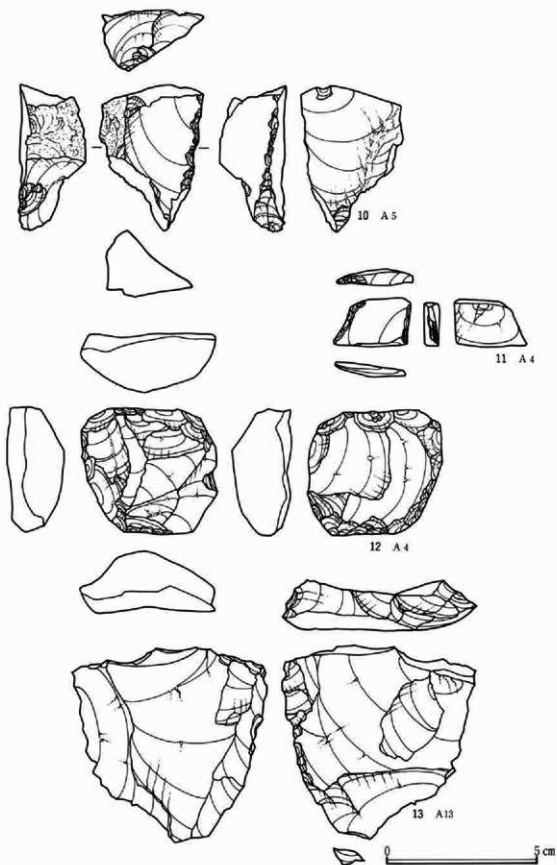
第126図 A区出土石鐮（ナイフ形石器）



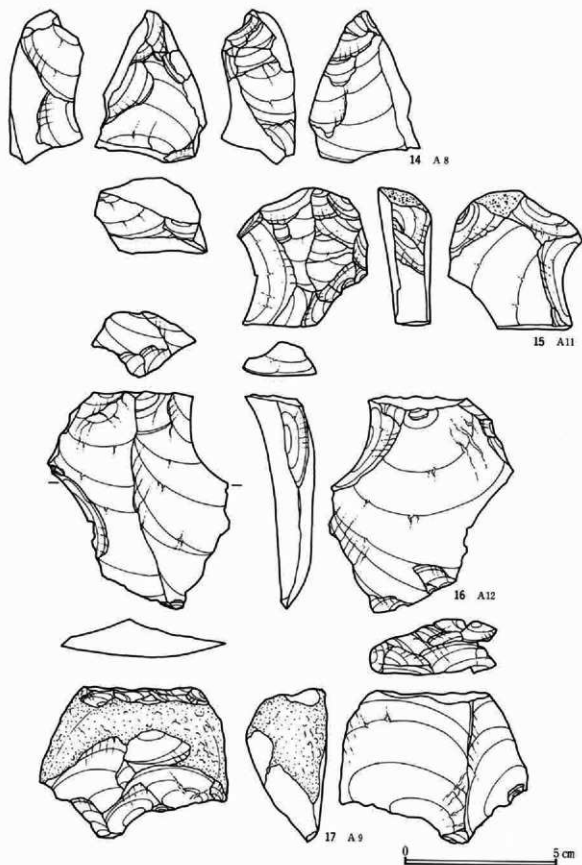
第127図 A区出土石器（台形礫石器、スクレイパー）



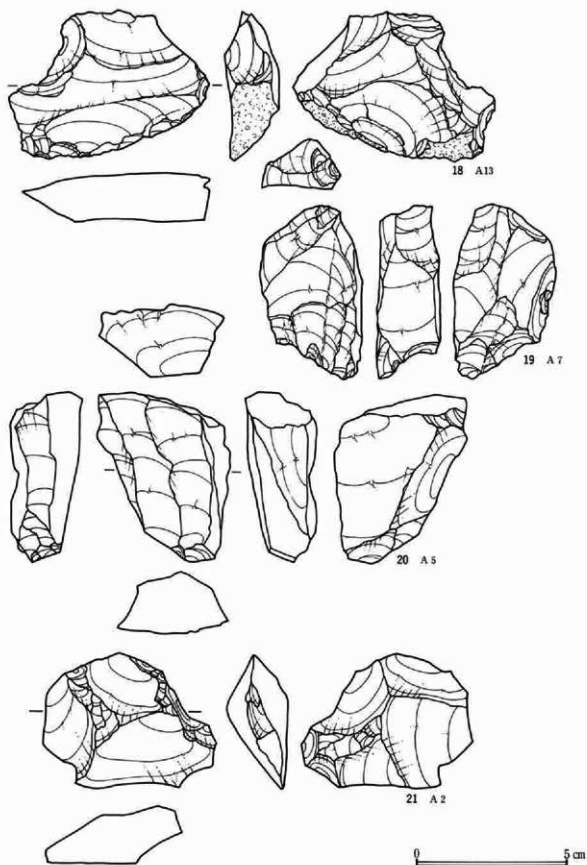
第128図 A区出土石器（スクレイパー）



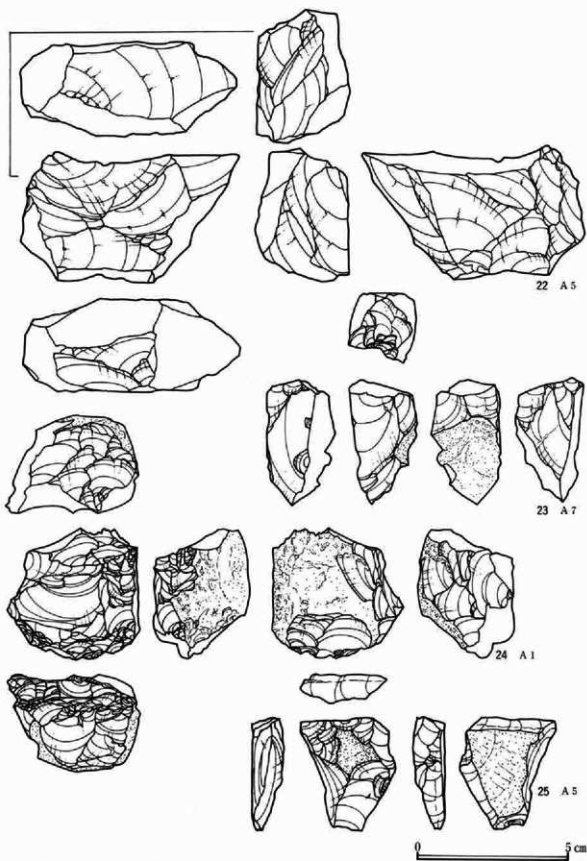
第129図 A区出土石器（スクレイパー、R剥片、楔形石器、石核）



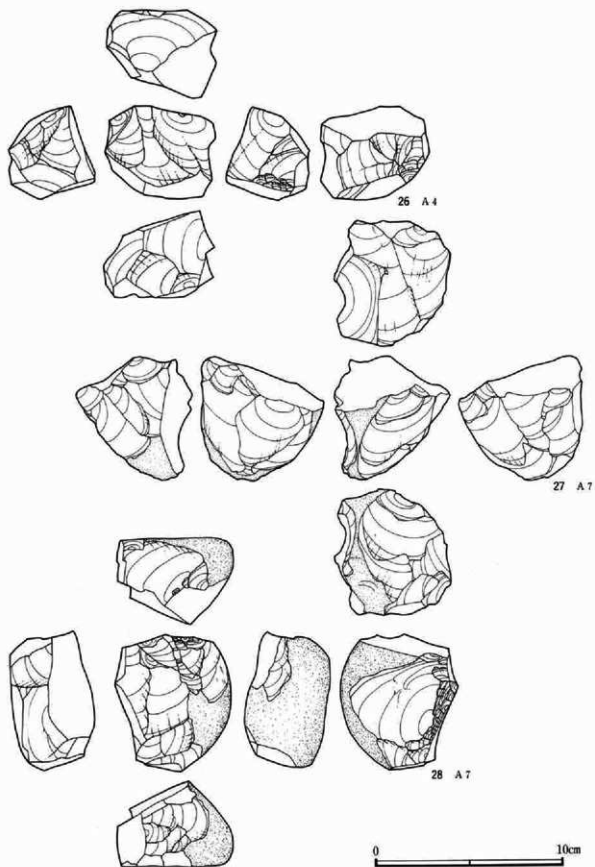
第130圖 A区出土石核(石核)



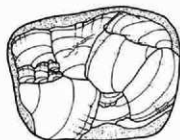
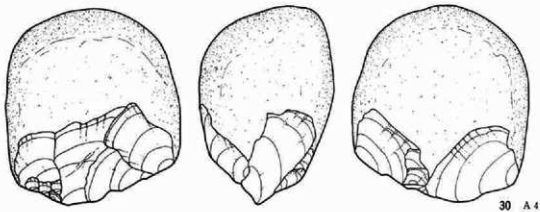
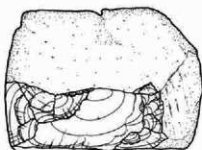
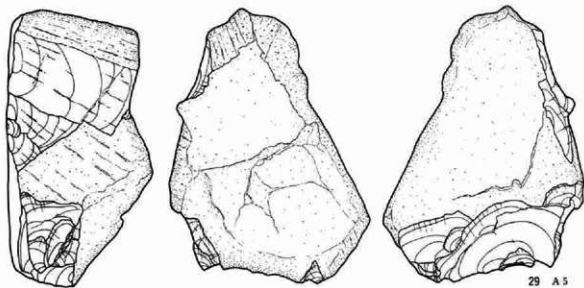
第131図 A区出土石器(石核)



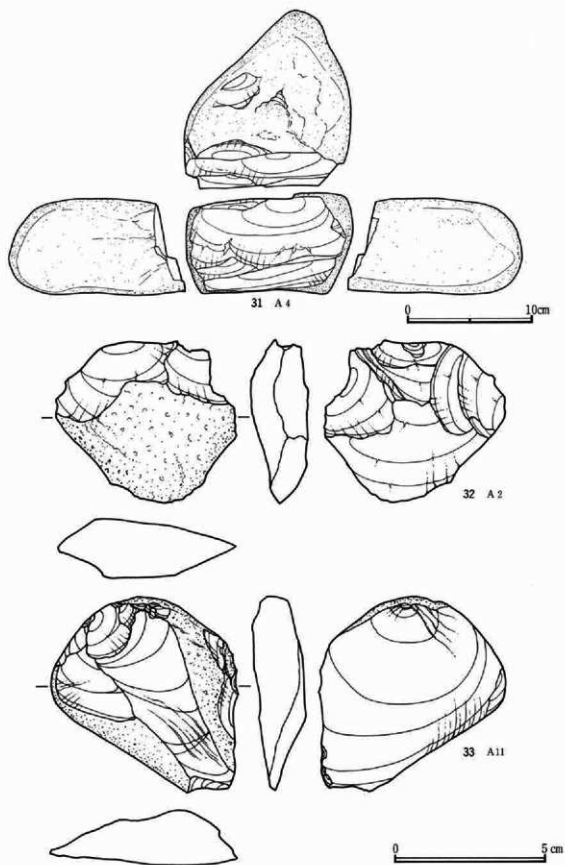
第132图 A区出土石器(石核)



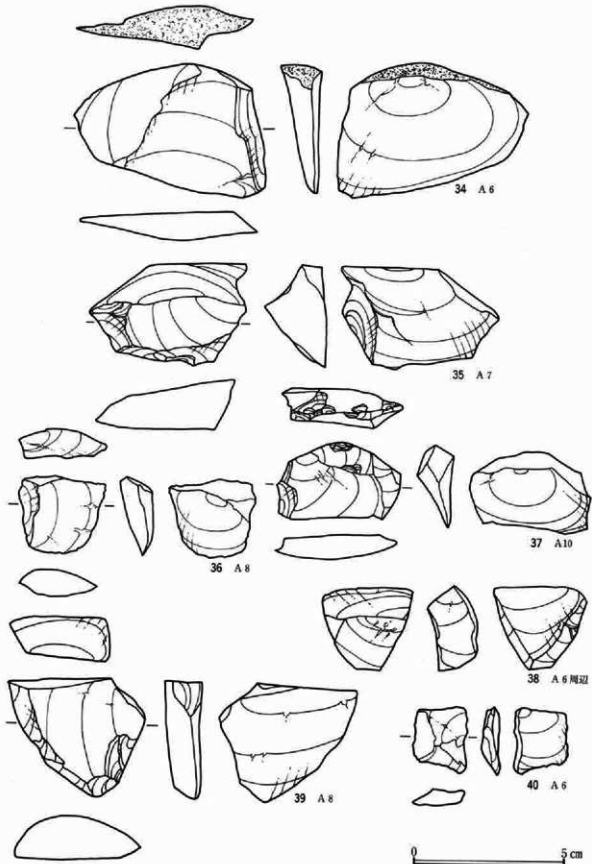
第133図 A区出土石器(石核)



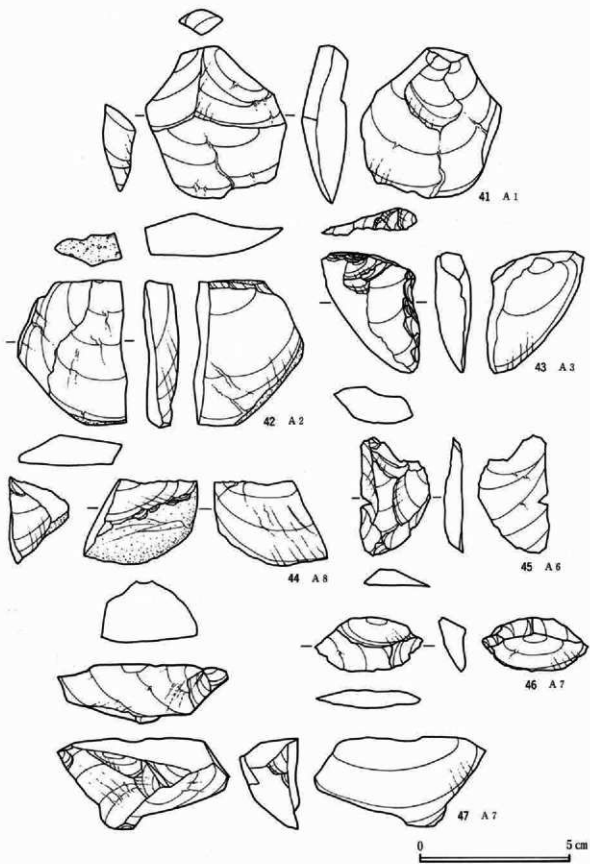
第134图 A区出土石器(石核)



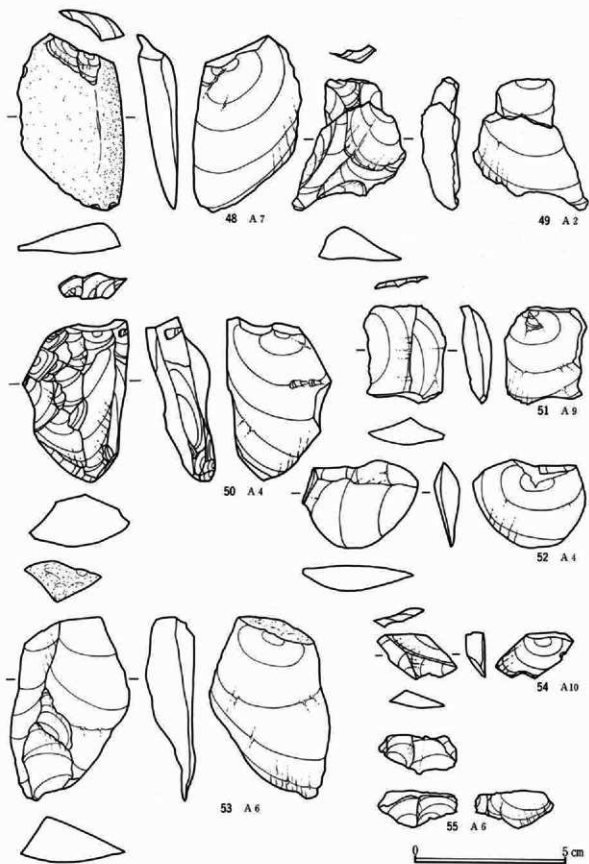
第135図 A区出土石器(石核、剥片)



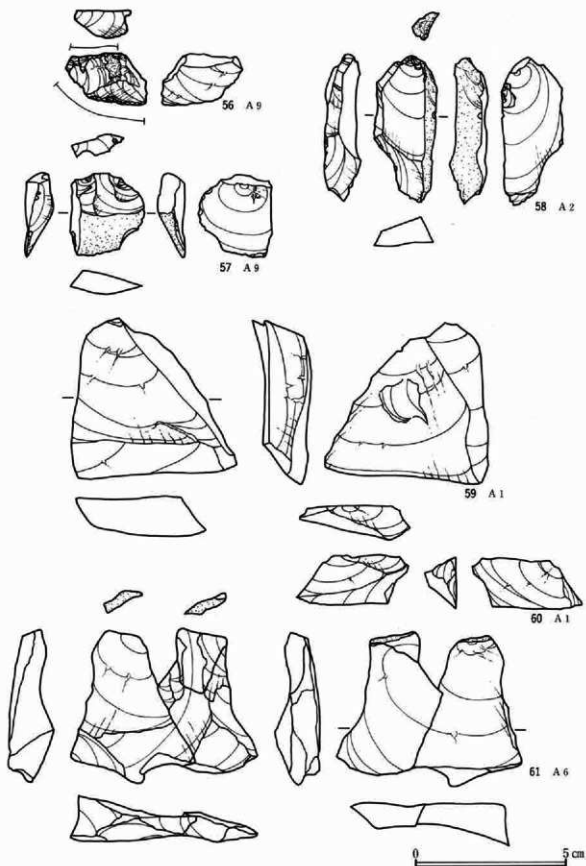
第136圖 A区出土石器(切片)



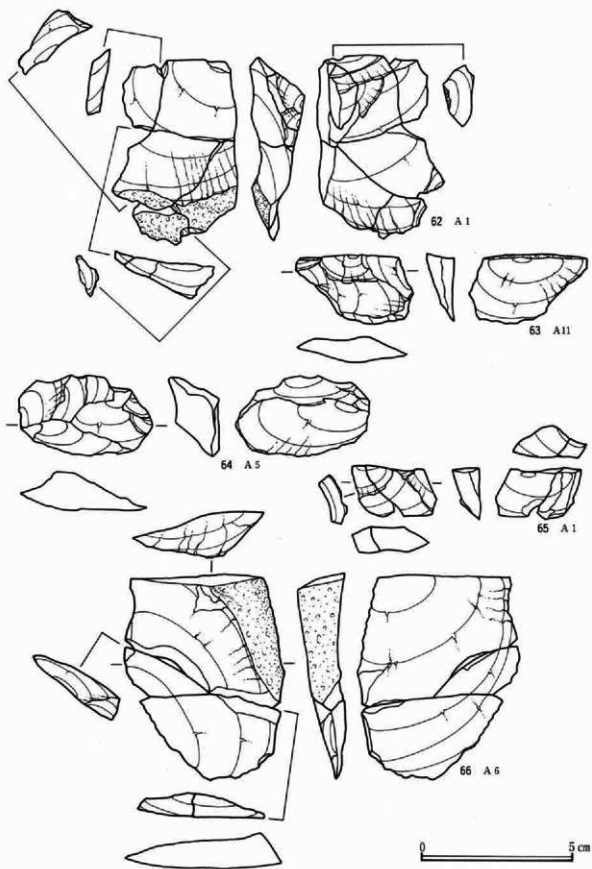
第137図 A区出土石器(剥片)



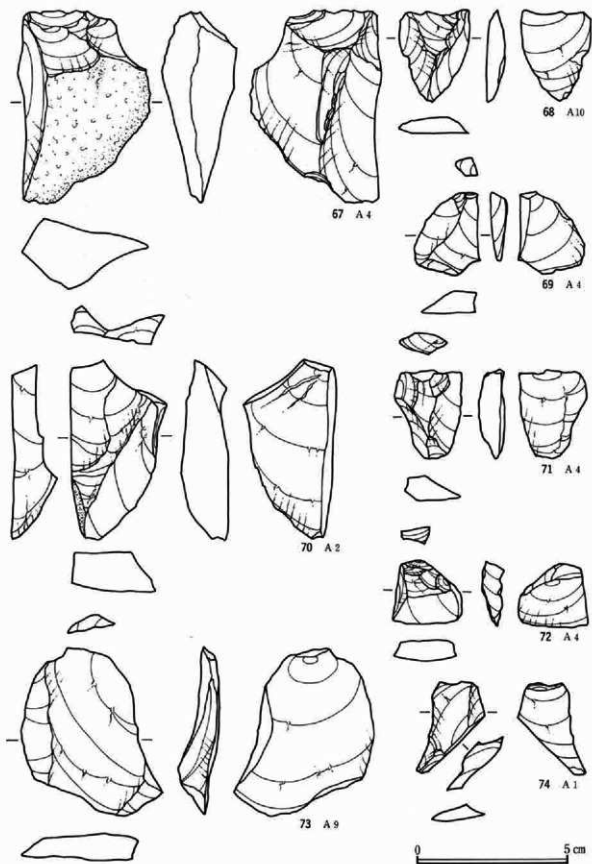
第138图 A区出土石器(剥片)



第139図 A区出土石器(剥片)

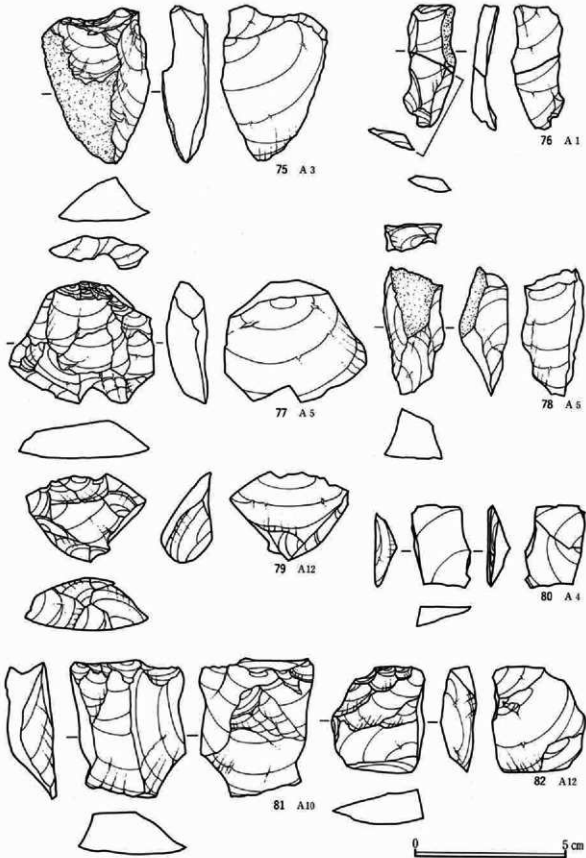


第140图 A区出土石器(剥片)

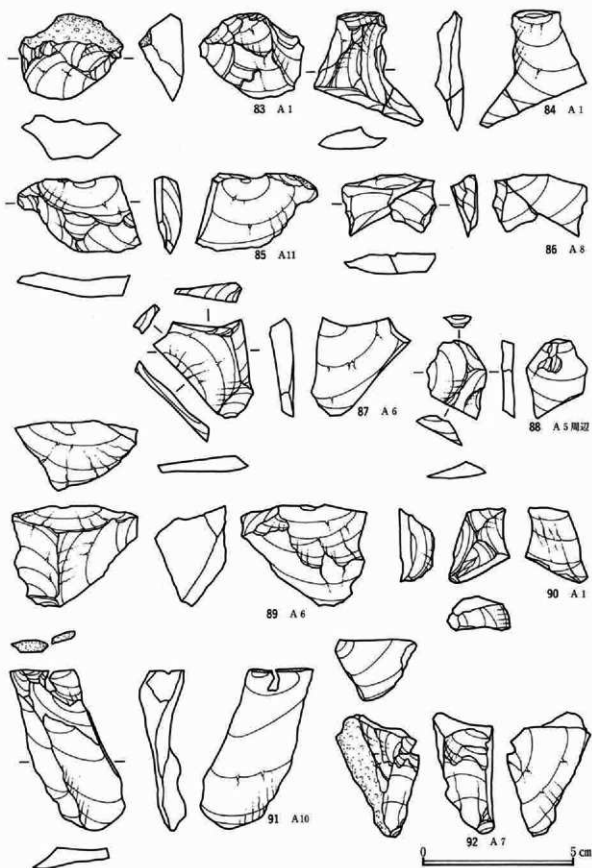


第141図 A区出土石器(剝片)

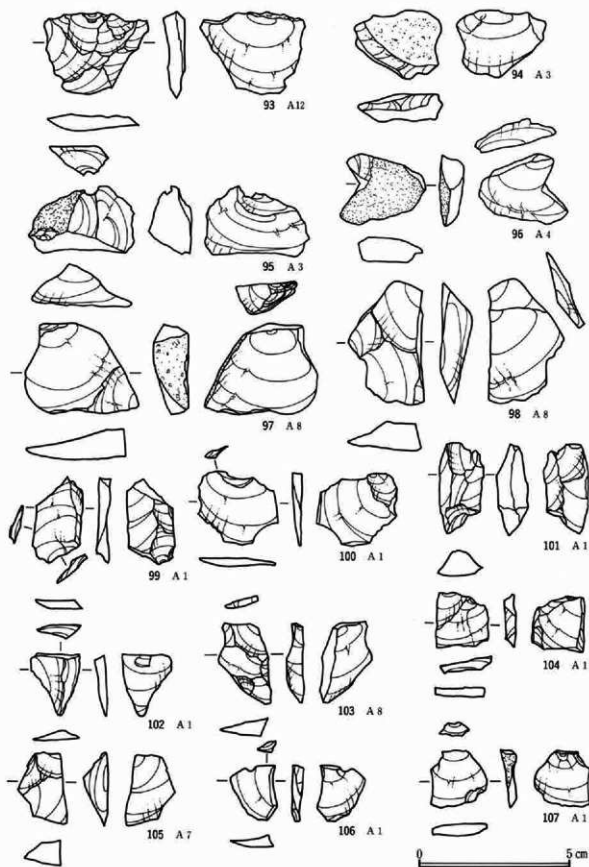
第1册 天引向原道跡A区



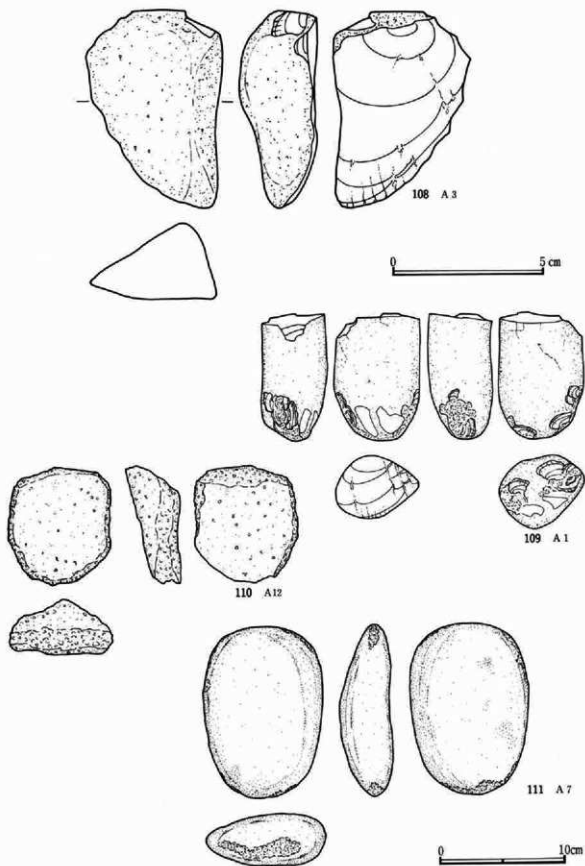
第142图 A区出土石器(剥片)



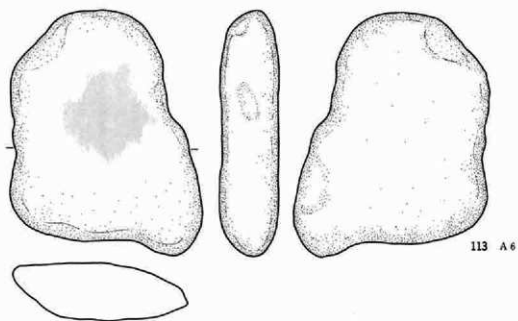
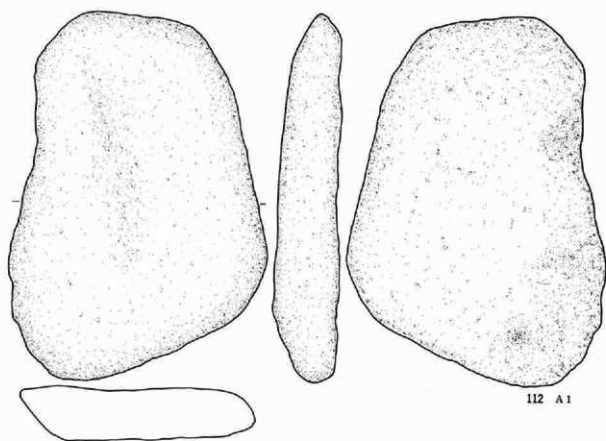
第143図 A区出土石器(剥片)



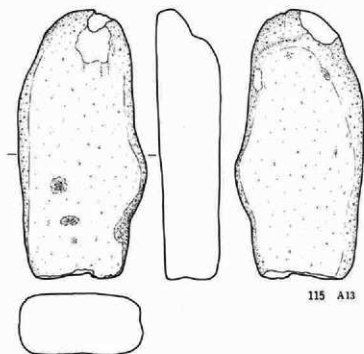
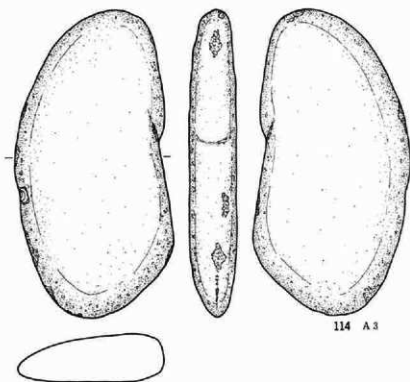
第144图 A区出土石器(剥片)



第145図 A区出土石器(剝片、核石)



第146圖 A区出土石器(台石)



0 10cm

第147図 A区出土石器（台石）

3 接合資料と剥片生産工程

A区からは268点の石器群が出土し、このうち116点の石器に接合関係が確認された。接合率は約43%である。次に母岩別資料順の接合資料毎に剥片生産について観察していく。

BSh-7 (第148図1・2)

スクレイパー1点、剥片3点の計4点の接合資料で、1の厚手の縦長剥片(スクレイパー素材)を剥離した後、2の厚手の横長剥片が剥離されている。

BSh-8 (第149図1・2)

石核1点と剥片1点の接合資料である。剥片生産は次のように行われる。正面を作業面、上面を打面を設定して1の幅広縦長剥片を剥離 → 石核の廃棄。剥片生産は基本的に上面を打面とし、作業面は周縁を廻るように行われている。また、1の剥離後も何枚か剥片生産が行われているが、これらについては接合関係は確認できなかった。

BSh-9 (第150図1・2)

石核1点、剥片1点の接合資料である。剥片生産は次のように行われる。正面を打面、上面を作業面として1の横長剥片の剥離 → 石核の廃棄。剥離頃から剥片生産は打面と作業面を頻りに転移しながら行われていることが窺取される。1の剥離によって形成された剥離面を打面として2枚寸詰まりの縦長剥片が剥離されているが、これらの接合資料は確認できなかった。

BSh-10 (第151図1～3)

石核1点、剥片の2点の計3点の接合資料である。拳大の球状の礫を素材とし剥片生産は次のように行われる。上面を打面、正面を作業面に設定して1の幅広縦長剥片の剥離 → 打点を移動して2の剥離 → 石核の廃棄。作業面は左側面から正面へ転移している。また、裏面では作業面調整を行っている。

GAn-1 (第152図1～3)

剥片3点の接合資料である。1・2の縦長剥片を剥離し、3の不定形の剥片を剥離している。

GAn-2 (第152図4～第153図2)

GAn-2には(1)と(2)の2例の接合資料が確認されたが、相互の接合関係は確認することはできなかった。

GAn-2 (1) (第152図4・5)

石核1点と剥片1点の接合資料である。大型の縦長剥片を横位に折断し、その後4と5を縦位に折断している。5は石核として用いられ、裏面で横長剥片が剥離されている。

GAn-2 (2) (第153図1・2)

剥片2点の接合である。1は小型の縦長剥片、2は幅広縦長剥片である。

第4章 天引向原遺跡の旧石器時代調査

GAN-4 (第153図3~9)

剥片5点、砕片2点の計7点の接合資料から構成される。接合図正面には分割面が残っている。剥片生産は次のように行われる。自然面を打面に設定して3の剥離 → 打点を移動して4の剥離 → 打点を移動して5の剥離 → 打点を移動して6の剥離 → 7の剥離（6、7については同時割れの可能性もある） → 打点を移動して8の剥離 → 打点を移動して9の剥離。このようにGAN-4の剥片生産は打面と作業面を固定して打点を移動させながら行っていることが理解される。

GAN-5 (第155図1・2)

石核1点、砕片1点の接合資料である。1の小型の縦長剥片が剥離されているが、石核の剥離痕を見ると比較的小型の剥片が剥離されていることが看取される。

GAN-8 (第154図1~5)

剥片5点の接合資料から構成される。接合資料に残る自然面から球状の礫を素材としていることが看取される。右側面を打面、正面を作業面に設定して1の剥離 → 打面を90度転移して2の剥離 → 打点を移動して3の剥離 → 打点を移動して4の厚みのある横長剥片の剥離 → 4の剥離によって形成された剥離面に打面を90度転移して5の剥離（中央部で縦位に同時割れ）。

GAN-9 (第155図3~第159図)

GAN-9には、第155図~第159図に図示した(1)~(8)までの8例の接合資料、先に第1節2石器の項目で説明した個体A(第140図62)と個体B(第140図66)の2例の接合資料、剥片と剥片(第140図65・第142図76)の2例の接合資料の計12例の接合資料がある。各接合資料間で相互に接合関係を確認することはできなかった。ここでは(1)~(8)の接合資料の剥片生産について観察していく。

GAN-9 (1) 個体H (第155図3~6)

台形礫石器1点、石核1点、剥片2点、砕片1点の計5点(接合後4点)の接合資料から構成される。剥片生産は次のように行われる。3の剥離 → 4の剥離(台形礫石器素材) → 5の剥離。作業面と打面を固定して連続して剥片生産を行っている。5は剥離後石核の素材となり、主要剥離面側で6の小型の横長剥片を1枚剥離している。

GAN-9 (2) (第156図1~4)

剥片6点、砕片1点の計7点(接合後4点)の接合資料で構成される。剥片生産は次のように行われている。正面を打面、上面を作業面に設定して1の剥離 → 打点を移動して2の剥離 → 打面を上面、作業面を正面に設定して3の剥離 → 打面を90度転移して4の剥離(上半部は縦位に同時割れ後中央部で横位に折断されている)。

GAN-9 (3) (第156図5・6)

台形礫石器1点、剥片1点の接合資料である。厚みのある縦長剥片を横位に折断しその左半部を台形礫石器の素材としている。

GAN-9 (4) (第157図1~8)

剥片9点、砕片3点の計12点の接合資料である。正面には平坦で大きな剥離面が残っており、分割面と考えられる。上面から右側面にかけての自然面を打面を設定し、1から8までを連続的に剥離している。

GAn-9 (5) (第158図1~5)

剥片5点の接合資料である。打面を正面に設定して1の剥離 → 打面を90度自然面に転移して2の剥離 → 3の剥離 → 打面を90度転移して4の剥離 → 打面を90度転移して5の剥離。

GAn-9 (6) (第158図6・7)

剥片2点の接合資料である。6を剥離した後、打面を90度上面に転移して7を剥離している。

GAn-9 (7) (第159図1~5)

剥片2点、碎片3点の計5点の接合資料である。正面を打面、上面を打面に設定して、1→2→3→4の小型剥片を連続して剥離し、その後打面と作業面を90度転移して5を剥離している。

GAn-9 (8) (第159図6・7)

石核1点と剥片1点の接合資料である。上面を打面、右側面を作業面に設定して6の縦長剥片が剥離されている。石核の剥離面構成から打面と作業面を頻繁に転移させて剥片生産を行っていることが看取される。

GAn-10 (第160図1~第161図3)

GAn-10には(1)~(3)の3例の接合資料が確認されたが、各接合資料間で互いに接合関係を確認することはできなかった。次に各接合資料の剥片生産について観察していく。

GAn-10 (1) (第160図1・2)

剥片2点の接合資料である。上面に打面を設定し、1と2を連続して剥離している。

GAn-10 (2) (第160図3~9)

石核1点、剥片6点(接合後5点)、碎片1点の計8点の接合資料である。裏面は1枚のポジティブ面であることから、分割個体を素材としていることが看取される。剥片生産は次に行われる。上面に作業面を設定し、自然面を取り除くように3→4→5と小型剥片の剥離 → 打面を正面、作業面を裏面に転移して6の剥離(同時割れ) → 再び作業面を上面に転移して7→8の小型剥片の剥離 → 石核の廃棄。このようにGAn-10(1)では小型剥片を主体的に連続して生産していることが理解される。

GAn-10 (3) (第161図1~3)

石核1点と剥片2点の計3点の接合資料である。裏面には分割面が認められ、また石核にはポジティブ面が残ることから分割された大型剥片を素材としていることが理解される。剥片生産は次のように行われている。素材背面を作業面に設定して1の剥離 → 打点を移動して2の剥離 → 石核の廃棄。2の剥離後も何枚か剥片生産が行われているが、接合する資料は確認できなかった。

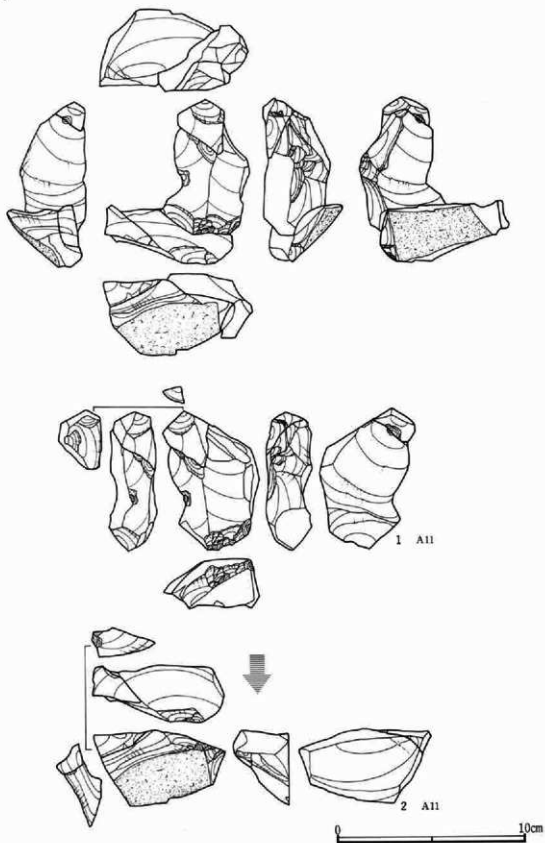
An-1 (第161図4~6)

剥片3点の接合資料である。剥片生産は次のように行われる。4の剥離 → 打面を90度転移して5の剥離 → 打点を移動して6の剥離。

An-2 (第162図)

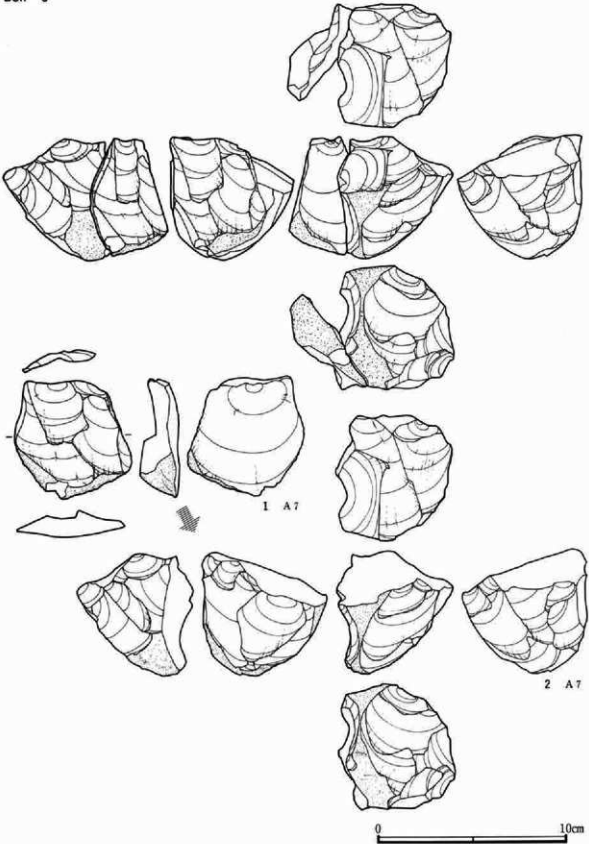
石核1点と剥片2点の計3点の接合資料である。球状の礫を素材とし、剥片生産は次のように行われる。打面を正面、作業面を裏面に設定して1の剥離 → 打面、作業面をそれぞれ180度入れ換えて○ → 打点を移動して2の剥離 → 石核の廃棄。このようにAn-2では剥片生産は打面と作業面を180度入れ換えながらチョッピングツール状に行われていることが理解される。

BSh-7



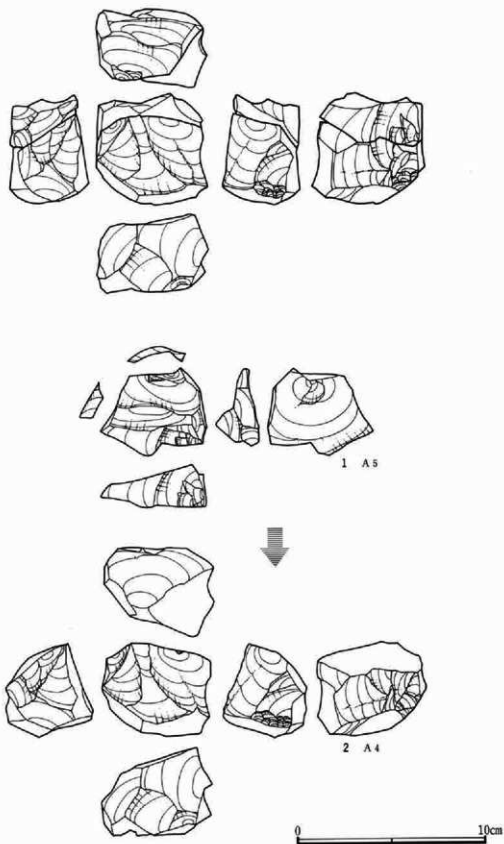
第148図 A区接合資料 (BSh-7)

BSh-8



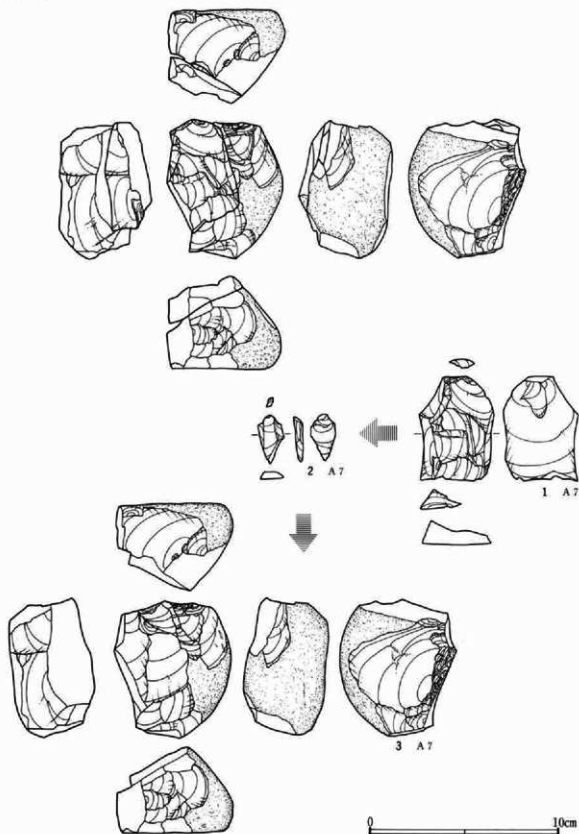
第149圖 A区接合資料 (BSh-8)

BSh-9



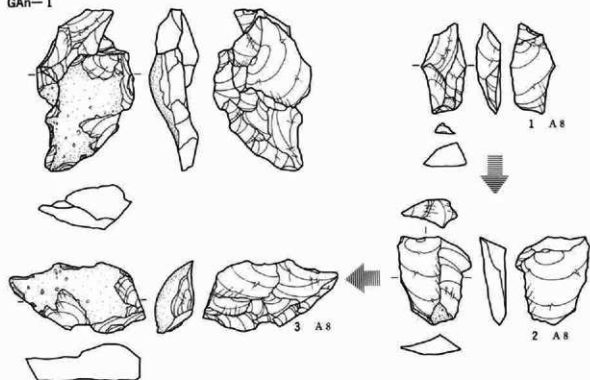
第150図 A区接合資料 (BSh-9)

BSh-10

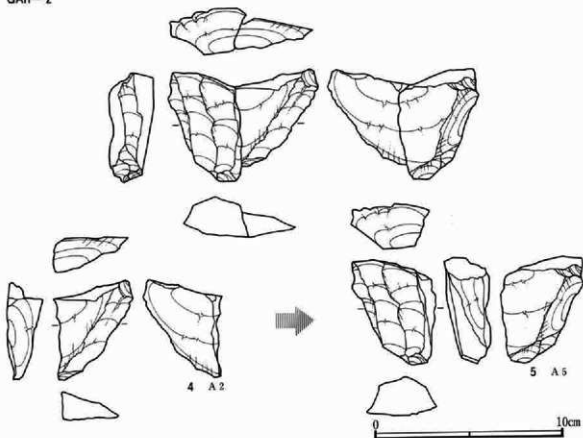


第151图 A区接合資料 (BSh-10)

GAn-1

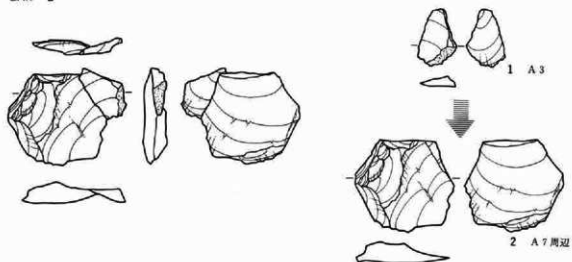


GAn-2

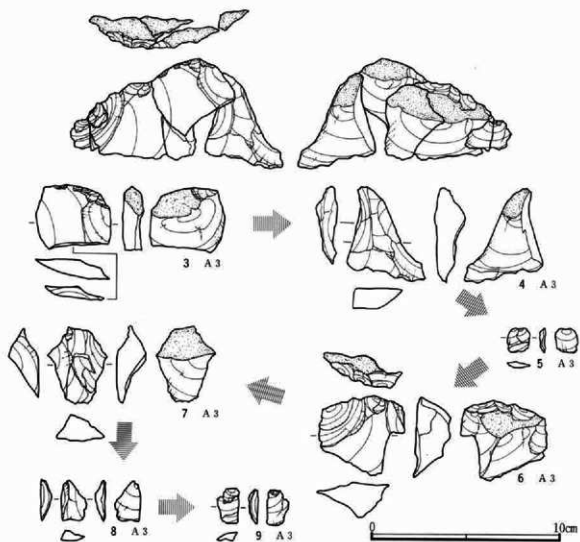


第152図 A区接合資料 (GAn-1・2)

GAn-2

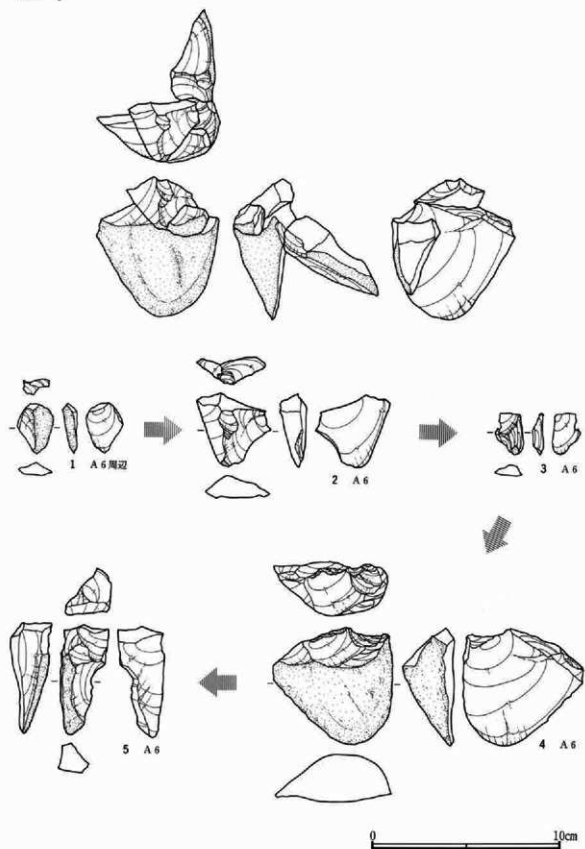


GAn-4



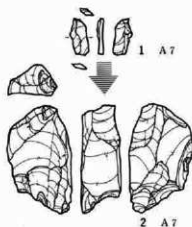
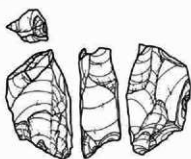
第153图 A区接合資料 (GAn-2・4)

GAn-8

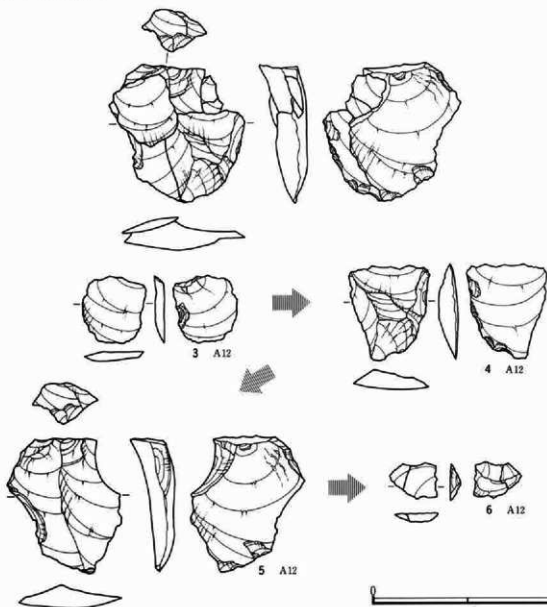


第154図 A区接合資料 (GAn-8)

GAn-5

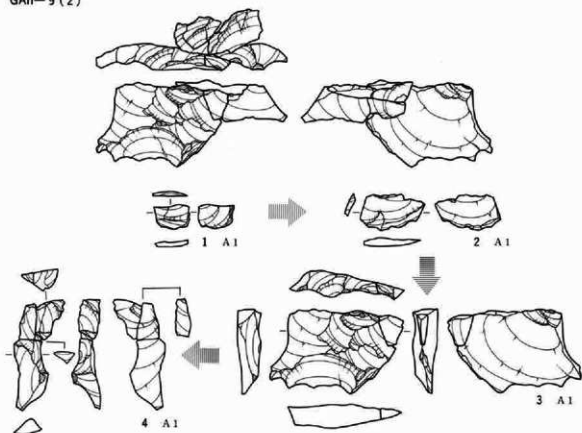


GAn-9 (1) 個体H

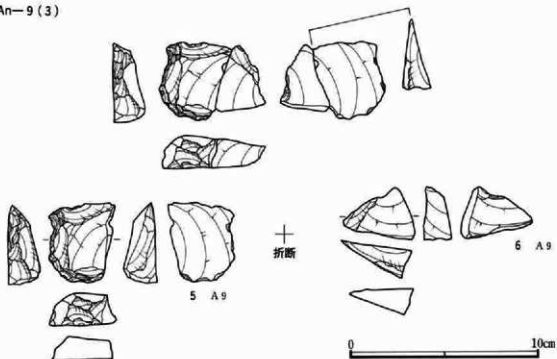


第155図 A区接合資料 (GAn-5・9)

GAn-9 (2)

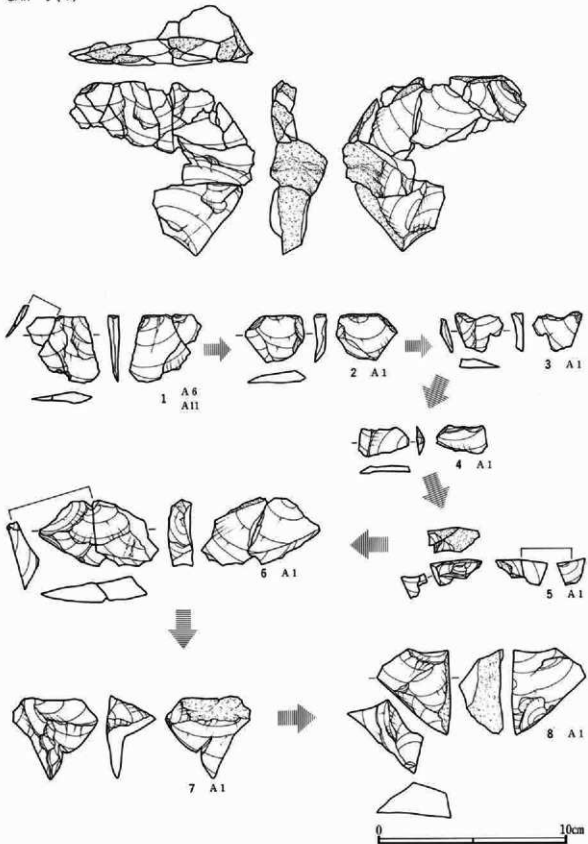


GAn-9 (3)



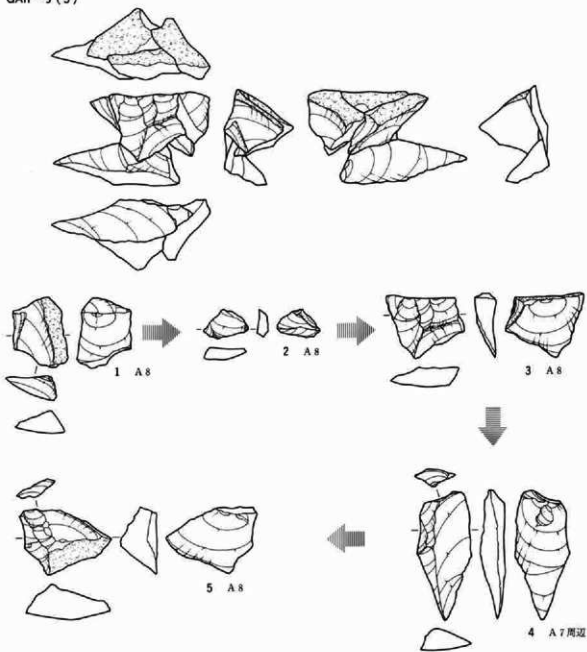
第156図 A区接合資料 (GAn-9)

GAn-9 (4)



第157图 A区接合資料 (GAn-9)

GAn-9 (5)

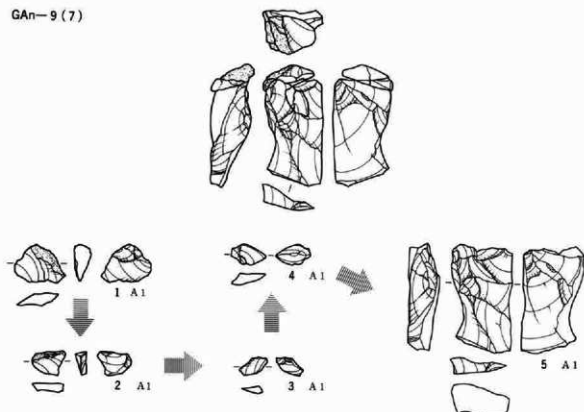


GAn-9 (6)

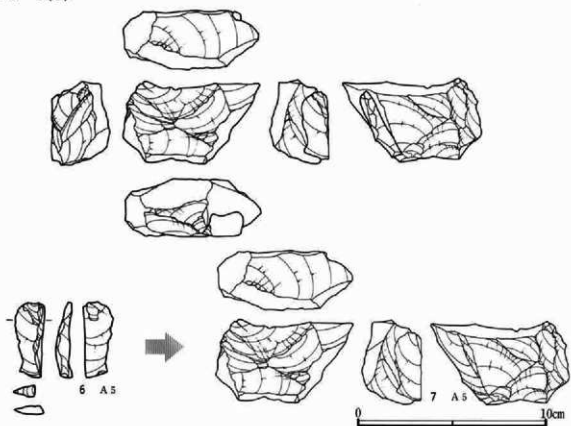


第158図 A区接合資料 (GAn-9)

GAn-9(7)

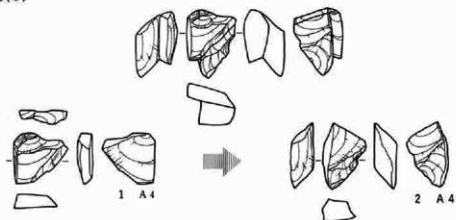


GAn-9(8)

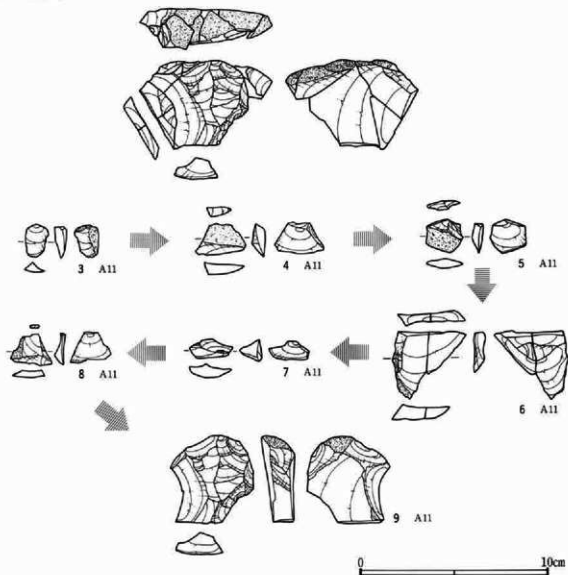


第159圖 A区接合資料 (GAn-9)

GAn-10(1)

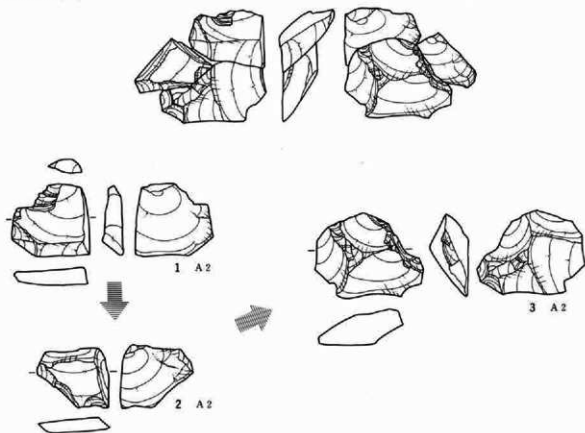


GAn-10(2)

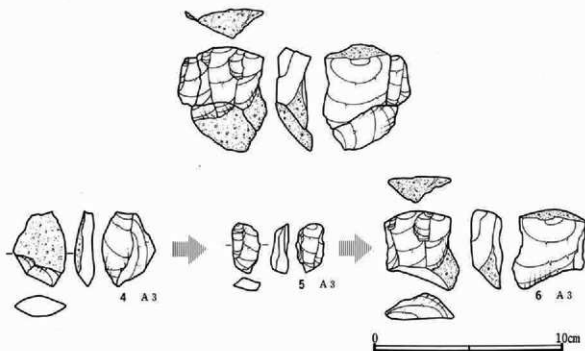


第160図 A区接合資料 (GAn-10)

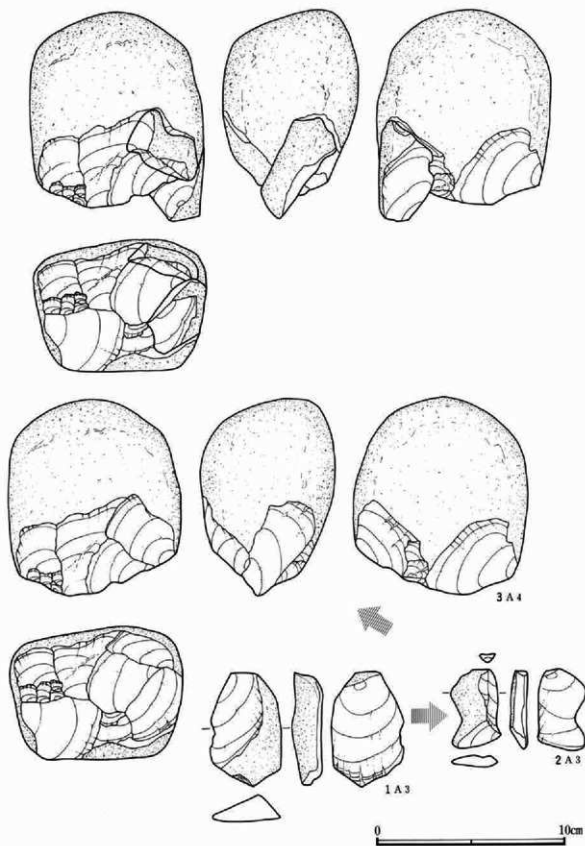
GAn-10(3)



An-1



第161圖 A区接合資料 (GAn-10、An-1)



第162図 A区接合資料 (An-2)

4 ブロック

A区では北側に延びる狭長な舌状台地の先端部から268点の石器群と1点の礫が出土している。それらは13ヶ所のブロックを形成して分布し、塊状ブロック群として評価できる。ブロックの数量的規模はA1ブロックが94点で最も多く、反対に最も少ないのはA13ブロックで5点である。A1ブロック以外のブロックはすべて30点未満の小規模なブロックで、平面的に若干の違いはあるものの、皆同じような規模である。

A1ブロック (第164・165図)

調査区北寄りの(10・11-17・18)グリッドに位置している。長径7.1m、短径5.0mの東西に長い楕円形を呈し、東側に分布の中心がある。また、この中央部に分布の希薄となる部分がある点には注意される。

総数94点の石器群から構成され、その内訳は石核1点、剥片47点、砕片44点、敲石1点、台石1点である。石核と台石は中心から離れて西側に分布している。母岩別にみると、GAn-9・10、An-3、Ob-2、Ch-1、BSh-9、HMs-5の7種類の母岩別資料で構成される。数量的にはGAn-9が87点で圧倒的に主体を占めている。

GAn-9の接合資料はブロック内で収束しているものが多いものの、GAn-9(4)の接合資料はA6ブロックとA11ブロックとの間で接合関係を持っている。また、GAn-9は剥片、砕片類がほとんどであるが、本ブロックからは石核は全く検出されなかった。ブロックから唯一出土している石核はチャート製(Ch-1)である。この石核は単独の母岩別資料であることから、剥片生産を行わずに廃棄されたと考えられる。

A2ブロック (第168・170図)

調査区最北端部の(9-16・17)グリッドに位置し、南側にはA1ブロック、南東にはA3ブロック、南西にはA12ブロックがやや距離をおいて隣接している。長径5.9m、短径3.9mの東西に長い楕円形を呈している。分布は散漫で、微視的にみると中央部に空間部を持っており、東群と西群に分離可能だが、ここでは一つのブロックとして扱った。

総数14点の石器群から構成され、その内訳はナイフ形石器1点、石核2点、剥片9点、砕片2点である。母岩別にみると、GAn-2・9・10、HSh-2・3、BSh-5・7、HMs-2の8種類の母岩別資料で構成される。数量的にはGAn-10が6点と最も多い他は、すべて2点以下である。

接合関係はGAn-2とGAn-10に確認され、前者はA5ブロック間の遠距離間で認められ、後者はブロック内で収束している。

A3ブロック (第166・167図)

調査区東寄りの(10・11-15・16)グリッドに位置している。西側にはA1ブロック、北西側にはA2ブロック、南側にはA4ブロックが隣接している。長径6.9m、短径6.5mの不整形を呈している。

総数20点の石器群から構成され、その内訳は剥片17点、砕片2点、台石1点である。母岩別にみると、GAn-2・4、An-1・2、HMs-4の5種類の母岩別資料で構成される。分布状況は散漫で、An-1とHMs-4は北側にやや離れて分布している。数量的にはGAn-4が11点で最も多いほかは、すべて4点以下の資料である。

接合関係はGAn-2がA7ブロック周辺と遠距離間で、GAn-4がブロック内で収束して、An-2はA4ブロックと隣接して接合関係を持っている。

第4章 天引向原遺跡の旧石器時代調査

A4ブロック (第172・173図)

調査区東寄りの(11・12-15・16)グリッドに位置し、北側にはA3ブロック、南側にはA5ブロック、西側にはA13ブロックが隣接している。長径6.5m、短径5.7mの不整形円形を呈している。

総数18点の石器群から構成され、その内訳は楔形石器1点、二次加工のある剥片1点、石核3点、剥片10点、砕片3点である。母岩別にみると、GAN-1・4・9・10、An-2・4、Ob-3、BSh-7・9の9種類の母岩別資料で構成される。数量的にはGAN-10が7点で最も多い他はすべて2点以下である。

接合関係はAn-2の石核がA3ブロックに分布する剥片2点と接合し、ブロック北寄りから出土したBSh-9の石核がA5ブロックと接合する。GAN-10はブロック内で収束して接合する。

A5ブロック (第169・171図)

調査区東寄りの(12・13-16・17)グリッドに位置し、北側にはA4ブロックとA13ブロック、南西側にはA6ブロックが隣接している。長径7.2m、短径3.1mの東西に長い長楕円形を呈している。微視的にみると中央部に空白部分を持って、東群と西群の2群にすることもできるが、ここでは一つのブロックとして捉えることとした。

総数12点の石器群と1点の礫で構成され、その内訳はスクレイパー1点、石核4点、剥片6点、砕片1点である。石核はA7ブロックに並んで多いが、剥片・砕片は併せて7点であり、剥片生産を集中的に行った痕跡は認められない。母岩別にみると、GAN-2・7・9・10、Ch-2・4、BSh-7・9の8種類の母岩別資料で構成される。数量的にはGAN-2・7・9がそれぞれ2点・2点・3点で構成される他はすべて単独の資料である。

接合関係はGAN-9がブロック内で認められ、GAN-2がA2ブロック、BSh-9がA4ブロックと比較的遠距離間で認められる。

A6ブロック (第174・175図)

調査区南東寄りの(13・14-17・18)グリッドに位置し、北東側にはA5ブロックが隣接し、対向する北側にはA1ブロックが位置している。長径8.2m、短径5.0mの東西に長い楕円形を呈している。

総数24点の石器群で構成され、その内訳は台形様石器1点、剥片18点、砕片4点、台石1点である。母岩別にみると、GAN-3・8・9、BSh-5・7・8の6種類の母岩別資料で構成される。数量的にはGAN-9が10点で最も多いほかはすべて5点以下の資料で構成されている。

接合関係は、GAN-9では2例あり一方はブロック内で、もう一方は北側に対向して位置するA1ブロックと北西側に位置するA11ブロックとのブロック間で認められる。GAN-8では本ブロック西側周辺部に離れて分布する石器との間で認められる。特に、GAN-9では対向して位置するA1ブロックとの間で接合関係が確認された点は注意される。

A7ブロック (第176・178図)

調査区南寄りの(15・16-21)グリッドに他のブロックとはやや離れて位置している。長径4.2m、短径2.2mの南北に長い楕円形を呈している。

総数15点の石器群で構成され、その内訳は石核4点、剥片8点、砕片2点、敲石1点である。母岩別にみると、GAN-2・5、Ch-3、BSh-1・7・8・10、GS-1の8種類の母岩別資料で構成される。数量的

には BSh-8・10 が共に 3 点で、他は 2 点以下の資料である。

接合関係は GAn-5 と BSh-8・10 の 3 例で認められるが、すべてブロック内で収束している。

A 8 ブロック (第177・179図)

調査区西寄りの (13・14-20・21) グリッドに位置し、北東側には A 9 ブロック、やや離れた北側には A 10 ブロックが隣接している。長径 6.0m、短径 4.2m の東西に長い楕円形を呈している。

総数 16 点の石器群で構成され、その内訳は石核 1 点、剥片 14 点、碎片 1 点である。母岩別にみると、GAn-1・9、HMs-3、BSh-8・9 の 5 種類の母岩別資料で構成される。数量的には GAn-1 が 8 点、GAn-9 が 5 点である他はすべて単独の資料である。

接合関係は GAn-1 で 2 例、GAn-9 で 1 例の計 3 例あり、GAn-1 ではブロック内で収束し、GAn-9 では A 7 ブロック周辺の (15-20) グリッドに分布する石器と遠距離間で認められる。

A 9 ブロック (第180・181図)

調査区西寄りの (12・13-19・20) グリッドに位置し、北側には A 10 と A 11 ブロック、南東側には A 6 ブロック、南西側には A 8 ブロックが取り囲むように隣接している。長径 6.4m、短径 3.1m の南北に長い楕円形を呈している。

総数 11 点の石器群から構成され、その内訳はナイフ形石器 2 点、台形様石器 1 点、石核 1 点、剥片 6 点、碎片 1 点である。母岩別には GAn-4・6・9、Ob-1、HSh-1、BSh-3・5 の 7 種類の母岩別資料で構成される。数量的には GAn-9 が 5 点で最も多く、他はすべて単独の資料である。

接合関係は GAn-9 に台形様石器と折断した剥片との 1 例があり、それらはブロック内で収束している。

A 10 ブロック (第182・183図)

調査区西寄りの (11・12-20・21) グリッドに位置し、東側には A 9 ブロック、南東側には A 11 ブロック、南側には A 8 ブロックが隣接する。長径 4.8m、短径 3.9m の不整形を呈し、石器群は中央部に空白部分を持って散漫に分布している。

総数 6 点の石器群で構成され、その内訳は剥片 5 点、碎片 1 点である。母岩別にみると、GAn-3・9、BSh-6 の 3 種類の母岩別資料で構成される。数量的には BSh-6 が 3 点、GAn-3 が 1 点、GAn-9 が 2 点である。接合関係は認められない。

A 11 ブロック (第184・186図)

調査区中央寄りの (11・12-18・19) グリッドに位置し、北側には A 12 ブロック、北東側には A 1 ブロック、南側には A 9 ブロックが隣接している。長径 5.0m、短径 3.2m の南北に長い楕円形を呈している。

総数 19 点の石器群で構成され、その内訳はスクレイパー 2 点、石核 1 点、剥片 13 点、碎片 3 点である。母岩別にみると GAn-9・10、HMs-1、BSh-2・7 の 5 種類の母岩別資料で構成される。分布状況を見ると、GAn-10 は北側に偏在し、BSh-7 が南側に偏在している。数量的には GAn-9 が 4 点、GAn-10 が 9 点、BSh-7 が 4 点で、他はすべて単独の資料である。

接合関係は GAn-9 で 1 例、GAn-10 で 1 例、BSh-7 で 1 例の計 3 例あり、GAn-9 では A 1 ブロックと A 6 ブロックとのブロック間で認められる。GAn-10 と BSh-7 ではそれぞれ北側と南側に偏在したなか

で収束している。

A12ブロック (第188・189図)

調査区北寄りの(9・10—18・19)グリッドに位置し、東側にはA1ブロックとA2ブロックが隣接している。長径7.3m、短径3.5mの南北に長い楕円形を呈している。

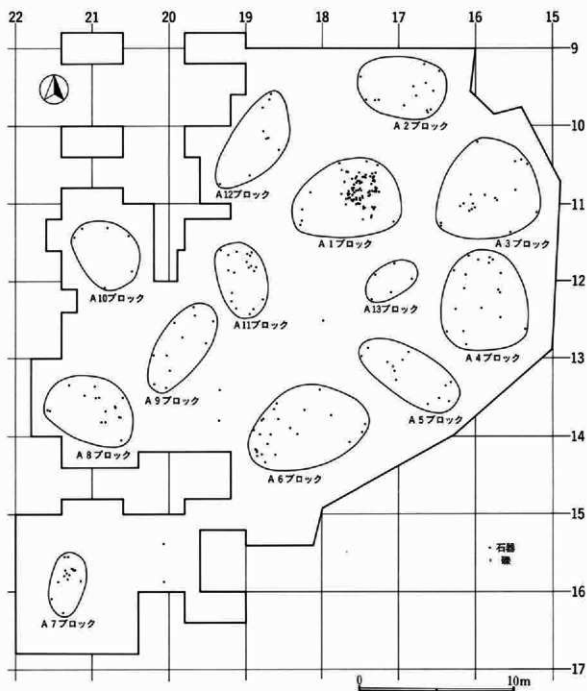
総数9点の石器群で構成され、その内訳は台形様石器1点、石核1点、剥片5点、碎片1点、敲石1点である。母岩別にみると、GAn-1・9・10、An-5の4種の母岩別資料で構成される。数量的にはGAn-9が6点で、他はすべて単独の資料である。

接合関係はGAn-9の1例のみで、それはブロック内で収束している。

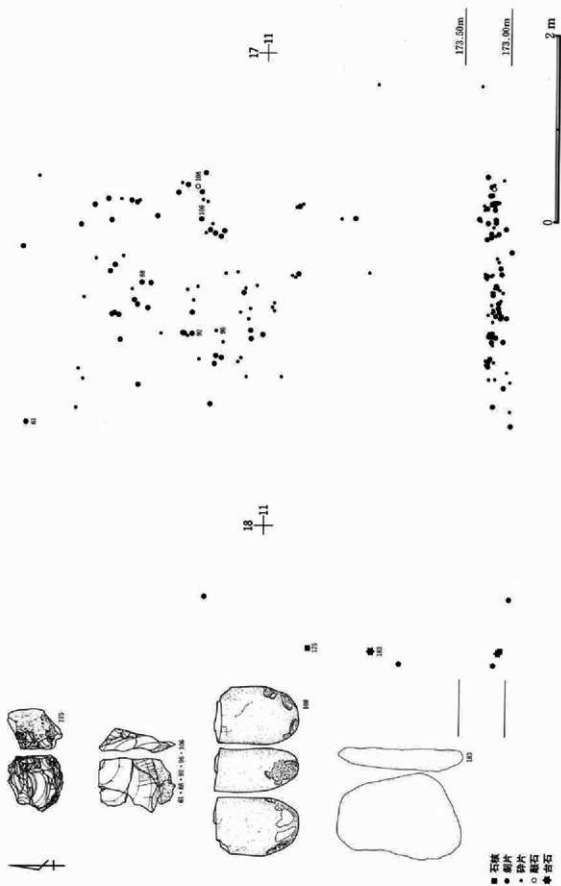
A13ブロック (第185・187図)

調査区中央寄りの(11・12—16・17)グリッドに位置している。北側にはA1ブロック、北東側にA3ブロック、東側にはA4ブロック、南側にはA5ブロックが隣接している。長径3.7m、短径2.1mの東西に長い楕円形を呈している。

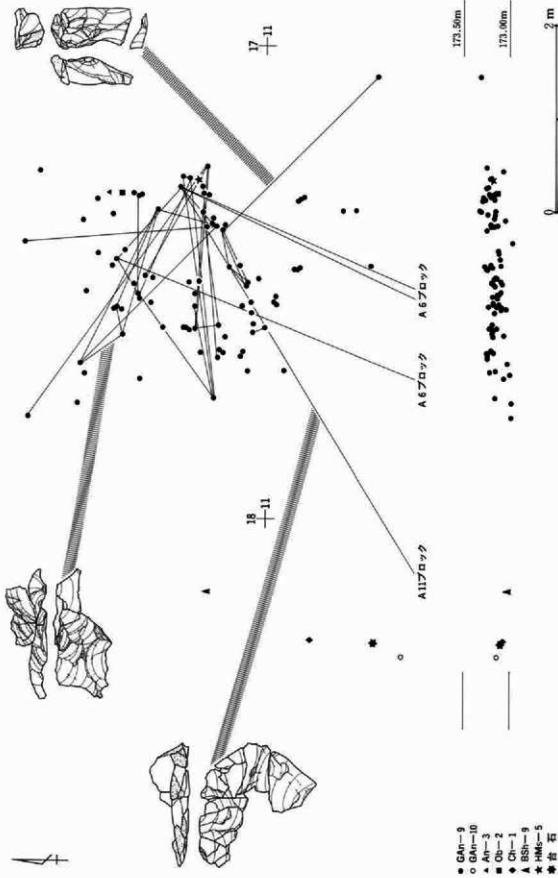
総数5点の石器群で構成され、その内訳はスクレイパー1点、石核2点、碎片1点、台石が1点である。母岩別にみると、GAn-9とBSh-4の2種の母岩別資料で構成される。数量的にはGAn-9が3点、BSh-4が1点である。接合関係は認められない。



第163図 A区ブロック設定図

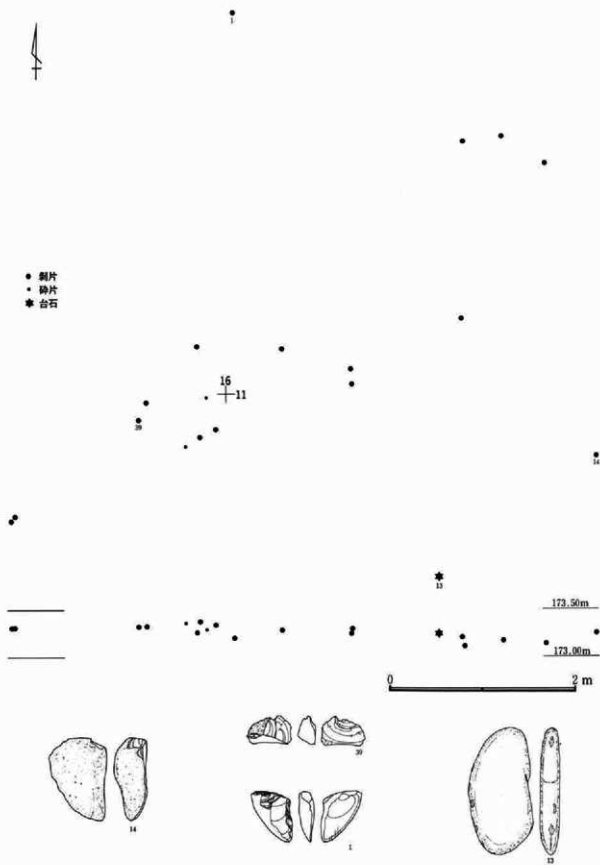


第164図 A.1プロック器種別石器分布図

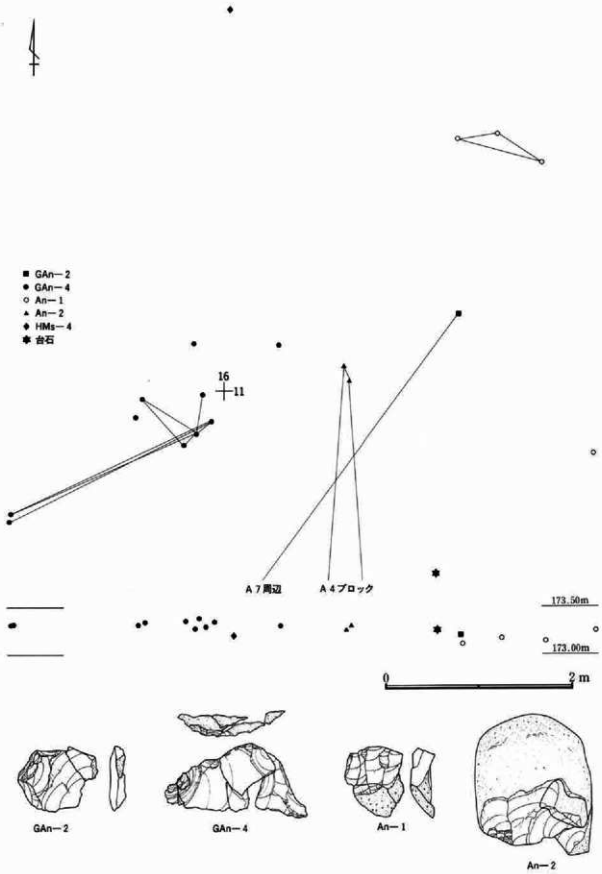


第165図 A1ブロック母岩別石種分布図

第4章 天引向原遺跡の旧石器時代調査

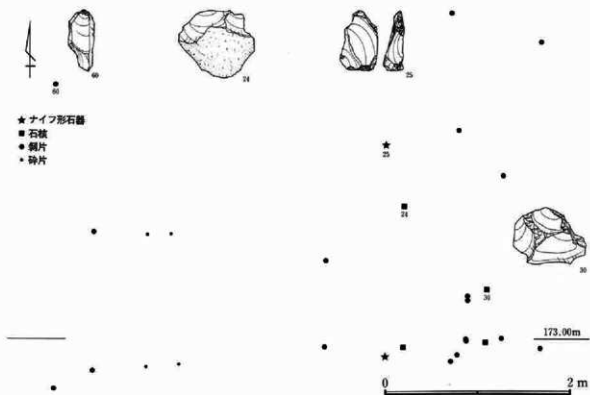


第166図 A3ブロック器種別石器分布図

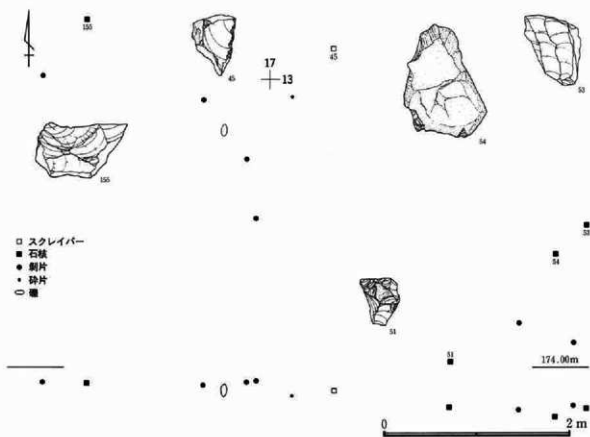


第167図 A3ブロック母岩別石種分布図

第4章 天引向原遺跡の旧石器時代調査

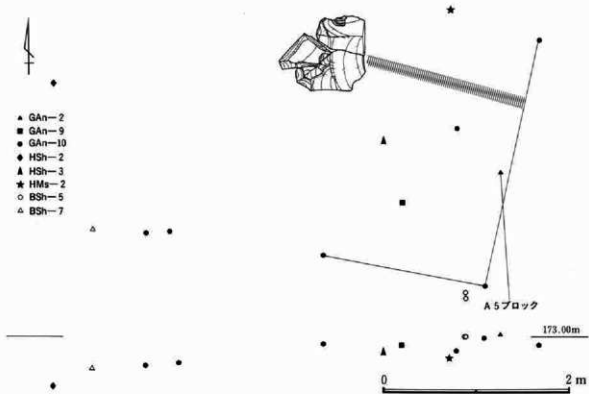


第168図 A2ブロック器種別石器分布図

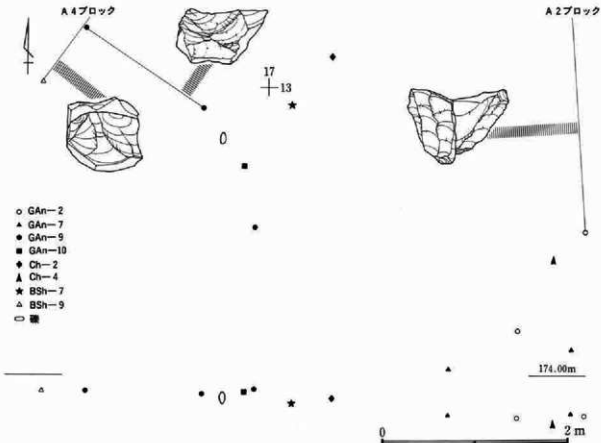


第169図 A5ブロック器種別石器分布図

第1節 天引|向原遺跡A区

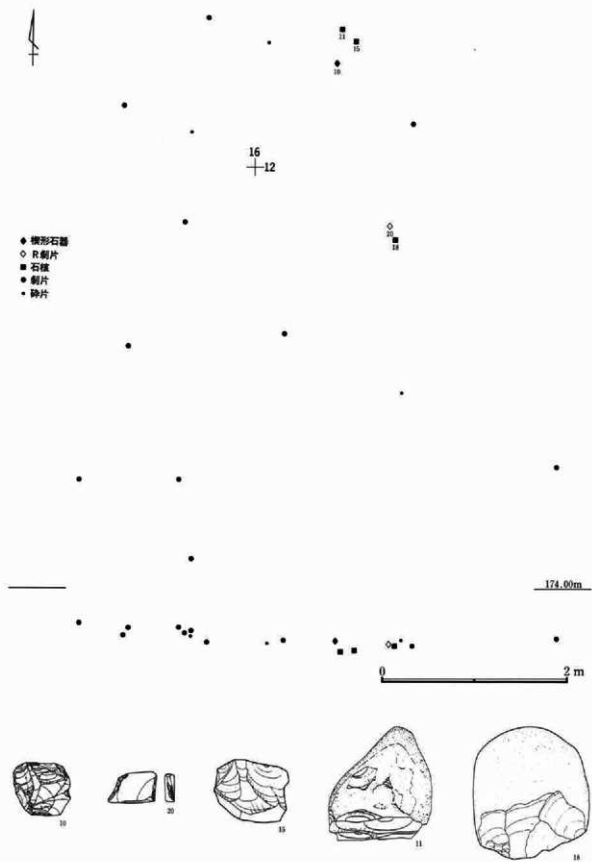


第170図 A2ブロック母岩別石器分布図

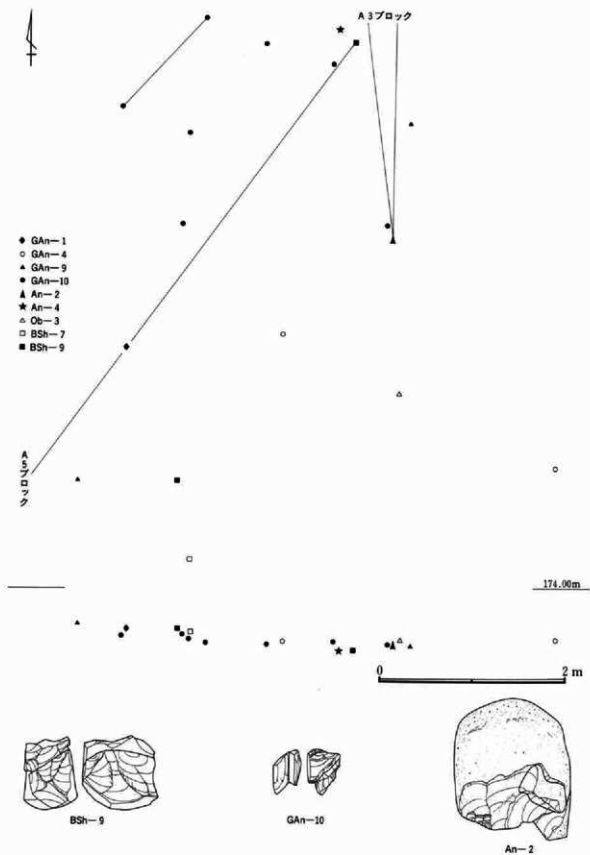


第171図 A5ブロック母岩別石器分布図

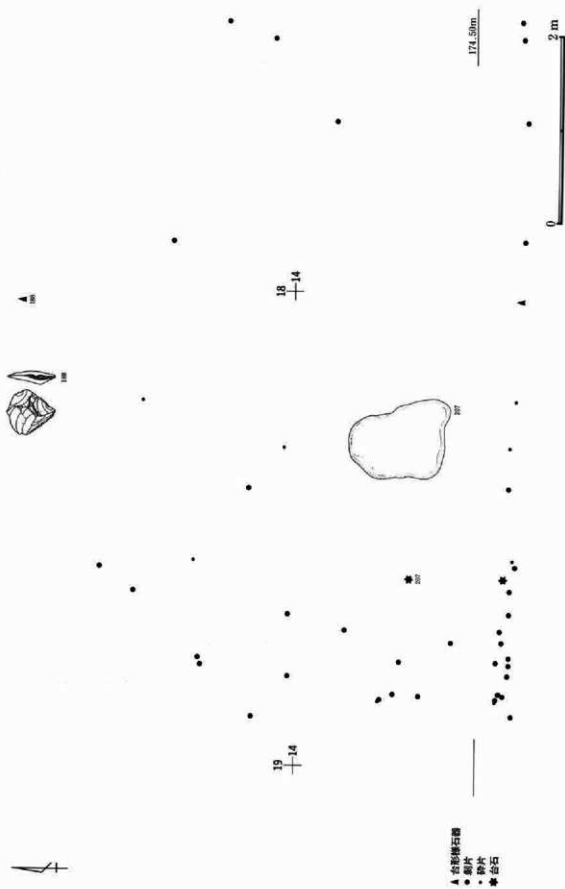
第4章 天引向原遺跡の旧石器時代調査



第172図 A4ブロック器種別石器分布図



第173図 A4ブロック母岩別石器分布図

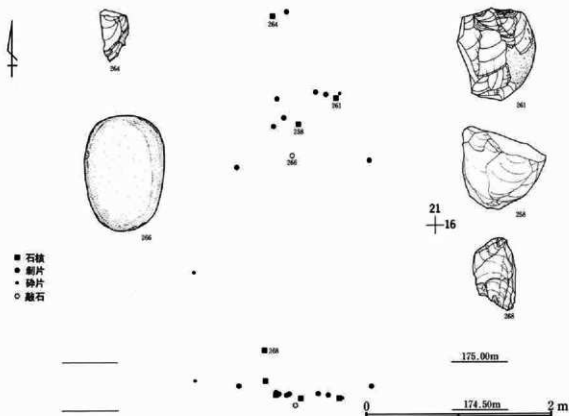


第174図 A 6ブロック器種別石器分布図

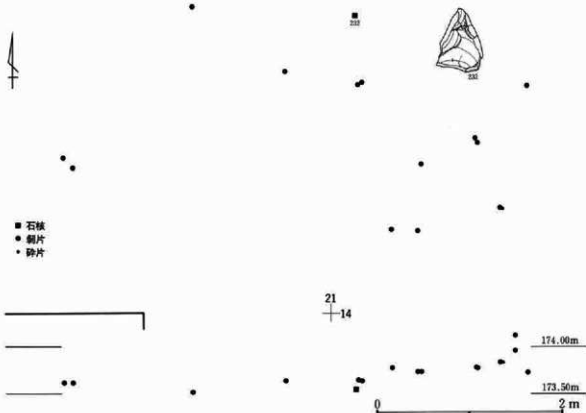


第175図 A6ブロック母岩類石分布図

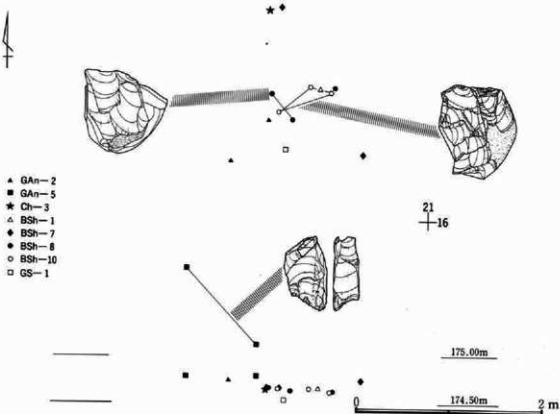
第4章 天引向原遺跡の旧石器時代調査



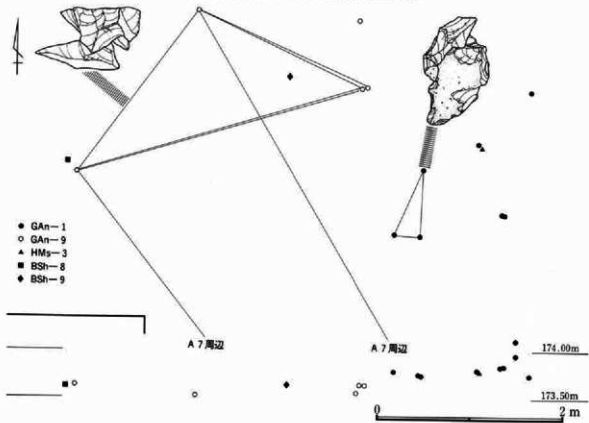
第176図 A7ブロック器種別石器分布図



第177図 A8ブロック器種別石器分布図

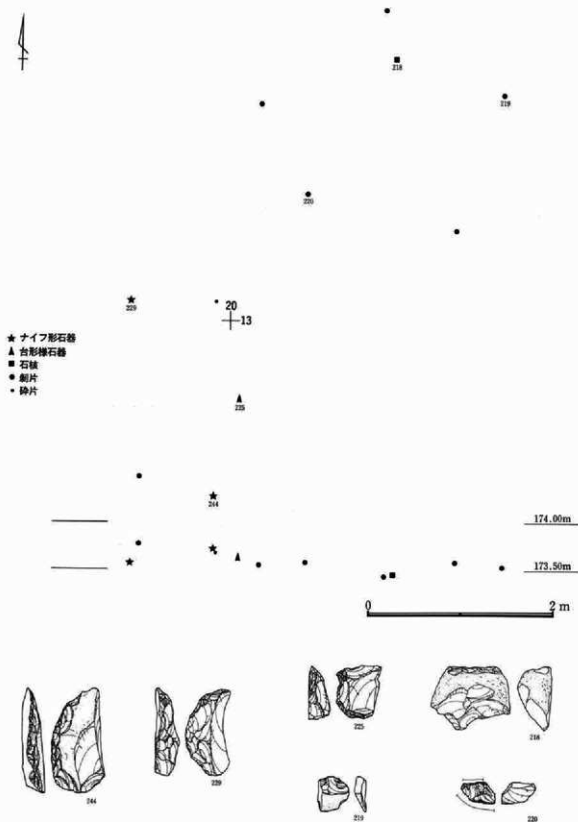


第178図 A7ブロック母岩別石器分布図

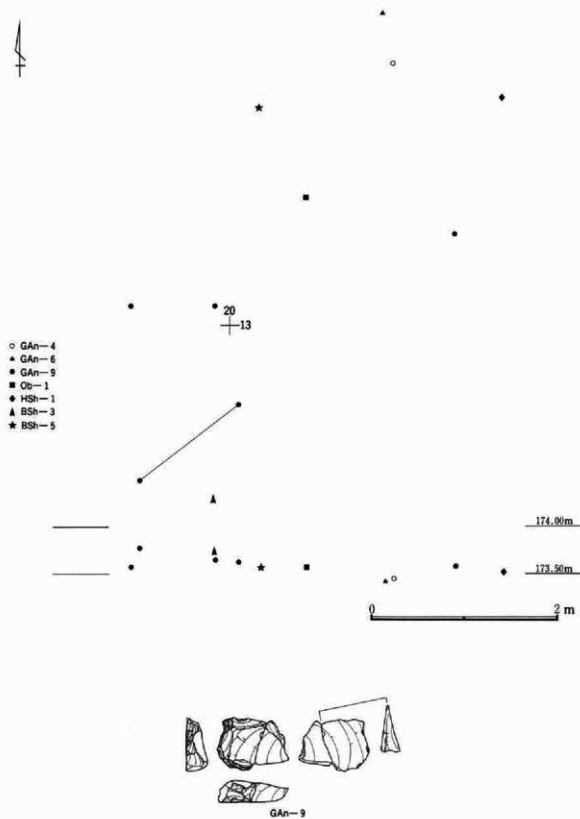


第179図 A8ブロック母岩別石器分布図

第4章 天引向原遺跡の旧石器時代調査

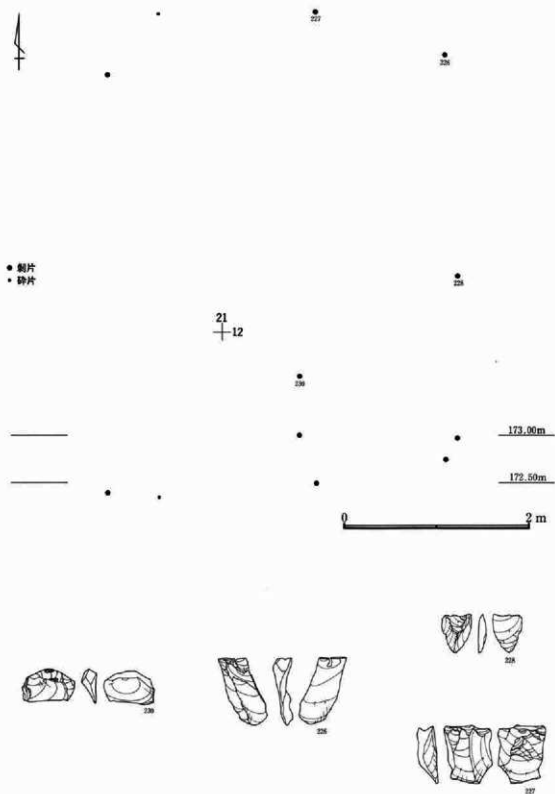


第180図 A9ブロック器種別石器分布図

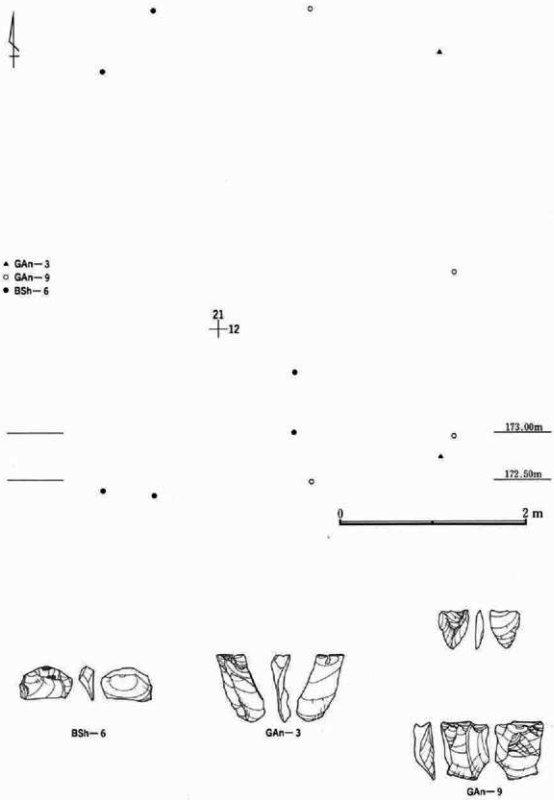


第181図 A9ブロック母岩別石器分布図

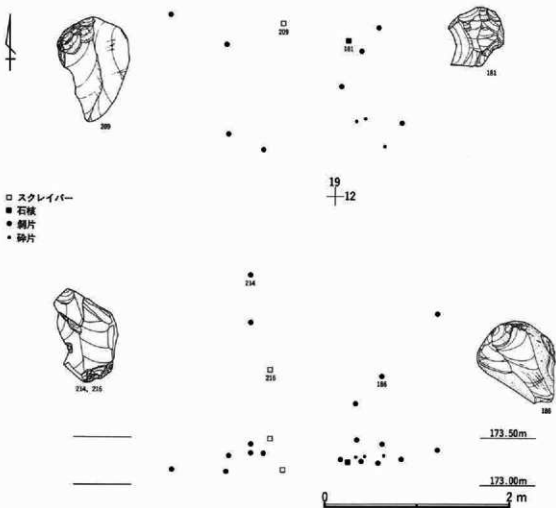
第4章 天引向原遺跡の旧石器時代調査



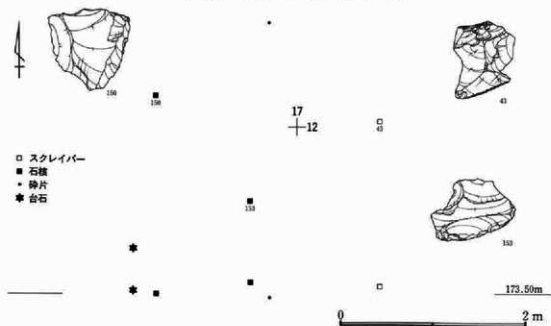
第182図 A10ブロック器種別石器分布図



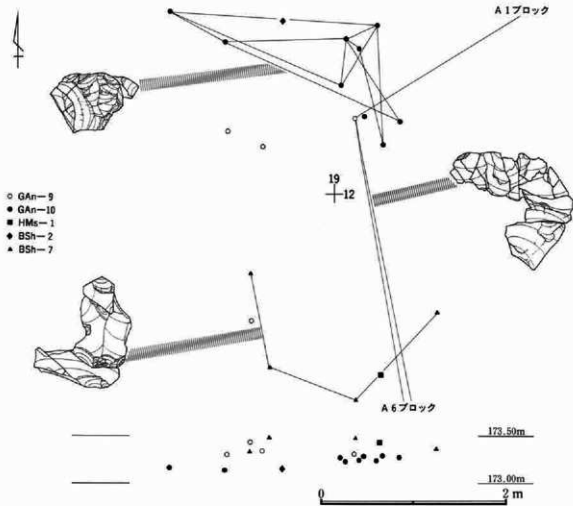
第183図 A10ブロック母岩別石器分布図



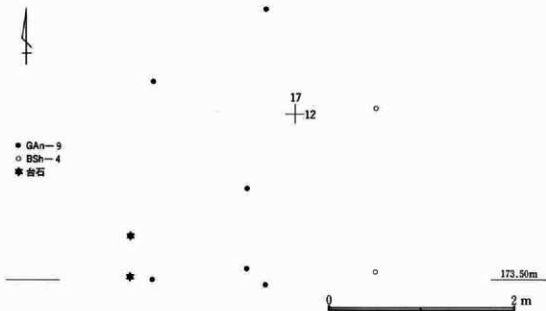
第184図 A11ブロック器種別石器分布図



第185図 A13ブロック器種別石器分布図

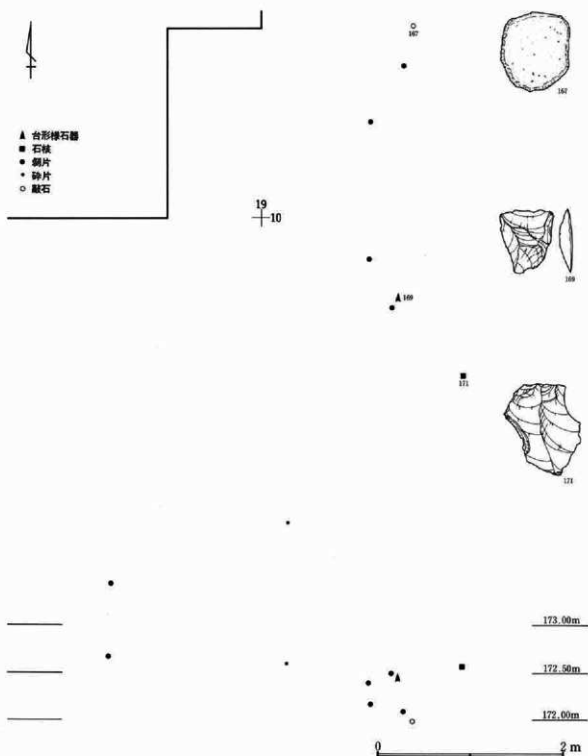


第186図 A11ブロック母岩別石器分布図

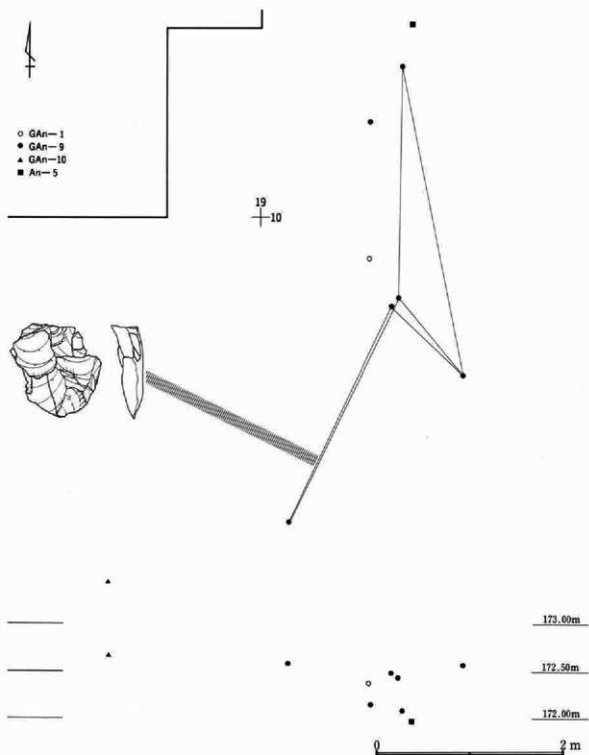


第187図 A13ブロック母岩別石器分布図

第4章 天引向原遺跡の旧石器時代調査



第188図 A12ブロック器種別石器分布図



第189図 A12ブロック母岩別石器分布図

5 器種別石器分布

ナイフ形石器 (第190図)

黒色頁岩製 (BSh-3)、黒色安山岩製 (GAn-9)、珪質頁岩製 (HSh-3) の3点が出土している。HSh-3のナイフ形石器はA2ブロックの中央に分布している。BSh-3とGAn-9のナイフ形石器は共にA9ブロック南半部に分布している。

A区から出土したナイフ形石器はいずれも厚手の縦長剥片を素材として、一側縁に限定して弧状に調整加工を施したものである。特に、A9ブロックではこのようなナイフ形石器2点と厚手の剥片を素材とした台形様石器とが共伴して検出されている。

台形様石器 (第190図)

いずれも黒色安山岩製 (GAn-8・9) のものが3点出土している。A6ブロック、A9ブロック、A12ブロックにそれぞれ分布している。A9ブロックでは、ナイフ形石器2点と共伴してブロック南半部の2×2m弱の範囲に分布している。A12ブロックでは、同じブロックに分布する石核、剥片と接合する。

スクレイパー (第190図)

チャート製 (Ch-2) が1点と黒色頁岩製 (BSh-2・4・7) が3点の計4点が出土している。Ch-2はA5ブロックに分布している。黒色頁岩製のものは2点がA11ブロックに分布し、1点はA13ブロックに分布しており、前者ではブロック北端部と南端部に離れて分布している。

楔形石器 (第190図)

黒色安山岩製 (GAn-10) の1点が出土し、A4ブロックに分布している。

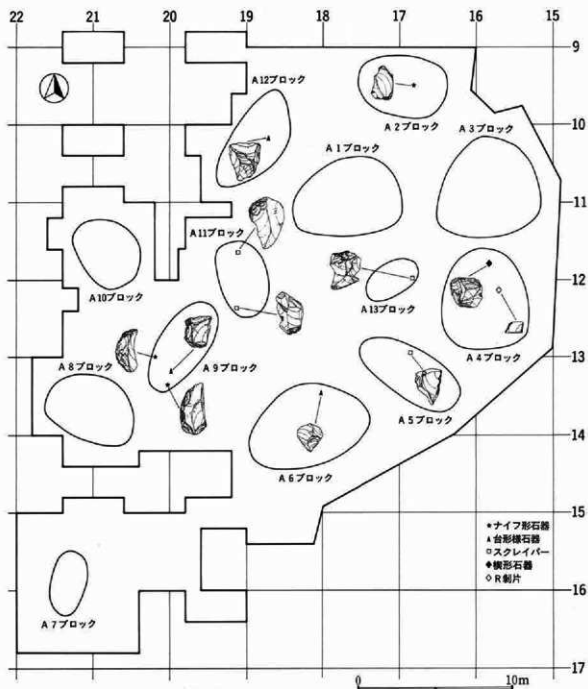
二次加工のある剥片 (第190図)

黒色安山岩製 (GAn-10) の1点が出土し、A4ブロックに分布している。

石核 (第191図)

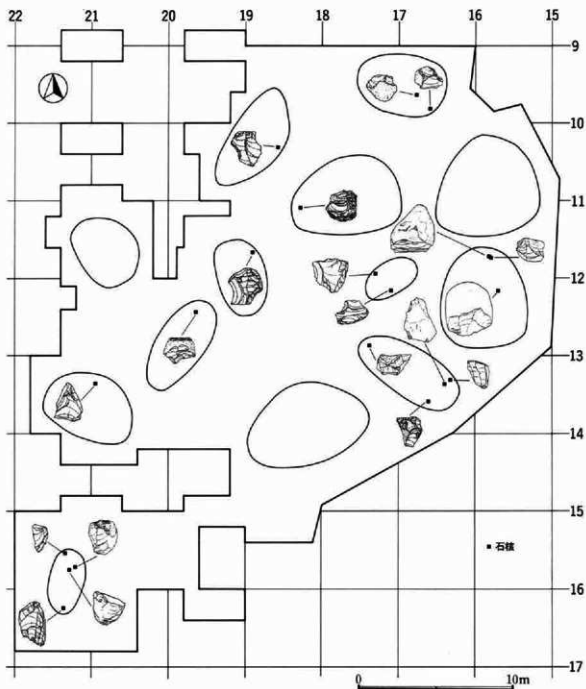
計20点が出土している。各ブロックでの分布状況は次のようである。A1ブロックでは、チャート製 (Ch-1) のものが1点分布しているが、ブロック西端部の (11-18) グリッドに他の石器群とは離れて分布している。また、同じような位置には台石も分布している。A1ブロックでは黒色安山岩製=GAn-9が主体となって分布しているが、GAn-9に帰属する石核はこのブロックからは1点も出土していない。A2ブロックでは、黒色安山岩製のものがブロック東寄りに2点分布している。1点はGAn-10で同じブロック内に分布する剥片が接合する。もう一点はGAn-9で、これに接合関係を持つ剥片類は確認されなかった。A3ブロックには分布していない。A4ブロックでは、安山岩製2点 (An-2・4) と黒色頁岩製1点 (BSh-9) の計3点が分布している。An-2にはA3ブロックに分布する剥片が接合する。

BSh-9にはA5ブロック西端部に分布する剥片が接合する。A5ブロックでは、黒色安山岩製3点 (GAn-2・7・9) とチャート製1点 (Ch-4) の計4点が分布している。GAn-2・7とCh-4の3点はブロック東寄りに偏在している。GAn-2はA2ブロックに分布している剥片と比較的に遠距離間で接合する。GAn-9はブロック西端部に分布し、同じブロックに分布する剥片と接合する。A6ブロックには分布して



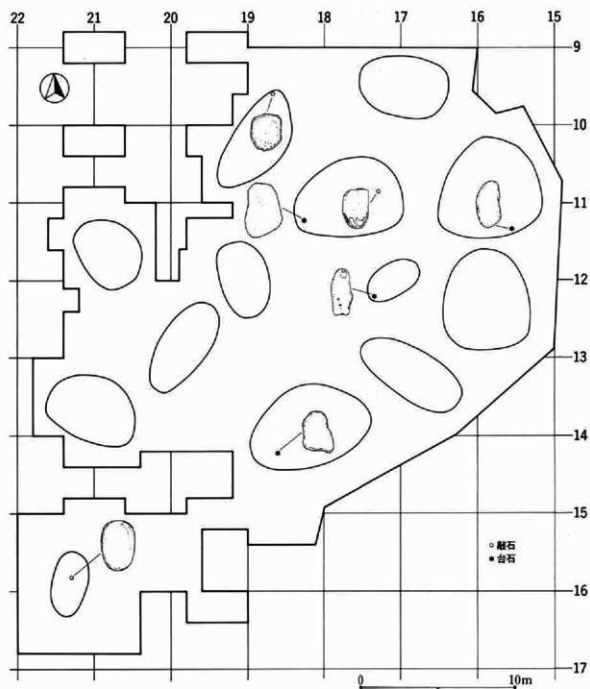
第190図 器種別石器分布全体図（ナイフ形石器、台形椽石器、スクレイパー、楔形石器、R削片）

いない。A7ブロックでは、黒色安山岩製1点（GAN-5）、黒色頁岩製2点（BSh-8・10）、チャート製1点（Ch-3）の計4点が分布している。GAN-5がブロック南端部に分布し、同じくブロック南端部に分布する削片と接合する。BSh-8・10とCh-3の3点はブロック北寄りに偏在し、BSh-8・10に帰属する母岩別資料は互いに1×1m程の範囲に重複して分布し、この石核と比較的狭い範囲内で接合する。A8ブロックでは、黒色安山岩製の1点（GAN-9）が分布する。同じブロックに分布するGAN-9の削片類とは接合関係は確認されなかった。A9ブロックでは、黒色安山岩製の1点（GAN-4）が分布する。A10ブロッ



第191図 器種別石器分布全体図(石核)

クには分布していない。A11ブロックでは、黒色安山岩製の1点(GAn-10)が分布する。同じブロックに分布する剥片類と接合する。A12ブロックでは、黒色安山岩製の1点(GAn-9)が分布する。同じブロックに分布する台形様石器は剥片と接合する。A13ブロックでは、黒色安山岩製の2点(GAn-9)が分布するが、接合関係は確認されなかった。



第192図 器種別石器分布全体図（敲石、台石）

敲石（第192図）

硬質泥岩製1点（HM8-5）、安山岩製1点（An-5）、緑色片岩製1点（GS-1）の計3点が、A1ブロック、A12ブロック北端部、A7ブロック中央部にそれぞれ分布している。

台石（第192図）

安山岩製の4点がA1・A3・A6・A13ブロックに分布している。A1ブロックでは石器の集中する部分から外れたブロック西端部に分布している。

6 母岩別資料の構成と分布・接合関係

天引向原遺跡A区からは268点の石器と1点の礫が出土したが、台石を除く石器は41種類の母岩別資料に分類された。その内訳は黒色安山岩が10、安山岩が5、黒色頁岩が10、珉質頁岩が3、チャートが4、黒曜石が3、硬質泥岩が5、緑色片岩が1である。白倉下原遺跡A・B区や天引崎跡と比較して、黒色頁岩の母岩数が多い。次に各母岩別資料毎に構成と分布、接合関係を観察していく。

GAN-1 (第194図)

剥片9点、砕片1点の計10点の資料で構成される。A4ブロックに1点、A8ブロックに8点、A12ブロックに1点が分布している。接合関係は2例あり、いずれもA8ブロック内で収束している。

GAN-2 (第194図)

石核1点、剥片6点の計7点の資料で構成される。A2・A3ブロックに各1点、A5・A7ブロックに各2点、A7ブロック周辺に1点が分布している。接合関係はA2ブロックとA5ブロック間、A3ブロックとA7ブロック周辺間の2例あり、両者とも遠距離間で接合している。

GAN-3 (第195図)

剥片4点の資料から構成される。A6ブロックに3点、A10ブロックに1点が分布している。接合関係は1例あり、A6ブロック内で収束している。

GAN-4 (第195図)

石核1点、剥片11点、砕片2点の計14点の資料から構成される。A3ブロックに11点、A4ブロックに2点、A9ブロックに1点が分布し、A3ブロックに分布の主体がある。接合関係は1例あり、A3ブロック内で収束している。

GAN-5 (第196図)

石核1点、砕片1点の計2点の資料で構成される。2点ともA7ブロックに分布し、接合関係を持っている。接合距離は1m程である。

GAN-6 (第196図)

剥片1点の単独資料である。A9ブロックに分布している。

GAN-7 (第196図)

石核1点、剥片1点の計2点の資料で構成され、2点ともA5ブロックに分布している。接合関係は確認できなかった。

GAN-8 (第196図)

台形礫石器1点、剥片5点の計6点の資料で構成される。いずれもA6ブロックとその周辺部に分布し、なかでもブロック西側に偏在する。接合関係は1例あり、ブロック周辺部と接合する。

GAn-9 (第197図)

ナイフ形石器1点、台形棒石器2点、石核6点、剥片71点、砕片50点の計130点の資料で構成される。A区で分類された母岩別資料のなかで最も数量の多い母岩別資料である。A1ブロックに87点、A2ブロックに1点、A4ブロックに2点、A5ブロックに3点、A6ブロックに10点、A8ブロックに5点、A9ブロックに5点、A10ブロックに2点、A11ブロックに4点、A12ブロックに6点、A13ブロックに3点、A5ブロック周辺に1点、A7ブロック周辺に1点が分布している。A1ブロックに全体の66%が分布している。接合関係は12例が確認され、ブロック間に亘るものとしてGAn-9(4)があり、A1ブロック、A6ブロック、A11ブロックとの間で接合している。また、GAn-9(5)ではA8ブロックとA7ブロック周辺部との遠距離間で接合している。他の接合資料はブロック内で収束している。

GAn-10 (第198図)

楔形石器1点、二次加工のある剥片1点、石核2点、剥片15点、砕片6点の計25点の資料で構成される。A1ブロックに1点、A2ブロックに6点、A4ブロックに7点、A5ブロックに1点、A11ブロックに9点、A12ブロックに1点が分布している。接合関係は3例確認されたが、すべてA2ブロック、A4ブロック、A11ブロックで収束している。

An-1 (第199図)

剥片4点の資料で構成される。すべてA3ブロックに分布し、特に東側に偏在する。接合関係は1例ある。

An-2 (第199図)

石核1点、剥片2点の計3点の資料で構成される。前者はA4ブロック、後者はA3ブロックに分布し、両ブロック間で接合関係を持っている。

An-3 (第199図)

剥片1点のみの単独資料で、A1ブロックに分布している。

An-4 (第199図)

石核1点のみの単独資料で、A4ブロックに分布している。

An-5 (第199図)

敲石1点のみの単独資料で、A12ブロックに分布している。

Ob-1・2・3 (第203図)

Ob-1は剥片1点のみの単独資料で、A9ブロックに分布している。Ob-2は砕片1点のみの単独資料で、A1ブロックに分布している。Ob-3は砕片1点のみの単独資料で、A4ブロックに分布している。

BSh-1 (第200図)

剥片1点のみの単独資料で、A7ブロックに分布している。

第4章 天引向原遺跡の旧石器時代調査

BSh-2 (第200図)

スクレイパー1点のみの単独資料で、遺跡外からの搬入品である。A11ブロックに分布している。

BSh-3 (第200図)

ナイフ形石器1点のみの単独資料で、遺跡外からの搬入品である。A9ブロックに分布している。

BSh-4 (第200図)

スクレイパー1点のみの単独資料で、遺跡外からの搬入品である。A13ブロックに分布している。

BSh-5 (第200図)

剥片4点、砕片1点の計5点の資料で構成される。A2ブロックに2点、A6ブロックに2点、A11ブロックに1点が分布する。接合関係は2例あり、それぞれA2ブロック内、A6ブロック内で収束している。

BSh-6 (第201図)

剥片2点、砕片1点の計3点の資料で構成される。すべてA10ブロックに分布する。接合関係はない。

BSh-7 (第201図)

スクレイパー1点、剥片8点、砕片1点の計10点の資料で構成される。A2ブロックに1点、A4ブロックに1点、A5ブロックに1点、A6ブロックに1点、A7ブロックに2点、A11ブロックに4点が分布している。接合関係は1例が確認され、A11ブロック内で収束している。

BSh-8 (第201図)

石核1点、剥片4点、砕片1点の計6点の資料で構成される。A6ブロックに2点、A7ブロックに3点、A8ブロックに1点が分布している。接合関係は1例あり、A7ブロック内で収束している。

BSh-9 (第201図)

石核1点、剥片5点の計6点の資料で構成される。A1・A5・A8ブロックとA6ブロック周辺部に各1点、A4ブロックに2点が分布している。接合関係は1例あり、A3とA5ブロック間で接合している。

BSh-10 (第201図)

石核1点、剥片2点の計3点の資料で構成される。すべてA7ブロックに分布し、3点とも接合関係を持っている。

HMs-1 (第202図)

剥片1点の単独資料で、A11ブロックに分布している。

HMs-2 (第202図)

剥片1点の単独資料で、A2ブロックに分布している。

HMs-3 (第202図)

剥片1点の単独資料で、A8ブロックに分布している。

HMs-4 (第202図)

剥片1点の単独資料で、A3ブロックに分布している。

HMs-5 (第202図)

敲石1点の単独資料で、A1ブロックに分布している。

Ch-1 (第203図)

石核1点のみの単独資料で、A1ブロックの中心部から外れた西端部に分布している。

Ch-2 (第203図)

スクレイパー1点のみの単独資料で、A5ブロックに分布している。

Ch-3 (第203図)

石核1点のみの単独資料で、A7ブロックに分布している。

Ch-4 (第203図)

石核1点のみの単独資料で、A5ブロックに分布している。

HSh-1 (第203図)

剥片1点のみの単独資料で、A9ブロックに分布している。

HSh-2 (第203図)

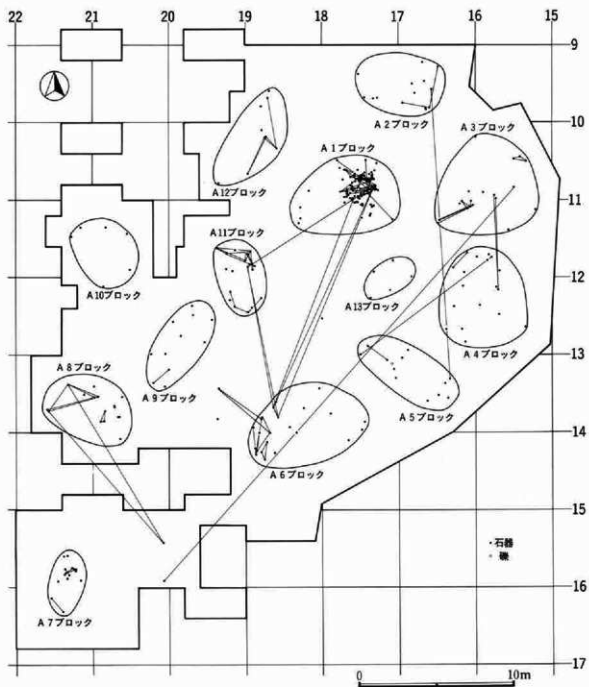
剥片1点のみの単独資料で、A2ブロックに分布している。

HSh-3 (第203図)

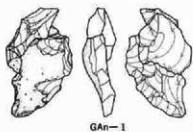
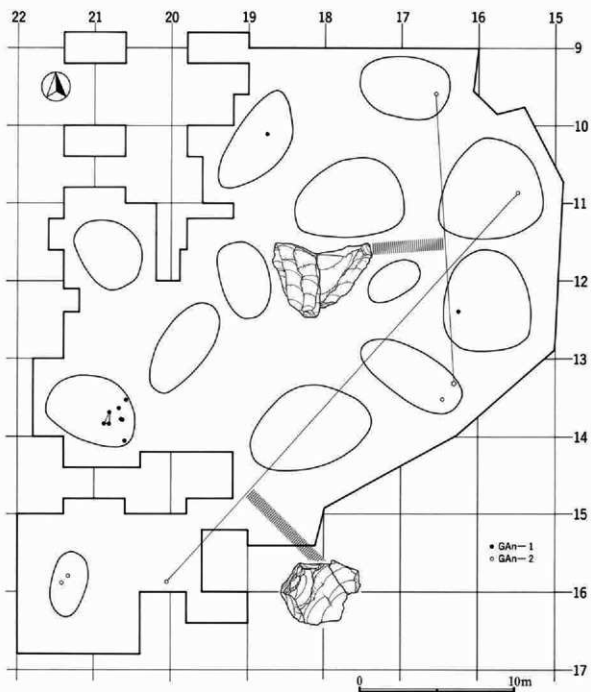
ナイフ形石器1点のみの単独資料で、遺跡外からの搬入品である。A2ブロックに分布している。

GS-1 (第202図)

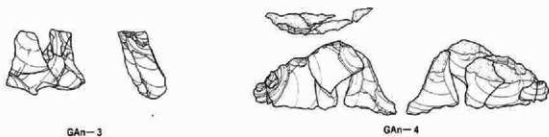
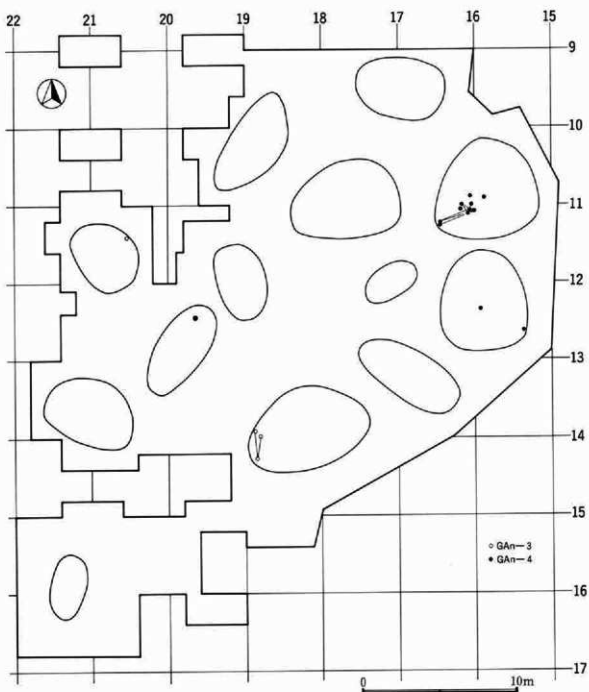
敲石1点のみの単独資料で、A7ブロックに分布している。



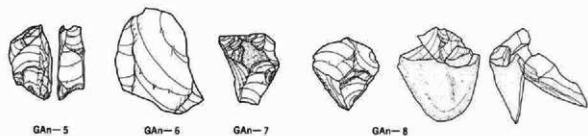
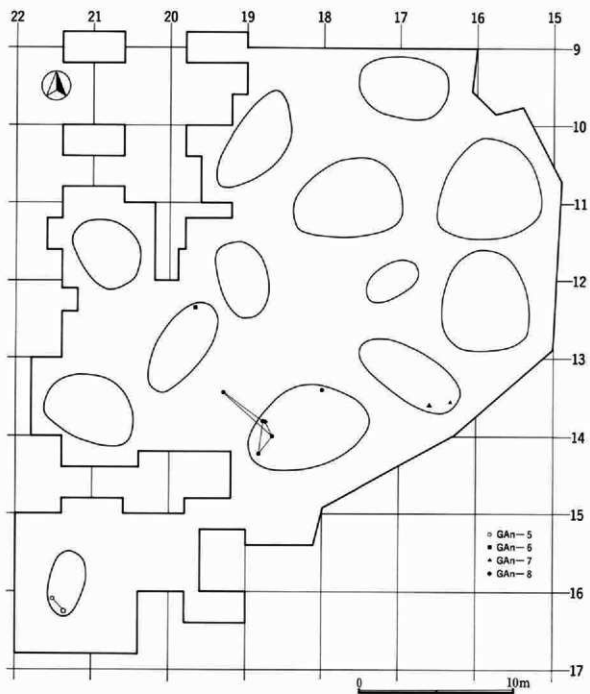
第193図 A区接合関係全体図



第194図 母岩別石器分布全体図 (GAn-1・2)

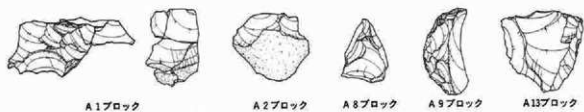
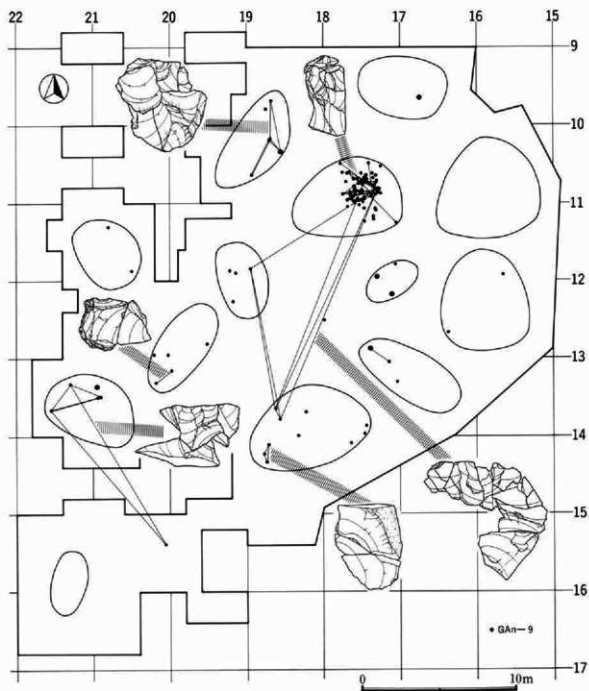


第195図 母岩別石器分布全体図 (GAn-3・4)



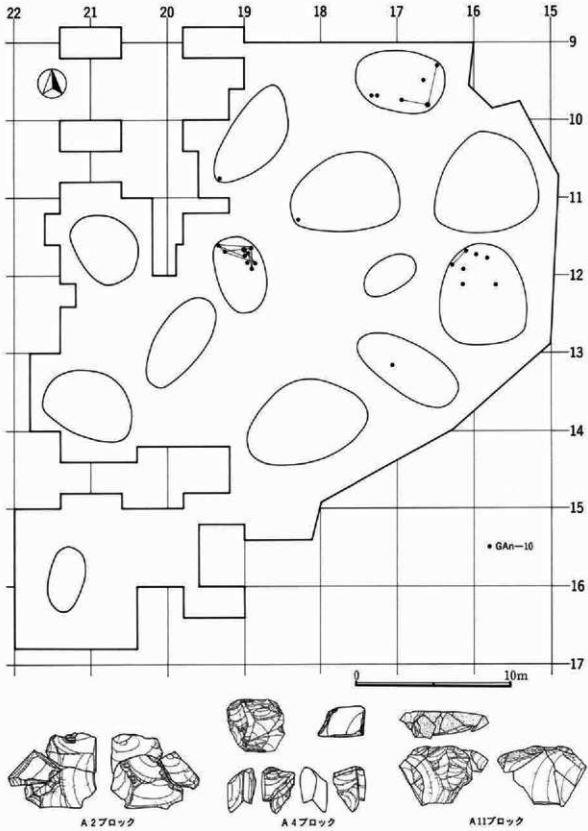
第196図 母岩別石器分布全体図 (GAn-5・6・7・8)

第4章 天引向原遺跡の旧石器時代調査

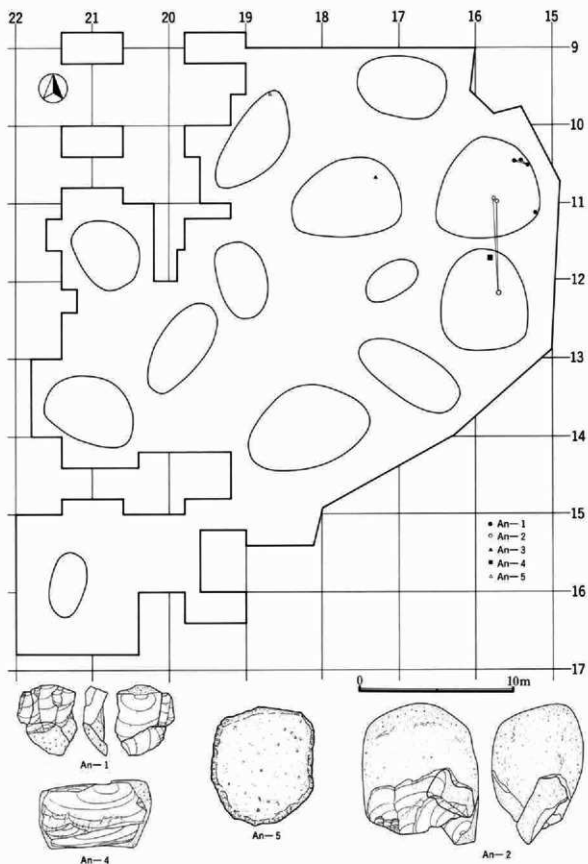


第197図 母岩別石器分布全体図 (GAn-9)

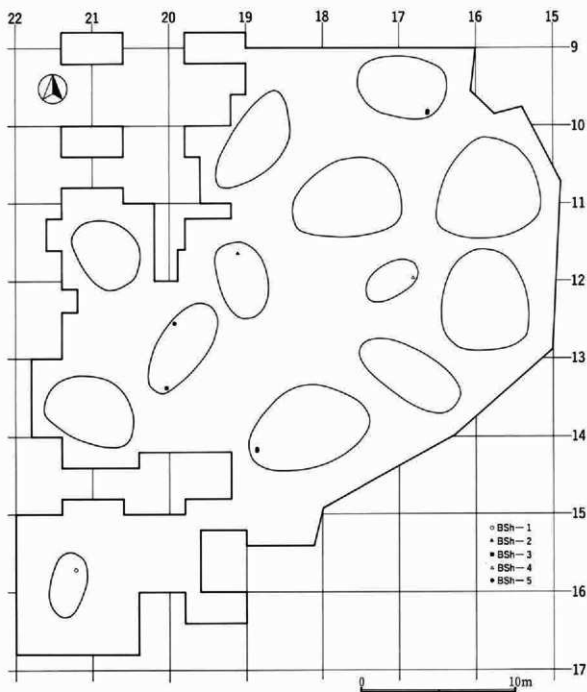
第1節 天引向原遺跡A区



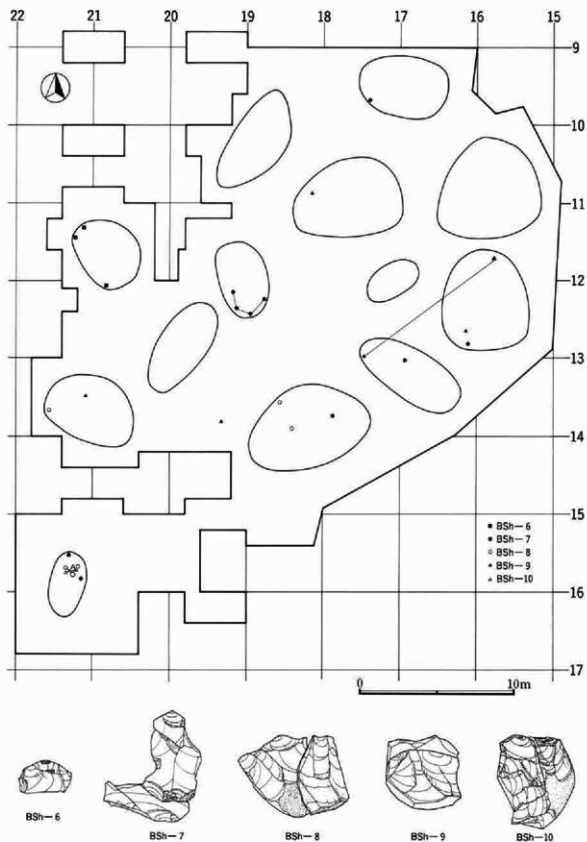
第198図 母岩別石礫分布全体図 (GAn-10)



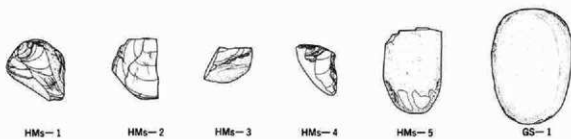
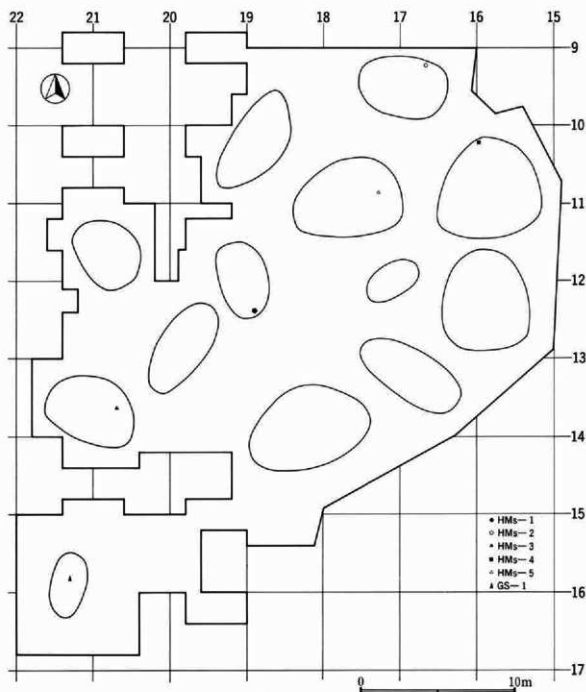
第199図 母岩別石英分布全体図 (An-1・2・3・4・5)



第200図 母岩別石器分布全体図 (BSh-1・2・3・4・5)

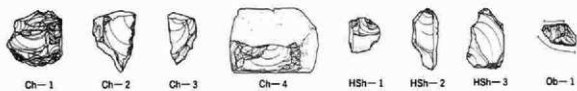
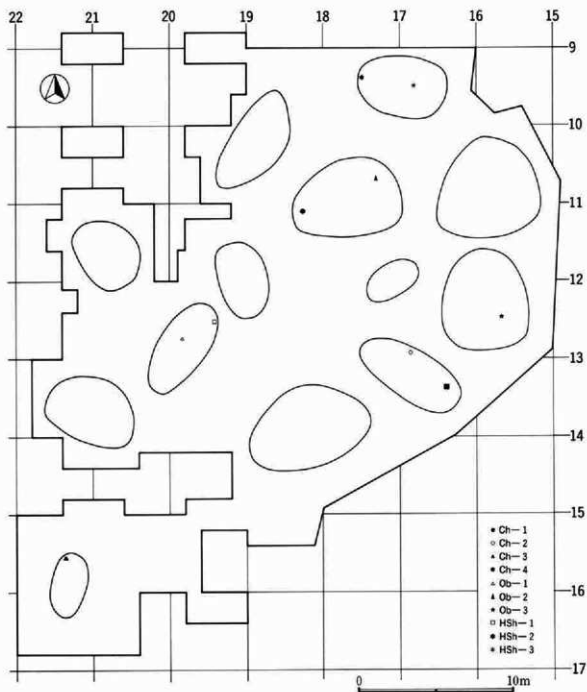


第201図 母岩別石器分布全体図 (BSH-6・7・8・9・10)



第202图 母岩別石器分布全体图 (HM-1・2・3・4・5、GS-1)

第4章 天引向原遺跡の旧石器時代調査



第203図 母岩別石器分布全体図 (Ch-1・2・3・4、Ob-1・2・3、HSh-1・2・3)

第2節 天引向原遺跡C区

1 概要

天引向原遺跡C区は、A区の西側台地に位置する。東をB区の小支谷、西を三途川に注ぐ小支谷に開析された舌状台地に立地している。北側に向かって張り出す台地先端部から文化層が検出される可能性が大きいと期待されたが、傾斜があるためか石器群は確認されなかった。しかし、白倉下原遺跡と天引向原遺跡とを画する西側の小支谷を望む台地中央部の(42-51)グリッドでブロックが1ヶ所確認された。他に同じく台地中央部の(34-49)グリッド、(35-47)グリッド、(43-45)グリッドで石器が検出された。

第8表 C区ブロック別器種別石器組成表

	ナイフ 形石器	台形様 石器	スクレ イバー	楔形石器	R削片	石核	剥片	砕片	燧石	台石	計	種	合計
C1ブロック		1					4	1			6		6
ブロック外		1					3				4		4
合計		2					7	1			10		10

第9表 C区ブロック別母岩別石器組成表

	GAn-1	GAn-2	GAn-3	Ob-1	Ch-1	Ch-2	計	種	合計
C1ブロック	2	2			2		6		6
ブロック外			1	2		1	4		4
合計	2	2	1	2	2	1	10		10

2 石器

C区からは合計10点の石器が出土している。このうち6点の石器が小規模なブロックを構成していた。次に各石器について観察していく。

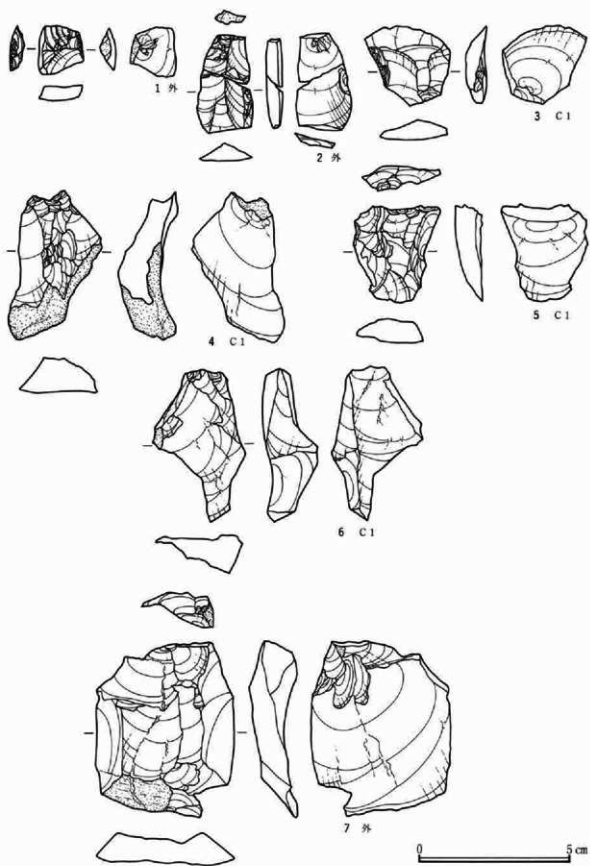
台形様石器 (第204図1・3)

1 黒曜石製で、折断した石刃を素材としている。折断面に急斜な調整加工を施しているが、素材打面には調整加工は加えられていない。素材となる石刃は比較的小型で、頭部調整が施されている。打面は平坦な自然面である。2はこの台形様石器と折断削片の接合面である。

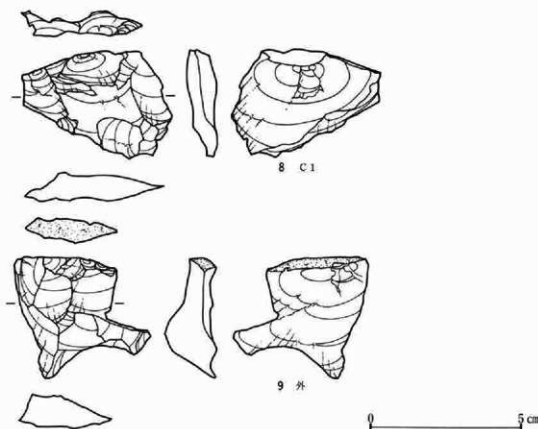
3 黒色安山岩製で、貝殻状の寸詰まりの縦長削片を素材とする。左右両側縁に調整加工が施されている。

削片 (第204図4～第205図9)

4はチャート製の縦長削片で、一部稜上調整と考えられる剝離痕が認められる。打面は自然面で、背面に残る自然面とのあり方からみて、母岩は小型であったことが理解される。5は黒色安山岩製の寸詰まりの縦長削片で、打面部に最大幅がある。6は黒色安山岩製の縦長削片。7はチャート製の幅広い縦長削片で、(34-49)グリッドから単独で出土。8は黒色安山岩製の横長削片で、端部はステップフレイキングを起こしている。9は黒色安山岩製の横長削片で、(35-47)グリッドから単独で出土している。



第204図 C区出土石器（台形礫石器、剥片）



第205図 C区出土石器(剥片)

3 ブロック

C1ブロック (第206図)

調査区南よりの(42-51)グリッドに位置する。長径2.3m、短径1.1mの楕円形を呈する。総数6点の石器群で構成され、その内訳は台形様石器1点、剥片4点、砕片1点である。母岩別にみると、GAn-1・2、Ch-1の3種類がある。ブロック内での接合関係は確認できなかった。南西側に農道が走っていたため、ブロック全体は調査できなかったが、分布状況からみてこの範囲で収束していると考えられる。

ブロック外 (第124図・第207図)

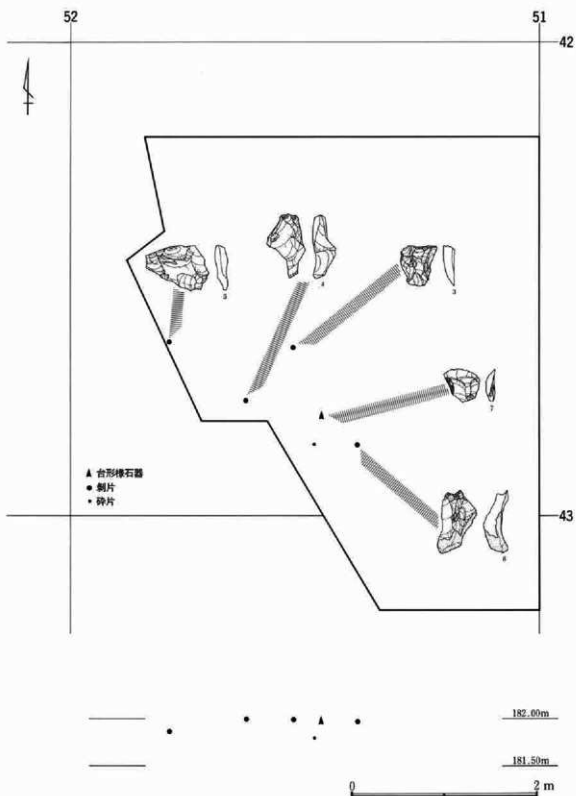
ブロック外からは4点の石器が出土した。(34-49)グリッドからはチャート製の剥片が1点、(35-47)グリッドからは黒色安山岩製の剥片が1点、(43-45)グリッドからは黒曜石製の台形様石器とその折断剥片の2点が出土した。この2点は接合関係を持つ(第204図2)。

4 その他の旧石器時代の石器

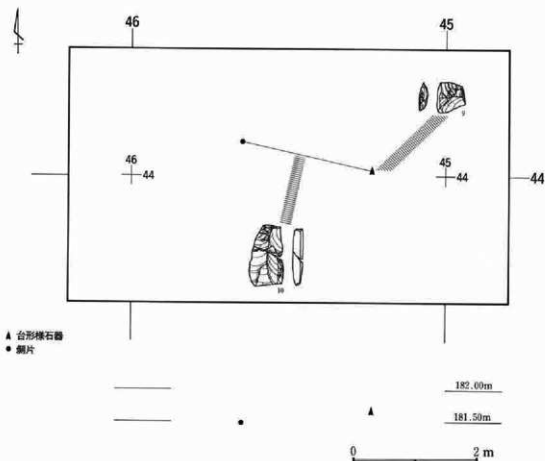
C区では縄文時代以降の遺構覆土や表土等から、次に示す旧石器時代に帰属すると考えられる石器が出土した。

槍先形尖頭器 (第208図1・2)

1 黒曜石製で、両面に平坦な調整加工を施し、薄く仕上げている。上下両端部は欠損している。素材は、器体の反り具合から考えて剥片であろう。粘土探掘坑の覆土より出土。



第206図 C1ブロック器種別石器分布図



第207図 ブロック外器種別石器分布図

2 黒色安山岩製で、横長剥片を素材とし上端部は欠損する。背面と主要剥離面の周辺部に平坦な調整加工が施されているが、ステップフレイキングを起こしている。住居跡の覆土より出土。

二次加工のある剥片 (第208図3)

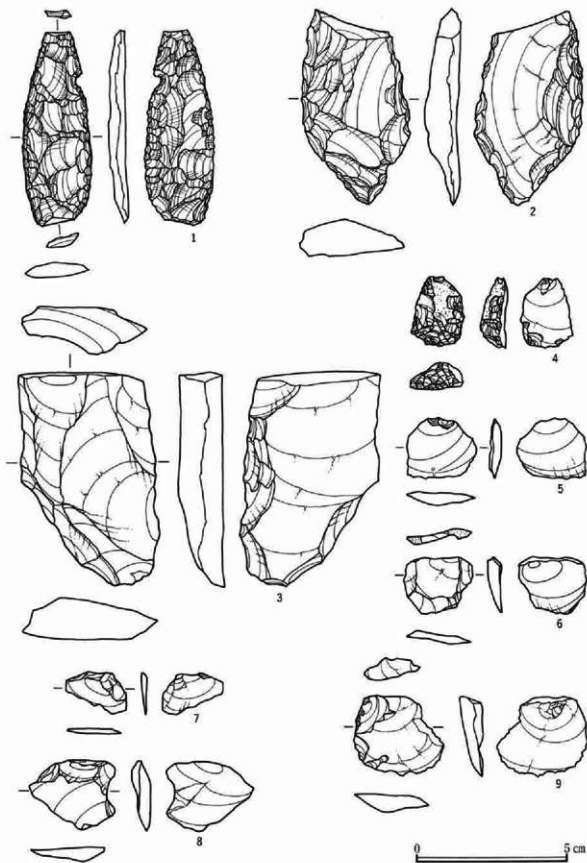
3 黒色安山岩製で、縦長剥片を素材とし上半部は欠損する。主要剥離面側の左側縁を中心に平坦な調整加工が施されている。(35-46) グリッドの表土より出土。

エンドスクレイパー (第208図4)

4 黒曜石製で、厚みのある寸詰まりの縦長剥片を素材とし、その端部と右側縁に急斜なスクレイパーエッジが作出される。住居跡の覆土より出土。

剥片 (第208図5-9)

5 は緑色片岩製の横長剥片で、(42-42)グリッド出土。6 は硬質泥岩製の寸詰まりの縦長剥片で、土坑の覆土より出土。7 は硬質泥岩製の横長剥片で、(40-50)グリッド出土。8 は黒色安山岩製の横長剥片で、土坑の覆土より出土。9 はチャート製の寸詰まりの縦長剥片で、(42-49)グリッド出土。5、7、9 は試掘調査の際に As-BP 層群よりも上層のローム層から各々単独で出土しているが、周辺には縄文時代の住居跡等が展開しており、そこから紛れ込んだ石器の可能性もある。



第208図 C区表土出土石器

第5章 まとめと考察

鍋川中流域の甘楽郡甘楽町大字白倉・天引地内で白倉下原遺跡、天引向原遺跡、天引狐崎遺跡の3遺跡から合計6地点の旧石器時代遺跡が確認された。これらの遺跡は上位段丘面に立地し、各地点の石器群は環状ブロック群を構成して検出された。比較的狭い地域内から点々と旧石器時代の石器群が、A T下層段階に特徴的な環状ブロック群という集落跡を形成して検出されたことは当該期の集落研究を行う上で重要と言える。本章では、資料整理によって抽出された事象についてまとめ、若干の考察を中心に行っておきたい。

第1節 各遺跡で検出された環状ブロック群

白倉下原遺跡で3地点(A・B・C区)、天引向原遺跡で2地点(A・C区)、天引狐崎遺跡で1地点の計6地点から石器群が検出された。このうち、環状ブロック群を構成していたのは、白倉下原遺跡A・B区、天引向原遺跡A区、天引狐崎遺跡第1ブロック群の4地点の石器群である(第209図)。また、第10表は各遺跡の環状ブロック群を项目的にまとめたもので、ここではそれら環状ブロック群の特徴及び類似点と相違点について補足的に述べる。

1 形態・規模

全体的な石器の分布形態については、白倉下原遺跡A・B区、天引狐崎遺跡では円形、天引向原遺跡A区では楕円形を呈している。次に規模すなわち石器の分布範囲についてみると、白倉下原遺跡A・B区、天引狐崎遺跡は長径16~18mでほぼ共通した範囲内に石器が分布している。しかし、天引向原遺跡A区では長径44mで、他の環状ブロック群よりも2倍強の規模を持ち、短径でも24mで一回り大きいのが、この遺跡の場合どのブロックまでを環状ブロック群の範囲に含めるかが問題ともなる。

2 構成ブロック数

白倉下原遺跡A区と天引狐崎遺跡はそれぞれ6ヶ所と7ヶ所でほぼ同じである。白倉下原遺跡B区は4ヶ所と少ないが、石器が分布する範囲は白倉下原遺跡A区や天引狐崎遺跡とほぼ同じ規模を持っている。また、天引向原遺跡A区は13ヶ所で他よりも多いが、各ブロックの規模は最大でも長径8.2mで、小規模なブロックの集合である。但し構成ブロック数については、それを設定する観察者の認識方法によって数量の違いが生ずるので単純にブロック数から環状ブロック群を議論していくのは困難である。

3 ブロックの配置

白倉下原遺跡A区や天引狐崎遺跡では、ほぼ円形に近い形でブロックが展開している。この二つの遺跡に共通する点として、石器製作跡の様相の強い大規模なブロックが外縁部に1ヶ所(天引狐崎遺跡では大小2ヶ所)位置していること、大規模なブロック以外はすべて小規模なブロックであること、散漫なブロックを中心部に取り囲んでいることの三つが挙げられる。

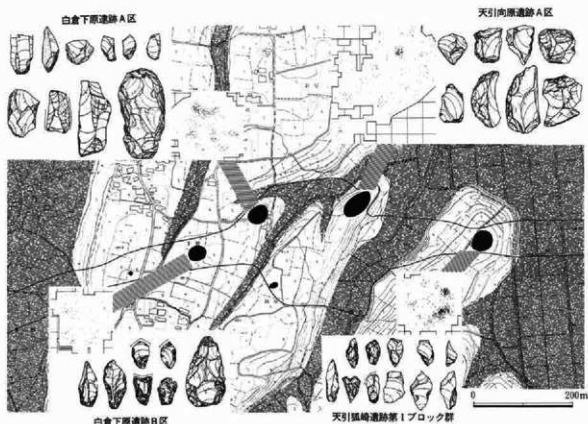
白倉下原遺跡B区では、南北に連続する二つのブロックが東西に並列するように展開している。明確な円環状を呈していないが、中心部には分布の希薄な部分があり、環状ブロック群の範疇で捉えられる。天引向原遺跡A区では、長楕円形を呈して展開しているが、離れて配置するブロックもあり不整である。

4 立地環境

白倉下原遺跡B区が台地縁辺部から奥に入った平坦な台地上に位置する以外は、各遺跡とも低地部を見渡

第10表 各遺跡の環状ブロック群

	形態・規模	構成ブロック数	ブロックの配置	立地環境	石器群の内容	石器石材の特徴	出土層位
白倉下原A区	円形 18×18m	6ヶ所	5ヶ所のブロックが1ヶ所中心に取り囲むように不整円形に展開。大規模なブロックが1ヶ所外縁部に位置する。	低地部から奥に入った舌状台地の先端部。	ナイフ形石器 台形椀石器、局部磨製石斧、石刀、剥片。	黒色安山岩主体 他にチャート、硬質泥岩。	AT下層 の暗褐色粘土層
白倉下原B区	円形 18×18m	4ヶ所（分布状況は全体的に散漫）	東西各2ヶ所のブロックが南北に並列して位置する。	台地縁部から奥に入った平坦な台地上。	ナイフ形石器 台形椀石器、局部磨製石斧、石刀、剥片。	黒曜石主体、他に黒色安山岩。	AT下層 の暗褐色粘土層
天引向原A区	長楕円形 44×27m 1ヶ所南西に外れるブロックを含む。	13ヶ所	台地形状に沿って北東から南西方向に長い楕円形を呈して展開するが、配置は不整である。1ヶ所数量的規模の大きいブロックを中心に取り囲む。	狭長な舌状台地の先端部。	ナイフ形石器 台形椀石器、楔形石器、剥片。	黒色安山岩主体だが、黒色頁岩も多い。	AT下層 の暗褐色粘土層
天引狐崎第1ブロック群	円形 16×15m	7ヶ所	6ヶ所のブロックが1ヶ所中心に取り囲むように円形に展開。大規模なブロックが外縁部に1ヶ所位置する。	低地部に突き出した舌状台地の先端部。	ナイフ形石器 台形椀石器、剥片、礫石。	黒色安山岩主体 他にチャート。	AT下層 の暗褐色粘土層



第209図 各遺跡の環状ブロック群と主な石器

せる舌状台地の先端部に位置している。天引向原遺跡A区では馬の背状の狭長な舌状台地に立地しており、環状ブロック群の長軸方向もこの台地の延長方向に沿っており、地形条件に影響されて環状ブロック群の形態が結果的に長楕円形状を呈したものと考えられる。

またこれらの遺跡が立地する台地は、鍋川によって形成された崖線に面しているわけではなく、崖線よりも天引川を1kmほど奥に遡った低地に面しており、鍋川の下位段丘面を直接見渡すことはできない。

5 各石器群の内容の時間的位置関係

各遺跡ともナイフ形石器、台形礫石器を組成している点で共通する。しかし、型的にみるとこれらの器種にも若干の違いがある。ナイフ形石器については、白倉下原遺跡A区では基部加工、白倉下原遺跡B区でも基部加工であるが、比較的小型である。天引向原遺跡A区では比較的大型の弧状側縁加工、天引狐崎遺跡では側縁加工で硬質頁岩という遠隔地産の石材を使っていた。台形礫石器については、白倉下原遺跡A区や天引狐崎遺跡では薄手の剥片を素材としたものが多いが、天引向原遺跡A区では厚手の剥片を素材としていた。また、白倉下原遺跡B区では黒曜石製のいわゆる精製の台形礫石器が多かったが、これには黒曜石という岩石的屬性によるのか、遠隔地産の希少石材という価値観によるのか検討が必要であろう。この他、白倉下原遺跡A区とB区では局部磨製石斧や石刃を組成し、天引狐崎遺跡では砥石を組成しており、局部磨製石斧の存在が示唆される。

しかし、石器組成全体でみると、台形礫石器やナイフ形石器をはじめとする器種が占める割合は極一部分で、主体を占めるのは各遺跡内（現地）で生産された小型剥片類である。これは各遺跡とも共通した石器組成の特徴である。つまり、台形礫石器やナイフ形石器などの器種製作のみがそれらの遺跡内で目的化されたものではないといえる。これらの小型剥片類は何らかのかたちで使用されていたことは確実であろう¹⁾。単なる「剥片」として機械的に捨棄してしまうのではなく、それらの石器が遺跡内でどのように機能し廃棄されたのかを探っていく必要があろう。

また、各遺跡の石器群はA・T下層段階のなかでそれぞれ時間差を持って残されたことは確実であろう。各石器群の詳細な検討による時間軸への置き換え作業はここではできないが、石器組成やナイフ形石器・ナイフ形石器・局部磨製石斧の形態的特徴から、白倉下原遺跡A区・天引狐崎遺跡 → 白倉下原遺跡B区 → 天引向原遺跡A区という時間的な流れが想定できる。武蔵野台地の編年観では、白倉下原遺跡A区・天引狐崎遺跡がX層上部～IX層下部相当、白倉下原遺跡B区がIX層下部～IX層中部相当、天引向原遺跡A区がIX層上部相当と考えられる。

6 石器石材の特徴

白倉下原遺跡A区、天引向原遺跡A区、天引狐崎遺跡では黒色安山岩を主体としている点で共通しているが、白倉下原遺跡B区では不純物の少ない良質の黒曜石を主体としており、他の石器群とは対照的である。但し、注意しなければならないのは、白倉下原遺跡B区も母岩数的には黒色安山岩も黒曜石に匹敵して多いということである。つまり、本遺跡内での石材消費には主に黒曜石が使用されているということで、黒色安山岩も利用頻度が高かったことを示している。

また、黒色安山岩と黒曜石については蛍光X線分析による原産地推定を行った。その結果、黒色安山岩では、白倉下原遺跡A区GAN-9、白倉下原遺跡B区GAN-7、天引向原遺跡A区GAN-1・5、天引狐崎遺跡GAN-1・3の試料については「八風山」産という判定が得られたが、残りの大多数の試料については明確な判定結果は得られなかった。また黒曜石では、白倉下原遺跡B区のほとんどの試料に「霧ヶ峰」産という判定結果が得られた。

7 出土層位

各遺跡ともA T下層の暗褐色粘土層からA Tにバックされたような状況で出土している。出土層は大体A T付近から出土しはじめ、30cmぐらいの垂直幅を持っており、各遺跡とも出土層位にはほとんど違いはみられない。このような状況では層位的に各石器群の時間的前後関係を求めることは困難である。また、実年代的にはB P 22,000年前を遡ることは確実に、最近ではA Tの年代観がB P 25,000年ほどに遡る年代測定値が提出されていることを加味すれば、さらに遺跡の年代は古くなることが予想される。

第2節 環状ブロック群の構造

次に、環状ブロック群の構造とその形成過程について、白倉下原遺跡A区の石器群を中心に他の遺跡の石器群も交えながら、母岩別資料の検討作業によって導き出された現象を観察し、若干の考察を行っておきたい。母岩別資料の検討作業は、まず分類と接合の反復作業からはじまり、各母岩別資料の構成内容・分布・接合関係を中心に行っている。環状ブロック群の構造を検討していく上では、母岩別資料分析を駆使していくのが現時点で最も有効な方法と考えられる（栗島1990・1991・1992）。

1 母岩別資料の構成とその消費について

(1) 母岩別資料の構成

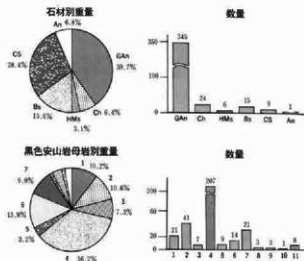
母岩別資料の構成については、第3章1節6で詳述したので、ここでは簡単に説明しておく。白倉下原遺跡A区で検出された石器群は総数403点で、母岩別資料は黒色安山岩が11、安山岩1、チャート10、黒色頁岩1、硬質泥岩6、変玄武岩2、結晶片岩3の34種類に分類された。このうち遺跡内での石器製作に用いられている母岩別資料はGAN-1・2・4・7、Ch-1であり、これらの母岩が石器製作の原料として消費されていると判断できる。他の母岩別資料は石器製作が行われていても小規模なものであるか、あるいは石刃・局部磨製石斧などの製品として遺跡外から搬入されたものであり、原料としては機能していない。

(2) 母岩の消費パターン

白倉下原遺跡A区の石器石材については黒色安山岩を主体に、安山岩、チャート、硬質泥岩、変玄武岩、結晶片岩が使用されていた。総重量は台石を除き6,964.34gで、数量は401点であり、これらの石器群が本遺跡に廃棄されていたことになる。石材別には、

黒色安山岩が重量にして2,763.7gで全体の約40%、数量的には345点で86%を占めて利用されている。他に安山岩、チャート、硬質泥岩、変玄武岩が使用されている。しかし、安山岩は敲石、硬質泥岩の場合はほとんどが石刃、変玄武岩の場合は局部磨製石斧であり、それぞれ製品としての搬入品である。従って、それ自体は原料となる母岩ではない。

このように、本遺跡内では石器製作の原料となる母岩は黒色安山岩に傾斜し、それに若干チャートが加わり、それらが石器製作に伴って消費されていったことが理解できる。



第210回 白倉下原遺跡A区石材別母岩別重量数量比

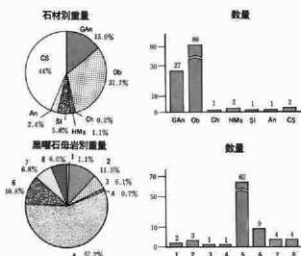
この集中的に使用される黒色安山岩は11種類の母岩別資料に分類されたが、それらの母岩別資料の重量と数量についてみると(第210図)、GAn-4が重量1,001.3gで石器群全体の36.1%、数量207点では、同じく60%を占めている。他の石器製作に用いられたGAn-1・2・7は重量282.07g・292.42g・272.41gで、それぞれ10.2%・10.6%・9.9%で、10%前後を占めるにすぎない。つまり、GAn-4は他の黒色安山岩母岩を圧倒して消費されていることを示している。

白倉下原遺跡A区では、いくつかの母岩が均質に消費されているのではなく、ある特定の母岩が集中的に消費されている姿、換言すれば石器製作母岩が偏在している姿が浮かび上がってくる。

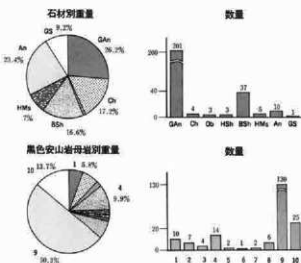
この特定母岩の集中消費という現象は白倉下原遺跡A区だけではなく、環状ブロック群を形成していた白倉下原遺跡B区、天引向原遺跡A区、天引狐崎遺跡の各遺跡でも確認することができた。次に各遺跡の状況についてみよう。

まず白倉下原遺跡B区では(第211図)、石器石材は黒曜石を主体にし、他に黒色安山岩が使用されており、他の石器群は石材構成が対照的である。石器の総重量は1,550.13g、総数は120点である。重量にして、黒曜石は491.39gで石器群全体の31.7%、黒色安山岩は232.69gで同じく15%を占めている(なお、一見両者の比率が少ないのは重量のある局部磨製石斧=S1-1と敲石=C S-1を含んでいるからである)。数量的には、黒曜石は86点で石器群全体の71.7%を占めており、集中的に黒曜石が消費されていることが理解される。

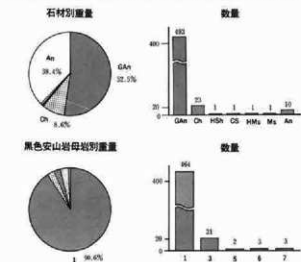
さらに、この黒曜石のなかでも、特にOb-5が他の黒曜石母岩に比較して集中的に消費されている。重量にして281.31gであり、黒曜石



第211図 白倉下原遺跡B区石材別母岩別重量数量比



第212図 天引向原遺跡A区石材別母岩別重量数量比

第213図 天引狐崎遺跡第1ブロック群
石材別母岩別重量数量比

母岩では57.2%、全体では31%、S1-1・CS-1を除けば石器群全体の1/3以上の36%を占めている。数量にしても62点で51%を占めており、Ob-5に消費が集中していることが理解できる。

天引向原遺跡A区では(第212図)、黒色安山岩、黒色頁岩、チャート、硬質泥岩が使用されている。やはり主体は黒色安山岩であるが、他に黒色頁岩が多い点が他の石器群と異なっており注意される。石器群の総重量は8,218.61g(重量のある敲石=A n-5・HMs-5・GS-1を除けば6,654.41g)で、数量は264点である。石材別には、黒色安山岩が2,152.13gで石器群全体の26.2%(敲石を除くと32.3%)、数量にしても201点で同じく76%を占めており、主体的に黒色安山岩が消費されていることが理解できる。さらに、黒色安山岩のなかでも特にGAN-9が1,083.32gで黒色安山岩母岩の50%を占め、数量的にも49%で半数近くを占めて消費されており、GAN-9という一つの母岩に消費が集中していることがわかる。

天引狐崎遺跡第1ブロック群では、圧倒的に黒色安山岩を主体とし、他にチャートが使用されている。重量では安山岩が5,632.26gで52.9%、黒色安山岩が3,773.8gで35.5%と安山岩が占める割合が多いのは安山岩には敲石などの重量のある石器を含んでいるからである。数量的にみれば、黒色安山岩は493点で、実に石器群全体の92.7%を占めている。さらに、この黒色安山岩のなかでも、特にGAN-1が、重量にして3,420.2gで黒色安山岩母岩の90.6%、数量にしても464点で同じく94.1%を占めており、前記遺跡よりもさらに大きな傾向で特定母岩(GAN-1)に消費が集中している現象が認められる。

このように、石器製作による原料消費が特定母岩に集中して行われるというはありかたは、一遺跡のみに確認された特殊な現象ではなく、各遺跡に普遍的に確認できた原料消費パターンとして評価できる。

2 母岩別資料の分布・接合関係について

次に母岩別資料の分類と接合から抽出された分布・接合関係について観察していく。詳細については第3章第1節6に述べてあるので、それを参照してほしい。

まず接合関係全体(第65図)をみると、ブロック内で取束するものもあるが、ブロック間で頻繁に接合関係をもっている。その状況はA1ブロックを基軸として、放射状に派生していく様子を示していた。ブロック間で接合関係を持っている母岩別資料は、GAN-6、Ch-2、Bs-1など資料数の少ない母岩別資料でも少数ながら確認されたが、特に遺跡内で石器製作作業の行われたGAN-1・4・7では顕著に確認された。

では、GAN-1・2・4・7の石器製作作業の行われた母岩別資料の分布と接合関係についてみておく。GAN-1 21点の資料から構成され、A1・A2ブロックに分布し、隣接するA3・A4・A6ブロックには分布していなかった。接合関係はA1ブロック東半部とA2ブロックの隣接する二つのブロック間で確認され、両ブロック間での強い結び付きが窺える。

GAN-4 先述したように集中消費される母岩別資料である。207点の資料から構成され、A1~A6の全ブロックに分布している点が特徴的である。主体はA1ブロックにあり、半数以上の122点が分布し、特にA1ブロックの西半部に集中している。個体A~Eの5個体に分離され、個体A~Dは基本的にA1ブロックを主体としてそれぞれ平面的に重複関係を持ちながら分布していた。個体EはA5ブロックを中心にして分布・接合している。接合関係を見てみると、多くの場合ブロック内で取束しているが、ブロック間に亘るものも多い。この場合、ブロック群中心よりも西側に位置するA5・A6ブロックの間で接合関係が頻繁であった。A2・A3ブロックにも分布しているが接合関係は確認できなかった。なお、各個体別資料については、ブロック間に亘る接合関係は確認できなかった。

GAN-7 31点の資料で構成され、A1・A2・A3・A4ブロックに分布しているが、その主体はA5ブロックにある。個体A~Cに分類され、個体Bの接合関係はA1とA5ブロック間で確認された。A1ブロッ

クに分布する3点はすべて接合関係を持ち互いに隣接して分布していた。

Ch-1 9点の資料で構成され、A1ブロックの中心付近に分布しており、接合関係はこの範囲内で収束している。

このように、集中的に消費される母岩別資料=GAn-4は全ブロックに分布し、それよりも小規模に消費される母岩別資料=GAn-1・2・7・Ch-1は隣接する二つのブロック間か単一ブロック内に偏って分布している。つまり、集中的に消費される数量の多い母岩別資料は広域に分布し、数量的に少ない母岩別資料は分布範囲が小さいという対照的な二つの分布の特徴が確認された。後者については当然の結果かも知れないが、ここで重要なのは前者の現象である。すなわち、集中消費される母岩別資料の広域分布という現象は白倉下原遺跡A区だけではなく、各遺跡に確認できたからである。

白倉下原遺跡B区では、集中的に消費されるOb-5に確認された。特に集中して分布する箇所はないが、B1~B4ブロックの全ブロックに分布していた。天引向原遺跡A区では、GAn-9が全ブロックではないものの、A1ブロックを中心にして複数ブロックに分布していた。天引狐崎遺跡では、GAn-1が1ブロックを主体に2・5・6・7ブロックに分布していた。

3 石器の移動について

このように、集中消費される母岩別資料の広域分布という現象が明らかとなったが、広域に分布するということは何かの要因で石器が移動しているということである。その要因には人間の動きが介在していることは確実であろう。では、ブロック間に亘って分布している母岩別資料について、どのような過程を持ってそれらのブロックに残されたのかを考えてみたい。

(1) 隣接ブロック間に分布する母岩別資料

GAn-1では、A1・A2ブロックに分布し、両ブロック間で接合関係を持っていた。その分布の在り方は剥片生産順序に対応していた。つまり、初期段階に剥離された剥片と最終段階に剥離された剥片はA1ブロックに、この途中に剥離された剥片はA2ブロックにそれぞれ分布していた。こうした現象については、石核が順次A1とA2ブロック間を移動し、各ブロックで剥離された剥片がそのブロックに廃棄されたと考えた²⁾(P47参照)。同様な現象はGAn-7個体Bでも確認された(第43図)。

(2) 広域のブロック間に分布する母岩別資料

GAn-4は、A1~A6の全ブロックに分布し、特にA1ブロック西半部に集中していた。個体A~Dの個別別資料もこの部分に集中していた。石核もここに廃棄されており、この石器集中部が石器製作場所(消費空間)として機能していたと考えられる。GAn-4は原料としてA1ブロックに搬入され、そこで石器製作作業(個体分割→剥片生産及び器種製作)が行われ、そこで生産された石器がA2~A6ブロックへと持ち出されたものと考えられる。持ち出された石器の単位は、個体Eのように石核単位もあるが、移動先ブロックでの接合関係が極めて少ないことと石核の分布がないことから、主体は剥片単位であったと考えられる。GAn-4の広域分布は、特定の石器製作場所からそれを使用するブロックへの放射状の石器の持ち出しという行為によって形成されたと考えられる(第214図)。

ところで、GAn-4の持ち出された石器についてみると、台形様石器などの定型的器種ではなく、一見何の姿態もない小型剥片がほとんどであった。それは我々が判断する限り「単なる剥片」として機械的に捨棄してしまうような石器であった点は注意する必要がある。

次に天引狐崎遺跡第1ブロック群のGAn-1についても観察してみよう。GAn-1は467点の資料で構成される。1・2・5・6・7ブロックに分布し、3・4ブロックでの分布はなかった。1ブロックと2ブ

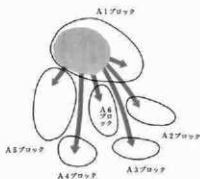
ロックに集中し、特に前者では301点があり、全体の64%を占めている。接合関係はブロック内で収束するものが多いが、1ブロックと2ブロック間、2ブロックと7ブロック間でも確認された。GAN-1は個体A~Iの9個体に分離された。個体A~E・Gは1ブロック北半部にそれぞれ面的に重複しながら集中していた。各個体の接合関係も比較的狭い範囲で収束しブロック間に接合関係が互るものは確認できなかった。石核もこの範囲内に集中しており、他のブロックでの分布はなかった。つまり、1ブロックと2ブロックは石器製作空間として機能し、石核単位ではなく剥片単位で5・6・7ブロックへと持ち出されたものと考えられる。また、それらの石器は白倉下原遺跡A区と同様に特定の器種ではなく、小型剥片類を中心としている。但し、5・7ブロックに分布する台形様石器については1・2ブロックから製品のかたちで持ち出されたのか、あるいは剥片のかたちで持ち出されたのちに5・7ブロックで製作されたのかは不明である。

天引向原遺跡A区でも、A1ブロックがGAN-9の石器製作空間として機能し、そこから石器がいくつかのブロックに持ち出されたものと考えられる。但し、この遺跡の場合、持ち出された先での接合関係もことから、剥片単位だけでなく石核単位で持ち出されたものもあったと考えられる。

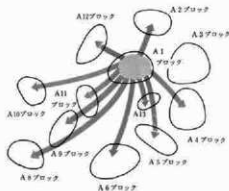
このように、白倉下原遺跡A区、天引向原遺跡A区、天引狐崎遺跡第1ブロック群における同一母岩別資料の広域分布という現象は、特定の石器製作空間から放射的な持ち出しという行為による石器の移動によって形成されたと考えられる(第214図)。

4 環状ブロック群の形成過程

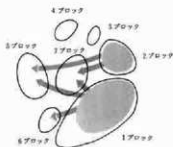
白倉下原遺跡A区、天引向原遺跡A・B区、天引狐崎遺跡(第1ブロック群)で検出された環状ブロック群には、特定母岩が集中的に消費される姿と、その母岩別資料が広域ブロック間に分布する姿の二つの特徴的な現象が抽出された。こうした現象は、母岩=石器製作原料を集団単位で管理し、そして特定の場所で消費されるものの生産された石器の使用に際しては特定の人間に帰することなく共同で行っていることを示唆す



白倉下原遺跡A区GAN-4



天引向原遺跡A区GAN-9



天引狐崎遺跡第1ブロック群GAN-1

■ 石器製作ブロック

第214図 各遺跡における石器の広域分布模式図

る。しかし、ではなぜ最終的に環状という石器分布を形成したのであろうか。

これについては、栗島義明による検討があるので(栗島1991)、これについて簡単に触れておこう。栗島は、環状ブロック群を形状と規模からⅠ類とⅡ類に分類し、Ⅰ類には群馬県下牛伏遺跡、千葉県中山新田Ⅰ遺跡、同池花南遺跡を該当させて、それは複数集団が統合したときの居住跡として認識し「真正」な環状ブロック群として評価している。Ⅱ類については「見掛け上」の環状ブロック群と評価し単一集団の居住跡と説明している。この分類によれば、白倉下原遺跡、天引向原遺跡、天引狐崎遺跡で検出されたすべての環状ブロック群はⅡ類の環状ブロック群に該当する。また、Ⅱ類の形成過程については東京都下里木邑遺跡や多聞寺前遺跡の分析から、構成する各ブロックが単一の母岩別資料によって構成されている点を重視し、ブロックが繰り返し利用された石器製作空間ではなく、一過的に利用された空間であったとしている。つまり、ある母岩の消費には特定の空間を利用し、また別の母岩を消費するときにはまた別の空間を利用する。換言すれば、石器製作者(一人か二人かあるいはそれ以上かはわからないが)が母岩の消費に際して同一の空間を重複して利用せず、違う母岩の消費の度に空間を点々と変えていたと説明している。こうした連続する母岩消費の結果、「必然的に環状に近い構成」を持つようになり、それは住居構造に規制され、住居空間の存在がそれに影響を与えていると述べている。

白倉下原遺跡A区の環状ブロック群の形成過程については、母岩別資料の広域分布で見てきたように特定の石器製作場所=A1ブロックからそれを使用するブロックへの石器の持ち出し、ナイフ形石器・石刃・局磨製石斧などの製品の使用と廃棄、A2～A6ブロックでの小規模な石器製作、というこれら行為の累積の結果によって最終的に環状ブロック群が形成されたことは明らかであり、環状という石器分布パターンは栗島が述べるように住居の構造、配置に影響されていると考えられる。天引向原遺跡A区、天引狐崎遺跡第1ブロック群でも同様な過程で形成されたと考えられる。

白倉下原遺跡A・B区、天引向原遺跡A区、天引狐崎遺跡第1ブロック群で確認された環状ブロック群は単一集団によって形成されたAT下層段階における最も一般的な生活跡であり、そこには集団で原料を管理し、そこから生産された石器が共同で使用されていた姿が想定できる。

第3節 ま と め

これまで旧石器時代遺跡の分布が希薄であった群馬県西部の鍋川流域から、白倉下原遺跡A・B・C区、天引向原遺跡A・C区、天引狐崎遺跡から石器群が検出された。これらの遺跡の発見は、ただ単に遺跡分布の稀薄な地帯にドットマップを作ったということではなく、鍋川流域という地理的に重要な位置で発見されたことに意味がある。その重要性とは、鍋川を上流に遡り県境の峠(代表的には内山峠)を越えれば、信州に抜けられ、さらに和田峠方面に進めば男女倉をはじめとする黒曜石産地帯に連絡できること、また鍋川上流には荒船山・八風山という旧石器時代で最も利用された石器石材である黒色安山岩産地帯が控えていることが挙げられる。

つまり、鍋川流域は旧石器時代で最も利用された黒曜石と黒色安山岩という二つの石器石材を採取するうえで、関東地方と信州・中部地方とを結ぶ地理的に重要な地域であり、特にAT下層の段階で旧石器時代集団が活発に往来した地域であったと考えられる。

旧石器時代集団が黒曜石や黒色安山岩などの石器原料を求め往来した痕跡として、白倉下原遺跡、天引向原遺跡、天引狐崎遺跡の各地点の石器群が残されていたのであろう。旧石器時代、群馬県の西部地域を流

れる鍋川が地理的に果たした役割について、武蔵野台地、下総台地などの関東地方と信州・中部地方との関連のなかで今後解明していく必要がある。

以上、白倉下原遺跡、天引向原遺跡で検出された旧石器時代の石器群については、「白倉下原・天引向原遺跡Ⅰ—旧石器時代編—」としてここに報告書として刊行することができた。平成元年4月の発掘調査からはじまり、そして平成5年4月からの整理調査を経て、ここに発掘調査の成果として一冊の報告書としてまとめられた。しかし、ここに至るまでにはそれに携わった多くの人たちの協力と努力を忘れることができない。発掘調査では、連日最高気温を記録する真夏の炎天下なかで、また「浅間おろし」が砂埃をたてながら吹きすさぶ真冬の寒天のなかで、旧石器時代の発掘調査を進めてくれた担当者と作業員、そして整理調査では、本報告書が新たな旧石器時代研究に寄与していくために、担当者の要求に答え数多くの実測図や分布図の作成を適切にこなしてくれた整理補助員の努力があった。こうした経緯のもとに作成された本報告書が今後の研究に大いに活用されることを期待したい。

注

- 1) 使用痕分析によってどのように機能していたのか推定していくことも考えられるが、これらの石器は黒色安山岩を石材としているために風化が著しく観察は困難である。
- 2) しかし、栗島義明は、剥片生産順序に対応してブロック間に分布するこうした現象について、特定のブロックで剥離された石器があるブロックに持ち出された結果によってもこのような現象が起こりうることをカード実験に基づいて述べている(栗島1992)。すなわち、剥離された石器の選択的な取得(抜き取り)という解釈も成り立つことがあるとしている。剥離場所を特定する有力な証拠となる破片が特定ブロックに集中して存在すれば、石器制作ブロックを判定することもできるが、GAa-1の場合では破片はA2ブロックで1点確認されたのみであり、A1、A2のどちらかのブロックが石器製作空間として機能していたかを特定することは困難である。従って、石核のブロック間移動か剥離後の選択的抜き取りなのかは判断できない。

参考文献

- 栗島義明 1991 「人と社会」『石器文化研究』3
 1992 「交換と分配」『東北文化論のための先史学歴史学論集』
 1993 「層状ブロックの構成」『第1回岩窟フォーラムシンポジウム—層状ブロック群—資料集』
 石器文化研究会編 1990 『石器文化研究』2
 1991 『石器文化研究』3
 1992 『石器文化研究』4
 関口博幸・桜井美枝・津島秀章 1993 「層状ブロック群が見えられた県内の遺跡」『第1回岩窟フォーラムシンポジウム—層状ブロック群—資料集』
 橋本勝雄 1989 「A1層位以前における特殊な遺物分布の様相」『考古学ジャーナル』239

付 編

原西Ⅲ遺跡出土のサヌカイト、 黒曜石製遺物の原産地分析

藁科 哲男（京都大学原子炉実験所）

東村 武信（関西外国語大学）

はじめに

自然科学的手法を用いて、石器石材の産地を客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探るという目的で、蛍光X線分析法により研究を行っている。当初は、手近に入手できるサヌカイトを中心に、分析方法と定量的な産地の判定法との確立を目標として研究したが、サヌカイトで一応の成果を得た後に、同じ方法を黒曜石にも拡張し、本格的に産地推定を行っている^{1,2,3}。

サヌカイト、黒曜石などの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行い、これを産地を特定する指標とした。

蛍光X線分析法は試料を破壊せずに分析することができて、かつ、試料調整が単純、測定の操作も簡単である。石器のような古代人の日用品で多数の試料を分析しなければ遺跡の正しい性格が分からないという場合にはことさら有利な分析法である。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと、遺物のそれと対比して産地を推定する。この際多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確立を求めて産地を同定する。今回産地分析を行った遺物は、原西Ⅲ遺跡から出土した黒曜石製遺物とサヌカイト製遺物および利根川流域原産原石である。これらについて産地分析の結果が得られたので報告する。

サヌカイト、黒曜石原石の分析

サヌカイト、黒曜石両原石の風化面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X線分析装置によって元素分析を行う。分析元素はAl、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの12元素をそれぞれ分析した。

塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。サヌカイトではK/Ca、Ti/Ca、Mn/Sr、Fe/Sr、Rb/Sr、Y/Sr、Zr/Sr、Nb/Srを、また黒曜石ではCa/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrをそれぞれ用いる。

サヌカイトの原産地は、西日本に集中してみられ、石材として良質な原石の産地および質は良くないが考古学者の間で使用されたのではないかと話題に上る産地、および玄武岩、ガラス質安山岩など、合わせて25ヶ所の調査を終えている。図1にサヌカイトの原産地の地点を示す。この他に、神奈川県箱根地方の火打沢、長野県東部の八風山地区、群馬県の荒船山地域の調査結果も加え、産地を中心に元素組成で分類すると38の原石群に分類できる。その結果を表1に示した。

黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州、の各地に黒曜石の原産地は分布する。調査を終えた原産地を図2に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくされている。元素組成の上から、これら原石を分類すると表2に示すように83個の原石群に分かれる。

黒曜石の原産地は、北陸地方では、富山県の魚津、石川県の比那、福井県の三里山、安島の各原産地が調査されていて、比那、魚津産黒曜石が石器原材として使用されている。中信高原地域の黒曜石産地の中で、霧ヶ峰群は、長野県下諏訪町金明水、星ヶ塔、星ヶ台の地点より採取した原石でもって作られた群で、同町観音沢の露頭の原石も、霧ヶ峰群に一致する元素組成を示した。和田峠地域原産の原石は、星ヶ塔の西方の山に位置する旧和田峠トンネルを中心にした数百メートルの範囲より採取され、これらを元素組成で分類すると、和田峠第一、第二、第三、第四、第五、第六の各群に分かれる。和田峠第一、第三群に分類された原石は旧トンネル付近より北側の地点より採取され、和田峠第二群のものは、トンネルの南側の原石に多くみられる。和田峠第四群は、男女倉側の新トンネルの入り口、また、和田峠第五、第六群は男女倉側新トンネル入り口左側で、和田峠第一、第三の両群の産地とは逆の方向である。男女倉原産地の原石は男女倉群にまとも組成は和田峠第五群に似る。廬山、星峯峠の黒曜石の中に和田峠第一群に属するものが多数みられる(図3)。麦草峠群は大石川の支流および麦草峠より採取された原石で作られた。これら中信高原の原産地は、元素組成で和田峠、霧ヶ峰、男女倉、麦草峠の各地域に区別される。伊豆箱根地方の原産地は笛塚、畑宿、鍛冶屋、上多賀、柏峠西の各地にあり、良質の石材は、畑宿、柏峠西で斑目の多いやや石質の悪いものは鍛冶屋、上多賀の両原産地でみられる。笛塚産のものはピッチストーン様で、石器原材としては良くないであろう。伊豆諸島の神津島原産地は砂嘴崎、長浜、沢尻湾、愚馳島の各地点から黒曜石が採取され、これら原石から神津島第一群および第二群の原石群にまとめられる。

結果と考察

遺跡から出土した石器、石片は、風化のためサマカイト製は表面が白っぽく変色し、新鮮な部分と異なった元素組成になっている可能性が考えられる。このため遺物の測定面の風化した部分に、圧縮空気によってアルミナ粉末を吹きつけ風化層を取り除き新鮮面を出して測定を行った。一方黒曜石製のものには風化に対して安定で、表面に薄い水合層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。

今回分析した遺物の結果を表3、4に示した。

石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。サマカイト遺物を例にし、説明を簡単にするためK/Caの一変量だけを見ると、表3の試料番号32027番の遺物ではK/Caの値は0.275で、八風山群の[平均値]±[標準偏差値]は、 0.274 ± 0.028 である。遺物と原石群の差を標準偏差値(σ)を基準にして考えると遺物は原石群から 0.04σ 離れている。ところで八風山原産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.04\sigma$ のずれより大きいものが96ヶある。すなわち、この遺物が、八風山群の原石から作られていたと仮定しても、 0.04σ 以上離れる確率は96%であると言える。だから、八風山群の平均値から 0.04σ しか離れていないときには、この遺物が八風山群の原石から作られたものではないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を荒船山群に比較すると、荒船山群の平均値からの隔たりは、約 1.2σ である。これを確率の言葉で表現すると、荒船山群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から 1.2σ 以上離れている確率は、23%で、試料番号32027番の遺物はK/Caの一変量のみでは、八風山産原石の可能性は非常に高いが、荒船山群の可能性も否定できない。

実際にはK/Caといった唯一ヶの変量だけでなく、前述した6ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならぬ。例えばA原産地のA群で、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したと

き、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量が少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行うホテリングのT2検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて、産地を同定する⁴⁾。多変量統計により求めた試料番号32027番の遺物は、「八風山群に5%、荒船山群に0.003%の確率でそれぞれ帰属される」。各遺跡の遺物について、この判断を表1のすべての原石群について行い、低い確率で帰属された原産地を消していくと残るのは、八風山群の原産地だけとなり、八風山産地の石材が使用されていると判定される。

原西遺跡より出土した遺物の産地推定の結果を表5、6に示す。原産地は確率の高い産地のものだけを選んで記した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、小さな遺物試料の測定から原石試料と同じ測定精度で元素含有量を求めるには、測定時間を長時間掛けなければならない。しかし、多数の試料を処理するために、1個の遺物に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには、原石群の元素組成のパラツキの範囲を越えて大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行ったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。原石産地(確率)の欄にマハラノビスの距離 D^2 の値で記した遺物については、判定の信頼限界としている0.1%の確率に達しなかった遺物でこの D^2 の値が原石群の中で最も小さな D^2 値である。この値が小さいほど、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ているといえるため、推定確率は低いが、その原石産地と考えてほぼ間違いないと判断されたものである。

今回分析した安山岩遺物の中で原石産地が決定できた遺物は、試料番号32027、32029、32030、32033、32036、32039、32041、32042、32055、31607番で八風山産原石が使用されていることが推定された。そこで多変量統計の検定で原石産地が同定できなかった他の遺物について、図4に示す利根川流域地域で採取された原石(32000~32025)と組成が類似しているか、クラスター分析を試み図5に示した。図中組成の似た試料は階段の低いところでクラスターを組む。不明群と名付けた遺物などは、低いところでクラスターを作り、また不明群は組成の似た2~3個のグループに分類できる可能性が考えられる。不明群の中には利根川流域地域の原石は含まれず、不明群の遺物の原石産地は本遺跡で主体的に使用された未発見の安山岩原産地であると推測してもクラスター分析の結果と矛盾しない。

今回分析した黒曜石遺物には霧ヶ峰産と和田峠産原石が使用されていることが明らかになり、本遺跡が中信高原と交流があったことが証明されたことと推測できた。

このことは、石器は日常品であることから、遺跡の住人がこれら原石産地地域の情報を日常的に入手していると推考しても産地分析の結果と矛盾しないであろう。

参考文献

- 1) 高村哲男・東村武信(1975)、蛍光X線分析法によるサマサイト石器の原産地推定(II)。考古学と自然科学, 8: 61-69
- 2) 高村哲男・東村武信・鎌木義昌(1977)、(1978)、蛍光X線分析法によるサマサイト石器の原産地推定(III)。(IV)。考古学と自然科学, 10, 11: 53-81: 33-47
- 3) 高村哲男・東村武信(1983)、石器原料の産地分析。考古学と自然科学, 16: 59-89
- 4) 東村武信(1976)、産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9: 77-90
- 5) 東村武信(1980)、考古学と物理化学。学生社

第11表 各サスカイトの原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地	標本名	分析個数	K/Ca	Th/Ca	Mn/Sr	Eu/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
群馬県	嵐山	43	0.194±0.070	0.369±0.028	0.129±0.014	9.263±1.151	0.080±0.034	0.083±0.014	0.438±0.062	0.009±0.010	0.013±0.021	0.123±0.032
長野県	八打	46	0.274±0.028	0.284±0.010	0.099±0.008	4.960±0.535	0.104±0.009	0.106±0.009	0.581±0.033	0.012±0.006	0.018±0.002	0.168±0.014
神奈川県	大井	40	0.092±0.005	0.295±0.009	0.146±0.009	12.486±0.332	0.023±0.006	0.111±0.008	0.483±0.025	0.005±0.007	0.012±0.001	0.012±0.001
岐阜県	下	53	1.576±0.055	0.227±0.011	0.038±0.004	0.768±0.025	0.277±0.020	0.031±0.013	0.504±0.024	0.035±0.009	0.052±0.003	0.660±0.025
大原県	上	51	0.288±0.010	0.215±0.006	0.071±0.006	6.639±0.270	0.202±0.012	0.066±0.009	0.620±0.022	0.024±0.010	0.019±0.010	0.144±0.005
兵庫県	岩屋	26	0.694±0.023	0.325±0.025	0.056±0.004	4.069±0.148	0.986±0.021	0.065±0.010	0.796±0.025	0.038±0.010	0.023±0.001	0.194±0.009
兵庫県	岩屋	29	0.615±0.021	0.248±0.011	0.058±0.006	3.778±0.198	0.365±0.019	0.039±0.013	0.830±0.039	0.043±0.013	0.008±0.002	0.227±0.010
兵庫県	岩屋	24	0.359±0.018	0.253±0.006	0.108±0.006	3.544±0.200	0.336±0.200	0.046±0.018	1.066±0.027	0.042±0.014	0.026±0.003	0.247±0.009
兵庫県	岩屋	22	0.309±0.017	0.134±0.005	0.059±0.007	3.580±0.281	0.139±0.022	0.061±0.033	0.374±0.021	0.012±0.007	0.016±0.001	0.159±0.008
香川県	五箇寺	29	0.679±0.030	0.244±0.008	0.027±0.004	3.842±0.310	0.298±0.012	0.043±0.012	0.951±0.027	0.062±0.012	0.023±0.001	0.134±0.011
香川県	瀧光寺	18	0.453±0.011	0.344±0.004	0.052±0.004	3.762±0.136	0.298±0.018	0.043±0.015	0.989±0.038	0.048±0.008	0.023±0.002	0.196±0.007
香川県	台	38	0.359±0.015	0.265±0.005	0.057±0.004	3.599±0.101	0.255±0.015	0.049±0.016	1.054±0.037	0.047±0.010	0.020±0.002	0.220±0.007
香川県	法印台	25	0.306±0.009	0.235±0.003	0.078±0.006	4.892±0.143	0.272±0.016	0.057±0.013	1.145±0.034	0.041±0.010	0.022±0.001	0.172±0.004
香川県	金山東	25	0.468±0.011	0.213±0.005	0.083±0.004	4.811±0.119	0.308±0.015	0.059±0.015	1.179±0.028	0.032±0.012	0.026±0.001	0.203±0.005
香川県	金山西	19	0.461±0.008	0.209±0.004	0.068±0.005	5.165±0.167	0.277±0.015	0.064±0.011	1.058±0.028	0.033±0.011	0.022±0.001	0.176±0.004
香川県	五ヶ色	63	0.869±0.048	0.170±0.006	0.023±0.005	2.294±0.114	0.484±0.026	0.066±0.011	0.705±0.044	0.043±0.011	0.039±0.003	0.459±0.029
鳥取県	馬ノ山	23	0.188±0.007	0.128±0.006	0.011±0.001	0.918±0.033	0.032±0.002	0.001±0.002	0.177±0.009	0.004±0.002	0.015±0.001	0.111±0.005
広島県	冠山	60	0.651±0.021	0.405±0.014	0.048±0.004	3.322±0.104	0.174±0.009	0.029±0.009	0.462±0.017	0.185±0.010	0.025±0.002	0.241±0.008
広島県	冠山	29	0.223±0.019	0.363±0.031	0.019±0.001	1.607±0.060	0.059±0.009	0.003±0.005	0.399±0.043	0.025±0.009	0.021±0.001	0.171±0.006
広島県	冠山	25	1.116±0.061	0.472±0.022	0.037±0.005	2.258±0.080	0.245±0.011	0.023±0.009	0.524±0.014	0.246±0.013	0.038±0.003	0.391±0.021
佐賀県	多久第一	53	0.834±0.053	0.385±0.010	0.069±0.008	5.075±0.284	0.507±0.036	0.609±0.017	0.851±0.036	0.237±0.019	0.030±0.002	0.313±0.022
佐賀県	多久第二	23	0.819±0.062	0.381±0.016	0.079±0.009	5.728±0.310	0.559±0.052	0.661±0.018	0.854±0.035	0.254±0.025	0.030±0.003	0.318±0.022
佐賀県	三本	8	1.109±0.220	0.335±0.029	0.068±0.008	4.784±0.881	0.702±0.091	0.682±0.024	0.811±0.031	0.260±0.025	0.036±0.006	0.401±0.063
佐賀県	寺山	62	0.718±0.029	0.304±0.010	0.074±0.007	5.789±0.241	0.539±0.036	0.668±0.019	0.693±0.033	0.211±0.020	0.029±0.002	0.283±0.010
佐賀県	寺山・岡本	30	0.633±0.045	0.299±0.011	0.079±0.005	6.119±0.295	0.478±0.026	0.071±0.018	0.638±0.033	0.192±0.013	0.023±0.002	0.257±0.016
佐賀県	寺山・岡本	17	0.453±0.019	0.331±0.005	0.068±0.010	7.489±0.249	0.307±0.024	0.081±0.015	0.568±0.023	0.166±0.010	0.023±0.002	0.257±0.016
長崎県	大島	28	1.111±0.118	0.140±0.009	0.055±0.020	1.659±0.236	0.258±0.043	0.041±0.027	0.486±0.038	0.082±0.022	0.050±0.008	0.697±0.059
長崎県	大島	19	0.672±0.042	0.144±0.008	0.041±0.006	1.776±0.152	0.233±0.014	0.015±0.013	0.497±0.018	0.065±0.015	0.049±0.003	0.587±0.018
長崎県	大島	30	0.794±0.094	0.335±0.024	0.072±0.003	8.308±0.251	0.872±0.132	0.223±0.034	0.720±0.053	0.301±0.042	0.026±0.003	0.284±0.033
長崎県	大島	13	0.601±0.044	0.316±0.015	0.102±0.015	8.200±0.541	1.114±0.102	0.209±0.036	0.976±0.065	0.479±0.039	0.021±0.002	0.316±0.015
長崎県	大島	59	0.289±0.022	0.245±0.008	0.072±0.006	4.539±0.157	0.213±0.016	0.072±0.015	0.823±0.046	0.044±0.010	0.029±0.002	0.201±0.008
長崎県	大島	9	0.369±0.042	0.245±0.022	0.073±0.022	5.373±0.322	0.193±0.022	0.068±0.013	0.721±0.041	0.045±0.011	0.018±0.002	0.157±0.013
長崎県	大島	15	0.619±0.015	0.317±0.006	0.098±0.008	8.284±0.212	1.242±0.050	0.352±0.021	1.021±0.032	0.519±0.033	0.029±0.002	0.250±0.007
長崎県	大島	25	0.519±0.015	0.305±0.007	0.090±0.008	7.729±0.227	0.854±0.028	0.274±0.027	0.871±0.041	0.407±0.019	0.029±0.001	0.190±0.006
長崎県	大島	71	0.388±0.029	0.242±0.019	0.057±0.005	4.371±0.218	0.158±0.019	0.065±0.009	0.450±0.039	0.068±0.008	0.017±0.001	0.161±0.011
長崎県	大島	14	0.568±0.125	0.360±0.046	0.081±0.013	6.632±0.884	0.316±0.055	0.071±0.016	0.659±0.097	0.992±0.023	0.024±0.004	0.246±0.050
熊本県	阿蘇第一	15	2.095±0.238	0.646±0.052	0.064±0.011	0.083±0.320	0.108±0.028	0.168±0.028	1.647±0.192	0.603±0.012	0.057±0.003	0.297±0.049
熊本県	阿蘇第一	14	0.903±0.198	0.514±0.070	0.061±0.008	3.087±0.481	0.299±0.066	0.064±0.013	1.043±0.147	0.338±0.013	0.030±0.005	0.860±0.041
熊本県	阿蘇第一	56	1.227±0.021	0.366±0.006	0.039±0.006	2.817±0.074	0.756±0.015	0.183±0.024	0.762±0.033	0.078±0.014	0.039±0.003	0.448±0.011

注：平均値、 σ 、標準偏差、*ガウス分布外山
 1) : Aono, A., Kurawasa, H., Ohmori, T. & Takeuchi, E. (1974). 1974 fopulation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granulite and JB-1 basalt. Geochimical Journal 8, 175-192.

第12表 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地	原石群名	分析回数	Cu/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	V/Zr	Nb/Zr	Ai/K	Si/K	
			$\bar{x} \pm \sigma$	$\bar{x} \pm \sigma$	$\bar{x} \pm \sigma$	$\bar{x} \pm \sigma$	$\bar{x} \pm \sigma$	$\bar{x} \pm \sigma$	$\bar{x} \pm \sigma$	$\bar{x} \pm \sigma$	$\bar{x} \pm \sigma$	$\bar{x} \pm \sigma$	
北海道	第一	114	0.478±0.011	0.121±0.005	0.085±0.007	2.011±0.063	0.614±0.032	0.874±0.022	0.120±0.017	0.024±0.016	0.033±0.002	0.451±0.010	
	第二	12	0.315±0.011	0.106±0.003	0.023±0.005	1.798±0.070	0.699±0.043	0.284±0.019	0.292±0.018	0.039±0.020	0.028±0.002	0.371±0.010	
	白糠	130	0.173±0.014	0.061±0.003	0.079±0.013	2.714±0.142	0.309±0.059	0.283±0.019	0.414±0.030	0.073±0.025	0.026±0.002	0.629±0.002	
	加	23	0.138±0.009	0.023±0.001	0.099±0.010	2.575±0.102	1.794±0.077	0.104±0.010	0.470±0.037	0.103±0.027	0.057±0.002	0.366±0.006	
	白糠	27	0.138±0.004	0.021±0.002	0.102±0.015	3.040±0.181	1.835±0.088	0.097±0.016	0.482±0.039	0.107±0.019	0.057±0.002	0.366±0.006	
	定文台	30	0.219±0.013	0.085±0.006	0.081±0.010	3.298±0.117	0.694±0.031	0.541±0.030	0.165±0.020	0.038±0.016	0.039±0.002	0.457±0.008	
	第二	107	0.317±0.011	0.099±0.005	0.057±0.009	2.772±0.097	0.818±0.024	0.197±0.024	0.401±0.019	0.035±0.002	0.442±0.008	0.442±0.011	
	川	17	0.244±0.012	0.098±0.005	0.066±0.014	2.765±0.125	0.814±0.068	0.815±0.042	0.193±0.039	0.078±0.008	0.034±0.002	0.442±0.011	
	川	62	0.226±0.008	0.075±0.005	0.075±0.008	1.699±0.081	0.116±0.043	0.460±0.020	0.233±0.033	0.043±0.017	0.027±0.002	0.398±0.008	
	川	60	0.256±0.018	0.104±0.005	0.068±0.010	1.813±0.062	0.829±0.034	0.179±0.020	0.179±0.020	0.044±0.009	0.030±0.002	0.412±0.010	
青森県	二段	41	0.449±0.020	0.174±0.007	0.032±0.010	2.638±0.181	0.892±0.061	0.707±0.044	0.334±0.029	0.064±0.025	0.029±0.023	0.398±0.013	
	二	28	0.303±0.036	0.114±0.012	0.036±0.010	3.038±0.231	0.762±0.040	0.764±0.051	0.197±0.026	0.038±0.022	0.033±0.002	0.442±0.013	
	川	20	0.244±0.004	0.100±0.004	0.096±0.010	2.213±0.104	0.949±0.060	0.428±0.021	0.249±0.024	0.038±0.023	0.027±0.002	0.371±0.009	
	井	75	0.173±0.019	0.148±0.007	0.099±0.015	1.794±0.072	0.434±0.027	0.697±0.028	0.137±0.020	0.025±0.017	0.032±0.002	0.469±0.013	
	内	35	0.190±0.015	0.075±0.003	0.040±0.008	1.575±0.066	1.241±0.046	0.318±0.014	0.141±0.033	0.076±0.021	0.024±0.002	0.348±0.010	
	内	27	0.346±0.022	0.132±0.007	0.231±0.019	2.528±0.085	0.852±0.044	1.106±0.056	0.389±0.038	0.175±0.031	0.038±0.003	0.498±0.013	
	島	38	0.890±0.008	0.097±0.011	0.013±0.002	0.697±0.021	0.138±0.008	0.032±0.002	0.604±0.007	0.033±0.004	0.036±0.002	0.379±0.010	
	門	26	0.239±0.024	0.069±0.003	0.068±0.012	2.338±0.237	1.188±0.062	0.323±0.063	0.277±0.065	0.076±0.025	0.026±0.002	0.382±0.013	
	一	28	0.894±0.004	0.104±0.004	0.013±0.002	0.691±0.021	0.123±0.006	0.032±0.002	0.609±0.010	0.033±0.005	0.023±0.002	0.389±0.007	
	夕	33	0.344±0.017	0.132±0.007	0.232±0.023	2.261±0.143	0.881±0.052	1.081±0.060	0.306±0.039	0.186±0.037	0.037±0.002	0.498±0.013	
秋田県	内	43	0.293±0.007	0.087±0.004	0.223±0.015	1.637±0.072	1.512±0.082	0.920±0.024	0.287±0.042	0.125±0.031	0.027±0.002	0.362±0.006	
	内	25	0.836±0.033	0.187±0.012	0.052±0.007	1.764±0.051	0.395±0.016	0.431±0.021	0.209±0.016	0.045±0.014	0.041±0.003	0.594±0.014	
	島	22	0.413±0.055	0.169±0.016	0.058±0.007	1.754±0.062	0.306±0.033	0.421±0.051	0.228±0.079	0.045±0.011	0.041±0.005	0.594±0.055	
	花	30	0.296±0.046	0.177±0.018	0.056±0.008	1.742±0.072	0.314±0.019	0.429±0.025	0.229±0.016	0.044±0.013	0.041±0.003	0.586±0.020	
	宮城県	豊	21	2.174±0.068	0.349±0.017	0.057±0.005	2.544±0.149	0.116±0.009	0.658±0.024	0.138±0.015	0.020±0.013	0.073±0.003	0.906±0.040
		豊	4	4.828±0.295	1.620±0.194	0.178±0.017	11.262±1.150	0.168±0.018	1.298±0.063	0.155±0.016	0.037±0.018	0.077±0.002	0.720±0.032
		山	44	0.288±0.021	0.123±0.007	0.182±0.016	1.906±0.066	0.868±0.069	1.022±0.071	0.276±0.036	0.119±0.033	0.033±0.002	0.443±0.014
		山	34	0.259±0.013	0.078±0.006	0.020±0.005	1.492±0.079	0.821±0.047	0.288±0.018	0.142±0.018	0.019±0.017	0.024±0.004	0.388±0.013
	新潟県	第一	12	0.263±0.032	0.097±0.018	0.020±0.006	1.501±0.033	0.717±0.106	0.326±0.029	0.091±0.022	0.046±0.015	0.026±0.002	0.339±0.009
		第二	44	0.232±0.011	0.068±0.013	0.169±0.017	2.178±0.110	0.774±0.098	0.775±0.047	0.154±0.034	0.027±0.002	0.039±0.006	0.491±0.014
山		22	0.639±0.012	0.142±0.007	0.168±0.019	1.668±0.049	0.351±0.012	0.333±0.011	0.150±0.015	0.033±0.011	0.036±0.003	0.491±0.014	
山		40	0.568±0.027	0.209±0.010	0.044±0.007	2.016±0.110	0.381±0.025	0.907±0.028	0.190±0.017	0.023±0.014	0.036±0.002	0.491±0.014	
栃木県	高	56	0.281±0.014	0.126±0.005	0.107±0.011	1.729±0.079	0.471±0.027	0.689±0.037	0.247±0.021	0.090±0.036	0.036±0.003	0.504±0.012	
	都	23	0.317±0.016	0.139±0.008	0.114±0.014	1.823±0.069	0.613±0.039	0.656±0.030	0.303±0.034	0.107±0.028	0.033±0.002	0.471±0.009	
	都	30	0.765±0.254	2.219±0.037	0.228±0.019	9.282±0.622	0.048±0.017	1.757±0.061	0.252±0.017	0.025±0.019	0.140±0.006	1.329±0.046	
	都	41	2.659±0.064	0.669±0.019	0.076±0.007	2.912±0.104	0.063±0.007	0.880±0.029	0.072±0.010	0.022±0.009	0.000±0.005	1.198±0.031	
静岡県	第一	31	1.963±0.071	0.381±0.019	0.065±0.007	2.139±0.097	0.767±0.008	0.629±0.028	0.144±0.009	0.011±0.009	0.067±0.005	0.904±0.020	
	第二	31	1.829±0.078	0.294±0.018	0.041±0.006	1.697±0.068	0.067±0.009	0.351±0.023	0.138±0.011	0.010±0.009	0.059±0.004	0.859±0.018	
	山	35	1.213±0.164	0.314±0.028	0.021±0.004	1.699±0.107	0.117±0.007	0.391±0.022	0.143±0.007	0.069±0.009	0.047±0.004	0.663±0.020	
	山	35	1.213±0.164	0.314±0.028	0.021±0.004	1.699±0.107	0.117±0.007	0.391±0.022	0.143±0.007	0.069±0.009	0.047±0.004	0.663±0.020	

注: \bar{x} : 平均値, σ : 標準偏差

第3表 各標石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

原産地	標石名	分析値	Ca/K ±σ	Ti/K ±σ	Mn/Zr ±σ	Fe/Zr ±σ	Rb/Zr ±σ	Sr/Zr ±σ	Y/Zr ±σ	Nb/Zr ±σ	Au/K ±σ	Si/K ±σ
長野県	龍ヶ崎	171	0.138±0.009	0.065±0.003	0.104±0.011	1.330±0.057	1.070±0.047	0.360±0.023	0.275±0.030	0.112±0.023	0.030±0.002	0.361±0.013
	和田峠第一	143	0.167±0.028	0.049±0.008	0.117±0.010	1.346±0.085	1.853±0.124	0.112±0.016	0.409±0.048	0.189±0.026	0.025±0.002	0.355±0.016
	第三	17	0.146±0.003	0.032±0.003	0.131±0.010	1.641±0.039	2.439±0.135	0.035±0.012	0.517±0.044	0.186±0.025	0.027±0.002	0.368±0.007
	第四	62	0.148±0.048	0.061±0.012	0.114±0.011	1.520±0.182	1.673±0.104	0.271±0.104	0.122±0.024	0.025±0.003	0.034±0.019	0.341±0.017
	第五	37	0.144±0.017	0.063±0.004	0.094±0.009	1.373±0.083	1.300±0.037	0.206±0.030	0.263±0.038	0.090±0.022	0.023±0.002	0.331±0.019
	第六	47	0.176±0.019	0.075±0.010	0.073±0.011	1.282±0.086	1.053±0.196	0.275±0.058	0.184±0.042	0.065±0.023	0.021±0.002	0.306±0.013
	第七	53	0.156±0.011	0.065±0.015	0.095±0.012	1.333±0.064	1.324±0.031	0.174±0.031	0.279±0.039	0.101±0.017	0.023±0.002	0.310±0.012
	丸山女	53	0.138±0.004	0.042±0.002	0.123±0.010	1.259±0.041	1.978±0.067	0.045±0.010	0.442±0.039	0.143±0.022	0.026±0.002	0.380±0.019
	和倉	119	0.223±0.026	0.102±0.010	0.059±0.008	1.169±0.081	0.701±0.109	0.169±0.062	0.128±0.074	0.065±0.017	0.005±0.002	0.364±0.008
	安草峠	68	0.263±0.020	0.138±0.011	0.049±0.008	1.403±0.069	0.900±0.057	0.164±0.048	0.101±0.018	0.056±0.016	0.029±0.002	0.401±0.017
	富山県	12	0.278±0.013	0.065±0.004	0.064±0.008	2.061±0.050	1.562±0.087	0.441±0.046	0.194±0.014	0.102±0.021	0.027±0.002	0.372±0.009
	石川県	17	0.170±0.014	0.097±0.004	0.060±0.009	2.650±0.167	0.630±0.028	0.534±0.023	0.172±0.028	0.052±0.018	0.032±0.002	0.396±0.010
	福井県	21	0.207±0.007	0.123±0.005	0.038±0.006	1.628±0.051	0.643±0.031	0.975±0.030	0.113±0.020	0.061±0.016	0.022±0.002	0.450±0.010
	三島	21	0.389±0.018	0.125±0.008	0.038±0.006	1.361±0.081	0.960±0.051	0.798±0.039	0.049±0.013	0.062±0.013	0.028±0.002	0.381±0.008
高根郡	津	20	0.154±0.008	0.020±0.009	0.018±0.003	0.940±0.029	0.269±0.016	0.006±0.003	0.047±0.010	0.144±0.019	0.022±0.001	0.260±0.017
	川	30	0.150±0.008	0.100±0.003	0.015±0.002	0.919±0.033	0.303±0.010	0.013±0.003	0.046±0.013	0.132±0.007	0.022±0.001	0.259±0.006
	見	31	0.142±0.004	0.061±0.002	0.020±0.003	0.961±0.048	0.380±0.013	0.001±0.002	0.093±0.015	0.229±0.010	0.023±0.002	0.317±0.006
大分県	鳳音崎	41	0.176±0.017	0.045±0.003	0.428±0.037	6.867±0.806	1.829±0.220	1.572±0.170	0.325±0.088	0.622±0.099	0.035±0.002	0.418±0.011
	向津第一	33	0.221±0.021	0.045±0.003	0.450±0.061	7.248±0.668	1.917±0.194	1.660±0.183	0.325±0.088	0.669±0.105	0.035±0.002	0.419±0.009
	第二	32	0.284±0.047	0.140±0.013	0.194±0.026	4.299±0.222	6.614±0.077	3.162±0.189	0.144±0.021	0.240±0.041	0.038±0.002	0.451±0.011
	第三	10	0.035±0.140	0.211±0.026	0.126±0.016	3.491±0.231	0.302±0.067	4.002±0.174	0.109±0.021	1.137±0.028	0.040±0.004	0.471±0.011
	才	29	1.074±0.119	0.224±0.024	0.122±0.012	3.460±0.301	0.286±0.048	4.010±0.197	0.101±0.022	1.133±0.025	0.040±0.003	0.469±0.014
	嶺	28	0.863±0.066	0.141±0.016	0.189±0.030	4.298±0.425	0.603±0.066	3.234±0.284	0.151±0.033	0.248±0.030	0.037±0.002	0.448±0.013
	嶺	30	0.313±0.023	0.127±0.009	0.065±0.010	1.469±0.124	0.600±0.051	0.686±0.082	0.175±0.018	0.102±0.020	0.028±0.002	0.371±0.009
佐賀県	久喜ノ辻	26	0.214±0.015	0.029±0.001	0.076±0.012	2.601±0.110	1.066±0.085	0.441±0.030	0.293±0.030	0.257±0.029	0.027±0.002	0.356±0.008
	君	37	0.165±0.012	0.065±0.002	0.034±0.003	1.157±0.030	0.403±0.012	0.065±0.004	0.114±0.012	0.326±0.008	0.024±0.002	0.294±0.008
	川	28	0.161±0.011	0.064±0.002	0.034±0.003	1.209±0.032	0.403±0.008	0.065±0.004	0.119±0.016	0.322±0.010	0.025±0.002	0.291±0.006
	松	29	0.138±0.010	0.057±0.002	0.056±0.007	1.741±0.083	1.880±0.076	0.012±0.012	0.303±0.038	0.652±0.036	0.026±0.002	0.358±0.010
	第一	23	0.148±0.016	0.029±0.002	0.085±0.013	2.662±0.125	0.649±0.074	0.439±0.047	0.294±0.047	0.210±0.028	0.027±0.002	0.367±0.012
	第二	17	0.176±0.016	0.030±0.004	0.062±0.022	1.807±0.389	1.674±0.345	0.208±0.074	0.277±0.056	0.210±0.050	0.026±0.002	0.381±0.010
	第三	16	0.145±0.019	0.060±0.006	0.045±0.012	1.975±0.240	0.878±0.099	0.421±0.081	0.139±0.030	0.145±0.028	0.026±0.002	0.360±0.013
	第四	22	0.287±0.019	0.067±0.004	0.044±0.007	1.906±0.106	0.785±0.074	0.484±0.034	0.115±0.023	0.117±0.018	0.028±0.001	0.387±0.007
	第五	44	0.239±0.014	0.080±0.006	0.042±0.007	1.804±0.065	0.833±0.052	0.504±0.035	0.077±0.018	0.117±0.014	0.029±0.002	0.360±0.009
	第一	25	0.248±0.017	0.068±0.008	0.057±0.007	1.884±0.065	0.852±0.022	0.403±0.026	0.112±0.021	0.152±0.017	0.026±0.002	0.363±0.007
	第二	17	0.272±0.020	0.080±0.017	0.045±0.010	1.832±0.074	0.848±0.068	0.488±0.030	0.069±0.030	0.093±0.023	0.027±0.002	0.330±0.012
	第三	40	0.195±0.020	0.027±0.003	0.080±0.016	2.669±0.215	1.780±0.164	0.143±0.065	0.312±0.056	0.259±0.040	0.027±0.002	0.358±0.018
	第四	22	0.414±0.012	0.063±0.006	0.102±0.015	2.898±0.204	1.361±0.134	0.163±0.047	0.133±0.047	0.261±0.034	0.031±0.002	0.363±0.010
	第五	19	0.257±0.035	0.062±0.009	0.064±0.009	1.309±0.131	0.812±0.113	0.430±0.052	0.101±0.029	0.148±0.037	0.028±0.002	0.384±0.011
	大	25	0.161±0.011	0.051±0.002	0.032±0.006	1.748±0.038	0.940±0.030	0.179±0.018	0.191±0.028	0.137±0.019	0.024±0.002	0.340±0.008
熊本県	冠ヶ崎	21	0.361±0.012	0.121±0.008	0.027±0.003	0.780±0.026	0.324±0.011	0.279±0.017	0.064±0.010	0.037±0.006	0.025±0.002	0.277±0.006
鹿児島県	水	28	0.272±0.014	0.139±0.006	0.020±0.006	1.163±0.050	0.699±0.027	0.414±0.021	0.102±0.019	0.041±0.013	0.023±0.001	0.310±0.009
	電	28	0.144±0.032	0.167±0.008	0.063±0.009	1.301±0.079	0.638±0.038	0.414±0.024	0.155±0.019	0.082±0.016	0.037±0.002	0.320±0.006
	長	30	0.333±0.032	0.137±0.006	0.066±0.011	1.815±0.062	0.530±0.028	0.533±0.029	0.146±0.021	0.065±0.020	0.037±0.002	0.324±0.012
	J-G-1	127	0.753±0.010	0.202±0.005	0.076±0.010	3.759±0.111	0.960±0.036	1.331±0.027	0.165±0.027	0.106±0.002	0.028±0.002	0.342±0.004

★：平均値。σ：標準偏差。＊：分析元標石。
 †：Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. (1974). 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granulite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal* 8: 175-192.

第14表 原西田遺跡出土のサヌカイト製造物および利根川流域産原石の分析結果

試料番号	元 素 比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
32000	0.172	0.285	0.163	11.530	0.131	0.110	0.736	0.027	0.011	0.098
32001	0.176	0.341	0.118	8.849	0.096	0.069	0.378	0.000	0.012	0.104
32002	0.145	0.337	0.126	8.626	0.056	0.071	0.407	0.000	0.011	0.099
32003	0.276	0.444	0.122	3.788	0.110	0.085	0.392	0.004	0.016	0.169
32004	0.283	0.323	0.087	4.688	0.113	0.100	0.566	0.000	0.015	0.159
32005	0.240	0.414	0.137	8.917	0.097	0.081	0.507	0.017	0.012	0.133
32006	0.108	0.235	0.146	11.930	0.065	0.099	0.506	0.008	0.011	0.088
32007	0.182	0.359	0.136	9.184	0.073	0.074	0.446	0.000	0.012	0.114
32008	0.405	0.411	0.057	4.802	0.118	0.123	0.699	0.019	0.022	0.230
32009	0.194	0.368	0.127	9.258	0.088	0.086	0.449	0.000	0.011	0.104
32010	3.560	9.152	0.009	19.070	1.853	0.462	0.901	0.360	0.675	26.480
32011	0.262	0.306	0.093	4.973	0.112	0.093	0.551	0.028	0.015	0.153
32012	0.195	0.380	0.117	8.726	0.097	0.075	0.423	0.011	0.012	0.115
32013	0.216	0.360	0.146	6.781	0.103	0.087	0.410	0.000	0.013	0.129
32014	0.263	0.288	0.119	7.845	0.202	0.107	0.802	0.023	0.014	0.137
32016	0.189	0.385	0.115	8.875	0.083	0.108	0.466	0.014	0.010	0.100
32017	0.220	0.356	0.131	7.282	0.090	0.090	0.537	0.000	0.015	0.128
32018	0.237	0.329	0.127	9.142	0.158	0.141	0.792	0.010	0.012	0.126
32019	0.153	0.329	0.129	9.310	0.082	0.085	0.414	0.000	0.010	0.090
32020	0.243	0.404	0.135	9.540	0.097	0.094	0.500	0.013	0.011	0.118
32021	0.138	0.292	0.135	8.665	0.060	0.066	0.341	0.000	0.011	0.096
32022	0.138	0.309	0.133	8.787	0.071	0.088	0.373	0.000	0.011	0.093
32023	0.136	0.305	0.141	9.304	0.053	0.084	0.343	0.008	0.010	0.088
32024	0.125	0.288	0.135	10.010	0.051	0.095	0.409	0.023	0.009	0.085
32025	0.138	0.236	0.142	10.820	0.079	0.093	0.538	0.012	0.011	0.095
32026	0.288	0.335	0.125	7.884	0.174	0.131	0.911	0.000	0.015	0.142
32027	0.275	0.347	0.091	5.158	0.106	0.111	0.578	0.007	0.016	0.157
32028	0.307	0.350	0.114	7.554	0.206	0.130	0.941	0.032	0.015	0.148
32029	0.280	0.348	0.099	5.383	0.097	0.104	0.585	0.000	0.016	0.155
32030	0.277	0.354	0.097	5.269	0.101	0.098	0.552	0.009	0.017	0.157
32032	0.307	0.346	0.125	8.029	0.165	0.150	0.925	0.031	0.015	0.163
32033	0.273	0.344	0.093	5.220	0.107	0.108	0.551	0.000	0.015	0.152
32034	0.303	0.344	0.126	7.538	0.201	0.146	0.911	0.016	0.016	0.154
32035	0.288	0.344	0.130	7.980	0.162	0.145	0.849	0.028	0.015	0.150
32036	0.269	0.345	0.097	5.338	0.105	0.103	0.596	0.000	0.016	0.154
32037	0.299	0.343	0.121	7.398	0.177	0.114	0.913	0.000	0.016	0.155
32038	0.287	0.345	0.123	7.329	0.159	0.120	0.864	0.044	0.015	0.147
32039	0.274	0.348	0.114	5.225	0.116	0.099	0.556	0.016	0.015	0.150
32040	0.297	0.336	0.126	7.997	0.170	0.133	0.849	0.028	0.015	0.153
32041	0.286	0.333	0.097	5.054	0.125	0.091	0.541	0.010	0.015	0.151
32042	0.267	0.338	0.093	5.214	0.095	0.100	0.547	0.010	0.015	0.144
32043	0.309	0.347	0.120	7.675	0.179	0.130	0.869	0.032	0.015	0.153
32044	0.305	0.349	0.120	7.662	0.162	0.155	0.896	0.000	0.017	0.156
32045	0.250	0.275	0.113	8.363	0.160	0.127	0.802	0.009	0.015	0.135
32046	0.318	0.339	0.126	8.030	0.173	0.150	0.953	0.009	0.017	0.162
32048	0.291	0.338	0.118	7.828	0.165	0.160	0.875	0.018	0.015	0.148
32049	0.299	0.346	0.121	7.813	0.173	0.158	0.908	0.015	0.017	0.154
32050	0.327	0.349	0.118	7.477	0.186	0.151	0.968	0.034	0.017	0.163
32051	0.299	0.333	0.121	7.867	0.184	0.128	0.933	0.019	0.015	0.154
32052	0.299	0.337	0.117	7.869	0.159	0.133	0.932	0.015	0.016	0.154
32053	0.308	0.350	0.123	7.872	0.163	0.135	0.894	0.024	0.014	0.154
32054	0.303	0.354	0.115	7.406	0.178	0.154	0.900	0.000	0.016	0.155
32055	0.271	0.344	0.084	5.066	0.097	0.113	0.553	0.000	0.015	0.154
31603	0.291	0.344	0.114	7.414	0.196	0.135	0.870	0.021	0.015	0.156

第15表 原西Ⅲ遺跡出土のサヌカイト製造物および利根川流域産原石の分析結果

試料番号	元 素 比									
	K/Ca	Ti/Ca	Mn/Sr	Fe/Sr	Rb/Sr	Y/Sr	Zr/Sr	Nb/Sr	Al/Ca	Si/Ca
31604	0.307	0.347	0.115	7.222	0.161	0.165	0.913	0.027	0.014	0.156
31605	0.290	0.337	0.117	7.957	0.170	0.156	0.928	0.013	0.014	0.153
31606	0.438	0.409	0.095	6.266	0.267	0.173	0.943	0.042	0.016	0.187
31607	0.278	0.349	0.098	5.209	0.114	0.104	0.569	0.031	0.016	0.154
31608	0.318	0.347	0.105	7.987	0.162	0.149	0.941	0.045	0.015	0.154
31609	0.291	0.342	0.116	7.872	0.170	0.129	0.879	0.031	0.014	0.148
31610	0.312	0.338	0.112	7.466	0.193	0.125	0.859	0.017	0.015	0.160
31611	0.301	0.342	0.118	8.027	0.172	0.136	0.928	0.007	0.018	0.158
31612	0.314	0.345	0.108	7.649	0.176	0.122	0.910	0.032	0.016	0.160
31650	0.288	0.339	0.124	7.613	0.167	0.148	0.891	0.015	0.016	0.151
31651	0.308	0.348	0.127	8.010	0.177	0.130	0.932	0.029	0.016	0.156
31652	0.295	0.331	0.131	7.975	0.169	0.146	0.889	0.015	0.015	0.148
31653	0.309	0.344	0.110	7.356	0.197	0.124	0.872	0.026	0.015	0.154
31654	0.309	0.349	0.124	7.656	0.177	0.163	0.876	0.026	0.017	0.154
31655	0.299	0.339	0.116	7.581	0.200	0.122	0.893	0.016	0.016	0.156

第16表 原西Ⅲ遺跡出土の黒曜石製石器の分析結果

試料番号	元 素 比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
32056	0.141	0.070	0.129	1.385	1.074	0.348	0.263	0.109	0.021	0.320
32057	0.135	0.066	0.101	1.346	1.064	0.373	0.305	0.117	0.027	0.348
32058	0.145	0.090	0.091	1.233	1.055	0.356	0.245	0.121	0.017	0.312
32059	0.149	0.032	0.137	1.430	2.414	0.024	0.554	0.228	0.021	0.327
32060	0.131	0.067	0.092	1.267	1.064	0.343	0.230	0.109	0.023	0.323
32061	0.134	0.066	0.122	1.485	1.038	0.416	0.331	0.155	0.025	0.331
32062	0.151	0.070	0.103	1.275	1.018	0.340	0.272	0.089	0.020	0.322
32064	0.135	0.069	0.107	1.488	1.159	0.368	0.283	0.153	0.022	0.329
32065	0.144	0.068	0.088	1.296	1.023	0.326	0.317	0.070	0.021	0.325
32066	0.144	0.069	0.111	1.395	1.055	0.332	0.270	0.125	0.021	0.338
32067	0.166	0.071	0.112	1.414	1.046	0.357	0.248	0.132	0.023	0.321
32068	0.129	0.069	0.120	1.447	1.058	0.373	0.265	0.082	0.020	0.331
32069	0.139	0.069	0.107	1.382	1.099	0.354	0.246	0.094	0.023	0.333
32070	0.148	0.096	0.107	1.354	1.078	0.370	0.262	0.123	0.022	0.334
32071	0.141	0.065	0.120	1.397	1.119	0.336	0.282	0.164	0.022	0.313
32072	0.127	0.071	0.096	1.236	1.082	0.362	0.239	0.108	0.024	0.309
32073	0.135	0.069	0.118	1.224	1.024	0.349	0.290	0.132	0.022	0.295
32074	0.143	0.067	0.105	1.360	1.032	0.349	0.287	0.144	0.023	0.320
32075	0.148	0.066	0.120	1.324	1.023	0.321	0.256	0.092	0.022	0.332
32076	0.144	0.065	0.104	1.368	1.092	0.354	0.268	0.135	0.022	0.324
32077	0.183	0.083	0.061	1.294	0.967	0.329	0.170	0.052	0.020	0.322
32078	0.114	0.058	0.102	1.347	1.160	0.371	0.278	0.085	0.019	0.257
32080	0.161	0.048	0.140	1.317	1.850	0.052	0.410	0.178	0.024	0.311
32081	0.136	0.041	0.129	1.350	2.061	0.057	0.447	0.143	0.023	0.332
32082	0.207	0.060	0.127	1.699	1.915	0.115	0.410	0.173	0.022	0.323
32083	0.139	0.039	0.105	1.241	1.989	0.046	0.426	0.082	0.023	0.342
32084	0.138	0.069	0.092	1.351	1.091	0.396	0.281	0.126	0.018	0.330
32085	0.151	0.045	0.107	1.189	1.875	0.042	0.376	0.136	0.022	0.325
32086	0.144	0.025	0.101	1.371	1.655	0.113	0.309	0.114	0.020	0.338
32087	0.138	0.072	0.117	1.404	1.059	0.337	0.293	0.063	0.024	0.330
32088	0.139	0.068	0.129	1.443	1.118	0.369	0.266	0.102	0.024	0.328

第17表 原西田遺跡出土のサヌカイト製石器の原産地推定結果

試料番号	名称・位置・層位	原産地(確率)	判定	遺物品名	備考	試料提供者
32000	原石・利根川・赤城村			原石	利根川	
32001	原石・第7地点	荒船山(19%)	荒船山	#	鍋川	
32002	原石・第2地点No87			#	#	
32003	原石・第2地点			#	#	
32004	原石・N地点	八風山(78%)	八風山	#	長野県	
32005	原石・D地点	荒船山(7%)	荒船山	#	鍋川	
32006	原石・白井北中道遺跡隣層			#	利根川	
32007	原石・K地点	荒船山(83%)	荒船山	#	長野県	
32008	原石・M地点			#	#	
32009	原石・D地点	荒船山(98%)	荒船山	#	鍋川	
32010	原石・第3地点			#	#	
32011	原石・N地点	八風山(15%)	八風山	#	長野県	
32012	原石・C地点	荒船山(7%)	荒船山	#	鍋川	
32013	原石・第4地点	荒船山(D ² =58)	荒船山	#	#	
32014	原石・利根川第11地点			#	利根川	
32016	原石・K地点	荒船山(10%)	荒船山	#	長野県	
32017	原石・A地点	荒船山(0.3%)	荒船山	#	鍋川	
32018	原石・利根川第11地点			#	利根川	
32019	原石・第3地点	荒船山(80%)	荒船山	#	鍋川	
32020	原石・C地点	荒船山(53%)	荒船山	#	#	
32021	原石・C地点	荒船山(4%)	荒船山	#	#	
32022	原石・E地点	荒船山(44%)	荒船山	#	#	
32023	原石・E地点	荒船山(14%)	荒船山	#	#	
32024	原石・N地点	荒船山(0.2%)	荒船山	#	長野県	
32025	原石・利根川・赤城村			#	利根川	
32026	天引狐崎・GAn-6、24-69、S156			石器		
32027	天引狐崎・GAn-3、23-69、S10	八風山(5%)	八風山	#		
32028	天引狐崎・GAn-1、26-69、S4			#		
32029	天引狐崎・GAn-1、24-69、S124	八風山(6%)	八風山	#		
32030	天引狐崎・GAn-3、22-68、S13	八風山(0.1%)	八風山	#		
32032	天引狐崎・GAn-1、26-69、S24			#		
32033	天引狐崎・GAn-1、24-69、S108	八風山(4%)	八風山	#		
32034	天引狐崎・GAn-4、26-69、S21			#		
32035	天引狐崎・GAn-2、27-70、S5			#		

註) 地点名の第1～第10とA～Jについては、板井美枝・井上昌美・関口博幸「群馬県における石器石材の研究Ⅰ」(『研究紀要11』群馬県埋蔵文化財調査事業団)の第2図の地点名に対応する。

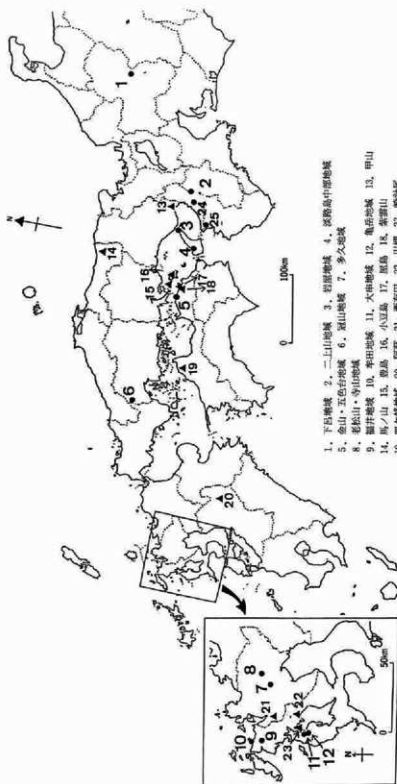
付 編

第18表 原西田遺跡出土のサマカイト製石器の原産地推定結果

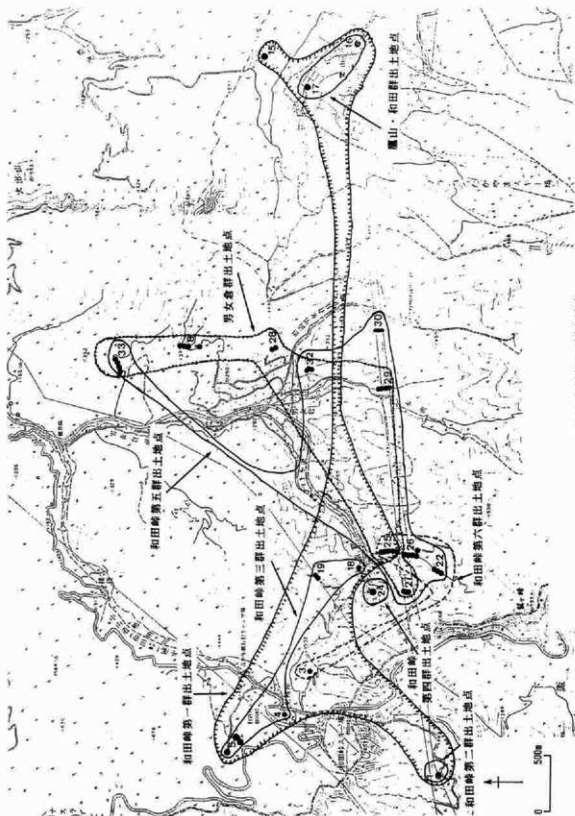
試料番号	名称・位置・層位	原産地(確率)	判 定	遺物品名	備 考	試料提供者
32036	天引狐崎・GAn-1、26-69、S22	八風山 (11%)	八風山	石 器		
32037	天引狐崎・GAn-4、26-69、S16			#		
32038	天引狐崎・GAn-2、27-70、S4			#		
32039	天引狐崎・GAn-1、24-69、S47	八風山 (0.2%)	八風山	#		
32040	天引向原・GAn-9、17-11、S3			#		
32041	天引向原・GAn-5、21-16、S1	八風山 (4%)	八風山	#		
32042	天引向原・GAn-1、20-13、S7	八風山 (10%)	八風山	#		
32043	天引向原・GAn-9、20-12、S3			#		
32044	天引向原・GAn-8、18-13、S9			#		
32045	天引向原・GAn-2、21-15、S3			#		
32046	天引向原・GAn-10、15-11、S1			#		
32048	天引向原・GAn-9、17-10、S52			#		
32049	天引向原・GAn-3、18-13、S12			#		
32050	天引向原・GAn-10、16-11、S2			#		
32051	天引向原・GAn-9、17-10、S38			#		
32052	天引向原・GAn-4、15-10、S2			#		
32053	白倉下原B区・GAn-8、31-38、S14			#		
32054	白倉下原B区・GAn-8、31-38、S13			#		
32055	白倉下原B区・GAn-7、29-36、S5	八風山 (0.4%)	八風山	#		
31603	白倉下原A区・GAn-7、18-17、S2			#		
31604	白倉下原A区・GAn-6、16-16、S1			#		
31605	白倉下原A区・GAn-4、16-15、S3			#		
31606	白倉下原A区・GAn-1、17-15、S25			#		
31607	白倉下原A区・GAn-9、16-16、S3	八風山 (1%)	八風山	#		
31608	白倉下原A区・GAn-5、15-16、S3			#		
31609	白倉下原A区・GAn-4、16-17、S35			#		
31610	白倉下原A区・GAn-2、16-17、S96			#		
31611	白倉下原A区・GAn-8、16-16、S33			#		
31612	白倉下原A区・GAn-6、17-16、S16			#		
31650	白倉下原A区・GAn-4、17-16、S2			#		
31651	白倉下原A区・GAn-2、16-17、S99			#		
31652	白倉下原A区・GAn-11、18-15、S5			#		
31653	白倉下原A区・GAn-7、17-17、S36			#		
31654	白倉下原A区・GAn-5、15-16、S2			#		
31655	白倉下原A区・GAn-4、15-17、S1			#		

第19表 原西川遺跡出土の黒曜石製石器の原産地推定結果

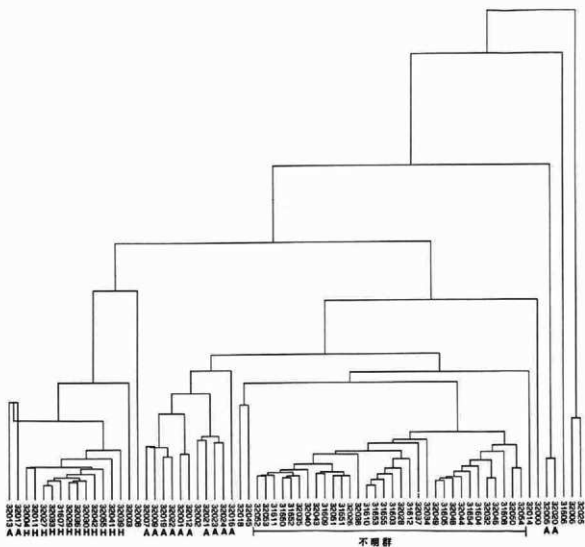
試料番号	名称・位置・層位	原産地 (確率)	判 定	遺物品名	備 考	試料提供者
32056	白倉下原B区・Ob-3、31-36、S7	霧ヶ峰 (77%)	霧ヶ峰	石 器		
32057	白倉下原B区・Ob-2、31-36、S9	霧ヶ峰 (98%)	霧ヶ峰	#		
32058	白倉下原B区・Ob-1、28-36、S1	霧ヶ峰 (64%)	霧ヶ峰	#		
32059	白倉下原B区・Ob-1、31-37、S1	和田峠第2群 (32%)	和田峠	#		
32060	白倉下原B区・Ob-5、30-36、S7	霧ヶ峰 (71%)	霧ヶ峰	#		
32061	白倉下原B区・Ob-5、29-38、S13	霧ヶ峰 (0.1%)	霧ヶ峰	#		
32062	白倉下原B区・Ob-5、29-38、S12	霧ヶ峰 (74%)	霧ヶ峰	#		
32064	白倉下原B区・Ob-5、28-38、S4	霧ヶ峰 (6%)	霧ヶ峰	#		
32065	白倉下原B区・Ob-4、31-38、S3	霧ヶ峰 (39%)	霧ヶ峰	#		
32066	白倉下原B区・Ob-6、29-36、S3	霧ヶ峰 (57%)	霧ヶ峰	#		
32067	白倉下原B区・Ob-6、31-37、S3	霧ヶ峰 (3%)	霧ヶ峰	#		
32068	白倉下原B区・Ob-5、31-38、S12	霧ヶ峰 (12%)	霧ヶ峰	#		
32069	白倉下原B区・Ob-5、31-37、S4	霧ヶ峰 (91%)	霧ヶ峰	#		
32070	白倉下原B区・Ob-5、30-38、S3	霧ヶ峰 (98%)	霧ヶ峰	#		
32071	白倉下原B区・Ob-7、31-36、S11	霧ヶ峰 (10%)	霧ヶ峰	#		
32072	白倉下原B区・Ob-7、29-37、S1	霧ヶ峰 (23%)	霧ヶ峰	#		
32073	白倉下原B区・Ob-6、29-39、S2	霧ヶ峰 (32%)	霧ヶ峰	#		
32074	白倉下原B区・Ob-6、31-36、S8	霧ヶ峰 (77%)	霧ヶ峰	#		
32075	白倉下原B区・Ob-8、31-37、S2	霧ヶ峰 (25%)	霧ヶ峰	#		
32076	白倉下原B区・Ob-8、29-37、S3	霧ヶ峰 (96%)	霧ヶ峰	#		
32077	天引向原A区・Ob-1、19-12、S7	和田峠第5群 (74%) 男女倉 (36%)	和田峠・男女倉	#		
32078	天引向原A区・Ob-2、17-10、S56	霧ヶ峰 (3%)	霧ヶ峰	#		
32080	天引向原A区・Ob-3、15-12、S3	和田峠第3群 (24%) 和田峠第1群 (10%)	和田峠	#		
32081	天引狐崎・Ob-1、25-65、S1	和田峠第1群 (87%) 嵐山・和田 (71%)	和田峠	#		
32082	多胡蛇黒・F-8、S1	和田峠第3群 (29%)	和田峠	#		
32083	多胡蛇黒・G-8、S7	和田峠第3群 (5%) 和田峠第1群 (3%)	和田峠	#		
32084	矢田・50-88、S1	霧ヶ峰 (64%)	霧ヶ峰	#		
32085	天引向原C区・Ob-1、43-45、S2	和田峠第1群 (66%) 和田峠第3群 (34%)	和田峠	#		
32086	白倉下原C区・Ob-1、38-36、S1	和田峠第6群 (89%) 和田峠第1群 (20%)	和田峠	#		
32087	白倉下原C区・Ob-1、40-65、S1	霧ヶ峰 (13%)	霧ヶ峰	#		
32088	白倉下原C区・Ob-3、40-65、S2	霧ヶ峰 (53%)	霧ヶ峰	#		



第215図 ササカイトの原産地



第217図 和田村付近地域原石採取地点



第218図 原西川遺跡出土のサヌカイト製遺物および利根川流域産安山岩のクラスター分析

K/Ca, Ti/Ca, Mn/Sr, Fe/Sr, Rb/Sr, Y/Sr, Zr/Nbの各元素比を用いた。組成の似た試料は距離の低いところでクラスターを組む。

32000～32025：利根川流域産原石

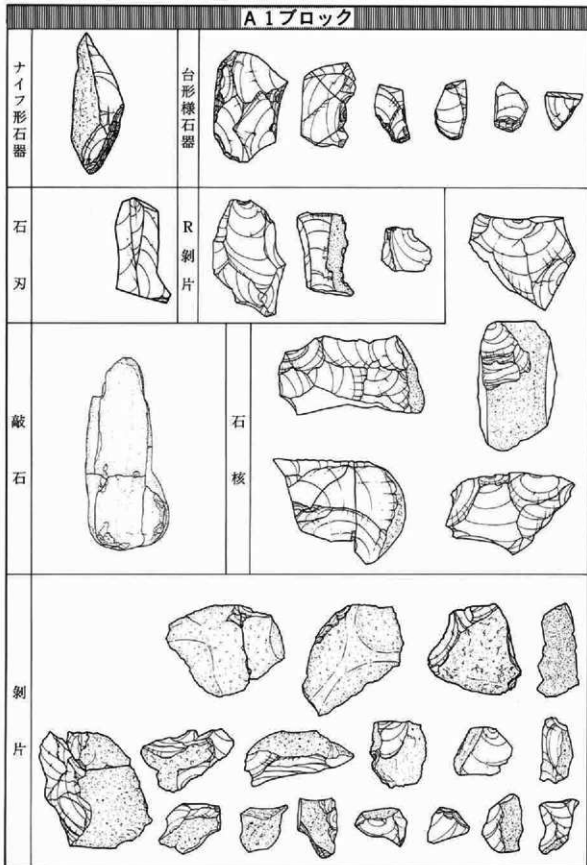
31603～31635、32026～32055：サヌカイト製遺物

A：寛船山産原石、H：八風山産原石（マハラノビスの影響を求めて行なうホテリングのT'検定での同定結果）、不明群：組成の少し異なる、2～3グループから成る。

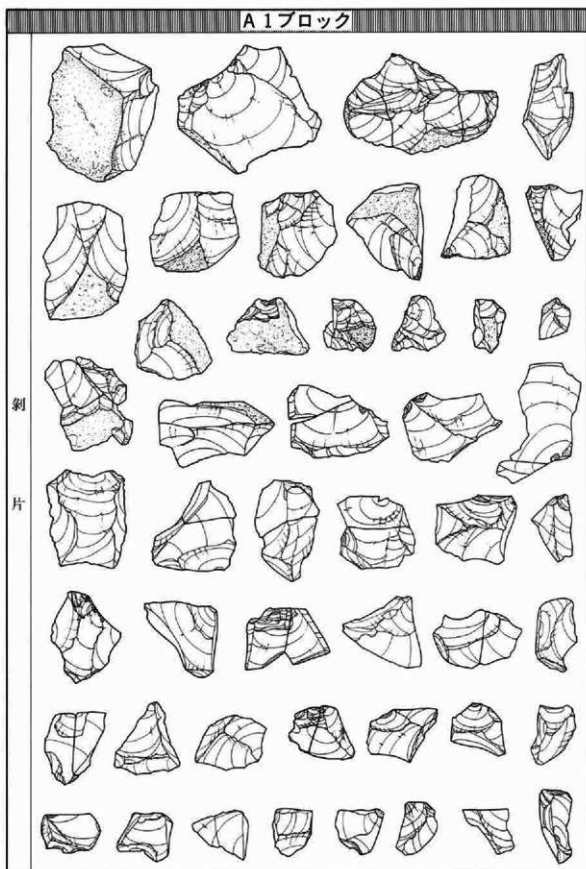
ブロック別石器組成図

母岩別石器組成図

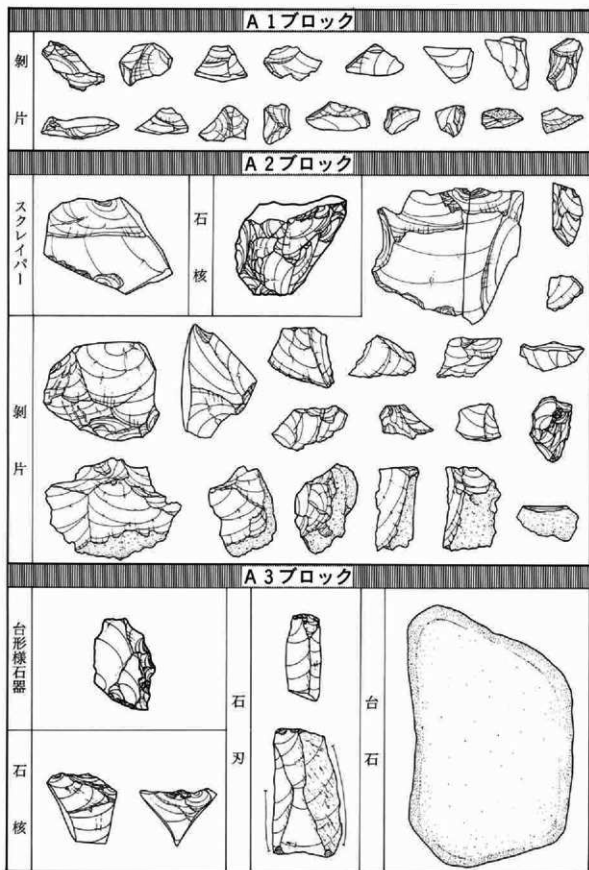
石器一覧表



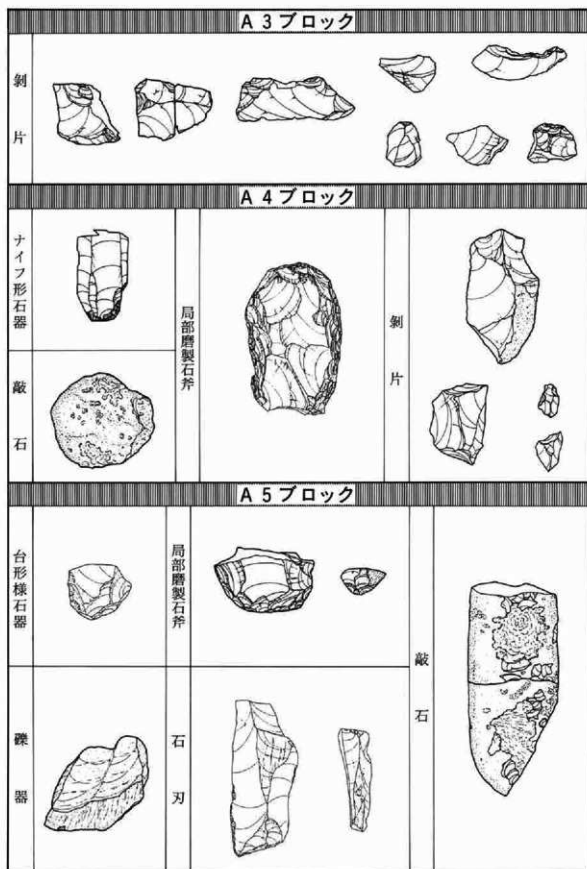
第219図 白倉下原遺跡A区ブロック別石器組成図(1)



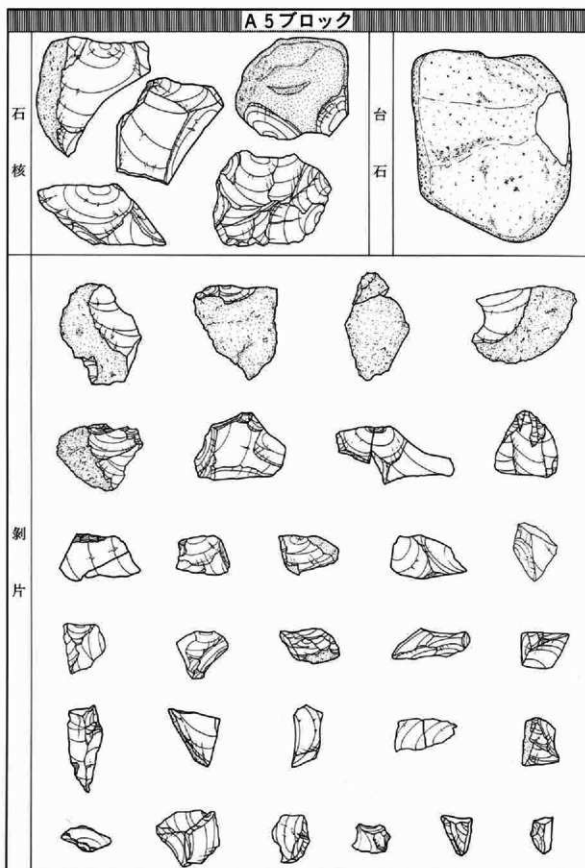
第220図 白倉下原遺跡A区ブロック別石器組成図(2)



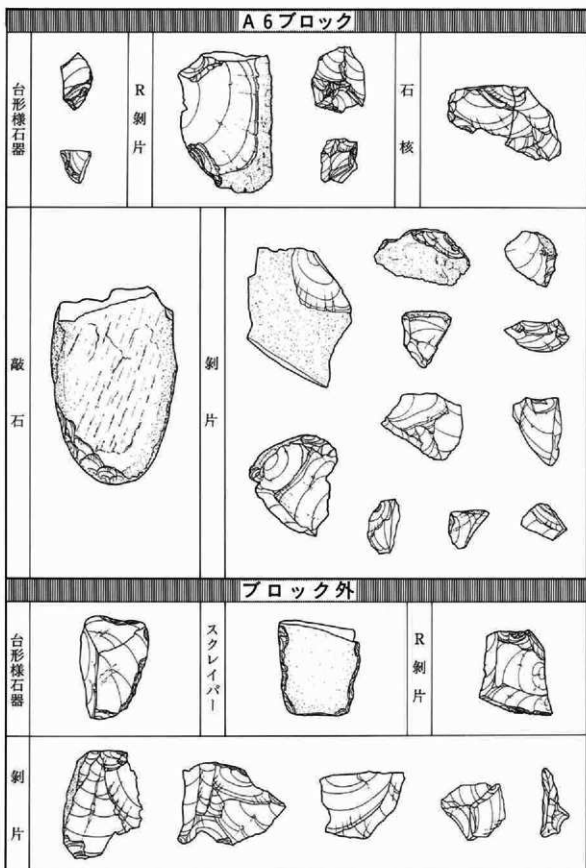
第221図 白倉下原遺跡A区ブロック別石器組成図(3)



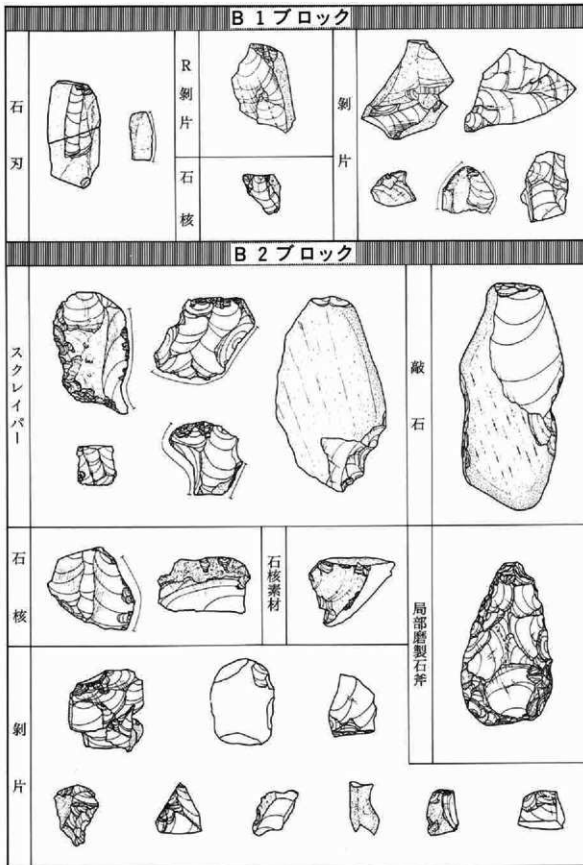
第222図 白倉下原遺跡A区ブロック別石器組成図(4)



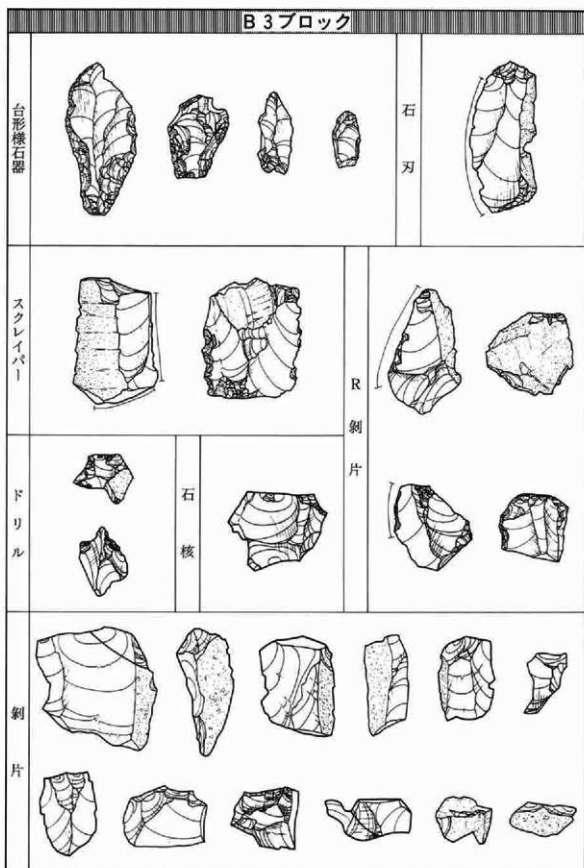
第223図 白倉下原遺跡A区ブロック別石器組成図(5)



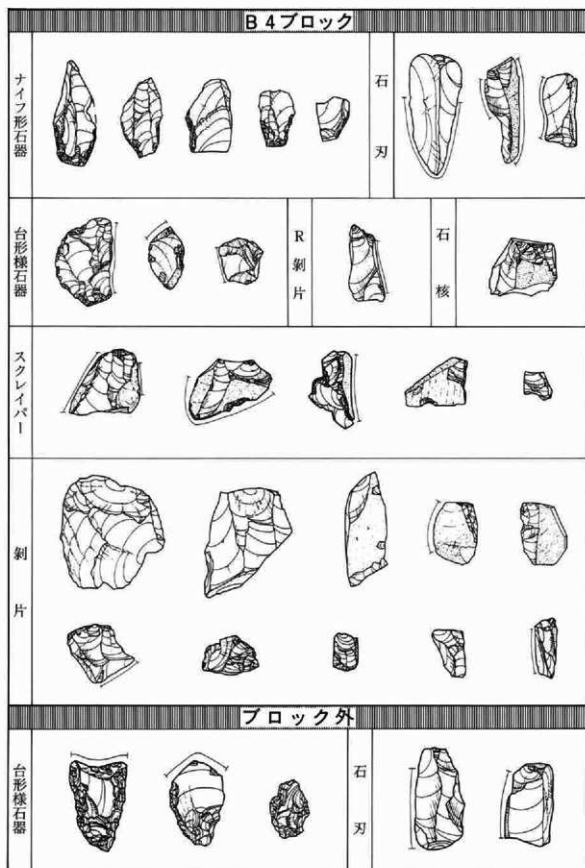
第224図 白倉下原遺跡A区ブロック別石器組成図(6)



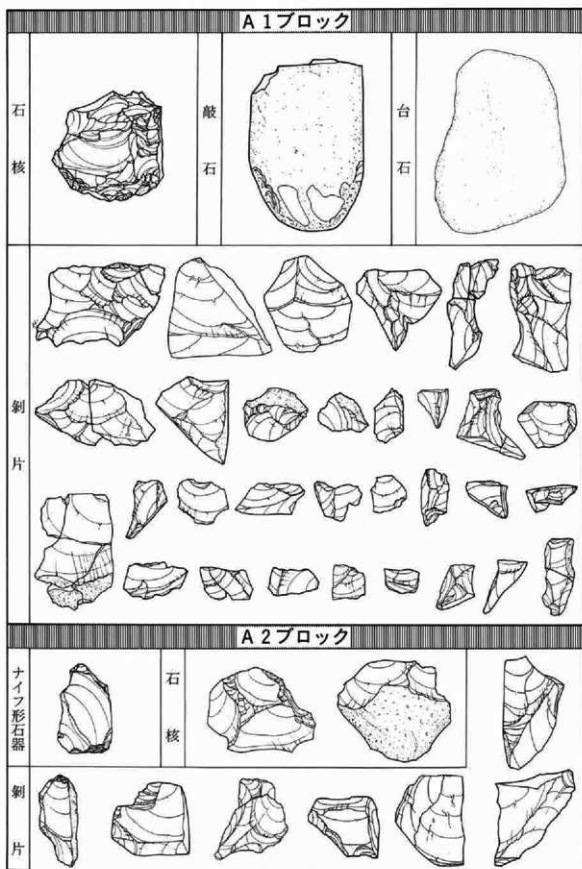
第225図 白倉下原遺跡B区ブロック別石器組成図(1)



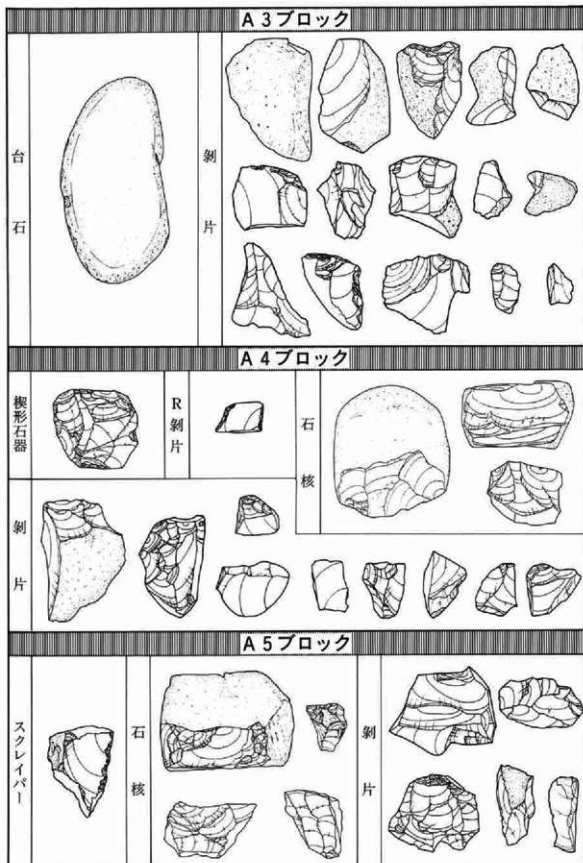
第226図 白倉下原遺跡B区ブロック別石器組成図(2)



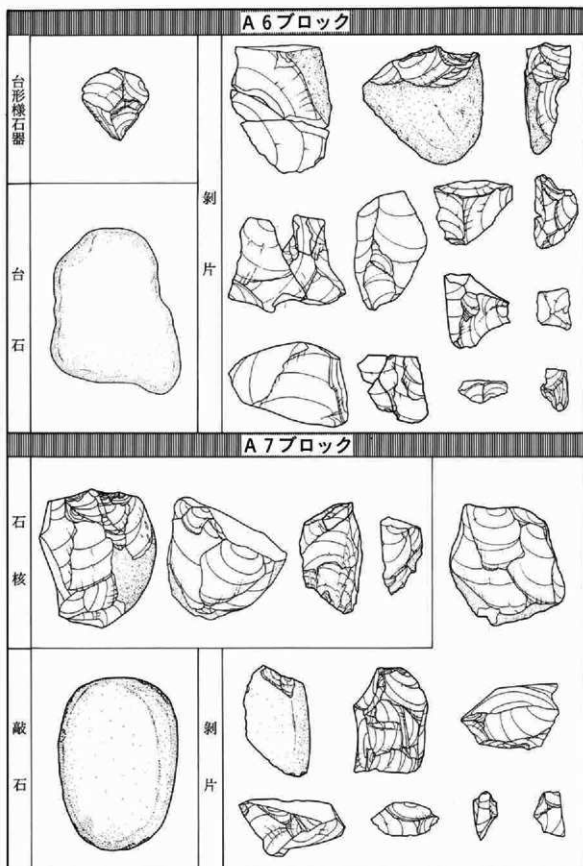
第227図 白倉下原遺跡B区ブロック別石器組成図(3)



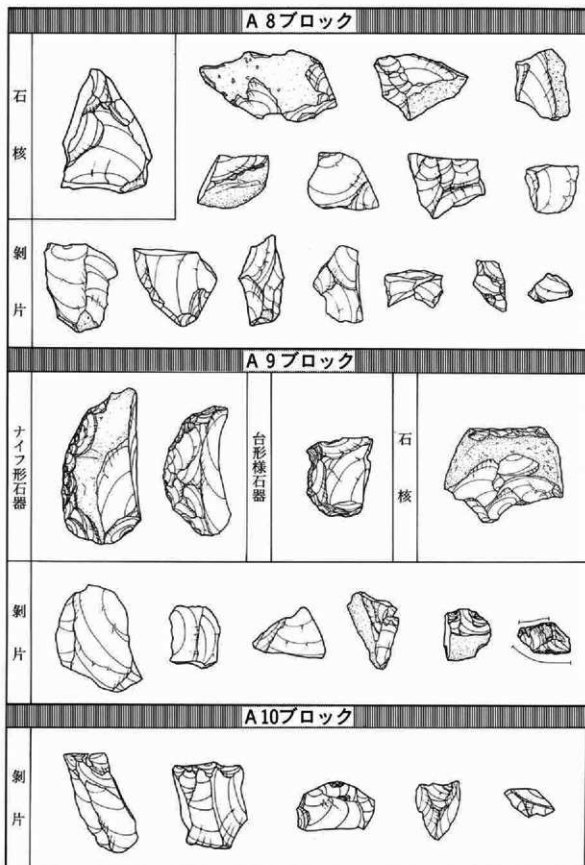
第228図 天引向原遺跡A区ブロック別石器組成図(1)



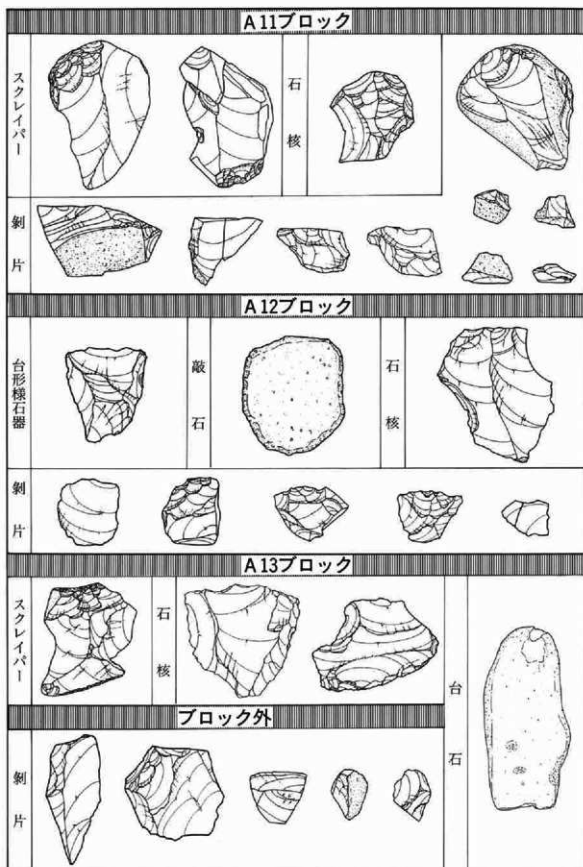
第229図 天引向原遺跡A区ブロック別石器組成図(2)



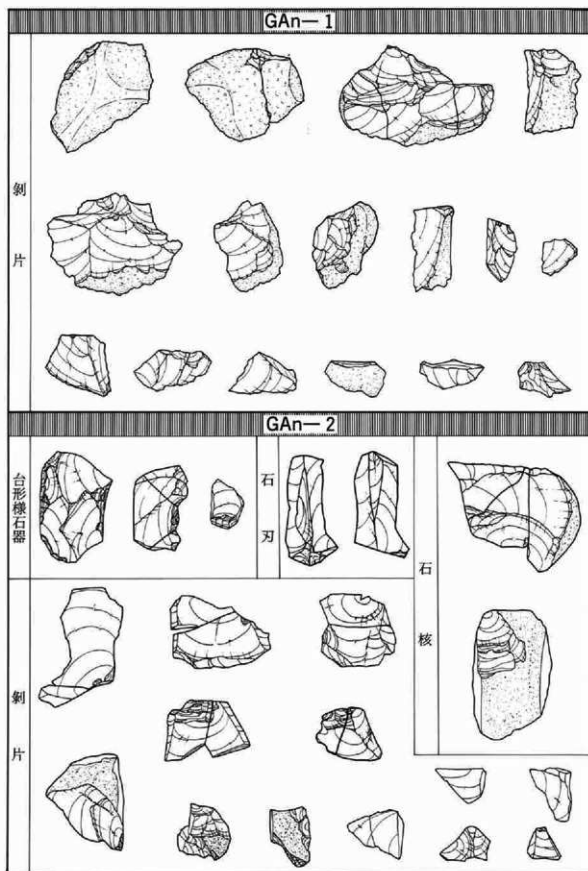
第230図 天引向原遺跡A区ブロック別石器組成図(3)



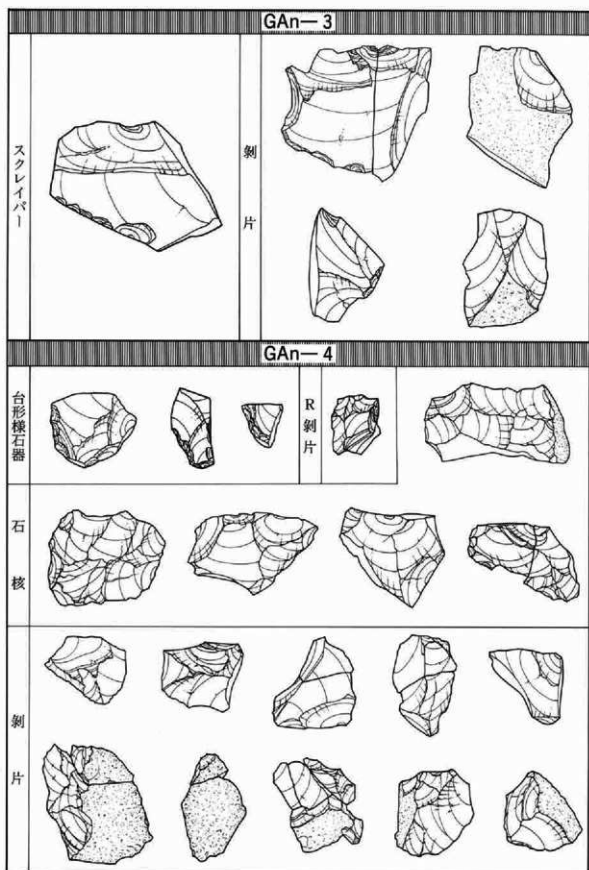
第231図 天引向原遺跡A区ブロック別石器組成図(4)



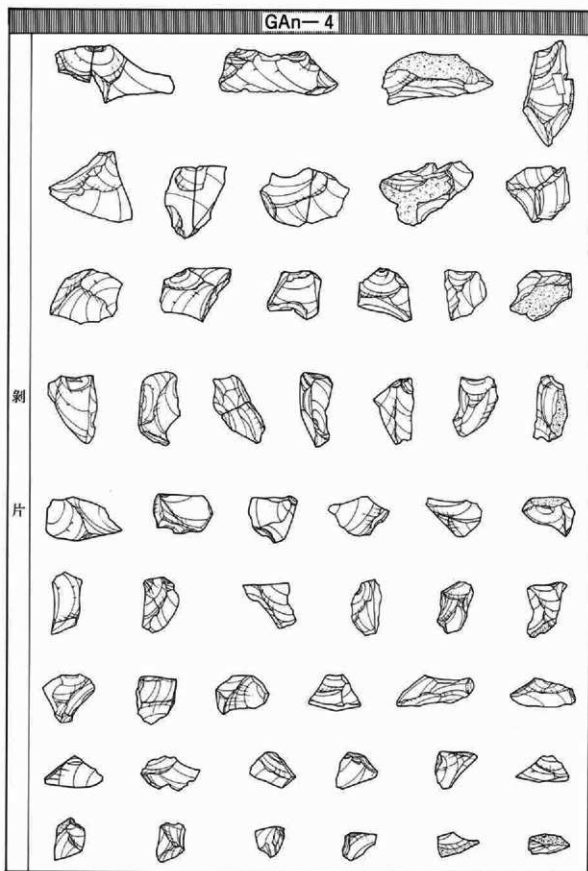
第232図 天引向原遺跡A区ブロック別石器組成図(5)



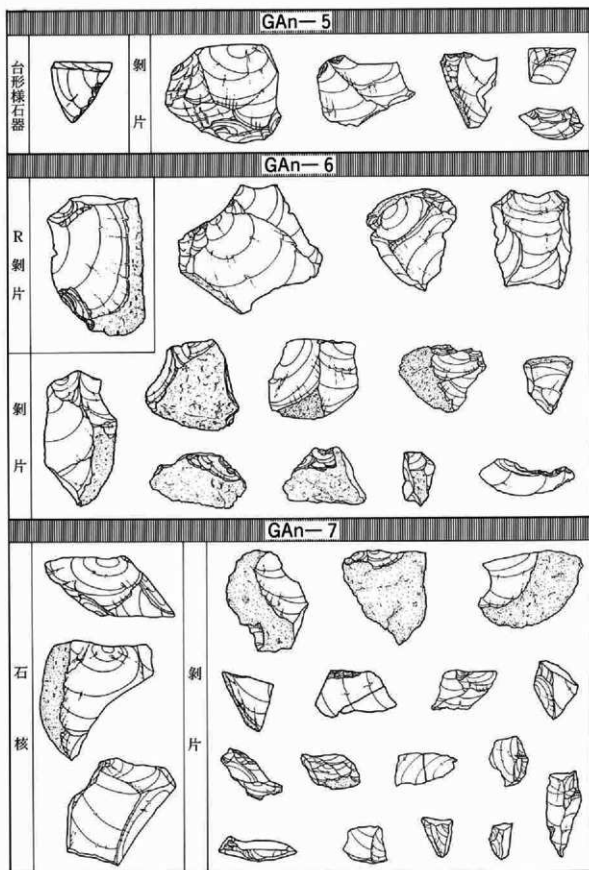
第233图 白倉下原遺跡A区母岩别石器组成图(1)



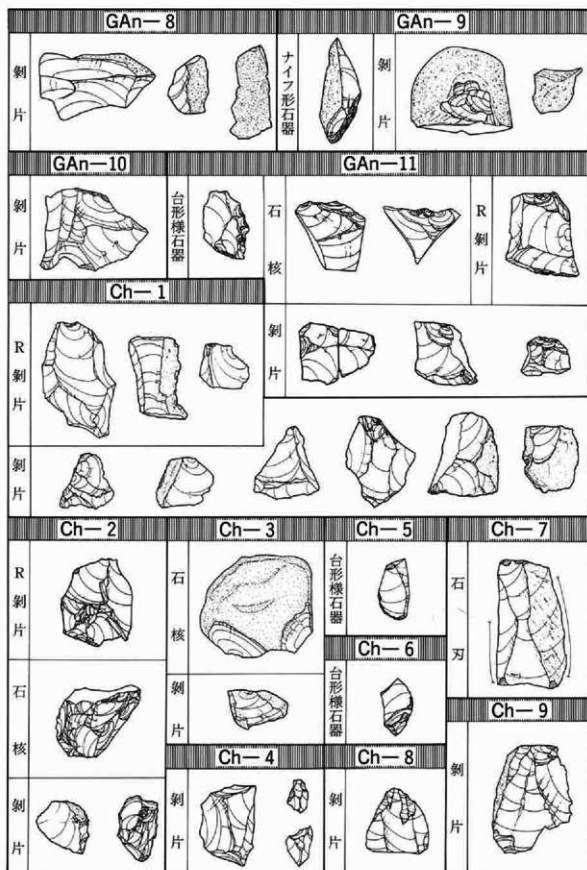
第234図 白倉下原遺跡A区母岩別石器組成図(2)



第235圖 白倉下原遺跡A区母岩別石器組成圖(3)

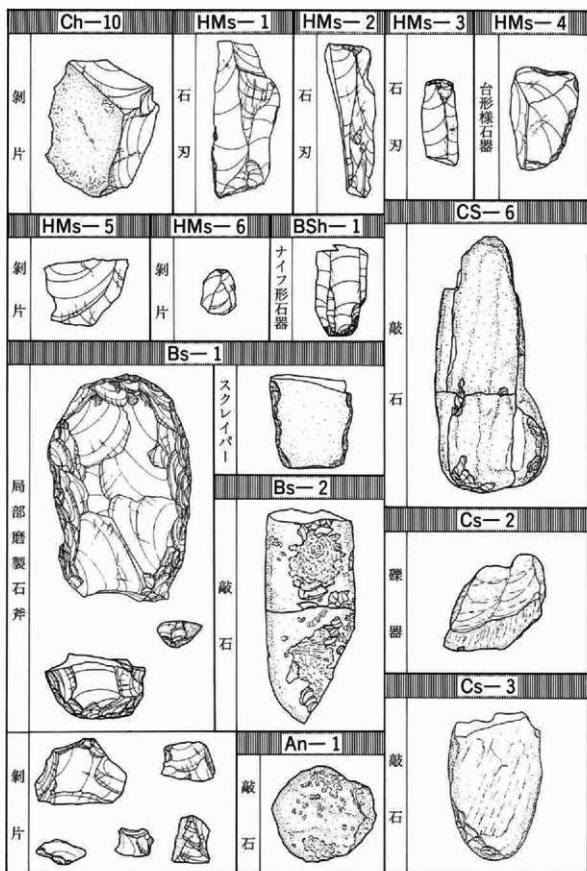


第236圖 白倉下原遺跡A区母岩別石器組成圖(4)

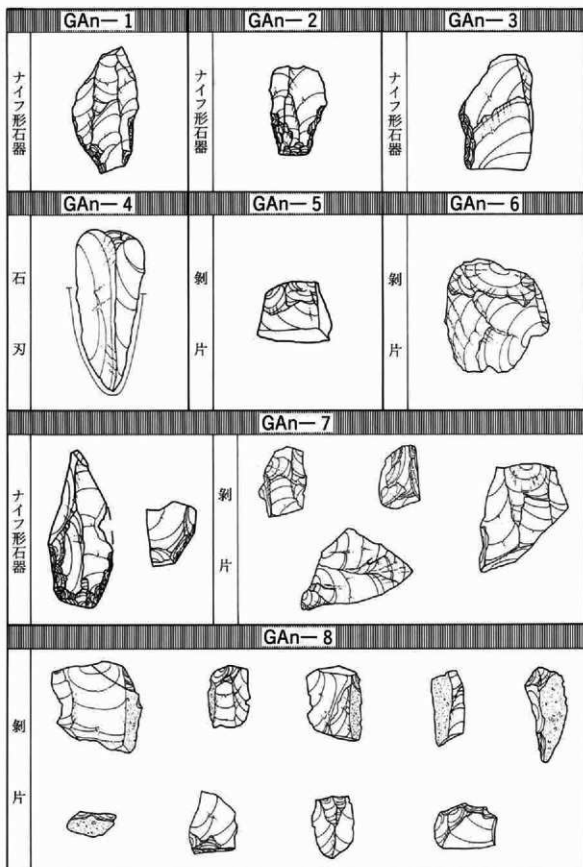


第237図 白倉下原遺跡A区母岩別石器組成図(5)

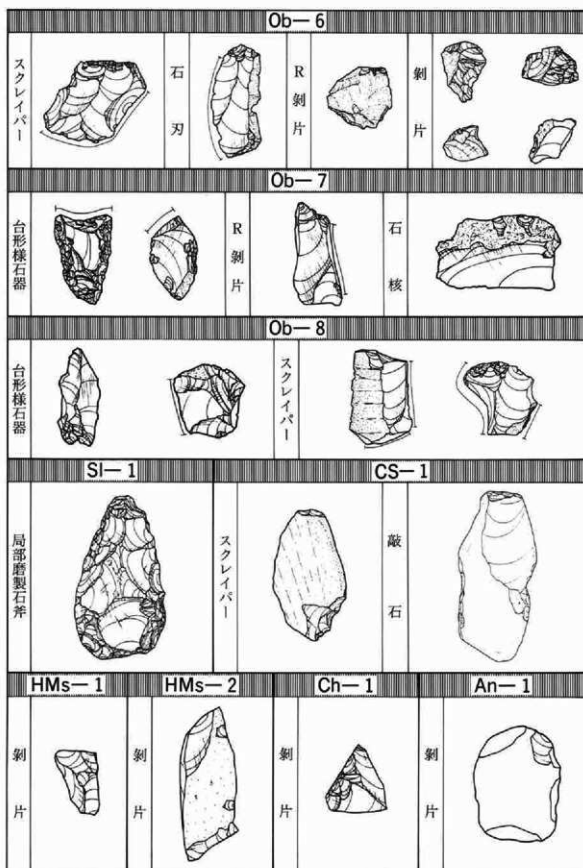
母岩別石器組成図



第238図 白倉下原遺跡A区母岩別石器組成図(6)

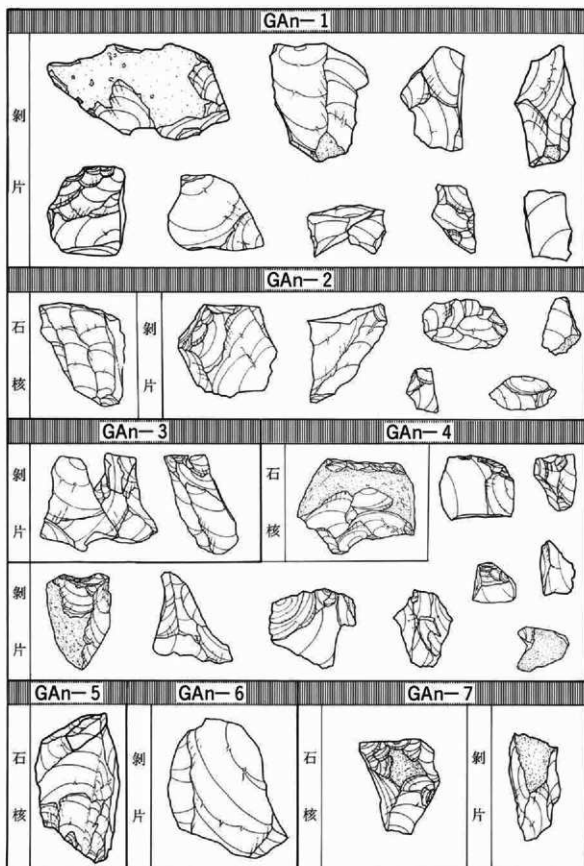


第239図 白倉下原遺跡B区母岩別石器組成図(1)

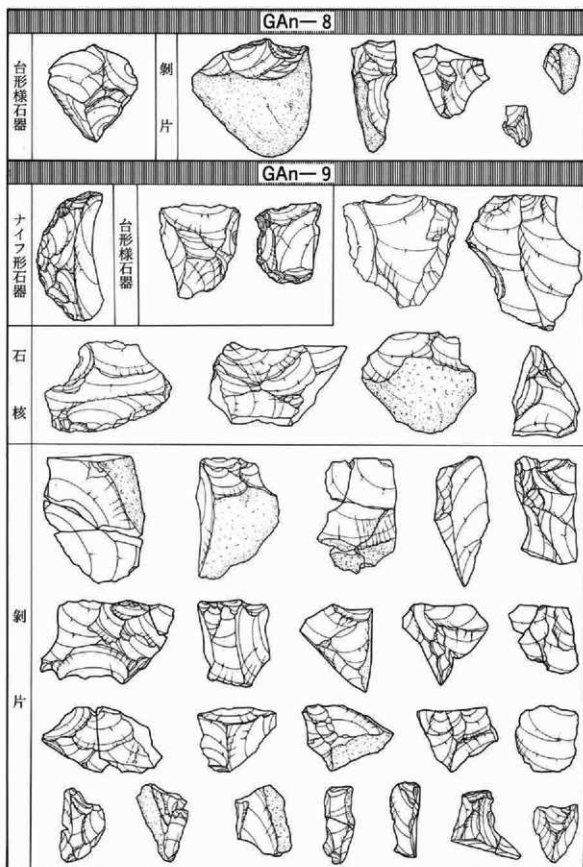


第241図 白倉下原遺跡B区母岩別石器組成図(3)

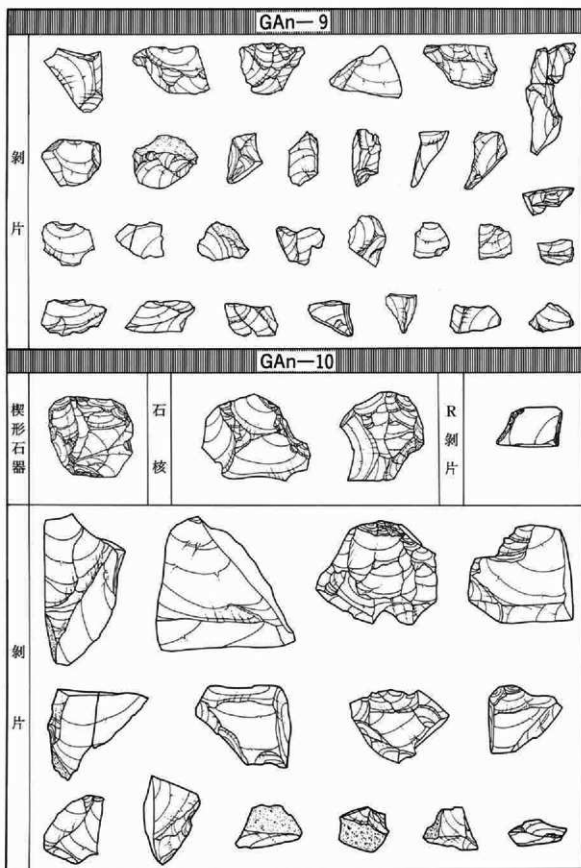
母岩别石器组成图



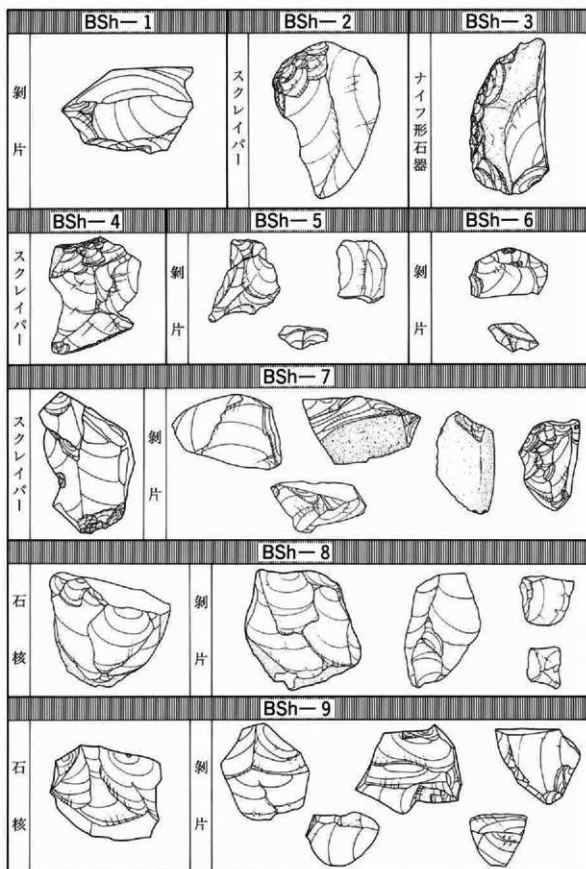
第242图 天引向原道路A区母岩别石器组成图(1)



第243図 天引向原遺跡A区母岩別石器組成図(2)



第244图 天引向原遗址A区母岩别石器组成图(3)



第245図 天引向原遺跡A区母岩別石器組成図(4)

母岩別石器組成図

BSh-10		HSh-1		HSh-2		HSh-3			
石 核		剥 片		剥 片		剥 片			
						ナイフ形石器			
HMS-1		HMs-2		HMs-3		HMs-4		HMs-5	
剥 片		剥 片		剥 片		剥 片		敲 石	
An-1					An-2				
剥 片					石 核		剥 片		
An-4			An-5			GS-1			
石 核		敲 石		敲 石		敲 石			
Ch-1		Ch-2		Ch-3		Ch-4		Ob-1	
石 核		スクレイパー		石 核		石 核		剥 片	

第246図 天引向原遺跡A区母岩別石器組成図(5)

第20表 白倉下原遺跡A区石器一覽表(1)

No.	器	種	折	石	材	母岩No.	個体No.	7/9	接合	X	Y	No.	N	S	E	W	X座標	Y座標	Z座標	長さ	幅	厚さ	重量	採回No.
1	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	15	1	458	436	79.58	79.36	178.99	1.6	1.6	0.2	0.84				
2	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	16	1	490	66	79.90	80.66	179.06	4.4	3.9	0.9	13.78	22-71			
3	璋片	○		黑色安山岩	GAn-5	-	A1	-	15	16	2	440	166	79.40	81.66	179.01	1.4	0.9	0.3	0.36				
4	銅片	○		黑色安山岩	GAn-5	-	A1	-	15	16	3	406	74	79.06	82.74	178.97	4.0	3.0	1.3	8.91	24-90			
5	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	○	15	16	4	494	134	79.94	84.14	179.09	2.0	2.5	0.9	5.59	34-1			
6	銅片	○		チャート	Ch-1	-	A1	○	15	16	5	284	252	77.84	82.52	178.97	3.4	2.8	0.9	10.29	45-1			
7	砥石	○		結晶片岩	CS-1	-	A1	○	15	16	6	494	134	79.94	84.14	178.88	7.9	5.2	2.3	131.83	26-110			
8	銅片	○		結晶片岩	CS-1	-	A1	○	15	16	7	460	131	79.60	81.31	178.91	4.2	2.1	0.9	8.16	28-1			
9	銅片	○		結晶片岩	CS-1	-	A1	○	15	16	8	498	172	79.88	81.72	178.88	8.5	3.5	1.8	31.34	26-110			
10	砥石	○		結晶片岩	CS-1	-	A1	○	15	16	9	484	184	79.84	81.84	178.91	6.8	2.4	1.2	25.67	26-110			
11	銅片	○		黑色安山岩	GAn-1	-	A1	○	15	16	10	495	289	79.95	82.89	178.89	5.8	4.7	1.8	43.71	28-2			
12	銅片	○		黑色安山岩	GAn-1	-	A1	-	15	16	18	110	412	76.10	84.12	178.92	1.2	1.5	0.3	0.51				
13	砥石	○		結晶片岩	CS-1	-	A1	○	15	16	19	496	180	79.96	81.80	178.86	13.0	5.1	2.3	236.30	26-110			
14	砥石	○		結晶片岩	CS-1	-	A1	○	15	16	20	492	170	79.92	81.70	178.85	8.4	3.6	2.5	92.33	26-110			
15	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	16	21	494	488	79.94	84.88	178.77	2.0	2.1	0.5	1.74				
16	銅片	○		黑色安山岩	GAn-2	-	A1	-	15	17	1	454	429	79.54	89.20	178.97	2.6	2.0	1.1	3.81	30-3			
17	石核	○		黑色安山岩	GAn-2	-	A1	○	15	17	2	456	400	79.56	89.00	178.94	3.0	4.1	1.1	10.39	16-40			
18	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	3	486	374	79.86	88.74	179.03	0.9	1.6	0.2	0.30				
19	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	4	440	364	79.40	88.64	178.93	1.3	0.8	0.1	0.16				
20	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	5	440	372	79.40	88.72	179.00	2.8	2.2	1.1	5.72	35-2			
21	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	○	15	17	6	428	394	79.28	88.94	178.91	1.7	3.0	0.6	3.07	36-9			
22	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	○	15	17	7	422	384	79.22	88.84	178.88	3.2	3.7	1.5	19.98	37-2			
23	銅片	○		黑色安山岩	GAn-2	-	A1	○	15	17	8	400	372	79.00	86.82	179.04	2.4	2.6	1.2	8.44	30-6			
24	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	○	15	17	9	404	418	79.04	89.18	179.00	2.5	3.7	0.8	7.08	38-12			
25	璋片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	10	490	366	79.90	88.66	178.94	1.7	0.8	0.4	0.52				
26	璋片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	11	480	286	79.80	87.86	179.66	1.8	0.8	0.2	0.42				
27	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	12	458	270	79.58	87.70	178.88	1.8	2.3	0.7	2.94				
28	台形標石器	○		黑色安山岩	GAn-2	-	A1	○	15	17	13	452	312	79.52	88.12	178.99	1.8	1.2	0.4	1.01	9-7			
29	璋片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	14	442	316	79.42	88.16	178.94	1.2	0.8	0.5	0.56				
30	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	○	15	17	15	340	370	78.40	86.70	178.94	1.5	1.4	1.1	2.35	26-4			
31	銅片	○		黑色安山岩	GAn-2	-	A1	-	15	17	16	280	342	77.80	88.42	178.96	1.8	2.6	0.9	2.88	30-6			
32	銅片	○		黑色安山岩	GAn-2	-	A1	○	15	17	17	224	292	77.24	87.92	178.97	2.9	2.1	0.7	4.83	30-3			
33	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	○	15	17	18	328	308	78.28	88.08	178.93	4.2	4.2	2.0	26.72	38-3			
34	銅片	○		黑色安山岩	GAn-2	-	A1	-	15	17	19	352	360	78.52	88.00	178.95	1.9	1.8	0.4	1.66				
35	璋片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	20	350	294	78.50	87.94	178.94	1.8	1.3	0.4	0.80				
36	璋片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	21	322	274	78.22	87.74	178.96	1.3	1.3	0.7	0.94				
37	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	○	15	17	22	438	252	79.38	87.52	178.93	1.7	2.2	1.2	3.35	35-1			
38	銅片	○		黑色安山岩	GAn-2	-	A1	○	15	17	23	398	236	78.98	87.26	178.98	2.8	1.9	0.9	5.63	30-4			
39	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	○	15	17	24	402	222	79.02	87.22	178.99	3.4	1.6	0.8	4.44	35-3			
40	台形標石器	○		黑色安山岩	GAn-2	-	A1	-	15	17	25	422	224	79.22	87.24	179.09	2.6	1.7	0.5	2.44	9-11			
41	銅片	○		黑色安山岩	GAn-2	-	A1	○	15	17	26	426	214	79.26	87.14	179.03	5.3	2.7	1.1	19.71	30-6			
42	銅片	○		黑色安山岩	GAn-2	-	A1	○	15	17	27	416	178	79.16	86.78	178.99	2.5	0.9	0.4	1.47	30-5			
43	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	○	15	17	28	424	184	79.24	86.84	178.99	2.3	3.8	1.2	11.08	19-49			
44	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	29	392	194	78.92	86.94	179.02	1.9	2.1	0.7	2.40	38-8			
45	璋片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	30	450	134	79.50	86.34	179.08	1.3	0.6	0.3	0.22				
46	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	○	15	17	31	452	126	79.52	86.26	178.99	2.8	2.7	0.8	4.83	38-10			
47	璋片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	32	415	394	79.15	88.94	178.88	1.2	0.7	0.2	0.20				
48	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	○	15	17	33	456	114	79.56	86.14	178.99	4.7	3.0	0.5	11.03	38-7			
49	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	○	15	17	34	498	152	79.98	86.52	178.99	4.5	2.8	1.4	14.94	34-5			
50	璋片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	○	15	17	35	404	40	79.04	85.40	179.00	2.1	1.2	0.4	0.83	35-6			
51	璋片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	36	452	18	79.52	85.18	179.06	2.2	0.9	0.4	0.54				
52	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	○	15	17	37	476	318	79.76	88.18	178.88	1.5	3.4	0.3	1.80	34-3			
53	璋片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	38	438	294	79.38	87.94	178.88	1.3	0.8	0.4	0.40				
54	銅片	○		チャート	Ch-1	-	A1	-	15	17	39	268	2	77.68	85.02	178.95	2.4	2.7	0.6	4.29	45-2			
55	璋片	○		黑色安山岩	GAn-2	-	A1	-	15	17	40	448	380	79.48	88.80	178.87	1.1	1.3	0.1	0.32				
56	璋片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	41	452	380	79.52	88.80	178.87	1.7	1.3	0.3	0.66				
57	石核	○		黑色安山岩	GAn-2	-	A1	○	15	17	42	460	350	79.60	88.50	178.84	6.9	4.3	1.9	57.70	16-41			
58	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	○	15	17	43	450	360	79.50	88.00	178.84	2.3	2.5	0.5	2.69	36-5			
59	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	○	15	17	44	408	230	79.08	87.30	178.96	2.1	1.7	0.5	1.53	36-6			
60	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	46	498	166	79.98	86.66	178.92	1.3	2.0	0.7	1.53				
61	銅片	○		黑色安山岩	GAn-2	-	A1	○	15	17	47	308	252	78.08	87.52	178.83	5.0	3.2	1.1	21.83	31-3			
62	璋片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	48	398	288	78.58	87.98	178.93	1.1	0.7	0.4	0.45				
63	璋片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	51	482	456	79.82	89.56	178.85	1.6	1.3	0.3	0.64				
64	璋片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	52	486	356	79.86	88.56	178.85	1.5	1.0	0.5	0.72				
65	銅片	○		黑色安山岩	GAn-4	-	A1	○	15	17	53	476	336	79.76	88.36	178.78	2.3	2.5	0.5	2.48	36-7			
66	石核	○		黑色安山岩	GAn-2	-	A1	○	15	17	54	470	298	79.70	87.98	178.76	4.2	2.8	1.5	21.50	16-40			

石器一覽表

第21表 白倉下原遺跡A区石器一覽表(2)

No	器種	折石	材	母岩No	個体No	フ ツ テ	組合	X	Y	No	N	S	E	W	X座標	Y座標	Z座標	長さ	幅	厚さ	重量	検出No
71	銅片	○	黒色安山岩	GAn-8	-	A1	-	16	15	4	214	399	82.14	78.99	179.04	3.5	6.3	1.3	19.99	23-81		
72	銅片	○	黒色安山岩	GAn-5	-	A1	-	16	15	6	323	376	83.23	78.76	179.11	3.6	5.5	1.0	14.69	25-108		
73	銅片	○	黒色安山岩	GAn-6	-	A1	○	16	16	1	93	45	80.93	80.45	178.93	2.8	1.5	1.0	4.43	40-1		
74	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	2	45	173	80.45	81.77	179.03	2.0	1.2	0.3	0.89			
75	銅片	○	黒色安山岩	GAn-9	-	A1	-	16	16	3	125	182	81.25	81.82	178.97	2.3	2.5	0.8	4.70	24-94		
76	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	4	140	168	81.40	81.68	179.06	2.0	1.6	0.3	0.48			
77	銅片	○	黒色安山岩	GAn-9	-	A1	-	16	16	5	390	191	83.98	81.91	179.00	2.3	0.8	0.4	0.84	18-148		
78	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	6	198	233	81.98	82.32	178.96	1.5	0.9	0.2	0.30			
79	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	7	144	232	81.44	82.32	179.06	1.5	0.8	0.4	0.84			
80	台形礫石	○	黒色安山岩	GAn-5	-	A1	○	16	16	8	37	263	80.37	82.63	179.07	2.0	1.9	0.3	0.88	9-9		
81	R銅片	○	チャート	Ch-1	-	A1	-	16	16	9	145	304	81.45	83.04	179.14	2.5	2.8	1.2	6.94	25-106		
82	R銅片	○	チャート	Ch-1	-	A1	-	16	16	10	198	312	81.98	83.12	178.99	2.0	2.5	0.6	4.22	12-28		
83	銅片	○	黒色安山岩	GAn-1	-	A1	○	16	16	11	267	346	82.67	83.46	179.11	2.4	2.7	1.1	7.21	29-5		
84	銅片	○	黒色安山岩	GAn-1	-	A1	○	16	16	12	138	372	81.38	83.72	179.12	4.9	4.0	1.3	27.91	29-5		
85	銅片	○	チャート	Ch-1	-	A1	○	16	16	13	122	357	81.22	83.57	179.12	4.7	3.4	1.5	15.89	45-6		
86	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	14	156	396	81.56	83.96	179.09	1.2	1.1	0.4	0.46			
87	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	○	16	16	15	110	417	81.10	84.17	179.03	3.7	2.2	1.0	9.36	38-9		
88	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	17	98	407	80.98	84.07	179.06	1.3	2.8	0.7	2.60	22-80		
89	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	○	16	16	18	100	409	81.00	84.00	179.01	2.7	2.9	0.8	5.49	38-13		
90	銅片	○	チャート	Ch-1	-	A1	-	16	16	19	65	405	80.65	84.05	179.07	3.7	3.3	0.9	8.08	45-6		
91	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4B	A1	○	16	16	20	6	433	80.66	84.33	179.09	3.8	2.2	0.7	5.34	35-8		
92	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	21	76	445	80.76	84.45	179.15	2.5	2.7	0.7	6.76	38-5		
93	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4B	A1	○	16	16	22	138	463	81.38	84.63	179.13	3.4	2.0	0.4	3.74	35-9		
94	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	23	192	455	81.92	84.55	179.07	1.2	0.8	0.4	0.31			
95	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	24	210	446	82.10	84.46	179.07	1.7	0.7	0.3	0.30			
96	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4B	A1	○	16	16	25	284	396	82.84	83.96	179.18	2.6	3.3	1.0	8.04	35-4		
97	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	○	16	16	26	269	463	82.69	84.63	179.12	2.0	3.5	1.1	12.43	38-4		
98	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	27	246	468	82.46	84.68	179.21	2.0	2.7	0.9	4.78	38-4		
99	台形礫石	○	チャート	Ch-5	-	A1	-	16	16	28	339	497	83.59	84.97	179.06	3.2	1.6	0.4	2.82	9-13		
100	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	30	294	499	82.04	84.99	179.09	1.4	1.0	0.3	0.37			
101	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	32	13	240	80.13	82.40	178.99	1.9	0.8	0.4	0.56			
102	銅片	○	黒色安山岩	GAn-8	-	A1	-	16	16	33	360	114	83.60	81.14	179.07	3.1	2.2	0.9	5.52	44-2		
103	銅片	○	黒色安山岩	GAn-6	-	A6	○	16	16	34	484	252	84.84	82.52	179.19	4.8	4.7	1.8	30.14	40-4		
104	銅片	○	黒色安山岩	GAn-6	-	A1	-	16	16	38	24	208	80.24	82.08	178.90	4.7	4.7	1.5	37.78	40-2		
105	銅片	○	チャート	Ch-1	-	A1	○	16	16	39	20	221	80.20	82.21	178.91	4.1	3.2	2.2	27.95	45-3		
106	R銅片	○	チャート	Ch-1	-	A1	-	16	16	40	58	218	80.58	82.18	178.96	4.3	2.6	1.0	13.81	12-26		
107	R銅片	○	チャート	Ch-1	-	A1	-	16	16	41	103	238	81.03	82.38	178.92	6.1	3.8	1.5	21.42	12-27		
108	礫石	○	結晶片岩	CS-1	-	A1	-	16	16	42	100	248	81.00	82.48	178.91	10.4	5.7	2.4	150.50	26-110		
109	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	43	88	286	80.88	82.86	178.92	0.9	1.5	0.3	0.42			
110	銅片	○	黒色安山岩	GAn-5	-	A1	-	16	16	44	78	308	80.78	83.08	178.96	3.7	4.1	1.2	24.41	19-50		
111	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	45	78	321	80.78	83.21	178.89	0.6	0.3	0.1	0.64			
112	銅片	○	黒色安山岩	GAn-1	-	A1	-	16	16	47	128	354	81.28	83.54	178.89	5.5	4.4	2.0	52.90	29-5		
113	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	48	73	450	80.73	84.50	179.07	1.4	1.2	0.4	0.59			
114	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	49	87	463	80.87	84.63	178.97	2.0	2.3	0.8	3.16	38-14		
115	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	50	80	486	80.80	84.86	178.97	1.8	1.6	0.6	1.12			
116	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	51	110	481	81.10	84.81	178.96	0.8	0.5	0.2	0.10			
117	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4B	A1	○	16	16	52	135	476	81.35	84.76	178.94	3.2	3.3	2.0	15.20	35-5		
118	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	53	166	447	81.66	84.47	178.92	0.9	2.0	0.5	0.79			
119	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	○	16	16	54	150	465	81.50	84.05	178.96	2.0	2.7	0.8	4.02	38-5		
120	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	55	193	410	81.93	84.10	179.00	1.2	0.7	0.2	0.19			
121	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	56	175	370	81.75	83.70	178.99	2.4	2.3	0.6	2.41	21-67		
122	銅片	○	黒色安山岩	GAn-1	-	A1	-	16	16	57	185	365	81.85	83.55	178.98	2.3	3.6	1.3	9.71	29-5		
123	礫石	○	結晶片岩	CS-1	-	A1	○	16	16	60	166	250	81.66	82.50	178.92	11.8	8.3	3.3	369.90	26-110		
124	銅片	○	黒色安山岩	GAn-6	-	A1	-	16	16	61	88	103	80.88	81.03	178.87	4.1	4.7	1.6	31.44	19-51		
125	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	62	159	383	81.59	83.93	178.89	1.5	1.9	0.4	0.81			
126	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	16	63	145	416	81.45	84.16	178.89	1.5	1.7	0.3	0.78			
127	銅片	○	黒色安山岩	GAn-6	-	A1	○	16	16	64	217	48	82.17	80.48	179.05	4.9	4.0	1.1	26.40	40-3		
128	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4A	A1	○	16	17	1	122	132	81.22	86.32	179.08	3.7	2.3	0.6	4.96	34-6		
129	ナイフ形石	○	黒色安山岩	GAn-9	-	A1	-	16	17	2	142	214	81.42	87.14	179.14	5.5	1.9	1.1	10.70	8-2		
130	銅片	○	黒色安山岩	GAn-7	GAn-7B	A1	○	16	17	3	140	224	81.40	87.24	179.10	1.2	2.5	0.5	1.24	43-3		
131	銅片	○	黒色安山岩	GAn-7	GAn-7B	A1	○	16	17	4	114	238	81.14	87.38	179.07	1.6	3.8	1.0	5.76	43-5		
132	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4C	A1	○	16	17	5	96	248	80.96	87.48	179.09	1.3	2.0	0.5	1.06	36-5		
133	銅片	○	黒色安山岩	GAn-7	GAn-7B	A1	○	16	17	6	48	247	80.48	87.47	179.07	1.2	3.6	1.2	3.57	43-4		
134	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	7	74	311	80.74	88.11	179.08	2.2	1.2	0.2	0.49			
135	銅片	○	黒色安山岩	GAn-2	-	A1	○	16	17	8	106	322	81.06	88.22	179.09	1.3	1.6	0.5	0.88	20-59		
136	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	9	104	324	81.04	88.24	179.09	0.9	1.4	0.8	0.76			
137	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A5	-	16	17	10	397	454	83.97	89.54	179.25	1.4	0.9	0.2	0.31			
138	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A5	-	16	17	11	330	498	83.30	89.98	179.21	1.6	1.9	0.6	1.30			
139	石槌	○	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4D	A5	○	16	17	12	390	393	83.90	89.83	179.19	5.0	5.9	2.1	79.23	17-45		
140	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A5	-	16	17	13	378	342	83.78	88.42	179.25	2.7	1.3	0.4	2.08	22-74		

第22表 白倉下原遺跡A区石器一覽表(3)

No.	器種	折石	材	母体No	個体No	接合	X	Y	No	N	S	E	X	座標	Y座標	Z座標	長さ	幅	厚さ	重量	押印No.
141	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A5	○	16	17	14	965	326	83.65	88.26	179.22	1.7	1.9	0.3	1.60	29-2	
142	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A5	○	16	17	15	457	320	84.57	88.20	179.18	2.1	3.5	1.0	7.58	39-3	
143	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A5	-	16	17	16	224	462	82.24	89.62	179.21	2.4	0.7	0.5	0.90		
144	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A5	○	16	17	17	223	413	82.23	89.13	179.14	1.4	4.1	0.6	3.61	22-75	
145	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	○	16	17	18	232	360	82.32	88.00	179.12	3.1	1.4	0.7	2.50		
146	銅片	-	才石	Qb-10	-	A1	-	16	17	19	310	132	83.10	86.32	178.99	7.2	6.2	2.5	82.98	18-46	
147	石刀	-	黒色安山岩	GAn-2	-	A1	-	16	17	20	298	162	82.98	86.02	179.20	4.2	1.6	0.7	4.41	12-24	
148	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	21	206	176	83.06	86.76	179.04	1.3	1.4	0.8	0.93		
149	台形樫石器	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	22	177	160	81.77	86.69	179.00	3.2	1.5	0.5	2.37	9-8	
150	銅片	-	黒色安山岩	GAn-2	-	A1	-	16	17	23	208	210	82.08	87.10	179.04	1.2	0.7	0.6	0.37		
151	銅片	-	黒色安山岩	GAn-2	-	A1	-	16	17	24	151	214	81.51	87.14	179.03	1.5	1.5	0.3	0.71		
152	銅片	-	黒色安山岩	GAn-2	-	A1	-	16	17	25	113	226	81.13	87.26	178.99	1.3	2.6	0.9	2.78	31-3	
153	銅片	○	黒色安山岩	GAn-2	GAn-2A	A1	○	16	17	26	66	266	80.66	87.65	179.00	2.3	2.6	0.9	4.34	39-1	
154	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	27	36	306	80.36	88.05	178.96	1.8	0.7	0.2	0.34		
155	銅片	-	黒色安山岩	GAn-2	-	A1	-	16	17	28	24	311	80.24	88.11	178.94	1.3	0.6	0.3	0.29		
156	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	29	40	347	80.40	88.47	179.01	2.8	1.8	0.9	3.15	23-87	
157	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	○	16	17	30	64	413	80.64	89.13	178.99	3.2	3.7	0.7	6.48	39-2	
158	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	31	16	466	80.16	89.66	179.06	2.1	1.2	1.4	4.83		
159	銅片	○	黒色安山岩	GAn-2	-	A1	○	16	17	32	35	391	80.35	88.91	179.03	1.5	2.4	0.5	2.06	20-59	
160	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	33	18	368	80.18	88.68	179.02	2.2	3.0	0.9	5.33	21-63	
161	銅片	-	黒色安山岩	GAn-2	-	A1	-	16	17	34	36	376	80.36	88.76	178.95	1.6	1.5	0.9	3.05		
162	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	35	20	358	80.20	88.58	178.93	1.9	1.6	0.6	1.90		
163	台形樫石器	○	黒色安山岩	GAn-2	GAn-2A	A1	○	16	17	36	0	390	80.00	89.90	179.07	3.2	2.3	0.5	4.91	9-7	
164	石刀	-	黒色安山岩	GAn-2	-	A1	-	16	17	37	44	200	80.44	87.09	178.97	3.9	2.1	0.7	5.50	12-23	
165	台形樫石器	-	黒色安山岩	GAn-2	-	A1	-	16	17	38	14	206	80.14	87.06	178.99	5.9	3.4	1.5	24.15	8-3	
166	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4A	A1	○	16	17	39	19	168	80.19	86.68	179.03	2.1	3.3	1.2	16.23	34-4	
167	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4A	A1	○	16	17	40	21	154	80.21	86.54	178.97	2.0	2.5	0.6	3.12	34-7	
168	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	41	41	230	80.41	87.30	179.02	1.2	1.2	0.4	0.50		
169	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	○	16	17	42	30	95	80.30	85.95	179.06	2.5	1.0	0.5	1.21	38-4	
170	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	43	52	68	80.52	85.68	179.04	4.0	4.0	1.3	27.01	38-2	
171	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	15	17	44	50	64	80.50	85.64	179.04	1.7	1.1	0.2	0.48		
172	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	45	48	68	80.48	85.68	179.04	1.2	0.7	0.2	0.23		
173	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	46	45	74	80.45	85.74	179.03	1.1	1.7	0.5	0.61		
174	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	47	33	66	80.33	85.66	179.09	1.3	1.5	0.8	2.13		
175	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	48	35	60	80.35	85.60	179.07	1.2	1.3	0.8	1.05		
176	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4A	A1	○	16	17	49	102	120	81.02	86.20	179.04	2.6	2.5	0.5	3.05	34-5	
177	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	50	112	102	81.12	86.02	179.13	1.6	2.7	0.9	4.07	24-96	
178	台形樫石器	○	黒色安山岩	GAn-2	GAn-2A	A1	○	16	17	51	68	303	80.68	88.03	178.92	1.9	2.3	0.4	2.13	9-7	
179	銅片	-	黒色安山岩	GAn-2	GAn-4B	A1	○	16	17	52	109	238	81.09	87.38	178.96	4.8	3.9	1.3	22.57	29-6	
180	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4B	A1	○	16	17	53	63	34	80.63	85.34	179.05	2.6	2.1	0.4	3.73	35-10	
181	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4B	A1	○	16	17	54	46	22	80.46	85.22	179.15	2.8	2.8	0.9	7.28	35-7	
182	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	55	88	21	80.88	85.21	178.99	1.0	0.6	0.2	0.12		
183	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	56	94	36	80.94	85.36	178.97	0.9	1.2	0.4	0.37		
184	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4A	A1	○	16	17	57	139	80	81.39	85.80	179.07	3.5	1.5	0.8	4.58	34-6	
185	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	58	144	72	81.44	85.72	179.06	1.8	1.8	0.3	1.91		
186	銅片	-	黒色安山岩	GAn-2	GAn-2A	A1	○	16	17	59	156	73	81.56	85.73	179.14	1.4	1.3	0.4	0.61	29-7	
187	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4B	A1	○	16	17	60	176	42	81.76	85.42	179.19	2.8	3.0	0.7	6.57	35-4	
188	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	61	150	0	81.50	85.00	179.13	1.1	2.2	0.6	1.00		
189	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	62	182	22	81.82	85.22	179.19	1.5	1.8	0.3	0.88		
190	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4B	A1	○	16	17	63	190	33	81.90	85.33	179.20	1.1	2.1	0.8	2.43	35-11	
191	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	○	16	17	64	184	58	81.84	85.58	179.02	3.8	1.9	1.8	10.37	38-1	
192	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	65	210	52	82.10	85.52	179.19	1.1	0.8	0.2	0.20		
193	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	○	16	17	66	238	56	82.38	85.56	179.06	3.9	1.7	0.9	5.34	38-11	
194	石核	-	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4B	A1	○	16	17	67	236	16	82.26	85.16	179.03	4.6	5.2	2.6	54.10	15-39	
195	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	68	14	238	80.14	87.38	178.89	1.9	1.5	0.3	0.98		
196	銅片	-	黒色安山岩	GAn-2	-	A1	-	16	17	69	106	378	81.06	88.78	178.86	2.9	2.0	0.7	4.83	20-54	
197	銅片	○	黒色安山岩	GAn-2	GAn-2A	A1	○	16	17	70	128	325	81.28	88.26	178.91	1.5	2.4	0.8	2.70	30-1	
198	銅片	-	黒色安山岩	GAn-3	-	A1	-	16	17	71	86	336	80.86	88.36	178.86	6.3	4.5	1.3	30.97	31-5	
199	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4D	A1	○	16	17	72	46	312	80.46	88.12	178.84	1.3	2.1	0.4	1.18	37-1	
200	石核	○	黒色安山岩	GAn-2	GAn-2A	A1	○	16	17	73	106	276	81.00	87.76	178.91	4.2	3.5	1.3	16.10	16-40	
201	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	74	21	290	80.21	87.90	178.85	1.3	1.2	0.6	0.80		
202	石核	-	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4C	A1	○	16	17	75	257	309	82.27	87.37	178.81	7.5	4.0	3.0	106.75	15-37	
203	銅片	-	黒色安山岩	GAn-2	-	A1	-	16	17	76	60	228	80.60	87.28	178.92	1.8	3.4	0.6	5.53	19-49	
204	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	77	56	216	80.56	87.16	178.84	1.4	2.1	0.5	1.31		
205	銅片	-	黒色安山岩	GAn-6	-	A1	○	16	17	78	58	148	80.58	86.48	178.90	6.3	7.5	1.0	45.34	39-4	
206	銅片	-	黒色安山岩	GAn-2	-	A1	-	16	17	79	66	88	80.66	85.88	178.96	2.7	2.1	0.8	3.30	20-58	
207	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	○	16	17	80	89	70	80.89	85.70	178.89	1.3	3.0	0.9	3.82	38-4	
208	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	GAn-4C	A1	○	16	17	81	94	18	80.94	85.18	178.90	2.5	2.0	0.4	2.03	36-8	
209	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A1	-	16	17	82	160	218	81.60	87.18	178.97	1.0	1.0	0.2	0.26		
210	銅片	○	黒色安山岩	GAn-2	-	A1	-	16	17	83	212	230	82.12	87.30	178.97	2.0	1.3	0.5	1.23		

石器一覽表

第23表 白倉下原遺跡A区石器一覽表(4)

No	器 種	折 石 材	母岩No	個体No	ブ ラ ッ ク	台 台 X Y	No	N	E	S	W	X座標	Y座標	Z座標	長さ	幅	高さ	重量	押印No
211	台形礫石	○ 硬質泥岩	HMs-1	—	A3塊	—	16	17	87	473	41	84.73	85.41	179.05	5.4	3.6	1.6	21.00	8-4
212	石核	— 黒色安山岩	GAn-4	GAAn-4A	A1	○	16	17	90	58	118	80.58	86.18	178.86	4.3	6.6	2.7	65.61	14-36
213	石形刃部片	— 安山玄武岩	Bs-1	—	A5	—	16	17	93	465	322	84.65	88.22	179.07	1.5	2.4	0.7	2.21	9-14
214	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	GAAn-4C	A1	○	16	17	94	28	342	80.28	88.42	178.73	1.8	2.5	1.2	6.06	36-3
215	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A1	—	16	17	95	88	326	80.88	88.26	178.77	1.2	1.4	0.3	0.57	—
216	刮片	— 黒色安山岩	GAn-2	—	A1	—	16	17	96	106	236	81.06	87.36	178.78	2.7	1.8	0.5	2.28	22-79
217	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A1	—	16	17	97	116	65	81.16	85.66	178.85	1.3	0.7	0.6	0.44	—
218	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	GAAn-4B	A1	○	16	17	98	134	48	81.34	85.48	178.81	2.1	5.1	2.1	35.72	36-1
219	刮片	○ 黒色安山岩	HMs-4	—	A1	○	16	17	99	51	276	80.51	87.76	178.72	1.9	1.3	0.3	1.11	31-1
220	石刃	— 硬質泥岩	HMs-1	—	A5	—	16	18	1	340	77	83.40	90.77	179.15	12.4	5.2	2.2	135.96	11-19
221	刮片	— 黒色安山岩	GAn-5	—	A5	—	16	18	3	369	137	83.69	91.37	179.22	1.6	0.8	0.2	0.36	—
222	台石	— 安山岩	A5	—	A5	—	16	18	4	474	77	84.74	90.77	179.01	12.5	14.5	9.8	2330.00	27-115
223	刮片	— 黒色安山岩	GAn-1	—	A2	○	17	14	6	328	366	88.28	73.66	178.94	4.5	3.6	2.1	23.95	29-1
224	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A2	—	17	14	8	320	440	88.20	74.40	178.84	1.3	0.7	0.3	0.20	—
225	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A2	—	17	14	9	354	441	88.64	74.40	178.77	0.7	0.7	0.1	0.89	—
226	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A2	—	17	14	10	326	466	88.28	74.66	178.78	1.6	0.8	0.5	0.56	—
227	刮片	— 黒色安山岩	GAn-1	—	A2	○	17	14	11	320	470	88.20	74.70	178.78	1.8	2.7	0.8	3.34	20-57
228	刮片	— 黒色安山岩	GAn-1	—	A2	○	17	14	12	446	467	87.76	74.86	178.81	4.6	3.3	1.0	13.68	28-4
229	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A2	—	17	14	13	444	450	89.44	74.50	178.75	1.6	1.1	0.4	0.60	—
230	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A2	—	17	14	14	338	409	88.38	74.90	178.76	0.5	0.3	0.1	0.01	—
231	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A2	—	17	14	15	336	496	88.36	74.96	180.00	0.8	0.8	0.2	0.20	—
232	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A2	—	17	14	16	334	450	88.34	74.50	178.77	1.5	0.7	0.3	0.42	—
233	刮片	— 黒色安山岩	GAn-5	—	A2	—	17	15	1	102	412	86.02	79.12	178.92	4.8	6.1	1.2	33.08	18-47
234	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A2	—	17	15	2	246	436	87.46	79.36	179.09	1.0	1.0	0.4	0.39	—
235	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A2	—	17	15	3	250	368	87.50	78.68	179.03	1.5	0.8	0.1	0.13	—
236	刮片	○ 黒色安山岩	GAn-1	—	A2	○	17	15	4	300	346	88.00	78.46	178.95	4.1	1.9	1.0	9.20	28-3
237	刮片	— 黒色安山岩	GAn-7	—	A2	○	17	15	5	350	360	88.50	78.60	178.92	2.0	2.7	0.5	4.14	24-92
238	刮片	○ 黒色安山岩	GAn-1	—	A2	○	17	15	6	330	274	88.30	77.74	178.85	2.1	3.5	0.5	3.44	28-3
239	刮片	— 黒色安山岩	GAn-3	—	A2	○	17	15	7	356	236	88.56	77.36	178.85	5.9	3.4	1.3	27.05	21-62
240	刮片	○ 黒色安山岩	GAn-1	—	A2	○	17	15	8	278	256	87.78	77.56	178.96	3.1	3.4	1.1	7.81	29-2
241	刮片	— 黒色安山岩	GAn-7	—	A2	○	17	15	9	280	234	87.60	73.34	178.94	2.5	2.0	0.6	2.28	23-89
242	刮片	— 黒色安山岩	GAn-7	—	A2	—	17	15	10	264	226	87.64	77.26	179.04	1.7	1.3	0.4	0.88	—
243	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A2	—	17	15	11	260	220	87.60	72.20	179.04	1.3	0.6	0.2	0.18	—
244	刮片	— 黒色安山岩	GAn-1	—	A2	○	17	15	12	292	206	87.92	77.06	178.96	4.4	2.6	1.0	13.89	29-4
245	刮片	— 黒色安山岩	GAn-3	—	A2	—	17	15	13	314	202	88.14	77.02	178.88	6.0	4.0	1.2	22.69	21-64
246	石核	— チャート	Ch-2	—	A2	○	17	15	14	352	160	88.52	76.60	179.02	4.1	3.5	2.7	38.61	14-35
247	刮片	○ 黒色安山岩	GAn-3	—	A2	○	17	15	15	358	128	88.58	76.28	178.90	6.0	4.7	1.2	41.83	21-62
248	刮片	— 黒色安山岩	GAn-3	—	A2	○	17	15	16	352	120	88.52	76.20	178.90	1.6	1.3	0.3	0.74	21-62
249	スプレイバー	○ 黒色安山岩	GAn-3	—	A2	○	17	15	18	324	136	88.24	76.36	178.86	5.1	7.1	1.1	35.36	10-17
250	刮片	○ 黒色安山岩	GAn-1	—	A2	○	17	15	19	272	84	87.72	75.84	178.80	2.9	1.6	0.7	3.46	22-72
251	刮片	— 黒色安山岩	GAn-1	—	A2	○	17	15	20	254	74	87.54	75.74	178.78	1.5	2.1	0.6	1.79	20-55
252	刮片	— チャート	Ch-2	—	A2	○	17	15	22	204	170	87.04	76.70	178.84	3.3	2.0	0.9	4.96	46-2
253	刮片	○ 黒色安山岩	GAn-1	—	A2	○	17	15	23	250	10	87.50	75.10	178.83	1.7	1.9	0.4	1.35	28-5
254	刮片	○ 黒色安山岩	GAn-1	—	A2	—	17	15	24	278	56	87.78	75.96	178.83	3.3	2.0	1.0	5.67	20-56
255	刮片	— 黒色安山岩	GAn-1	—	A2	—	17	15	25	268	70	87.68	75.70	178.79	1.5	3.4	0.8	2.27	20-61
256	刮片	○ 黒色安山岩	GAn-1	—	A2	—	17	15	26	312	1	88.12	75.01	178.86	2.6	2.3	0.6	3.61	20-55
257	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A2	—	17	15	27	326	4	88.26	75.04	178.97	0.5	0.3	0.2	0.05	—
258	刮片	— 黒色安山岩	GAn-1	—	A2	—	17	15	28	350	44	88.50	75.44	178.80	1.9	1.3	0.7	1.45	—
259	刮片	— 黒色安山岩	GAn-1	—	A2	—	17	15	29	290	444	87.90	79.44	178.88	4.9	7.1	1.2	37.56	28-6
260	刮片	— 黒色安山岩	GAn-2	—	A3塊	○	17	15	30	20	10	85.20	75.10	178.97	3.0	2.8	1.2	6.24	22-73
261	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A2	—	17	15	31	303	8	88.03	75.08	178.86	0.7	0.3	0.2	0.24	—
262	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A6	—	17	16	1	464	163	89.64	81.63	179.21	1.5	1.7	0.5	1.22	—
263	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A6	—	17	16	2	448	170	89.48	81.70	179.19	1.9	1.6	0.5	2.20	—
264	R刮片	— 黒色安山岩	GAn-6	—	A6	—	17	16	3	460	174	89.60	81.74	179.13	7.3	4.9	1.9	98.86	13-31
265	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A6	—	17	16	4	456	184	89.56	81.84	179.18	1.2	0.8	0.4	0.31	—
266	刮片	○ 黒色安山岩	GAn-4	—	A6	—	17	16	5	474	184	89.74	81.84	179.22	3.4	2.5	0.6	5.29	21-65
267	刮片	— 黒色安山岩	GAn-6	—	A6	—	17	16	8	448	244	89.48	82.44	179.13	2.9	4.9	1.4	16.05	23-82
268	R刮片	— チャート	Ch-2	—	A6	—	17	16	9	460	262	89.60	82.62	179.25	3.5	2.9	1.4	9.62	12-25
269	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A6	—	17	16	10	464	270	89.64	82.70	179.22	2.4	1.6	0.8	3.51	22-78
270	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A6	—	17	16	11	480	310	89.80	83.10	179.17	1.8	1.0	0.3	0.49	—
271	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A6	—	17	16	12	460	304	89.60	83.04	179.12	2.1	1.0	0.3	0.50	—
272	台形礫石	○ 黒色安山岩	GAn-4	—	A6	—	17	16	13	442	308	89.42	83.08	179.28	1.6	1.7	0.7	2.03	9-10
273	石核	— 黒色安山岩	GAn-4	GAAn-4E	A6	○	17	16	14	468	276	89.68	82.76	179.28	3.2	3.3	1.4	16.19	13-32
274	刮片	— 黒色安山岩	GAn-3	—	A6	—	17	16	15	374	444	88.74	84.44	179.10	7.5	5.7	1.5	44.08	31-4
275	刮片	— 黒色安山岩	GAn-6	—	A6	—	17	16	16	316	364	88.16	83.64	179.13	2.8	2.6	0.9	8.27	39-6
276	刮片	— チャート	Ch-2	—	A6	—	17	16	17	348	326	88.48	83.26	179.21	2.3	2.9	0.8	5.76	46-1
277	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A6	—	17	16	18	292	308	87.92	83.08	179.17	1.8	1.0	0.3	0.58	—
278	R刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A6	—	17	16	19	318	282	88.18	82.52	179.12	2.3	1.8	0.8	4.18	13-29
279	刮片	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A6	—	17	16	20	290	240	87.90	82.40	179.15	2.1	1.0	0.7	1.90	—
280	台形礫石	— チャート	Ch-6	—	A6	—	17	16	21	272	248	87.72	82.48	179.16	3.0	1.5	0.4	2.10	9-12

第24表 白倉下原遺跡A区石器一覽表(5)

No	器種	折石	材	母岩No	個体No	フツ	組合	X	Y	No	N-S-E-W	X座標	Y座標	Z座標	長さ	幅	厚さ	重量	押印No
281	刮片	○	黒色安山岩	GAn5	-	A6	-	17	16	22	262	256	87.62	82.56	179.11	1.5	3.1	0.3	2.21 24-97
282	刮片	○	黒色安山岩	GAn5	-	A6	○	17	16	24	250	206	87.90	82.06	179.05	3.0	4.2	0.9	12.02 39-1
283	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	GAn4E	A6	○	17	16	25	320	180	88.20	81.80	179.14	2.3	1.8	0.5	1.90 37-6
284	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A6	-	17	16	26	304	174	88.04	81.74	179.19	1.3	1.9	0.6	1.57
285	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	GAn4E	A6	○	17	16	28	260	174	87.60	81.74	179.18	2.4	1.9	0.8	3.04 37-5
286	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A6	-	17	16	30	182	168	86.82	81.68	179.20	4.7	2.4	0.9	1.61
287	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A6	○	17	16	31	208	258	87.08	82.58	179.08	1.8	2.5	0.7	3.55 21-66
288	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A6	○	17	16	32	196	268	86.96	82.68	179.15	1.5	1.7	0.4	0.93 21-66
289	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A6	○	17	16	33	174	256	86.74	82.56	179.03	1.3	2.3	0.7	2.20 21-66
290	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A6	-	17	15	34	158	236	86.58	82.36	179.05	2.0	2.3	0.4	2.25
291	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A6	-	17	16	35	144	424	86.44	84.24	179.24	1.0	2.4	0.5	1.52
292	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A6	-	17	16	37	122	376	86.22	83.78	179.24	1.5	0.8	0.2	0.22
293	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A6	-	17	16	38	64	336	85.64	83.36	179.15	2.2	1.3	0.5	1.00
294	礫石	-	結晶片岩	CS-3	-	A6	-	17	16	39	220	136	87.20	81.96	178.95	15.3	9.9	3.2	601.90 25-111
295	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A6	-	17	16	40	116	328	85.16	83.28	179.16	2.0	2.1	0.4	1.59
296	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A6	-	17	16	41	29	416	85.20	84.18	179.24	0.3	0.2	0.1	0.01
297	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A6	-	17	16	42	455	188	89.55	81.68	179.13	2.0	1.0	0.4	1.01
298	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A6	-	17	16	43	447	187	89.47	81.87	179.18	0.9	0.6	0.3	0.11
299	局部磨製石斧	-	安玄武岩	Be-1	-	A5	○	17	17	1	264	664	87.64	89.64	179.37	3.4	5.1	1.0	26.90 9-15
300	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	-	A5	○	17	17	2	276	658	87.76	89.58	179.38	4.8	4.3	1.2	26.41 41-2
301	石核	○	黒色安山岩	GAn7	GAn7B	A5	○	17	17	3	252	446	87.52	89.45	179.21	6.0	5.8	1.5	48.79 17-44
302	石核	○	黒色安山岩	GAn7	GAn7C	A5	○	17	17	4	240	624	87.40	89.24	179.25	3.8	5.9	1.2	46.76 17-43
303	白色礫石	○	黒色安山岩	GAn4	-	A5	-	17	17	5	230	398	87.30	88.98	179.23	3.0	3.1	1.2	10.70 8-5
304	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	-	A5	○	17	17	6	254	270	87.54	87.70	179.32	2.4	1.8	1.3	8.55 41-1
305	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A5	-	17	17	7	234	372	87.34	88.72	179.27	1.5	1.3	0.5	1.04
306	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	-	A5	○	17	17	8	240	340	87.40	88.40	179.27	1.3	1.6	0.6	1.08 24-99
307	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	-	A5	○	17	17	9	236	296	87.36	87.96	179.38	4.4	1.6	1.1	7.13 41-4
308	石刀	○	礫質刮片	HM2-1	-	A5	-	17	17	11	138	302	86.38	88.02	179.25	8.1	2.3	1.4	31.21 12-22
309	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	GAn7A	A5	○	17	17	12	222	418	87.22	89.18	179.19	2.6	3.1	0.8	5.51 42-1
310	礫石	-	安玄武岩	Be-2	-	A5	○	17	17	13	152	374	86.52	88.74	179.12	9.3	7.0	3.8	295.50 29-112
311	礫石	-	安玄武岩	Be-2	-	A5	○	17	17	14	12	298	85.12	87.98	179.07	7.7	7.1	3.8	362.30 29-112
312	礫石	-	結晶片岩	CS-2	-	A5	-	17	17	15	62	432	85.62	89.32	179.10	6.5	7.3	3.0	195.54 25-109
313	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	GAn7B	A5	○	17	17	16	40	330	85.40	88.30	179.21	1.2	1.9	0.3	0.75 43-2
314	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A5	○	17	17	17	1	166	85.08	86.66	179.24	2.4	3.1	0.5	2.73 22-73
315	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A5	○	17	17	18	26	184	85.26	86.84	179.14	7.2	4.8	2.5	62.52 38-1
316	刮片	○	チャート	Ch-8	-	A5	-	17	17	19	68	190	85.68	86.90	179.24	3.5	3.2	0.5	6.60 24-91
317	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A5	-	17	17	21	90	298	85.90	87.88	179.29	1.5	1.5	0.5	0.90
318	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	-	A5	-	17	17	22	336	450	88.36	89.50	179.37	1.0	0.7	0.1	0.09
319	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A5	-	17	17	23	342	432	88.42	89.32	179.35	4.8	3.1	1.5	19.51 38-6
320	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	-	A5	-	17	17	24	326	408	88.26	89.08	179.32	0.9	2.4	0.5	1.12
321	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	-	A5	-	17	17	26	350	360	88.50	88.60	179.25	5.3	4.2	1.4	26.65 41-3
322	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	-	A5	-	17	17	27	372	374	88.72	88.74	179.38	1.0	1.2	0.3	0.43
323	石核	-	チャート	Ch-3	-	A5	○	17	17	28	404	366	89.04	88.66	179.26	5.5	5.9	2.5	101.36 16-42
324	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	-	A5	-	17	17	29	438	370	89.38	88.70	179.29	1.9	0.9	0.3	0.58
325	刮片	○	黒色安山岩	GAn6	-	A5	-	17	17	30	438	298	89.38	87.98	179.28	3.6	3.9	0.9	11.66 23-86
326	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	GAn4A	A5	○	17	17	31	352	300	88.52	88.00	179.31	2.5	2.0	0.6	4.24 34-2
327	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	GAn7C	A5	○	17	17	32	324	306	88.24	88.06	179.24	2.8	2.5	1.0	5.80 43-9
328	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	不明	-	17	17	33	490	190	89.90	86.90	179.36	3.5	1.5	0.7	1.90 23-83
329	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A5	-	17	17	34	306	488	88.06	89.88	179.18	0.9	0.5	0.3	0.23
330	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A5	-	17	17	35	288	460	87.88	89.80	179.25	2.2	2.5	0.4	1.84 22-76
331	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	-	A5	-	17	17	36	274	460	87.74	89.60	179.28	1.1	1.7	0.3	0.79
332	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A5	-	17	17	37	262	500	87.62	90.00	179.12	1.8	0.8	0.3	0.37
333	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A5	-	17	17	38	222	420	87.22	89.20	179.19	1.3	0.6	0.2	0.17
334	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	-	A5	-	17	17	39	410	324	89.10	88.24	179.22	4.9	3.9	1.4	28.77 19-52
335	刮片	○	チャート	Ch-3	-	A5	○	17	17	40	412	464	89.12	89.64	179.20	2.2	2.9	1.1	5.33 46-4
336	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A5	○	17	17	41	456	464	89.56	89.64	179.25	2.2	1.3	1.1	3.36 38-6
337	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	GAn7A	A5	○	17	17	42	264	450	87.64	89.50	179.21	1.2	2.6	0.6	1.27 42-1
338	刮片	○	安玄武岩	Be-1	-	A5	○	17	18	1	412	124	89.12	91.24	179.29	3.5	4.8	0.8	19.07 47-5
339	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	GAn7C	A5	○	17	18	2	344	18	88.44	90.18	179.28	1.9	1.7	0.7	2.79 43-8
340	刮片	○	安玄武岩	Be-1	-	A5	○	17	18	3	346	30	88.46	90.30	179.28	2.5	1.9	0.8	3.69 47-6
341	刮片	○	安玄武岩	Be-1	-	A5	○	17	18	4	298	32	87.98	90.32	179.30	1.2	1.2	0.5	0.72 47-3
342	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	GAn7B	A5	○	17	18	5	328	78	88.28	90.78	179.33	2.2	2.0	0.9	4.31 43-1
343	刮片	○	安玄武岩	Be-1	-	A5	○	17	18	6	340	98	88.40	90.58	179.39	1.4	1.9	0.6	1.85 24-98
344	刮片	○	安玄武岩	Be-1	-	A5	○	17	18	7	366	118	88.66	91.18	179.29	1.5	1.4	0.6	1.35 47-2
345	刮片	○	安玄武岩	Be-1	-	A5	○	17	18	8	334	134	88.34	91.34	179.37	1.4	1.9	0.3	0.88 24-103
346	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	GAn7C	A5	○	17	18	9	302	78	88.02	90.78	179.34	1.1	1.9	0.6	1.80 43-7
347	刮片	○	安玄武岩	Be-1	-	A5	○	17	18	10	302	90	88.02	90.90	179.28	1.2	2.3	0.5	1.71 24-100
348	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A5	-	17	18	11	248	6	87.48	90.06	179.31	1.8	1.0	0.7	1.26
349	刮片	○	黒色安山岩	GAn7	-	A5	-	17	18	12	190	10	86.90	90.10	179.28	2.0	2.4	0.5	2.74 23-85
350	刮片	○	黒色安山岩	GAn4	-	A5	-	17	18	13	190	40	86.90	90.40	179.35	1.7	0.9	0.4	0.44

石器一覧表

第25表 白倉下原遺跡A区石器一覧表(6)

No	器種	折石	材	母体No	個体No	ブ ラ ッ	接合	X	Y	No	N	E	W	X座標	Y座標	Z座標	長さ	幅	厚さ	重量	押込No
331	銅片	○	黒色安山岩	GAn-7	-	A5	○	17	18	14	122	14	86.22	90.14	179.31	1.4	1.5	0.7	2.61	24-99	
332	ステンライバー	-	安山武岩	Be-1	-	A3	○	17	18	15	284	418	87.84	94.18	179.25	4.9	4.0	1.0	27.23	10-18	
333	銅片	○	黒色安山岩	GAn-5	-	A5	-	17	18	16	170	170	86.70	91.70	179.15	1.7	2.4	0.6	4.28	24-95	
334	砂片	○	黒色安山岩	GAn-7	-	A5	-	17	18	18	328	28	88.28	90.28	179.15	1.4	0.9	0.3	0.53		
335	銅片	-	安山武岩	Be-1	-	A5	○	17	18	19	318	2	88.18	90.02	179.24	2.2	2.7	0.8	6.30	47-4	
336	銅片	-	チャート	Ch-9	-	A3	○	17	19	1	156	34	86.56	95.34	179.27	5.5	4.1	1.1	24.26	25-104	
337	砂片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A3	-	18	15	1	270	487	92.70	79.87	179.10	1.3	1.7	0.4	1.01		
338	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4	-	A3	-	18	15	3	226	464	92.26	79.64	179.14	1.9	3.1	0.6	3.66	22-77	
339	石核	○	黒色安山岩	GAn-11	-	A3	-	18	15	4	215	450	92.15	79.50	179.12	3.5	3.5	1.3	9.95	14-33	
360	銅片	-	黒色安山岩	GAn-11	-	A3	-	18	15	5	206	429	92.06	79.29	179.06	2.1	2.4	0.7	3.96	24-93	
361	石刀	○	硬質泥岩	HMs-3	-	A3	-	18	15	6	233	424	92.33	79.24	179.03	4.5	1.9	0.6	6.74	11-20	
362	銅片	-	黒色安山岩	GAn-11	-	A3	○	18	15	7	353	463	93.53	79.63	179.12	3.1	3.0	1.0	11.76	44-3	
363	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A3	-	18	15	9	236	109	92.36	76.09	179.06	2.3	1.8	0.7	2.82	21-88	
364	銅片	○	硬質泥岩	HMs-6	-	A3	-	18	15	10	304	110	93.64	76.10	179.06	1.9	2.3	0.7	3.30	24-101	
365	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A3	-	18	15	11	239	271	92.39	77.71	178.97	4.5	2.9	0.9	11.06	22-69	
366	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A3	-	18	15	12	245	273	92.45	77.73	178.96	1.4	1.1	0.5	0.74		
367	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4E	A3	○	18	15	13	245	295	92.46	77.95	178.98	2.0	2.0	0.4	1.95	37-6		
368	銅片	○	黒色安山岩	GAn-11	-	A3	○	18	15	14	284	331	92.84	78.31	179.61	2.9	2.2	1.1	8.33	44-6	
369	石核	○	黒色安山岩	GAn-11	-	A3	-	18	15	15	328	385	93.28	78.85	179.06	3.5	3.8	1.1	15.33	14-34	
370	台形標石	○	黒色安山岩	GAn-11	-	A3	○	18	15	16	318	467	93.18	79.07	179.04	3.6	2.3	0.7	5.89	9-6	
371	石石	-	結晶片岩	-	-	A3	-	18	15	17	244	490	92.44	79.90	178.93	20.7	12.5	7.5	2710.00	27-114	
372	砂片	-	チャート	Ch-7	-	A3	-	18	15	18	291	323	92.91	78.23	179.01	1.4	0.5	0.4	0.29		
373	石刀	-	チャート	Ch-7	-	A3	-	18	16	1	216	173	92.16	81.73	179.07	6.8	3.7	1.2	31.75	11-21	
374	銅片	○	黒色安山岩	GAn-11	-	A3	○	18	16	2	178	80	91.78	80.80	179.16	2.4	1.9	0.8	4.51	44-6	
375	石核	○	黒色安山岩	GAn-4E	A6	○	18	16	3	16	146	90.16	81.46	179.18	4.0	2.8	1.4	14.27	13-32		
376	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A6	-	18	16	4	56	229	90.56	82.29	179.25	2.1	1.1	0.3	0.92		
377	砂片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A6	-	18	16	5	18	228	90.18	82.28	179.17	1.8	1.0	0.2	0.50		
378	砂片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A6	-	18	16	6	34	248	90.34	82.48	179.14	1.8	0.9	0.4	0.70		
379	砂片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A6	-	18	16	7	14	278	90.14	82.78	179.24	0.9	0.6	0.4	0.19		
380	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A4	○	18	16	8	287	399	92.87	83.99	179.18	6.2	3.8	2.1	53.11	39-5	
381	砂片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A3	-	18	16	10	269	49	91.28	80.49	179.13	1.4	0.7	0.3	0.32		
382	銅片	○	黒色安山岩	GAn-4E	A6	○	18	16	12	7	60	90.07	80.60	179.17	1.6	1.9	0.6	2.24	37-4		
383	砂片	-	安山武岩	Be-1	-	A3	-	18	16	13	279	45	92.79	80.45	179.61	1.2	0.7	0.1	0.13		
384	銅片	-	黒色安山岩	GAn-6	-	A3	-	18	16	14	176	44	91.76	80.44	179.13	1.5	4.9	0.9	5.03	23-88	
385	砂片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A3	-	18	16	15	329	19	93.29	80.10	178.97	2.0	1.0	0.6	1.10		
386	礫石	-	安山岩	An-1	-	A4	-	18	17	1	176	328	91.76	88.28	179.31	7.3	8.1	7.0	476.70	26-113	
387	砂片	-	黒色安山岩	GAn-7	-	A4	-	18	17	2	179	292	91.79	87.97	179.44	1.0	1.6	0.2	0.45		
388	銅片	-	チャート	Ch-4	-	A4	-	18	17	3	122	289	91.22	87.89	179.39	4.3	2.7	0.7	10.50	25-105	
389	銅片	-	チャート	Ch-4	-	A4	-	18	17	4	118	259	91.18	87.59	179.37	2.2	1.3	0.3	0.67	22-70	
390	砂片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A4	-	18	17	5	170	202	91.70	87.02	179.47	1.6	1.0	0.3	0.40		
391	黒曜岩製石斧	-	安山武岩	Be-1	-	A4	○	18	17	6	158	186	91.58	86.86	179.25	11.8	7.1	3.1	334.40	10-16	
392	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A4	-	18	17	7	294	56	92.94	85.56	179.42	1.3	2.1	0.9	3.17		
393	砂片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A4	-	18	17	8	300	46	93.00	85.46	179.42	1.6	0.7	0.2	0.21		
394	砂片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A4	-	18	17	9	281	162	92.81	86.02	179.27	2.0	0.7	0.5	0.66		
395	砂片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A4	-	18	17	10	316	92	93.16	85.92	179.49	1.5	1.2	0.3	0.57		
396	砂片	-	黒色安山岩	GAn-2	-	A4	-	18	17	11	333	93	93.33	85.93	179.38	1.7	0.9	0.8	1.49		
397	銅片	-	黒色安山岩	GAn-4	-	A4	-	18	17	12	448	74	94.48	85.74	179.30	1.3	2.3	0.5	2.24		
398	ナイフ形石鏝	-	黒色頁岩	Bsb-1	-	A4	-	18	17	13	423	369	94.23	88.09	179.42	4.7	2.7	0.7	10.67	8-1	
399	砂片	-	チャート	Ch-4	-	A4	-	18	17	14	288	50	92.88	85.50	179.21	1.6	1.0	0.4	0.65	24-102	
400	銅片	-	黒色安山岩	GAn-2	-	A4	-	18	17	15	282	167	92.82	86.07	179.27	2.3	2.0	0.7	1.45		
401	石核	-	黒色安山岩	GAn-7	A5	○	18	18	1	79	71	90.79	90.71	179.49	3.2	4.2	1.5	28.53	15-38		
402	R銅片	-	黒色安山岩	GAn-11	-	A3	○	19	16	1	32	162	95.32	81.62	179.30	4.3	3.6	0.9	20.16	13-30	
403	銅片	-	硬質泥岩	HMs-5	-	A3	○	19	17	1	108	410	96.68	89.10	179.51	4.6	3.4	1.4	16.42	25-107	

第26表 白倉下原遺跡A区礫一覧表

No	器種	ブ ラ ッ	接合	X	Y	No	N	E	W	X座標	Y座標	Z座標	長さ	幅	厚さ	重量	突起	赤化	付着物
1	緑色片岩	A1	-	16	17	85	274	26	82.74	85.26	178.91	9.1	7.4	2.1	163.50	-	-	-	
2	安山岩	A1	-	16	17	86	312	56	83.12	85.56	178.92	7.5	7.3	2.3	124.80	-	-	-	
3	砂岩	A5	-	16	17	91	343	466	83.43	89.66	179.00	6.8	3.2	1.8	38.65	-	○	○	
4	安山岩	A5	-	16	18	4	474	77	84.74	90.77	179.01	12.5	14.5	9.8	2530.00	-	-	-	
5	砂石	A5	-	17	17	25	320	380	88.20	88.80	179.36	4.8	3.5	1.8	32.18	-	-	-	

第27表 白倉下原遺跡B区石器一覧表(1)

No	器 種	折 石	材	母岩No	個体No	フツ	組合	X	Y	No	N	S	E	W	X座標	Y座標	Z座標	長さ	幅	厚さ	重量	検出No
1	石核	—	黒曜石	Ob-1	—	B1	—	28	36	1 321	79	143	21	180	79	182	88	2.1	1.9	0.8	3.14	88-46
2	石刃	—	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	28	37	1 322	390	143	22	188	90	182	90	3.8	1.7	0.6	4.64	86-32
3	砕片	—	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	28	37	2 290	414	142	90	189	14	182	90	1.4	1.3	0.5	0.85	—
4	刮片	—	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	28	37	3 190	319	141	90	188	10	182	85	3.2	2.2	0.9	6.51	89-62
5	砕片	—	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	28	37	4 212	311	142	12	188	11	182	85	1.9	0.6	0.7	0.78	—
6	スクレイパー	○	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	28	38	1 312	82	143	12	190	82	189	1.5	1.5	0.2	0.77	85-25	
7	石核	—	黒曜石	Ob-5	—	B4	○	28	38	2 320	228	143	20	192	28	182	84	2.9	3.5	2.3	24.66	87-49
8	スクレイパー	—	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	28	38	3 498	248	144	08	192	45	183	04	4.5	2.9	1.2	12.10	85-26
9	刮片	○	黒曜石	Ob-5	—	B4	○	28	38	4 380	360	143	80	193	60	182	81	1.5	2.6	0.9	1.97	88-49
10	刮片	—	黒色安山岩	GAn-7	—	B1	—	29	35	1 192	442	146	92	179	42	183	03	4.5	6.0	2.2	29.19	91-73
11	砕片	—	黒曜石	Ob-5	—	B1	—	29	35	2 368	340	148	68	178	40	183	30	0.5	0.3	0.1	0.01	—
12	砕片	—	黒曜石	Ob-5	—	B1	—	29	35	3 284	423	147	84	179	23	183	22	0.7	0.8	0.2	0.09	—
13	刮片	○	黒曜石	Ob-5	—	B1	○	29	35	4 218	456	147	18	179	56	183	17	2.6	2.7	0.5	3.48	89-56
14	刮片	○	黒曜石	Ob-5	—	B1	○	29	35	5 229	473	147	29	179	73	183	23	4.3	3.8	1.3	19.29	89-52
15	砕片	○	黒曜石	Ob-5	—	B1	○	29	35	6 236	476	147	36	179	76	183	15	0.6	1.6	0.5	0.41	89-52
16	刮片	○	黒曜石	Ob-5	—	B1	○	29	35	7 268	450	147	68	179	50	183	12	4.5	3.2	1.3	16.77	87-37
17	台形礫石器	—	黒曜石	Ob-5	—	不明	—	29	36	1 314	404	148	14	184	04	183	04	3.4	2.1	0.6	4.13	82-8
18	刮片	○	黒色安山岩	GAn-7	—	B1	—	29	38	2 444	176	149	44	181	76	183	08	3.7	2.5	1.0	8.73	91-81
19	刮片	—	黒曜石	Ob-6	—	B1	—	29	36	3 20	28	145	20	180	28	183	01	1.8	1.9	0.3	1.06	90-65
20	台形礫石器	—	黒曜石	Ob-7	—	不明	—	29	36	4 42	470	145	42	184	70	183	03	3.2	2.2	0.6	4.48	82-7
21	刮片	—	黒色安山岩	GAn-7	—	B1	—	29	36	5	—	—	—	—	—	—	—	3.3	2.3	0.7	4.82	90-72
22	刮片	○	黒曜石	Ob-7	—	B4	—	29	37	1 374	364	148	74	188	64	183	00	4.2	1.8	0.7	5.29	87-42
23	スクレイパー	○	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	29	37	2 330	384	148	30	188	84	183	17	3.3	2.8	0.7	4.65	84-19
24	台形礫石器	—	黒曜石	Ob-8	—	B4	—	29	37	3 426	442	149	36	189	42	183	04	2.4	2.1	0.6	2.81	83-12
25	砕片	—	黒色安山岩	Ob-5	—	B4	—	29	37	4 72	398	145	72	188	98	182	97	0.6	0.9	0.2	0.12	—
26	石刃	—	黒色安山岩	GAn-4	—	B4	—	29	37	5 44	372	145	44	188	72	182	87	6.1	2.3	1.6	22.36	86-36
27	ナイフ形石器	—	黒色安山岩	GAn-1	—	B4	—	29	38	1 344	130	148	44	191	30	183	08	4.0	2.2	0.7	6.33	82-2
28	スクレイパー	○	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	29	38	2 320	34	148	20	190	34	183	09	3.4	3.1	0.5	6.73	84-22
29	ナイフ形石器	—	黒色安山岩	GAn-3	—	B4	—	29	38	3 488	310	149	88	193	10	183	09	3.8	2.4	0.6	6.90	82-7
30	刮片	—	黒色安山岩	GAn-6	—	B4	—	29	38	4 408	184	149	08	191	84	183	02	5.6	5.4	1.2	41.68	90-70
31	スクレイパー	—	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	29	38	5 366	204	148	66	192	04	182	99	3.8	2.1	1.1	4.46	84-17
32	砕片	—	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	29	38	6 362	220	148	62	192	20	183	08	6.8	0.8	0.2	0.25	—
33	刮片	—	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	29	38	7 356	218	148	56	192	18	183	05	0.9	0.6	0.2	0.11	—
34	砕片	—	黒色安山岩	GAn-8	—	B4	—	29	38	8 380	204	148	80	193	04	182	91	1.3	0.6	0.2	0.11	—
35	ナイフ形石器	—	黒色安山岩	GAn-2	—	B4	—	29	38	9 442	40	149	42	190	40	182	99	2.9	1.9	0.6	3.85	82-3
36	刮片	—	黒色安山岩	Ob-5	—	B4	—	29	38	10 414	166	149	14	191	66	183	14	3.2	2.4	1.0	7.03	89-59
37	砕片	—	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	29	38	11 322	228	148	22	192	28	183	04	0.9	0.7	0.2	0.10	—
38	刮片	—	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	29	38	12 252	258	147	52	192	58	182	91	1.9	1.2	0.6	1.12	90-60
39	刮片	—	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	29	38	13 310	168	148	10	191	68	183	01	2.9	1.3	0.3	0.81	89-61
40	砕片	—	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	29	38	14 298	162	147	98	191	62	183	05	1.0	1.0	0.2	0.99	—
41	刮片	—	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	29	38	15 236	34	147	36	190	34	182	92	2.8	3.0	0.7	5.33	89-57
42	台形礫石器	—	黒曜石	Ob-7	—	B4	—	29	38	16 118	234	146	18	192	34	182	92	3.3	1.8	0.6	3.19	82-9
43	石刃	—	黒曜石	Ob-5	—	B4	○	29	38	17 88	220	145	68	192	20	182	80	5.5	2.1	0.9	4.43	86-34
44	砕片	—	黒曜石	Ob-6	—	B4	—	29	38	18 308	452	148	08	194	52	183	13	0.8	0.9	0.1	0.87	—
45	砕片	—	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	29	38	19 310	158	148	10	191	58	183	01	1.2	1.0	0.2	0.33	—
46	砕片	—	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	29	38	20 251	240	147	51	192	40	183	01	1.2	0.6	0.3	0.26	—
47	刮片	○	黒曜石	Ob-6	—	B4	—	29	38	2 122	100	146	22	196	00	182	99	1.5	3.0	1.2	4.36	90-64
48	石刃	○	黒曜石	Ob-5	—	B1	○	30	35	1 8	370	150	08	178	70	183	23	3.2	2.7	1.6	12.20	86-29
49	石刃	○	黒曜石	Ob-5	—	B1	○	30	35	2 40	365	150	40	178	65	183	24	2.5	1.2	0.3	1.16	85-33
50	石刃	○	黒曜石	Ob-5	—	不明	—	30	35	3 396	342	153	66	178	42	183	30	3.1	1.8	0.7	3.04	86-35
51	砕片	—	黒曜石	Ob-6	—	不明	—	30	35	4 443	349	154	43	178	49	183	21	0.5	1.1	0.1	0.10	—
52	石刃	○	黒曜石	Ob-5	—	B1	○	30	36	1 74	136	150	74	181	26	183	19	3.2	2.8	1.6	9.53	86-29
53	刮片	○	黒曜石	Ob-5	—	B2	○	30	36	2 298	320	152	98	183	29	183	22	2.7	4.2	1.3	14.94	89-51
54	刮片	○	黒曜石	Ob-5	—	B2	○	30	36	3 426	160	154	26	181	60	183	20	1.7	3.2	0.8	3.16	89-51
55	刮片	○	チャート	Ch-1	—	B2	○	30	36	4 462	212	154	62	182	12	183	28	2.3	2.7	0.6	3.48	91-83
56	刮片	○	黒色安山岩	GAn-8	—	B2	○	30	36	5 460	222	154	60	182	22	183	34	2.1	3.2	1.0	5.72	91-77
57	刮片	—	黒曜石	Ob-5	—	B2	○	30	36	7 150	356	151	50	183	56	183	15	2.1	2.4	0.5	1.17	89-51
58	砕片	—	黒曜石	Ob-5	—	B2	○	30	36	8 199	252	151	99	182	52	183	23	0.5	1.1	0.2	0.11	—
59	台形礫石器	—	黒曜石	Ob-8	—	B3	○	30	37	1 332	480	153	32	189	80	183	13	3.0	1.4	0.6	2.10	83-13
60	刮片	○	硬質岩	HMs-1	—	B4	—	30	37	2 12	480	150	12	189	80	183	25	2.4	1.6	0.4	1.89	91-82
61	ナイフ形石器	—	黒色安山岩	GAn-7	—	B4	—	30	37	3 74	422	150	74	189	22	183	23	2.2	1.8	0.6	2.45	82-5
62	刮片	○	黒色安山岩	GAn-7	—	B4	—	30	37	4 86	294	150	86	187	94	183	14	5.7	4.6	1.0	24.53	90-71
63	台形礫石器	—	黒曜石	Ob-5	—	不明	—	30	37	5 392	220	153	92	187	20	183	20	2.1	1.4	0.5	1.52	83-15
64	台形礫石器	—	黒曜石	Ob-5	—	B4	—	30	38	1 98	160	150	98	191	60	183	42	4.2	2.9	0.7	8.44	83-10
65	刮片	—	黒曜石	Ob-5	—	B3	—	30	38	2 398	36	153	98	190	36	183	24	3.4	2.8	1.0	7.48	87-10
66	刮片	—	黒曜石	Ob-5	—	B3	—	30	38	3 386	94	153	86	190	94	183	45	1.9	2.2	0.5	1.35	89-60
67	台形礫石器	—	黒曜石	Ob-5	—	B3	—	30	38	4 404	146	154	04	191	46	183	23	2.1	1.0	0.3	0.87	83-14
68	刮片	—	黒曜石	Ob-5	—	B3	—	30	38	5 418	160	154	18	191	60							

石器一覧表

第28表 白倉下原遺跡B区石器一覧表(2)

No	器種	折石	材	母岩No	個体No	プロファイル	集合	X	Y	No	N-S-E-W	X座標	Y座標	Z座標	長さ	幅	厚さ	重量	検出No	
71	貝製片	—	黒曜石	Ob-5	—	B3	—	30	38	8	494	208	154.94	192.08	183.25	4.9	3.1	0.6	6.33	87-40
72	銅片	—	黒曜石	Ob-5	—	B3	—	30	38	9	366	358	153.66	193.58	183.17	2.3	1.6	0.2	0.63	89-55
73	石刀	—	黒曜石	Ob-6	—	B3	—	30	38	10	326	269	153.26	192.60	183.18	5.6	2.4	0.7	11.13	86-30
74	銅片	○	硬質泥岩	IBMs-2	—	B4	—	30	38	11	36	34	150.36	194.30	183.30	5.8	2.2	0.9	15.34	92-85
75	ナイフ形石鏃	—	黒色安山岩	GAn-7	—	B4	—	30	38	12	68	14	150.68	190.14	183.18	5.2	2.3	0.9	9.52	82-1
76	石刀	—	黒曜石	Ob-5	—	B3	—	31	35	1	20	352	155.20	178.52	183.22	4.0	1.9	0.4	2.94	86-31
77	銅片	○	黒曜石	Ob-5	—	B2	—	31	36	1	2	294	155.02	182.94	183.35	2.7	1.6	0.6	2.38	89-54
78	銅片	—	黒曜石	Ob-2	—	B2	—	31	36	2	68	374	155.68	183.74	183.31	2.3	1.6	0.5	1.89	89-53
79	貝製磨製石斧	—	粘板岩	Sl-1	—	B2	—	31	36	3	78	286	155.78	182.86	183.22	8.6	4.7	2.3	86.69	83-16
80	銅片	—	黒色安山岩	GAn-5	—	B2	—	31	36	4	162	208	156.62	182.08	183.29	2.1	2.1	1.3	7.15	91-75
81	スクレイパー	—	黒曜石	Ob-6	—	B2	○	31	36	5	178	282	156.78	182.82	183.46	4.3	4.0	1.2	22.09	85-27
82	石核	—	黒曜石	Ob-2	—	B2	○	31	36	6	224	360	157.24	183.60	183.33	4.4	4.6	1.9	29.66	87-45
83	石核素材	—	黒曜石	Ob-3	—	B2	—	31	36	7	258	498	157.58	184.98	183.48	4.5	4.3	2.9	30.18	88-50
84	銅片	—	黒曜石	Ob-6	—	B2	—	31	36	8	418	478	159.18	184.78	183.26	2.8	2.3	0.9	4.63	90-63
85	スクレイパー	—	黒曜石	Ob-2	—	B2	○	31	36	9	338	428	158.38	184.28	183.25	6.5	3.9	1.2	23.77	84-23
86	スクレイパー	—	結晶片岩	CS-1	—	B2	○	31	36	10	358	398	158.58	183.98	183.21	10.0	5.8	0.8	67.72	85-28
87	石核	—	黒曜石	Ob-7	—	B2	—	31	36	11	346	354	158.46	183.54	183.40	2.8	4.9	1.5	20.14	88-47
88	銅片	—	安山岩	An-1	—	B2	—	31	36	12	364	240	158.64	182.40	183.26	4.5	3.4	2.1	37.33	92-84
89	敲石	—	結晶片岩	CS-1	—	B2	○	31	36	13	342	492	158.42	184.92	183.22	17.5	8.2	3.1	613.60	92-86
90	砕片	—	黒曜石	Ob-5	—	B2	—	31	36	14	178	280	156.78	182.80	183.46	0.8	0.5	0.1	0.02	
91	スクレイパー	○	黒曜石	Ob-1	—	B2	—	31	37	1	74	65	155.74	185.65	183.51	2.1	2.0	0.4	2.10	85-24
92	スクレイパー	○	黒曜石	Ob-8	—	B2	—	31	37	2	284	78	157.84	185.78	183.51	3.7	3.9	0.8	7.55	84-21
93	銅片	○	黒曜石	Ob-6	—	B2	○	31	37	3	424	118	159.24	186.18	183.60	1.5	1.7	0.5	2.17	90-66
94	ドリル	—	黒曜石	Ob-5	—	B3	—	31	37	4	60	398	155.60	188.98	183.14	1.9	2.2	0.5	1.66	87-43
95	砕片	—	黒曜石	Ob-5	—	B3	—	31	37	5	82	492	155.82	189.92	183.36	1.0	1.2	0.3	0.26	
96	銅片	○	黒色安山岩	GAn-8	—	B3	—	31	37	6	164	499	156.64	189.99	183.32	2.3	3.2	0.4	4.24	91-80
97	砕片	—	黒色安山岩	GAn-8	—	B3	—	31	37	7	272	459	157.72	189.90	183.39	1.0	0.8	0.2	0.18	
98	銅片	○	黒色安山岩	GAn-8	—	B3	○	31	37	8	274	472	157.74	189.72	183.53	3.5	5.6	0.9	15.10	96-5
99	銅片	○	黒色安山岩	GAn-8	—	B3	○	31	37	9	270	420	157.70	189.30	183.51	1.2	1.6	0.8	2.64	96-5
100	銅片	○	黒色安山岩	GAn-8	—	B3	○	31	37	10	340	446	158.40	189.46	183.39	3.6	2.9	1.1	13.31	96-4
101	台形礫石器	—	黒曜石	Ob-5	—	B3	—	31	38	1	130	338	156.30	193.38	183.36	5.9	2.8	0.8	12.48	82-6
102	砕片	—	黒曜石	Ob-5	—	B3	—	31	38	2	58	142	153.58	191.42	183.25	1.4	1.1	0.6	0.57	
103	台形礫石器	—	黒曜石	Ob-4	—	B3	—	31	38	3	44	190	155.44	191.90	183.34	3.2	2.3	0.6	3.33	83-11
104	銅片	—	黒曜石	Ob-5	—	B3	○	31	38	4	38	238	153.38	192.38	183.17	3.4	1.4	0.8	2.22	96-67
105	銅片	○	黒曜石	Ob-5	—	B3	○	31	38	5	38	262	153.38	192.62	183.17	2.9	1.0	0.6	0.96	90-67
106	石核	—	黒曜石	Ob-3	—	B3	○	31	38	6	72	238	153.72	192.38	183.20	3.4	3.9	2.0	18.20	88-48
107	貝製片	—	黒曜石	Ob-6	—	B3	—	31	38	7	22	356	153.22	193.56	183.27	3.0	3.4	0.8	7.56	87-38
108	砕片	—	黒曜石	Ob-5	—	B3	—	31	38	8	272	442	157.72	194.42	183.31	1.1	0.8	0.1	0.10	
109	スクレイパー	○	黒曜石	Ob-8	—	B3	—	31	38	9	188	276	156.88	192.76	183.46	4.9	3.4	1.3	17.18	84-20
110	ドリル	—	黒曜石	Ob-5	—	B3	○	31	38	10	278	176	157.28	191.76	183.51	2.5	1.4	0.6	1.81	87-44
111	スクレイパー	○	黒曜石	Ob-8	—	B3	—	31	38	11	382	178	158.82	191.78	183.32	4.6	3.9	1.1	18.23	84-18
112	銅片	—	黒曜石	Ob-5	—	B3	○	31	38	12	138	52	156.38	192.52	183.19	2.5	1.5	1.0	3.60	90-68
113	銅片	○	黒色安山岩	GAn-8	—	B3	○	31	38	13	210	200	157.10	192.00	183.28	1.1	2.2	0.3	0.88	91-74
114	砕片	—	黒色安山岩	GAn-8	—	B3	—	31	38	14	332	80	168.32	190.80	183.98	1.9	1.3	0.3	0.70	
115	銅片	—	黒色安山岩	GAn-8	—	B3	—	31	38	15	340	40	158.40	190.40	183.25	2.8	2.1	0.7	4.88	96-1
116	銅片	—	黒色安山岩	GAn-8	—	B3	—	31	38	16	304	40	158.04	190.40	183.23	3.3	2.3	1.0	7.98	91-76
117	砕片	—	黒色安山岩	GAn-8	—	B3	—	31	38	17	364	16	158.64	190.16	183.24	1.0	0.6	0.2	0.09	
118	銅片	—	黒色安山岩	GAn-8	—	B3	—	31	38	18	300	18	158.00	190.18	183.56	3.4	1.7	0.8	4.90	91-79
119	銅片	—	黒色安山岩	GAn-8	—	B3	○	31	38	19	274	8	157.74	190.08	183.29	3.0	2.2	0.7	3.96	96-2
120	砕片	—	黒色安山岩	GAn-8	—	B3	○	31	38	20	244	16	157.44	190.16	183.28	2.0	0.8	0.3	0.49	91-78

第29表 白倉下原遺跡B区鏢一覧表

No	器種	プロファイル	集合	X	Y	No	N-S-E-W	X座標	Y座標	Z座標	長さ	幅	厚さ	重量	完形	赤化	付着物	
1	結晶片岩	IBM2	—	29	29	1	386	142	148.86	196.42	182.90	9.8	5.7	3.7	191.90	—	—	—
2	硬質泥岩	B2	—	30	36	6	402	400	154.02	184.00	183.19	2.7	1.9	0.8	2.63	—	—	—

第30表 白倉下原遺跡C区石器一覧表

No	器種	折石	材	母岩No	個体No	プロファイル	集合	X	Y	No	N-S-E-W	X座標	Y座標	Z座標	長さ	幅	厚さ	重量	検出No	
1	銅片	—	黒曜石	Ob-1	—	—	—	38	64	1	39	65	194.34	320.38	184.49	1.8	3.7	1.6	6.89	120-2
2	台形礫石器	—	黒曜石	Ob-2	—	—	—	40	65	1	2	70	209.02	325.70	184.84	3.4	2.2	0.8	4.86	120-1
3	銅片	—	黒曜石	Ob-3	—	—	—	40	65	2	156	382	201.56	328.82	184.95	1.7	1.7	0.6	1.53	120-3

第31表 天引向原遺跡A区石器一覽表(1)

No.	器種	新石器	部材	形名	No.	個体No.	フツ	集合	X	Y	No.	N	S	E	W	X座標	Y座標	Z座標	長さ	幅	厚さ	重量	検出No.
1	剥片	—	硬質岩	HMs-1	—	A3	—	10	15	1	97	492	50.97	79.92	173.19	3.9	3.0	1.2	15.11	137-03			
2	剥片	—	黒色火山岩	GAn-4	—	A3	—	10	15	2	432	441	54.32	79.41	173.28	2.7	2.2	0.8	5.57	144-94			
3	剥片	—	安山岩	An-2	—	A3	○	10	15	3	473	368	54.73	78.68	173.24	4.2	1.4	0.7	8.34	162-2			
4	剥片	—	安山岩	An-2	—	A3	○	10	15	4	489	366	54.89	78.66	173.29	5.9	3.7	2.2	35.24	162-1			
5	剥片	○	黒色火山岩	GAn-2	—	A3	○	10	15	5	430	249	54.20	77.49	173.20	3.1	2.0	0.6	3.14	153-1			
6	剥片	—	安山岩	An-1	—	A3	○	10	15	6	234	248	52.34	77.48	173.10	4.0	2.8	1.1	10.78	161-4			
7	剥片	—	安山岩	An-1	—	A3	○	10	15	7	228	206	52.28	77.06	173.16	4.2	4.0	1.7	24.94	161-6			
8	剥片	—	安山岩	An-1	—	A3	○	10	15	8	256	160	52.56	76.60	173.13	2.6	1.5	1.0	3.40	161-5			
9	剥片	—	黒色火山岩	GAn-10	—	A4	—	11	15	1	388	468	58.68	79.86	173.41	1.4	1.8	0.3	0.82				
10	硬質石	—	黒色火山岩	GAn-10	—	A4	—	11	15	2	390	414	58.90	79.14	173.44	4.2	4.6	2.0	36.87	129-12			
11	石核	—	安山岩	An-4	—	A4	—	11	15	3	354	408	58.54	79.08	173.33	9.2	9.0	5.1	539.40	135-31			
12	剥片	—	黒色火山岩	GAn-9	—	A4	—	11	15	4	454	331	59.54	78.31	173.38	6.3	4.5	2.4	51.80	141-67			
13	台石	—	安山岩	An-1	—	A3	—	11	15	5	194	274	58.94	77.74	173.25	24.5	12.7	3.9	1673.90	147-114			
14	剥片	—	安山岩	An-1	—	A3	—	11	15	6	67	166	55.94	76.06	173.24	6.5	4.5	2.5	71.97	145-108			
15	石核	—	黒色火山岩	BSh-6	—	A4	—	11	15	7	568	292	58.68	78.92	173.34	4.9	5.8	4.5	132.83	135-26			
16	剥片	—	黒色火山岩	GAn-4	—	A4	—	12	15	2	175	468	61.75	79.68	173.45	2.9	2.2	0.8	5.41	141-71			
17	剥片	—	黒曜石	Ob-3	—	A4	—	12	15	3	238	342	62.39	78.42	173.44	1.1	0.6	1.1	0.22				
18	石核	—	安山岩	An-2	—	A4	—	12	15	4	76	350	60.76	78.50	173.39	10.6	9.1	7.0	855.70	134-30			
19	剥片	○	黒色火山岩	GAn-4	—	A4	—	12	15	5	317	177	63.17	76.77	173.46	2.1	2.3	0.7	4.19	141-72			
20	R剥片	○	黒色火山岩	GAn-10	—	A4	—	12	15	6	61	356	60.61	78.56	173.40	1.6	2.6	0.5	2.36	129-11			
21	剥片	○	黒色火山岩	GAn-10	—	A2	○	9	16	1	373	467	48.73	83.16	172.91	3.9	3.2	0.9	9.18	161-2			
22	剥片	○	黒色火山岩	BSh-5	—	A2	○	9	16	2	417	316	49.17	83.16	172.98	1.5	2.0	0.8	2.68	138-49			
23	剥片	○	黒色火山岩	BSh-5	—	A2	○	9	16	3	413	316	49.13	83.16	172.98	4.3	2.8	1.1	11.82	138-49			
24	石核	—	黒色火山岩	GAn-9	GAn-9	A2	—	9	16	4	318	383	48.18	83.83	172.90	5.3	6.1	1.9	58.62	135-32			
25	ナイフ形石器	—	珪質頁岩	HSh-3	—	A2	—	9	16	5	253	403	47.53	84.03	172.82	4.1	2.9	1.5	17.78	126-3			
26	剥片	○	黒色火山岩	GAn-10	—	A2	—	9	16	6	239	325	47.39	83.25	172.83	5.8	3.2	1.6	24.69	141-70			
27	剥片	○	黒色火山岩	GAn-2	—	A2	—	9	16	7	285	278	47.85	82.78	173.00	5.3	4.2	1.9	23.91	152-4			
28	剥片	—	硬質岩	HMs-2	—	A2	—	9	16	8	114	332	46.14	83.32	172.76	4.9	3.6	1.1	22.70	137-42			
29	剥片	—	黒色火山岩	GAn-10	—	A2	—	9	16	9	145	237	46.45	82.37	172.89	3.9	4.3	1.2	19.29	161-1			
30	石核	—	黒色火山岩	GAn-10	—	A2	—	9	16	10	406	295	49.06	82.95	172.96	4.4	5.8	2.1	37.61	131-21			
31	剥片	—	黒色火山岩	GAn-4	—	A3	—	10	18	2	450	32	54.50	80.32	173.25	2.7	2.4	0.9	5.64	144-96			
32	剥片	○	黒色火山岩	GAn-10	—	A4	—	10	18	3	144	140	59.34	81.49	173.50	2.7	2.9	0.8	6.70	160-1			
33	剥片	—	黒色火山岩	GAn-10	—	A4	—	11	16	2	462	68	59.62	80.68	173.47	1.2	1.1	0.3	0.91				
34	剥片	○	黒色火山岩	GAn-10	—	A4	—	10	18	3	342	50	58.42	80.50	173.43	3.5	2.3	1.1	8.15	160-2			
35	剥片	○	黒色火山岩	GAn-10	—	A3	○	10	18	4	38	11	55.38	80.11	173.34	3.4	3.9	1.3	15.45	153-3			
36	剥片	○	黒色火山岩	GAn-4	—	A3	—	10	18	5	46	29	55.46	80.29	173.37	4.2	4.6	1.8	25.99	153-6			
37	剥片	○	黒色火山岩	GAn-4	—	A3	—	10	18	6	55	44	55.55	80.44	173.35	1.9	1.2	0.6	0.98	153-9			
38	剥片	○	黒色火山岩	GAn-4	—	A3	—	10	18	7	9	86	55.09	80.86	173.32	2.1	1.4	0.6	1.33	153-8			
39	剥片	○	黒色火山岩	GAn-4	—	A3	—	11	16	8	28	94	55.28	80.94	173.31	2.2	3.5	1.3	8.55	144-95			
40	剥片	○	黒色火山岩	GAn-4	—	A3	—	10	18	9	130	226	56.30	82.26	173.29	4.0	3.2	1.6	12.47	153-7			
41	剥片	○	黒色火山岩	GAn-4	—	A3	—	10	18	10	134	230	56.34	82.39	173.30	5.0	4.1	1.7	22.29	153-4			
42	剥片	—	黒色火山岩	GAn-4	—	A3	—	10	18	11	3	22	55.03	80.12	173.28	1.3	1.2	0.3	0.50	153-5			
43	スクレイパー	—	黒色頁岩	BSh-4	—	A13	—	11	16	12	495	412	59.95	84.22	173.58	6.1	4.7	1.6	35.38	127-7			
44	剥片	○	黒色火山岩	GAn-1	—	A3	—	11	16	13	—	—	—	—	—	—	—	5.1	3.5	1.6	19.41	142-75	
45	スクレイパー	—	チャート	Ch-2	—	A5	—	12	16	1	467	433	64.67	84.33	173.75	4.8	3.2	2.1	26.07	129-10			
46	剥片	—	黒色火山岩	GAn-9	—	A4	—	12	16	2	330	187	63.30	81.87	173.64	2.0	1.2	0.2	0.81				
47	剥片	—	黒色頁岩	BSh-7	—	A4	—	12	16	3	413	67	64.13	80.67	173.55	5.3	3.5	2.2	32.64	138-50			
48	剥片	—	黒色頁岩	BSh-9	—	A4	—	12	16	4	330	80	63.30	80.80	173.59	3.0	3.9	0.8	8.93	138-52			
49	剥片	○	黒色火山岩	GAn-1	—	A4	—	12	16	5	189	135	61.89	81.35	173.58	2.8	1.9	0.8	5.00	142-80			
50	剥片	○	黒色火山岩	GAn-10	—	A4	—	12	16	7	58	75	60.58	80.75	173.52	2.7	2.2	0.7	3.58	141-69			
51	石核	—	黒色火山岩	GAn-7	—	A5	—	13	16	1	297	308	67.97	83.08	173.58	3.7	2.9	1.1	13.65	132-25			
52	剥片	○	黒色火山岩	GAn-7	—	A5	—	13	16	2	278	177	67.78	81.77	173.59	4.2	1.9	1.6	12.97	142-78			
53	石核	○	黒色火山岩	GAn-2	—	A5	○	13	16	3	153	162	66.53	81.62	173.56	5.6	4.3	2.4	60.41	131-20			
54	石核	—	チャート	Ch-4	—	A5	—	13	16	4	184	196	66.84	81.96	173.47	14.8	10.7	7.7	1301.60	134-29			
55	剥片	—	黒色火山岩	GAn-2	—	A5	—	13	16	5	257	235	67.57	82.35	173.54	4.5	2.4	1.7	14.06	140-64			
56	剥片	—	黒色頁岩	BSh-7	—	A5	—	13	16	6	18	475	65.18	84.75	173.69	1.4	1.5	0.4	1.02				
57	剥片	—	黒色火山岩	GAn-10	—	A2	—	9	17	1	346	132	48.46	86.32	172.73	1.3	1.0	0.3	0.55				
58	剥片	—	黒色火山岩	GAn-10	—	A2	—	9	17	2	348	158	48.48	86.58	172.70	2.2	1.3	0.4	0.98				
59	剥片	○	黒色頁岩	BSh-7	—	A2	—	9	17	3	345	214	48.45	87.14	172.69	1.5	2.5	0.9	2.03				
60	剥片	—	珪質頁岩	HSh-2	—	A2	—	9	17	4	190	256	46.90	87.56	172.48	4.4	2.0	1.2	10.21	139-58			
61	剥片	—	黒色火山岩	GAn-9	GAn-9A	A1	○	10	17	1	246	392	52.46	88.92	172.97	1.5	2.2	1.1	1.69	140-62			
62	剥片	—	黒色火山岩	GAn-9	—	A1	—	10	17	2	299	378	52.99	88.78	172.98	2.2	0.9	0.2	0.37				
63	剥片	—	黒色火山岩	GAn-9	—	A1	○	10	17	3	302	336	53.02	88.36	173.02	1.5	1.5	0.6	1.08	156-3			
64	剥片	—	黒色火山岩	GAn-9	—	A1	—	10	17	4	365	352	53.65	88.52	173.06	1.7	1.6	0.8	2.51				
65	剥片	—	黒色火山岩	GAn-9	—	A1	○	10	17	5	345	305	53.45	88.05	173.06	6.2	4.4	1.3	37.58	156-3			
66	剥片	—	黒色火山岩	GAn-9	—	A1	—	10	17	6	443	374	54.43	88.72	173.16	4.3	4.5	2.6	28.11	157-7			
67	剥片	—	黒色火山岩	GAn-9	—	A1	—	10	17	7	430	325	54.30	88.72	173.17	1.2	1.3	0.6	0.87				
68	剥片	○	黒色火山岩	GAn-9	—	A1	—	10	17	8	448	339	54.48	88.29	173.23	2.2	1.6	0.6	1.89	142-76			
69	剥片	○	黒色火山岩	GAn-9	—	A1	—	10	17	9	454	324	54.54	88.24	173.22	1.8	1.8	0.4	1.73	144-104			
70	剥片	○	黒色火山岩	GAn-9	—	A1	—	10	17	10	449	321	54.49	88.21	173.19	3.0	2.0	1.1	4.29	141-101			

第33表 天引向原遺跡A区石器一覽表(3)

No	器 種	折 石 材	母岩No	個体No	フ ツ 子	整合	X	Y	No	N-S	E-W	X座標	Y座標	Z座標	長さ	幅	厚さ	重量	検出No
141	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A1	-	11	17	5	30	236	55.30	87.36	173.25	1.4	0.7	0.3	0.23	
142	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A1	-	11	17	6	36	234	55.36	87.34	173.25	2.5	2.1	1.1	4.54	143-90
143	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A1	-	11	17	7	112	232	56.12	87.32	173.26	1.1	1.2	0.3	0.76	
144	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A1	-	11	17	8	33	164	55.33	86.64	173.28	1.0	1.1	0.3	0.37	
145	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A1	-	11	17	9	36	162	55.36	86.62	173.26	2.8	3.5	1.5	12.39	143-83
146	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A1	-	11	17	10	40	160	55.40	86.60	173.28	1.0	0.6	0.1	0.13	
147	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A1	-	11	17	11	82	175	55.82	86.75	173.31	1.1	0.5	0.3	0.17	
148	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A1	-	11	17	12	96	174	55.96	86.74	173.32	1.7	3.7	1.1	5.51	139-60
149	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A1	-	11	17	13	8	270	55.08	87.70	173.18	1.0	1.3	0.3	0.32	
150	石核	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A13	-	11	17	14	466	151	59.66	86.51	173.50	6.4	6.5	1.6	67.80	129-13
151	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A1	-	11	17	15	19	343	55.19	88.45	173.16	1.3	0.4	0.3	0.25	
152	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A1	-	11	17	16	10	273	55.10	87.73	173.18	1.8	1.6	0.4	1.11	144-106
153	石核	○ 黒色安山岩	GAn9	GAn9D	A13	-	12	17	1	79	50	60.79	85.50	173.61	4.8	6.8	1.8	52.21	131-18
154	砕片	○ 黒色頁岩	BSh9	-	A5	○	12	17	2	494	242	64.94	87.42	173.84	4.3	5.6	2.2	42.78	150-1
155	石核	○ 黒色安山岩	GAn9	GAn9C	A5	○	12	17	3	436	196	64.36	86.96	173.82	4.2	4.6	3.1	101.80	132-22
156	台石	○ 安山岩	-	-	A13	-	12	17	4	128	176	61.28	86.76	173.54	21.1	10.3	5.1	1775.00	147-115
157	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A9B	-	12	17	5	252	497	62.52	89.97	173.54	2.6	2.1	0.5	2.40	143-88
158	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A5	-	13	17	1	147	15	66.47	85.15	173.84	2.2	1.3	0.9	2.72	
159	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A5	-	13	17	2	82	25	65.82	85.25	173.83	4.0	4.7	1.4	28.28	142-77
160	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	GAn9C	A5	○	13	17	4	21	70	65.21	85.70	173.80	4.0	1.6	0.8	4.41	159-6
161	砕片	○ 黒色頁岩	BSh7	-	A6	-	13	17	5	370	447	68.70	89.47	173.96	4.4	6.3	1.4	28.11	136-34
162	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A6	-	13	17	6	478	233	69.78	87.33	173.99	3.9	2.3	0.6	4.81	137-45
163	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A6	-	13	17	7	428	217	69.28	87.17	174.00	3.3	3.2	0.8	6.44	143-87
164	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A6	-	14	17	1	44	320	70.44	88.29	173.94	3.3	4.2	2.3	23.10	143-89
165	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A12	○	9	18	1	340	347	48.40	89.47	172.07	3.1	3.4	0.5	6.74	155-3
166	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A12	-	9	18	2	398	382	48.98	93.82	172.16	2.7	3.5	0.8	5.26	144-93
167	蔵石	○ 安山岩	An5	-	A12	-	9	18	3	297	338	47.97	93.17	171.98	9.3	7.4	3.7	355.30	145-110
168	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A12	-	10	18	1	44	384	50.44	93.84	172.38	2.8	3.5	1.2	13.66	142-62
169	台形礫石	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A12	○	10	18	2	85	354	59.85	93.54	172.43	5.1	4.3	1.1	18.45	127-8
170	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A12	○	10	18	3	95	360	59.95	93.60	172.48	1.8	1.9	0.6	1.10	155-6
171	石核	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A12	○	10	18	4	168	284	51.68	92.84	172.55	7.1	6.1	2.0	55.13	130-16
172	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A12	○	10	18	5	322	471	53.22	94.71	172.58	0.9	1.3	0.4	0.51	156-6
173	砕片	○ 黒色頁岩	BSh9	-	A1	-	10	18	6	438	77	54.38	90.77	172.97	5.1	4.8	1.5	34.75	137-41
174	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A1	-	11	18	1	147	146	56.47	91.46	173.12	5.6	5.4	1.9	44.62	139-59
175	石核	○ チャーソ	Ch1	-	A1	-	11	18	2	49	130	55.49	91.39	173.05	4.3	3.1	4.4	64.12	132-24
176	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A11	○	11	18	3	448	448	59.48	94.48	173.28	1.9	1.3	0.6	1.05	160-3
177	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A11	○	11	18	4	423	429	59.23	94.29	173.27	1.5	2.8	0.6	2.70	160-6
178	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A11	○	11	18	5	421	478	59.21	94.78	173.28	0.9	1.8	0.2	0.40	157-1
179	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A11	○	11	18	6	385	494	58.85	94.94	173.25	1.6	2.2	0.5	1.14	160-8
180	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A11	○	11	18	7	347	472	58.47	94.72	173.23	2.1	1.6	2.6	2.69	160-4
181	石核	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A11	○	11	18	8	336	487	58.36	94.87	173.22	4.6	4.4	1.2	38.38	130-15
182	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A11	○	11	18	9	322	455	58.22	94.55	173.23	1.0	2.3	1.1	1.37	160-7
183	台石	○ 安山岩	-	-	A1	-	11	18	10	116	132	56.16	91.32	173.09	21.5	27.6	5.3	4415.00	146-112
184	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A11	○	11	18	11	418	468	59.18	94.68	173.28	0.7	0.8	0.4	0.16	
185	砕片	○ 黒色頁岩	BSh7	-	A11	○	12	18	1	219	478	62.19	94.78	173.46	4.0	6.4	2.7	69.07	148-2
186	砕片	○ 硬質砂岩	HMs1	-	A11	-	12	18	2	191	450	61.91	94.50	173.42	6.5	6.3	1.8	89.32	135-33
187	砕片	○ 黒色頁岩	BSh7	-	A11	○	12	18	3	125	390	61.25	93.90	173.35	3.4	1.5	1.0	3.62	148-2
188	台形礫石	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A6	-	13	18	1	209	11	67.09	90.11	174.00	3.8	3.5	1.0	10.47	127-5
189	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A6	-	13	18	2	338	117	68.38	91.17	174.04	1.6	1.2	0.2	0.60	
190	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A6	-	13	18	3	490	164	66.90	91.64	174.12	1.8	1.2	0.5	0.93	
191	砕片	○ 黒色頁岩	BSh8	-	A6	-	13	18	4	452	208	69.52	92.08	174.13	2.2	2.0	0.6	2.14	136-40
192	砕片	○ 黒色頁岩	BSh8	-	A6	-	13	18	5	292	290	67.92	92.90	174.05	5.2	4.2	1.5	29.48	138-53
193	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A6	-	13	18	6	328	317	68.28	93.17	174.11	3.5	2.5	0.6	5.23	157-1
194	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A6	-	13	18	7	393	284	68.93	92.84	174.09	1.4	1.6	0.1	0.64	157-1
195	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A6	-	13	18	8	398	386	68.98	93.86	174.12	5.9	2.1	2.4	25.26	154-5
196	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A6	-	13	18	9	400	393	69.00	93.93	174.12	2.2	1.4	0.5	1.71	154-3
197	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A6	-	13	18	10	493	340	69.93	93.40	174.11	6.2	6.3	2.7	96.44	154-4
198	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A6	-	13	18	11	493	405	69.93	94.05	174.14	5.1	4.2	1.5	19.98	139-61
199	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A6	-	13	18	12	453	448	69.53	94.48	174.10	1.9	1.6	0.5	1.54	139-61
200	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	GAn9B	A6	-	14	18	1	54	358	70.54	93.58	174.22	4.4	5.3	1.5	32.70	140-66
201	砕片	○ 黒色頁岩	BSh5	-	A6	-	14	18	2	90	432	70.90	94.32	174.27	0.5	0.7	1.0	6.70	138-55
202	砕片	○ 黒色頁岩	BSh5	-	A6	-	14	18	3	93	430	70.93	94.30	174.27	1.2	2.2	1.1	2.65	138-55
203	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A6	-	14	18	4	106	425	71.06	94.25	174.23	3.8	3.5	1.4	14.43	154-2
204	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A6	-	14	18	5	133	426	71.33	94.28	174.20	4.2	3.0	0.9	10.65	138-61
205	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	GAn9B	A6	-	14	18	6	113	390	71.13	93.90	174.27	1.3	3.2	0.8	2.80	140-66
206	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	GAn9B	A6	-	14	18	7	168	370	71.68	93.70	174.20	2.7	4.6	0.8	11.22	140-66
207	台石	○ 安山岩	-	-	A6	-	14	18	8	122	392	71.22	93.02	174.18	18.0	14.3	4.6	1988.00	146-113
208	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A12	-	10	19	1	386	162	53.86	96.62	172.65	3.0	4.0	1.7	13.89	142-79
209	ナイフレイパー	○ 黒色頁岩	BSh2	-	A11	-	11	19	1	319	56	58.19	95.56	173.15	7.0	5.6	2.3	76.26	128-8
210	砕片	○ 黒色安山岩	GAn9	-	A11	-	11	19	2	450	77	59.50	95.77	173.32	1.6	1.2	0.2	0.65	

石器一覽表

第34表 天引向原遺跡A区石器一覽表(4)

No	器 種	折 石 材	母体No	個体No	フタ フタ	組合 X Y No	N-S-E-W	X座標	Y座標	Z座標	長さ	幅	厚さ	重量	検出No
211	削片	○ 黒色安山岩	GAn-10	—	A11	○	11 19	3 340 117	58.40	96.17	173.13	3.1	1.5	0.8	6.69 160-6
212	削片	— 黒色安山岩	GAn-10	—	A11	○	11 19	4 398 175	58.08	96.75	173.16	1.8	2.0	0.6	1.92 160-5
213	削片	— 黒色安山岩	GAn-9	—	A11	—	11 19	5 433 114	59.33	96.14	173.29	2.3	3.9	1.0	5.89 140-63
214	削片	○ 黒色頁岩	BS-7	—	A11	○	12 19	1 84 90	60.84	95.90	173.32	3.2	2.4	1.5	8.98 128-9
215	削片	— 黒色安山岩	GAn-9	—	A11	—	12 19	2 135 90	61.35	95.90	173.42	3.5	4.1	0.9	8.43 143-85
216	ナイフ型石片	— 黒色頁岩	BS-7	—	A11	○	12 19	3 184 69	61.84	96.39	173.48	6.7	4.6	2.1	73.36 128-9
217	削片	— 黒色安山岩	GAn-6	—	A9	—	12 19	4 171 335	61.71	98.35	173.42	5.2	4.0	1.1	23.85 141-73
218	石核	— 黒色安山岩	GAn-4	—	A9	—	12 19	5 225 324	62.25	98.24	173.44	5.0	6.2	2.7	86.58 130-17
219	削片	○ 斑頁頁岩	HS-1	—	A9	—	12 19	6 261 208	62.61	97.08	173.52	2.4	2.5	0.9	4.44 139-57
220	削片	○ 斑輝石	Ob-1	—	A9	—	12 19	7 365 418	63.65	99.18	173.57	1.2	2.1	1.0	3.68 139-56
221	削片	— 黒色安山岩	GAn-9	—	A9	—	12 19	9 405 259	64.05	97.59	173.58	4.0	2.8	2.0	16.23 143-92
222	削片	— 黒色頁岩	BS-5	—	A9	—	12 19	10 272 467	62.72	96.67	173.54	3.3	2.6	0.9	7.66 138-51
223	削片	— 黒色安山岩	GAn-8	—	A7	○	13 19	1 215 161	67.15	96.61	173.95	2.6	2.0	0.7	3.56 154-1
224	削片	○ 黒色頁岩	BS-9	—	A7	○	13 19	2 408 170	69.08	96.70	173.87	2.7	3.0	1.6	13.98 136-38
225	台形棒石片	— 黒色安山岩	GAn-9	—	A9	○	13 19	3 84 491	65.84	99.91	173.62	4.1	3.2	1.7	29.33 127-4
226	削片	— 黒色安山岩	GAn-3	—	A10	—	11 20	1 209 262	57.09	102.62	172.74	5.3	2.6	1.5	13.82 143-91
227	削片	— 黒色安山岩	GAn-9	—	A10	—	11 20	2 162 400	56.82	104.00	172.49	4.5	3.8	1.6	26.38 142-81
228	削片	— 黒色安山岩	GAn-9	—	A10	—	11 20	3 441 248	59.41	102.48	172.97	3.1	2.4	0.7	3.73 141-68
229	ナイフ型石片	— 黒色安山岩	GAn-9	—	A9	—	12 20	1 480 106	64.80	101.06	173.57	6.7	3.5	2.0	39.14 126-2
230	削片	— 黒色頁岩	BS-6	—	A10	—	12 20	2 47 418	60.47	104.18	173.61	2.7	4.1	1.3	10.51 136-37
231	削片	— 黒色安山岩	GAn-9	—	A9	—	12 20	3 489 15	64.80	100.15	173.67	1.8	1.4	0.5	1.46
232	石核	— 黒色安山岩	GAn-9	GAa型	A8	—	13 20	1 186 474	66.86	104.74	173.55	5.0	3.7	2.4	40.57 130-14
233	削片	○ 黒色安山岩	GAn-9	—	A8	○	13 20	2 258 471	67.58	104.71	173.64	3.7	2.9	1.3	13.75 158-1
234	削片	— 黒色安山岩	GAn-9	—	A8	—	13 20	3 257 467	67.57	104.67	173.63	1.5	2.4	0.6	1.80 158-2
235	削片	— 黒色安山岩	GAn-1	—	A8	—	13 20	4 412 435	69.12	104.35	173.77	4.6	3.8	1.2	18.19 152-2
236	削片	○ 黒色安山岩	GAn-1	—	A8	○	13 20	5 414 408	69.14	104.08	173.74	3.9	2.4	1.3	11.99 152-1
237	削片	— 黒色安山岩	GAn-1	—	A8	—	13 20	6 343 404	68.43	104.04	173.73	3.7	6.5	2.0	47.50 152-3
238	削片	○ 黒色安山岩	GAn-1	—	A8	○	13 20	7 389 320	68.89	103.20	173.83	1.6	3.0	0.8	3.03 143-86
239	砕片	— 黒色安山岩	GAn-1	—	A8	—	13 20	8 390 317	68.20	103.17	173.83	1.5	1.4	0.7	1.70 143-86
240	削片	○ 斑頁頁岩	HMs-3	—	A8	—	13 20	9 320 343	68.20	103.43	173.78	2.9	3.8	2.0	17.30 137-44
241	削片	— 黒色安山岩	GAn-1	—	A8	—	13 20	10 315 346	68.15	103.46	173.77	2.6	1.6	0.6	2.19 144-100
242	削片	○ 黒色安山岩	GAn-1	—	A8	—	13 20	11 260 291	67.60	102.91	173.73	2.3	4.0	1.0	9.43 144-98
243	削片	— 黒色安山岩	GAn-9	—	A9	—	13 20	12 164 96	66.64	100.96	173.76	3.5	2.6	1.4	11.31 156-6
244	ナイフ型石片	— 黒色頁岩	BS-3	—	A9	—	13 20	13 185 18	66.85	100.18	173.71	7.6	4.1	1.7	64.96 126-1
245	削片	— 黒色安山岩	GAn-1	—	A8	—	14 20	1 26 394	70.26	103.04	173.98	3.0	3.5	1.2	13.43 144-97
246	削片	— 黒色安山岩	GAn-9	—	A7	○	15 20	1 200 30	77.00	100.30	174.57	6.8	2.9	1.3	21.00 158-4
247	削片	— 黒色安山岩	GAn-2	—	A7	○	15 20	2 433 27	79.33	100.27	174.59	4.9	5.2	1.2	32.10 153-2
248	砕片	— 黒色頁岩	BS-6	—	A10	—	11 21	1 163 68	56.63	105.68	172.33	1.1	1.0	0.3	0.35
249	削片	— 黒色頁岩	BS-6	—	A10	—	11 21	2 228 122	57.28	106.22	172.38	1.5	2.5	0.6	1.27 138-54
250	削片	— 黒色頁岩	BS-8	—	A8	—	13 21	1 336 286	68.36	107.86	173.61	2.0	3.0	0.9	7.47 136-36
251	削片	— 黒色安山岩	GAn-9	—	A8	—	13 21	2 345 277	68.45	107.77	173.61	3.5	4.9	1.9	28.89 158-5
252	削片	○ 黒色頁岩	BS-9	—	A8	—	13 21	3 246 49	67.46	105.49	173.63	3.9	4.5	1.4	29.89 136-39
253	削片	— 黒色安山岩	GAn-9	—	A8	—	13 21	4 176 148	66.76	106.48	173.52	3.4	4.1	1.2	12.85 158-3
254	削片	— 黒色安山岩	GAn-2	—	A7	—	15 21	1 438 211	79.38	107.11	174.75	1.8	3.5	0.9	4.24 137-46
255	削片	— 黒色安山岩	GAn-2	—	A7	—	15 21	3 395 171	78.95	106.71	174.66	2.3	1.6	0.8	2.58 144-105
256	削片	— 黒色頁岩	BS-10	—	A7	—	15 21	4 386 160	78.86	106.60	174.63	2.0	1.4	0.5	1.20 151-2
257	削片	— 黒色頁岩	BS-8	—	A7	—	15 21	5 366 169	78.66	106.69	174.66	6.3	6.0	2.1	67.13 149-1
258	石核	— 黒色頁岩	BS-8	—	A7	—	15 21	6 393 145	78.93	106.45	174.63	6.5	6.6	6.2	235.10 133-27
259	削片	— 黒色頁岩	BS-10	—	A7	—	15 21	7 359 128	78.59	106.27	174.65	5.5	4.1	1.4	31.31 151-1
260	削片	— 黒色頁岩	BS-1	—	A7	—	15 21	8 361 116	78.61	106.16	174.65	3.5	5.2	2.2	28.04 136-35
261	石核	— 黒色頁岩	BS-10	—	A7	—	15 21	9 365 104	78.65	106.04	174.62	7.3	6.1	4.3	217.40 133-28
262	削片	— 黒色頁岩	BS-7	—	A7	—	15 21	10 431 70	79.31	105.70	174.74	5.7	3.6	1.3	20.91 138-48
263	削片	○ 黒色頁岩	BS-7	—	A7	—	15 21	11 274 159	77.74	106.59	174.66	3.0	5.7	2.0	27.86 137-47
264	石核	— チャート	Ch-3	—	A7	—	15 21	12 279 172	77.79	106.72	174.65	3.6	2.1	1.3	29.18 132-23
265	砕片	— 黒色頁岩	BS-8	—	A7	—	15 21	14 360 100	78.60	106.00	174.62	1.0	0.9	0.3	0.27
266	礫石	— 緑色片岩	GS-1	—	A7	—	15 21	15 425 152	79.25	106.52	174.56	13.5	9.5	4.1	758.30 145-111
267	砕片	— 黒色安山岩	GAn-5	—	A7	—	16 21	1 50 258	80.50	107.58	174.80	1.9	0.9	0.3	0.35 155-1
268	石核	— 黒色安山岩	GAn-5	—	A7	○	16 21	2 131 183	81.31	106.83	174.81	5.6	3.3	2.1	44.73 131-19

第35表 天引向原遺跡A区礫一覽表

No	器 種	フタ フタ	組合 X Y No	N-S-E-W	X座標	Y座標	Z座標	長さ	幅	厚さ	重量	形状	赤化	付着物
1	安山岩	A5	—	13 17	3 56 68	65.56	85.48	173.75	12.8	11.4	11.8	1876.6	—	—

第36表 天引向原遺跡C区石器一覧表

No	器 種	折 石 材	母岩No	個体No	フリ ツツ	組合	X	Y	No	N-S	E-W	X座標	Y座標	Z座標	長さ	幅	厚さ	重量	押印No
1	刮片	- チャート	Ob-2	-	-	-	34	49	1	44	84	176.44	245.84	179.41	5.3	4.3	1.5	38.06	204-7
2	刮片	- 黒色安山岩	GAa-3	-	-	-	35	47	1	265	95	177.65	235.95	180.13	3.7	3.6	1.5	15.75	205-9
3	刮片	- 黒色安山岩	GAa-2	-	Cl	-	42	51	1	322	262	213.22	257.62	182.00	3.2	2.7	0.9	8.12	204-5
4	刮片	- 黒色安山岩	GAa-1	-	Cl	-	42	51	2	379	313	213.79	258.13	181.99	4.9	2.7	1.7	13.99	204-6
5	刮片	- 黒色安山岩	GAa-2	-	Cl	-	42	51	3	316	388	213.16	258.98	181.85	3.0	4.8	0.9	14.68	205-8
6	刮片	- チャート	Ob-1	-	Cl	-	42	51	4	424	240	214.24	257.40	181.79	0.6	6.6	0.1	0.02	-
7	台形様石器	- 黒色安山岩	GAa-1	-	Cl	-	42	51	5	394	232	213.94	257.32	181.99	2.7	2.4	0.8	4.38	204-3
8	刮片	- チャート	Ob-1	-	Cl	-	42	51	6	436	194	214.36	256.94	181.96	4.9	2.7	1.5	17.41	204-4
9	台形様石器	○ 黒曜石	Ob-1	-	-	○	43	45	1	492	116	219.92	226.16	181.49	1.5	1.6	0.5	1.20	204-1
10	刮片	○ 黒曜石	Ob-1	-	-	○	43	45	2	446	324	219.46	228.24	181.50	2.0	1.8	0.4	1.40	204-2

単 位

m = X座標、Y座標、Z座標 (標高)

cm = N-S、E-W、長さ、幅、厚さ

g = 重量

報告書抄録

フリガナ	シラクラシモハラ・アマビキムカイハライセキ
書名	白倉下原・天引向原遺跡 I
副書名	関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第21集
シリーズ名	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第161集
編集者名	関口博幸
編集機関	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2
発行年月日	西暦1994年3月25日

フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
シラクラシモハラ 白倉下原	群馬県 甘楽郡 甘楽町 大字白倉	103845	10005- 00294	36°14'14" ∫ 36°14'21"	138°56'23" ∫ 138°56'35"	19890401- 19910331	3,300 旧石器時代の 調査対象 面積 試掘面積も 含む	道路建設
アマビキムカイハラ 天引向原	群馬県 甘楽郡 甘楽町 大字天引	103845	10005- 00293	36°14'14" ∫ 36°14'21"	138°56'36" ∫ 138°56'55"	19890401- 19910820	2,800 旧石器時代の 調査対象 面積 試掘面積も 含む	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
白倉下原	石器ブロック	旧石器時代	A・B・C区 から合計10ヶ所 のブロック	ナイフ形石器、台 形礫石器、局部磨製 石斧、石刃、石核、 剥片、台石	A T下層の環 状ブロック群を 構成する旧石器 時代の集落跡
天引向原	石器ブロック	旧石器時代	A・C区から 合計14ヶ所のブ ロック	ナイフ形石器、台 形礫石器、楔形石器、 石核、剥片、台石	A T下層の環 状ブロック群を 構成する旧石器 時代の集落跡

写 真 图 版

白倉下原遺跡



白倉下原・天引向原遺跡全景(北から)



天引狐崎遺跡全景(北から)

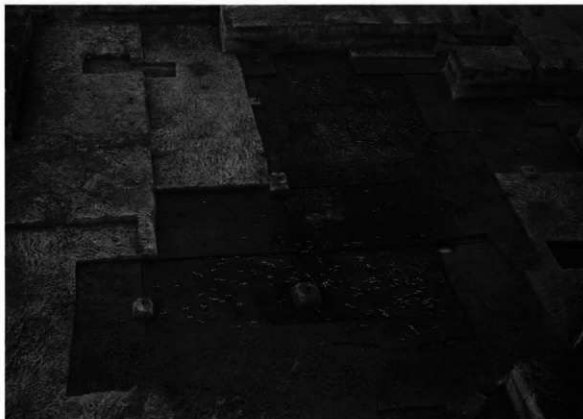
PL 2 白倉下原



A区 全 景 (西から)



A区 全 景 (北から)



A区 石器出土状況（北から）



A区 石器出土状況（北から）



A区 石器出土状況（南西から）



A区 石器出土状況（東から）



A区 調査風景（北から）

PL 4 白倉下原



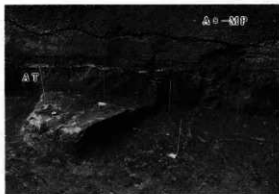
A区 石器出土状況 (東から)



A区 石器出土状況



A区 石器出土状況



A区 石器出土状況



A区 石器出土状況



A区 石器出土状況



A区 石器出土状況



A区 石器出土状況



A区 石器出土状況



A区 石器出土状況



A区 石器出土状況



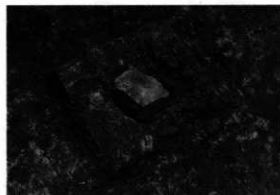
A区 石器出土状況



A区 石器出土状況 (局部磨製石斧)



A区 石器出土状況 (敲石)



A区 石器出土状況



A区 石器出土状況

PL 6 白倉下原



8-1



8-2



8-3



8-4



8-5



8-6



8-7



8-8



8-9



8-10



8-11



8-12



8-13



8-14



9-1

A区石器



10-16



11-19



11-21



10-18



10-17



11-20

A区石器

PL 8 白倉下原



12-22



12-23



12-24



12-25



13-31



12-27



13-30



13-25



13-29



12-28



13-32

A区石器



14-34



14-33



14-35



14-38



15-37



15-38



15-39

A区石器

PL 10 白倉下原



16-41



16-42



16-43



17-43



17-44



17-45

A区石器



19-50

19-46



19-49

18-47



19-51

19-52



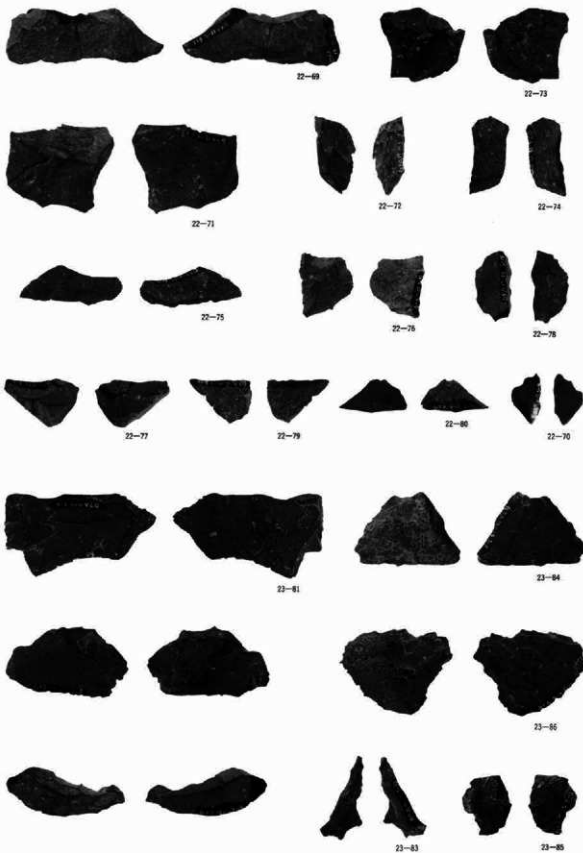
18-48

20-53

PL 12 白倉下原



A区石器



A区石器

PL 14 白倉下原



23-87



24-92



24-90



24-91



23-89



24-95



24-97



24-99



24-93



24-94



24-96



24-98



24-101



24-100



24-102



24-103



25-104



25-105



25-106



25-107



25-108

A区石器



26-110



26-111



26-112



27-114



26-113



27-115



25-109

A区石器

PL 16 白倉下原

GA n-1



28-1



28-5



28-2



29-2



28-4



29-4



29-5



29-2



29-1



29-5



29-3

A区 接合資料

G A n-2 (1) 個体A



29-6



30-2



29-8



30-1



29-7

G A n-2 (2)



30-3



30-4

G A n-2 (3)



30-5



30-6

A区 接合資料

PL 18 白倉下原

GA n-2(4)



GA n-3



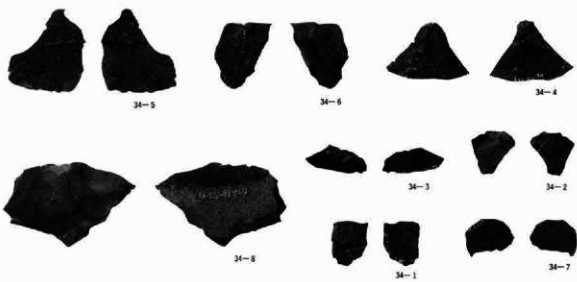
A区 接合資料



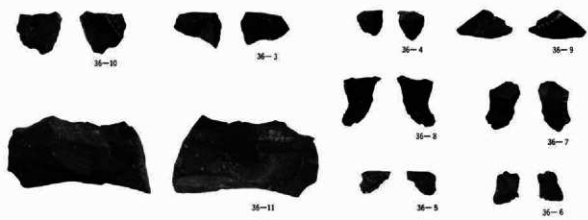
A区 拵合資料

PL 20 白盒下原

GA n-4 個体A



GA n-4 個体C

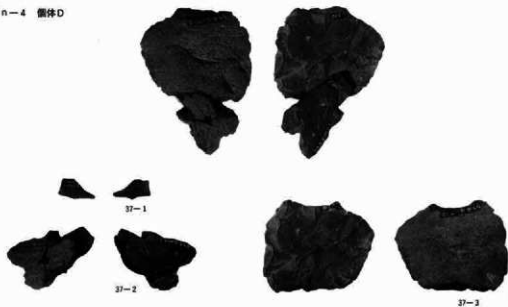


A区 接合資料

GA n-4 個体B



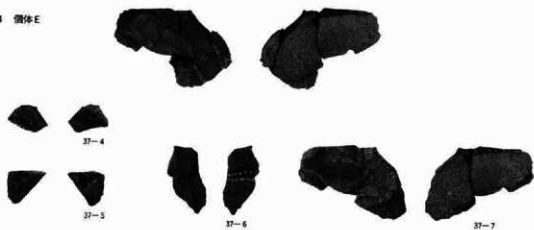
GA n-4 個体D



A区 接合資料

PL 22 白倉下原

GA n-4 個体E

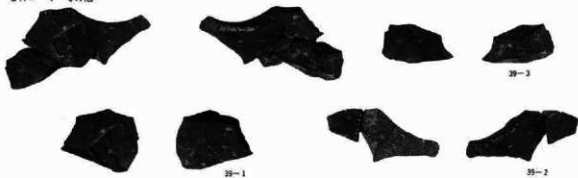


GA n-4 個体外

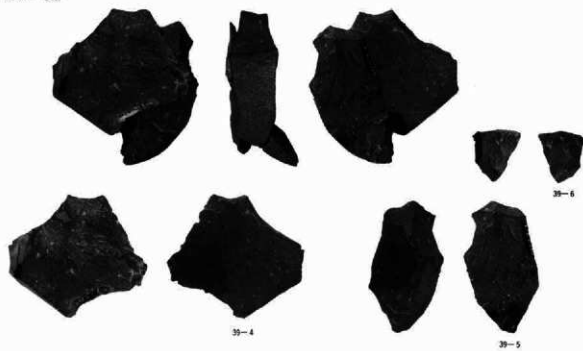


A区 接合資料

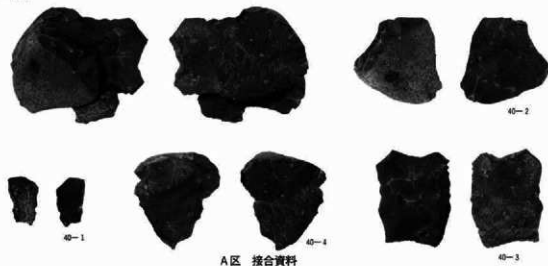
GA n-4 その他



GA n-6(1)



GA n-6(2)



A区 接合資料

PL 24 白倉下原

GAn-7



GAn-7 個体A



A区 接合資料

GA n-7 個体B



43-2



43-6

GA n-7 個体C



43-10 A区 接合資料



43-1



43-4



43-2



43-5



43-7



43-8



43-9

PL 26 白倉下原

GA n-8



GA n-11(1)



44-1



44-2



44-3



44-4

Ch-1



45-1



45-2



45-4



45-3



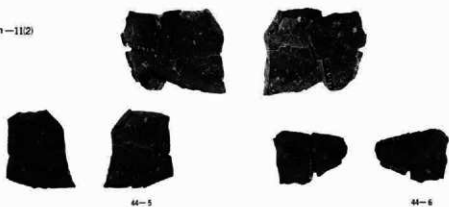
45-5



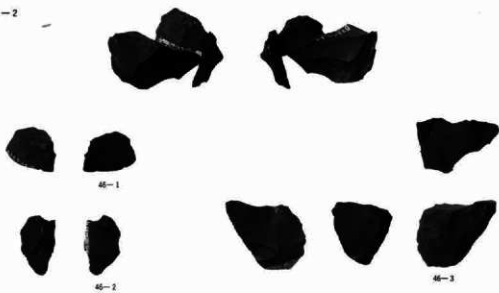
45-6

A区 接合資料

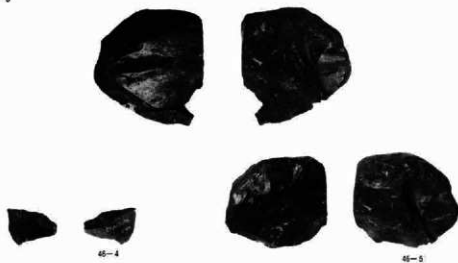
G A n-11(2)



Ch-2



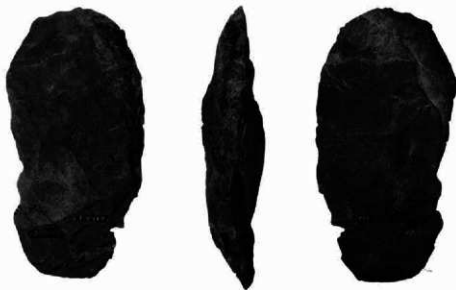
Ch-3



A区 接合資料

PL 28 白倉下原

B 5-1



47-2



47-3



47-5



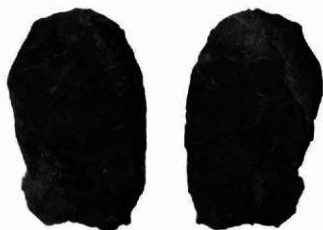
47-1



47-4

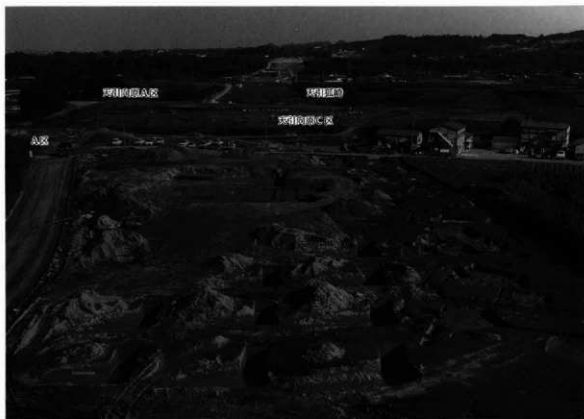


47-5



47-7

A区 接合資料



B区 全 景 (西から)



B区 全 景 (北から)



土層堆積状況



B区 全 景 (北から)



B区 石器出土状況



B区 石器出土状況



B区 調査風景



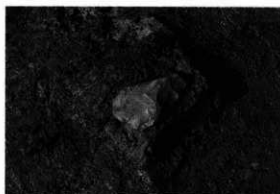
B区 石器出土状況



B区 石器出土状況



B区 石器出土状況 (局部磨製石斧)



B区 石器出土状況 (同左)



B区 石器出土状況 (台形椽石器)



B区 石器出土状況 (ナイフ形石器)



B区 石器出土状況 (敲石)



C区 調査風景



C区 石器出土状況 (台形椽石器)



C区 石器出土状況

PL 32 白倉下原



82-1



82-2



82-3



82-4



82-5



82-6



82-8



82-7



82-9



83-10



83-11



83-12



83-13



83-14



83-15

B区石器



83-16



84-18



84-19



84-20



84-21



84-22



85-24



85-25



85-26



86-30

PL 34 白倉下原



86-31



86-32



86-33



86-35



87-40



87-38



87-39



87-41



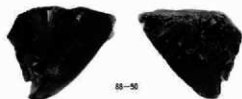
87-42



87-43



88-46



88-50



88-47

B区石器



B区石器



90-70



90-71



90-72



91-73



91-75



91-77



91-79



91-80



91-81



91-82



91-83



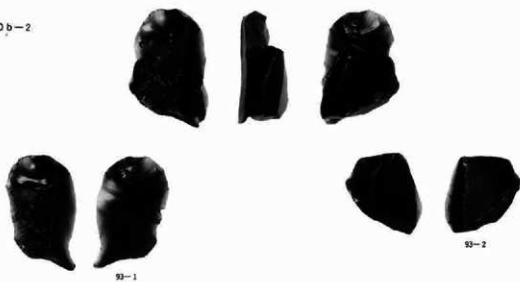
92-84



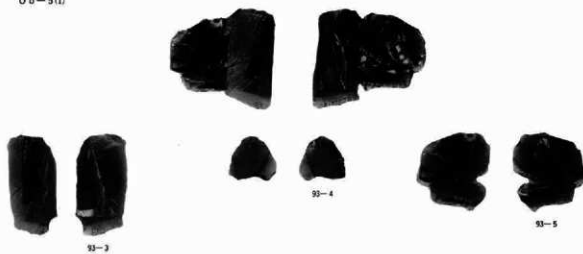
92-85

B区石器

Ob-2



Ob-5(1)



Ob-5(2)



B区 接合資料

94-3

PL 38 白倉下原

Ob-5(3)



Ob-5(4)



Ob-5(5)



Ob-6



B区 接合資料

GA n-8(1)



GA n-8(2)



GA n-8(3)



CS-1



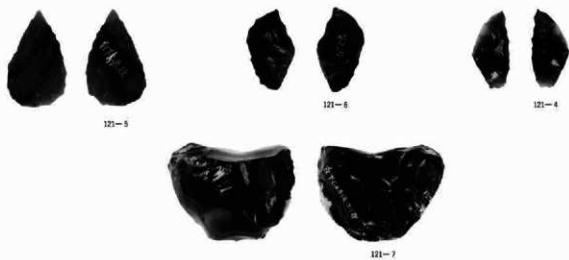
B区 接合資料



B区石器



C区石器



C区 表土石器

写 真 图 版

天引向原遺跡



全 景 (北から)



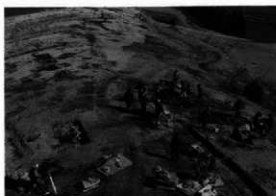
A区全景 (南から)



遠景(東から)



遠景(北から)



A区調査風景



A区調査風景



A区石器出土状況



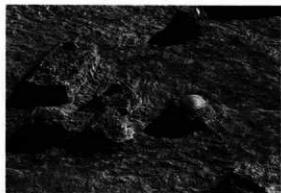
A区石器出土状況



A区石器出土状況



A区 A1ブロック石器出土状況



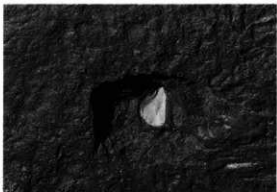
A区 石器出土状况



A区 石器出土状况



A区 石器出土状况



A区 石器出土状况



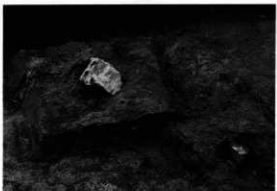
A区 石器出土状况



A区 石器出土状况



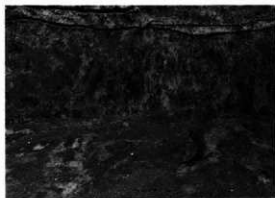
A区 石器出土状况



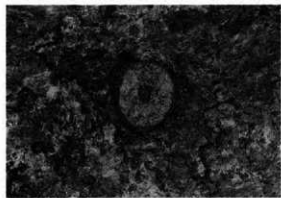
A区 石器出土状况



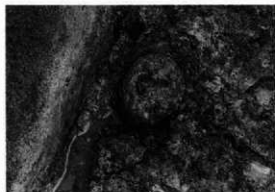
天引向原遺跡 C区調査風景



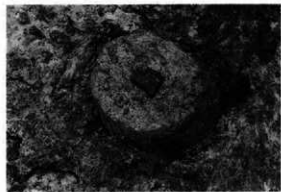
C区 (35-47) グリッド石器出土状況



C区 C1ブロック石器出土状況



C区 C1ブロック石器出土状況



C区 C1ブロック石器出土状況



126-1



126-3



126-2



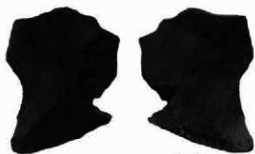
127-4



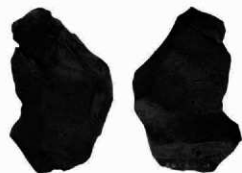
127-5



127-6



127-7



128-9



128-8

A区石器



129-12



129-11



129-10



129-13



130-25



131-18



130-14



131-17



131-19



130-16



130-15



132-22



131-20

133-27



131-21

131-26



135-32

132-24



134-30

145-108

A区石器



134-29



135-31



133-28

135-33



137-41



137-42



138-48



138-50



138-53



138-61



137-47



136-35



136-34



139-59

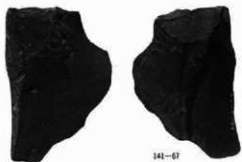


139-61



140-66

A区石器



141-67



141-73



142-75



141-70



140-62



141-71



141-74



141-68



141-69



136-38



141-72



143-87



144-101



136-36



143-90



144-95



142-78



142-78



139-58



142-77



142-81



136-39



142-89



143-84



143-91



140-84



144-57



142-75



138-52



137-64



136-37



137-46



137-45



144-93



143-83



138-51



144-98



142-82



140-83



143-85



137-43



138-54



138-55



140-85



139-80



144-100



144-96



139-97



144-94



144-106



144-102



143-86



139-56



144-107



144-104



143-88



136-80



142-80



144-99



144-105



144-103



143-92



145-109



145-110



145-111



147-115



147-114



146-113



146-112

A区石器

B s h-7



148-2

148-1

B s h-8



149-1



149-2

BSh-9



150-1



150-2

BSh-10



151-3



151-1

151-2

GAn-9(7)



150-5



150-1



150-2



150-3



150-4

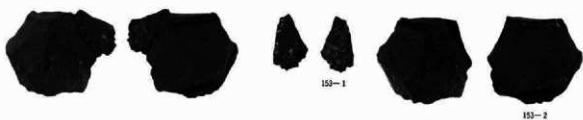
A区 接合資料

PL 56 天引向原

GA n-1



GA n-2



GA n-101



A n-1



A区 接合資料

GA n-8



154-1



154-2



154-3



154-5



154-4

GA n-4



153-3



153-4



153-5



153-8



153-8



153-7

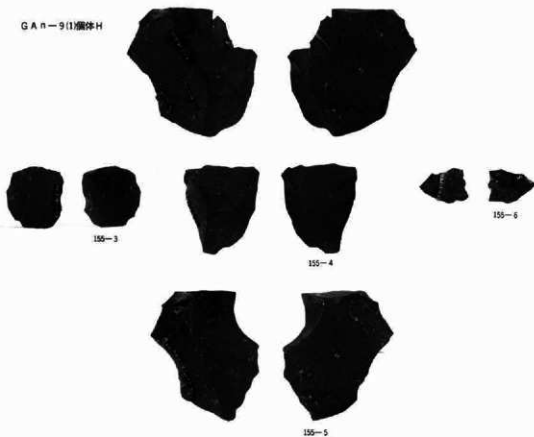


153-6

A区 接合資料

PL 58 天引向原

GAn-9(1)備体H



GAn-5



A区 接合資料

GA 11-9(4)



157-1



157-2



157-3



157-4

157-5



157-6



157-7



157-8

GA 11-2



152-4

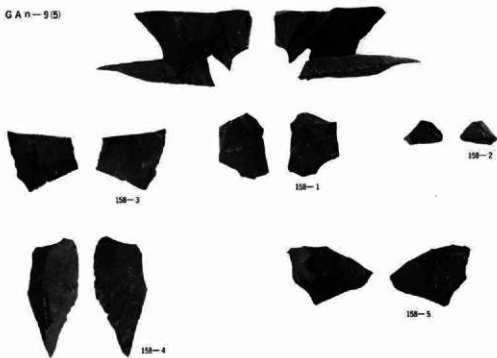


152-5

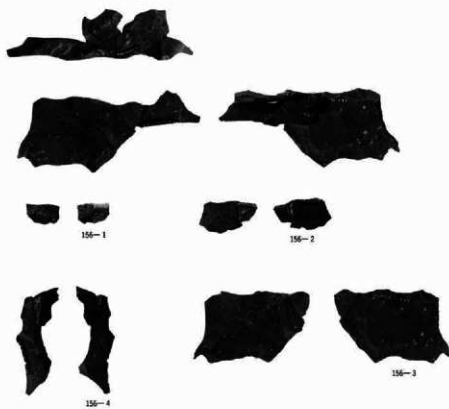
A区 接合資料

PL 60 天引向原

GA n-9(5)



GA n-9(2)

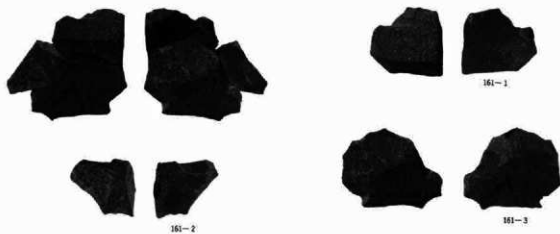


A区 接合資料

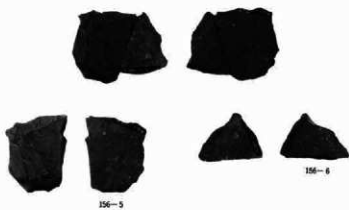
G A n-9 (8)



G A n-10 (3)



G A n-9 (3)



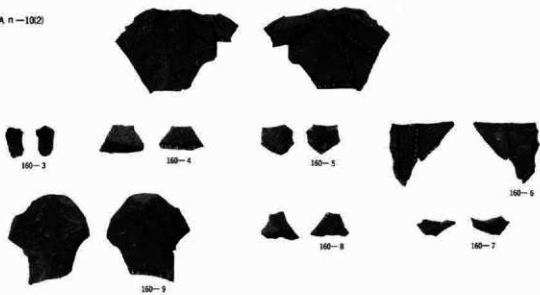
G A n-9 (6)



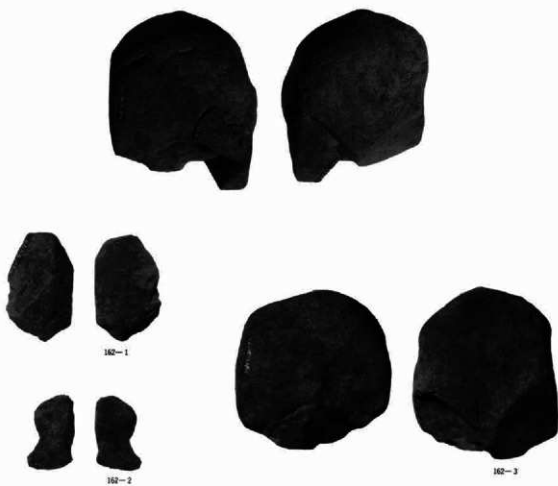
A区 接合資料

PL 62 天引肉原

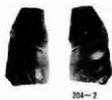
GA n-102)



AN-2



A区 接合資料



204-2



204-1



204-2



204-3



204-5



205-8



204-4



205-9



204-6



204-7

C区石器



208-1



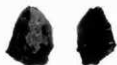
208-2



208-3



208-7



208-4



208-5



208-6



208-8



208-9

關越自動車道(上越線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第161集

白倉下原・ 天引向原遺跡 I

關越自動車道(上越線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第21集

平成6年3月18日 印刷

平成6年3月25日 発行

編集/群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村大字下箱田784-2
電話 (0279) 52-2511(代表)

発行/群馬県考古資料普及会
勢多郡北橋村大字下箱田784-2
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷/朝日印刷工業株式会社